

紅葉のあるに雪が降る」と云ひたるは實に此の寺の邊なりと云ふ。

●宮ノ下温泉 海拔千三百七十七尺、塔の澤より太平臺を経て約一里半道は早川に沿ひ九十九折なる傾斜路を、脚下遙かに水石の音を聞き乍進めば此の温泉に著く、鹽類泉にして温度百二十五度附近淺間山は、上の山とも云ひ、一町程にして熊野神社あり、十餘町にして頂上に達すれば、脚下一眸の裡に相模灘、房相半島伊豆大島の遠景を收め、晴天の日富嶽の英峯雲表に聳ゆるを望み得て雄大の景去るに忍びず。



富士屋ホテル

近く小涌谷、千條ヶ瀧、鷹巢城趾の名勝あり。

●底倉温泉 海拔千三百七十七尺、宮ノ下温泉に連り西隣して蛇骨川の畔にあり、泉質弱鹽類泉にして温度百六十度内外、此温泉は南朝の忠臣新田義隆が金創を養ひしを竊かに告ぐる者ありて遂に此地に殺害されたりとの口碑今に残れり。高山園には小田原攻略の際豊太閤が石風呂を築きて將士を犒いたりとの遺蹟をも存す、小涌谷、芦ノ湯に行かんとすれば此處より途を左に探る。

●堂ヶ島温泉 早川の溪谷にあり、單純泉にして附近白絲瀧の斷涯に懸るあり、調の瀧の奔騰するあり、葉蔭の瀧の壯觀あり又足利直義の師事せしといふ夢想國師閑居の跡あり。



箱根温泉千條ノ瀧

●木質温 泉 海拔千四百四十三尺、小田原より里程三里半早川

の東岸早雲山と二ノ平の東麓に在る鹽類泉にして温度百十三度、附近に佛國ルボンの碑、白鷺ノ瀧等あり。



小涌谷の櫻花

べきもの頗る多く、就中諸種の櫻花は其名普く知らる

●芦ノ湯温泉 箱根温泉中最も高所に在り、海拔二千九百一尺小涌谷より自動車の便あり、夏季殊に涼しく蚊帳の用なく最も閑靜の地なり、泉質硫黄泉にして、温度百十三度、旅館に松坂、紀の屋等あり、附近湯の花澤温泉あり夏季丈の開湯する事あり、附近に新羅三郎義光が豊原時秋に笙の秘曲を授けしといふ笛塚あり、元箱根への途中多田滿仲の墓六道の地藏尊、曾我兄弟の供養塔、虎御前の塔、精進ヶ池等在り。

●強羅温泉 海拔二千六百尺登山電車の終點、早雲山麓の東北に位し土地高燥にして閑靜、明神、明星の二峯に對峙し、前面展開して早川の溪谷を眼下に見下ろし遠く相模灘の海波漫々たるを望む、大涌谷え十八丁、湖尻え一里八丁、宮城野へ五丁、小田原より電車にて約十哩なり、温泉は最近開けたる處にして鹽類性硫黄泉なり、旅館は觀光旅館、一福、倉田旅館等あり、附近に強羅公園在り、天與の風光に人工の美を施し奇石怪石小溪幽林自然を利用し、和洋の設備あり音楽堂、動物舎、水泳場兒童遊戯場簡易食堂、等あり、公衆娛樂地として推賞するに足る、千人風呂は公園の隣地にあり、共同湯、貸切湯、休憩所等の設備あり、又附近一帯に貸別荘あり、小田原電鐵會社の經營にして別荘は和風園内にありて瀟灑なる家族的生活に適する一戸建にして温泉、水道、電燈、電話



強羅温泉全景

其他炊事用家具の設備を施し月極、日極、一夜貸、等をなす、ケーブル鐵道は強羅驛より早雲山に至る峻坂にかゝり車中の展望他に其比を見ず本邦最初の鐵道にして延長約一哩僅か十分にて早雲山中腹に達す、爾來大涌谷の觀覽箱根一周の旅客をして一層便ならしむ、道了山別院は早雲山驛の附近にあり、此地の遠望は相房の海を一時の内に集めたる様實に壯觀。

●仙石原温泉 は上湯、下湯、元湯の三ヶ所にあり、大涌谷の北方に當り強羅驛より上湯迄十六丁、下湯迄二十丁、元湯迄一里とす、元湯は宮ノ下より早川に沿ひ縣道を上り自動車の便あり、中途奇勝少なからず、尙東海道線御殿場驛より自動車の便あり泉質酸性泉にして仙郷樓、俵石閣あり、下湯は旅館萬岳樓あり、早雲山驛より十丁にして達す。

大涌谷は元大地獄と言ひしが 先帝陛下箱根行幸の砌り改稱仰出されて大涌谷と呼ぶに至る、早雲山驛より十八丁此處彼處に硫黄噴騰し沸々轟々一步を過てば地獄の底かと思はる大古噴火の餘勢なり、頂上に閻魔臺と呼ぶ茶亭あり。

●姥子温泉 海拔二千八百七十七尺大涌谷より十二丁、箱根山中最も人里に隔絶し幽邃閑雅の地なり泉質鹽類泉にして眼病に特效あり、旅館秀明館あり下る十二丁にして芦ノ湖畔に出ず。

●元箱根及箱根町

箱根町は昔時東海道五十三次の宿場ありし處にして、幕府當時は關所の置かれし跡今尙存す、元箱根は鎌倉時代有名なる箱根權現の在る處にして、此處より一里半程下れば芦ノ湖畔に出づ、又十四五丁登れば姥子温泉に達す。

●箱根神社 元箱根村大字大芝にあり、東方富嶽の英峯を望み西相模灘の漫洋に當り、山靈凝つて秀峯となり、古芦荊山(定柄の意?)と稱せしが、山勢兩嶺に酷似せるを以て箱根山と號

但女乗物は番の輩差圖にて女に見せ可通事、

一、公家門跡大名參向之時は前廉より其沙汰可有之之間不可及

改之自然不審之儀於有之は格別たるべき事、

一、鐵砲の儀以相定證文可事通之

右此旨可相守者也仍而下知如件、

寛文六年十月五日  
斯くの如き制札が今殘る見返り松の下に建てられ、行人をして一々査問通行せしめたるものなり。

窟を見下し、他方明神、明星の兩山に對し眺望壯大なる山嶺を繞らす、附近千條瀧、鷹ノ巢山城跡、笛塚山、鳳萊園の佳景古蹟の他見る



花 櫻

硫黄噴騰し沸々轟々一步を過ては地獄の底かと思はる大古噴火の餘勢なり、頂上に閻魔臺と呼ぶ茶亭あり。  
●姥子温泉 海拔二千八百七十七尺大涌谷より十二丁、箱根山中最も人里に隔絶し幽邃閑雅の地なり泉質鹽類泉にして眼病に特效あり、旅館秀明館あり下る十二丁にして芦ノ湖畔に出ず。

### 元箱根及箱根町

箱根町は昔時東海道五十三次の宿場ありし處にして、幕府當時は關所の置かれし跡今尙存す、元箱根は鎌倉時代有名なる箱根權現の在る處にして、此處より一里半程下れば芦ノ湖畔に出づ、又十四五丁登れば姥子温泉に達す。

●箱根神社 元箱根村大字大芝にあり、東方富嶽の英峯を望み西相模灘の漫洋に當り、山靈凝つて秀峯となり、古芦荊山(定柄の意?)と稱せしが、山勢兩嶺に酷似せるを以て箱根山と號す、海拔實に二千四百尺、芦ノ湖畔に對し、箱根離宮を拜す景勝の地にして、數町の參道老杉古松鬱々として天空に沖し、九拾有餘の磴階を登れば、丹碧黒靄の社殿として鎮座せるは縣社箱根神社あり、

是天津彦火瓊杵尊、彦火火出見尊、木花咲耶姬尊の三神を奉祀す、天平寶字年中萬巷上人社殿を建設し箱根三所權現と號すを始めとし、爾來嵯峨天皇の勅願寄進あらせらるる處となり、又當時英雄將氏皆此社に崇敬す。

其後社殿の改造數回に及び文政十一年を最終として明治維新となり、神佛兩部を廢して箱根權現を箱根神社と改稱し以て現今に至る、社中に藏する寶物頗る多く何れも古色蒼然として往昔を偲ぶに好箇の參考史料たらざるはなし。

### 箱根の關

松平右衛門大夫 正綱、代官佐野平兵衛、小田原城番 中川勘助 等命を請



木 並 杉 山 根 箱

けて箱根の宿を開く、即ち元和四戊午の年此の地に通路を開拓せし時なりとす。此時要衝の地を撰みて屏風山麓の湖畔に新關門を設けたり是即ち箱根の關の始めとす。箱根離宮の西方約二丁、箱根町より東方二丁程にして、西南は芦ノ湖に面し、東北は屏風山の峻嶮に閉され、中央を通する一筋の道路之ぞ東海道之驛路なれば、是非共此處を通行せざるべからざる要衝に當る。關所は開きてより世々小田原城主の預る處にして、始め阿部備中守正次、次で稻葉丹後守正勝の預る事約六十五年間、後ち貞享三年に至り大久保忠隣の子孫加賀守忠朝小田原城主となりてより、維新後の廢止に至る迄凡そ百八十餘年間大久保氏の領有する處なりしと。

定

一、此關處を通行する者當番所の前に往還の鞆笠頭巾を脱ぐべき事、

一、乗物にて通る面々乗物の戸を開くべき事、

神奈川縣

但女乗物は番の輩差圖にて女に見せ可通事、

一、公家門跡大名參向之時は前廉より其沙汰可有之之間不可及

改之自然不審之儀於有之は格別たるべき事、

一、鐵砲の儀以相定證文可事通之

右此旨可相守者也仍而下知如件、

寛文六年十月五日

斯くの如き制札が今殘る見返り松の下に建てられ、行人をして一々査問通行せしめたるものなり。

### 東七面山

箱根町の後方丘陵に在り、寺號を本迹寺と稱し、箱根關所開設の翌年三月、身延山廿五世妙寂院日深上人の開基せし寺にして、甲州身延山を模寫したる伽藍は其壯大東海道隨一と稱せられ、箱根關所御免中本山緋金蘭跡諸役御免身延山並に村雲宮門跡御宿院の由緒を有す。

後ち文化年間身延山五十三世勅許上人上妙院日奏上人法主の貌座を退き此寺に隱栖するに當り、身延山より宗祖日蓮大菩薩並に未法總鎮守七面大明神の尊像を分體し、本堂背後の山上に七面山を開基するや忽ち關東の信徒迎合して頗る殷盛を極むるに至りしも天保九年祝融氏の災禍に遭遇し、爾來明治維新に至る迄廢頽其極に達したりしを、現住持長瀬東州師大正十年七月此處に住職するに及び、本堂の營繕山上國靈殿の再建を敢行し此處に寺運を挽回し全く寺相一新するを得、偶々貴顯の御禮拜遊ばさるる處となれり。

### 芦ノ湖

箱根温泉地姥子より十五六町にして湖尻に達す。湖面は海拔二千三百七十六尺、湖は東西半里、南北一里半、平均深度二十五米、最大深度四十三米五〇にして、排水河として早川の源をなす。

湖の周圍は風光佳絶なる處多く、碧潭に映する富嶽の雪峯は蓋し美の最上ならん。

之「倒さ富士」の著名なる所以とす。湖の南岸塔ヶ島半島に離宮は畫の如く立ち、半島の東部は元箱根村箱根神社の所在にして、西方箱根町に接し、町の東端湖水と文庫山とに介して古關の址在るなり、明治二年廢毀せらるるに及び、今は名殘の石井薨磔空しく風雨に瀑らさるるのみ。

### 箱根細工

足柄下早川莊早川の里にて今を距る事千五十餘年の昔、我國挽物細工の起源を發してより、手彫、手綱引廻轉式抽應用ダライ盤應用足踏轆轤電力應用と時代は次第に技工を進歩せしめ遂に今日の箱根細工の名をなすに至りたるものにして、古より製せられたるものは、丸膳、飯櫃、汁椀、高付、掛物撥物軸、腰高、盆等にして、玩具は慶長年間より紅物挽と唱へられ、一種特有のものとして傳へられ、郷土玩具として傳習製作されたるものなり。其他漆器類、竹細工、指物等箱根山脈に産する黄和田、楠樺、松杉、神代杉、桂、榎樹、槐、青肌、朴、水草、桑櫻

等多種なる材料を以て旺んに製作縣外に輸出す。

湯河原温泉

熱海線真鶴驛より行く事一里有半、函嶺の一脈婉として日金山、箱根山等三壁峯巒を繞らし、僅かに東南の一部開きて、藤木川の清流淙々として其間を走る。

此處湯河原の温泉は海拔三百五十尺、浴舎溪谿に沿ひて點在し、静閑自ら心神を淨化す。

温泉質は鹽類泉にして、平均温度百八十五度、効顯關節疾患。諸瘡痔疾等に著しく、旅舎天野屋、藤田屋、中西屋箱根屋等整備す此地亦地勢自然の妙工に恵まれ、名勝舊蹟多く在りと雖も就中湯河原公園の頂上に登りて眼下に散點せる宮上宮下の諸部落を見、轉じて眼を放てば房總の諸山雲の如く、相模灘の青波漫々たるに白帆點々として遊搖し、突として海面に眞鶴岬の佳景を望む、見附の松は湯河原門口に所在し、大岩石の上に亭々として繁茂し、之と對峙して一本の大樹岩間を割つて生ず、景



寸の地なりと雖又河捨て難き奇觀を呈す。其他養生園、清瀧成願寺、

五段瀧、土肥の大杉等附近に點在して浴客の無聊を慰むるに一輻の畫面をなす。

此處より西方溪を渉り坂を上り更に曠原を横斷し鬱蒼たる密林の羊腸たる山徑を行けば、里餘にして一眸十ヶ國を俯瞰し得る十國峠の雄大なる山嶺に達す、海拔二千五百五十餘尺、眺望の佳展望の雄實に東海隨一の名に背かざる處なり。

湯河原の地は、山深く溪谿に富むが故に秋期遊獵に適し、雉子山鳥、鴨、鶉、兔など多く、殊に土地の名産としては密柑、篠竹の優良なるものを産出し、土産として薦むるに足るものは、楠木細工、雁皮紙織、白菊はたき、椿の油、湯の華菓子、わさび餅わさび飴、鑛泉煎餅、いちご飴、かるかん等に多種の珍珠佳品なり。

主要銀行會社

株式會社神奈川縣農工銀行 當銀行は神奈川縣下に於ける五大銀行の一つにして、明治三十一年七月の創立に係り、資本金四百萬圓、拂込金額參百萬圓にして、専ら都鄙金融の調節、資金の供給に努め、一般産業界の協調進歩向上發展を圖らん目的の下に設立されたるもの、爾來堅實なる經營を續け、特に政府より農工債券の發行を認可せられ、金融緩漫の期に際して漸次低利なる農工債券の發行をなし、中央市場より資金を吸收し之を地方産業の整理振興の爲融通運用せしむるなど、専ら現時財界の混亂期に處して圓滿なる金融と産業界の開発指導に盡碎し當期末前に於ける如き、對外貿易は輸入超過を示し、一般財界

は極度の不振に陥入り各種取引代金の回收極めて不良となり、就中地方農村は果實蔬菜の賣行不良なるに價格は半年の半に達せず、米作又平年に劣りて縣下の財界萎靡不振なる事甚しきものあり、從て當行に資金を求むる者頗る多く、前期繰越高を合すれば壹千六百拾餘萬圓に達したり。

本行は此間に處して前記中央市場に低利なる資金を得て、是を巧みに運用し、斯くの如き一般業界不振なる時に際しても尙參拾四萬餘圓の純益を算出し得るに至れり、已に震災に於ける損失は完全に填補せられ業態益々堅實味を加へ、優良なる成績を表はしつ、あり、現取締役頭取は小鹽八郎右衛門氏にして取締役は猪熊元之助、山口左一、三村啓作の諸氏なり、本店所在地は横濱市櫻木町壹丁目

株式會社渡邊銀行 横濱市公金取扱銀行、鶴見町金庫、日本勸業銀行代理店、として信用ある事業界稀有の株式會社渡邊銀行は、日本財界の巨をなす渡邊福三郎氏一家の經營に成り、明治四十五年の創立にして、資本金參百萬圓拂込金額貳百萬圓のものなり、本店を横濱市元濱町に置き、支店を同市尾上町、長者町及鶴見町の各地に設置し、一般銀行業の最善を發揮しつ、あり、而して同行最近の事業成績を見るに、諸預り金期末現在高七百八拾參萬八千八百八拾圓貳拾參錢にして、諸貸附金五百參拾貳萬七千八百四拾壹圓參拾五錢、有價證券所有資産貳百六拾六萬參千九百七拾圓七拾錢現金現在高參拾八萬六千參拾參圓〇八錢、所有不動産百九拾參萬貳千五百壹圓七拾錢、營業用建物什器減價償却現在高六萬五千貳百八圓五拾七錢を算す、當期純利益金拾九萬貳千貳百貳拾參圓四拾錢にして、其營業振りの着實なるご内容の鞏固なる事、信用の大なる事、斯界稀に見る盛況を呈しつ、あり。

現取締役頭取は渡邊福三郎氏にして、専務取締役は大河原榮之氏なり。

株式會社左右田銀行 本行は横濱に於ける富豪にして、有名な理財家左右田金作氏主腦となりて明治二十八年八月卅一日創立せしものなり、

初め合資組織にして資本金參拾萬圓を以て營業を開始せしも、其中心をなす左右田家の信用と、圓滿なる理財の妙諦發揮とは忽ち斯界重要銀行として認められ、行業日に旺盛を加へ、遂に正金銀行以外本行の如く多額の預金を有するもの無しと云はる、隆榮を見るに至れり、是本行の信用と基礎の如何に鞏固なるかを表示するものにして、又同行の姉妹銀行たる株式會社左右田貯蓄銀行も信用の厚き事同行に譲らざる業績を示しつ、ありたり爾來兩行共に着々として隆興の歩調を一つにしたるも、大正十一年三月八日一般株主合議決定の上、合資會社左右田銀行及株式會社左右田貯蓄銀行を合併し、資本金五百萬圓に増額、貳百五拾萬圓拂込済みの株式會社左右田銀行の設立を見るに至れり。

現取締役頭取は左右田喜一郎氏にして専務取締役は左右田棟一氏支配人中山新太郎氏なり。

株式會社第二銀行 本行は創業明治七年十一月にして本邦銀行界に於ける最も古き歴史と堅實なる基礎を有し、其業態の整

然たる事蓋し國立銀行に比論す、大横濱港が呱呱の聲を揚げ、海外貿易の第一歩を踏み出したる時本行は其補習者となり襟母となりて、搖盪の時代より横濱港の爲金融に施設事業に總ゆる

經濟的方面に貢献したる功績は尋常にあらず、而かも五十有餘の歳月を閱し、其間我國經濟界は幾多の波瀾曲折に遭遇し當時有數なる大銀行の倒産せるもの數知れず、金融の軟調、資金回

に増大して、現在に於ては幾多同業の所在せる横濱市金融界に嶄然頭角を現はし頗る優良なる業績を示しつ、あり。

現頭取は左右田棟一氏にして、金融界の重鎮をなせる人なり。

株式會社戸塚銀行 本行は明治三十二年十二月の創立にして資本金參拾萬圓、拂込金額貳拾萬圓、相州戸塚町廿六番地に本店を有し、横濱市神奈川町、高座の地澁谷村長後、保土ヶ谷町、鎌

の下に設立されたもの、爾來堅實なる經營を續け、特に政府より農工債券の發行を認可せられ、金融緩漫の期に際して漸次低利なる農工債券の發行をなし、中央市場より資金を吸収し之を地方産業の整理振興の爲融通運用せしむるなど、専ら現時財界の混亂期に處して圓滿なる金融と産業界の開發指導に盡碎し當期末前に於ける如き、對外貿易は輸入超過を示し、一般財界

然たる事蓋し國立銀行に比論す、大横濱港が呱呱の聲を揚げ、海外貿易の第一歩を踏み出したる時本行は其補習者となり母となりて、搖盪の時代より横濱港の爲金融に施設事業に總ゆる經濟的方面に貢献したる功績は尋常にあらず、而かも五十有餘の歳月を閲し、其間我國經濟界は幾多の波瀾曲折に遭遇し當時有數なる大銀行の倒産せるもの數知れず、金融の軟調、資金回收の遲延、銀行警戒の持續、内外取引事業の不振、證券市場の亂調等業界を極端に混亂せしめたる場合と雖も、よく本行は此間に處して輕舉妄動せず、秩序整然當業初期の目的に向つて邁進し、着々として堅實なる基礎を築きたるが故遂に大横濱港今日あるに及びては名實共に民間銀行界の範として赫耀たる業績を收むるに到りしなり。

本行は資本金百五十萬圓全額拂込済にして、現頭取は斯界に其人ありと知らるる原富太郎氏にして、取締役は原善一郎、原太三郎、岡田儀一の諸氏何れも財界有數の人々を主腦とし經營せられたつ、あり。本行主なる支店所在地は、群馬縣前橋市、高崎市東京、横須賀の四箇所にして何れも金融界の活舞臺に本銀行特種の業績を發揮しつ、斯界の中心勢力をなし居る次第なり。

●株式會社駿河銀行 本行は本店を静岡縣沼津市本町貳拾壹番地に置くも、本縣各地方に支店十七ヶ所を有し、専ら一般銀行業務の最善を盡しつ、あれば、縣下經濟界に及ぼす本行の功績蓋し僅尠ならざるを思ひ、特に隣縣の銀行なれども、本欄に紹介して、業界の指針に供す所以なり、本行は創業既に四十年の昔にして、資本金六百萬圓を有し、現頭取は岡野喜太郎氏取締役深澤諒平、長倉計吉、宮崎喜久太郎、宮崎友太郎、室伏完、岡野豪夫の六氏にして、決算報告をなす事將に第六拾壹期に及び、當期純利益金五拾七萬貳千九百五拾壹圓九拾錢九厘を算し、配當年壹割の好況を示しつ、あり。

現在末諸預金總額は參千六百六拾萬七千九百九拾參錢一厘にして諸貸附金は三千二百六拾八萬參千八百九拾壹圓八拾壹錢を算し、資産状態は諸口有價證券時價見積總額參百五拾五萬貳千貳百拾圓營業用土地建物什器現在高九拾貳萬五百參拾參圓、所有不動産は現在四拾貳萬壹千八百拾壹圓七拾四錢現金勘定現在高貳百五拾貳萬貳千貳百拾圓貳拾四錢を有す、如何に本行が其資産状態に於ても堅實味を保有せるか以て一般業務の優良なる成績を示しつ、ある所以推して知るべし。

因に本縣内に於ける支店所在地は、小田原町、吉濱村、平塚町厚木、藤澤、秦野、松田、鎌倉、横須賀、小田原幸町、川村山北、温泉村宮ノ下、戸塚、茅ヶ崎、眞鶴、川崎、大磯の各市町村樞要の位置を占む。

●株式會社都南貯蓄銀行 本店を横濱市吉田町一丁目廿九番地に置き、西戸部町字扇田及神奈川町字仲之町、横須賀市大瀧町小田原町幸町に各支店を設置し、専ら商工業者の金融機關として重要な業態を繼續しつ、あり。

創業大正十一年一月にして、資本金壹百萬圓、拂込金五拾萬圓にして、創業日尙ほ淺しと雖も、時代の趨勢と一般金融界の狀態に鑑み極めて合理的營業をなしつ、あるが故に行運年と共に隆盛に赴き又社會的にも其堅實味は大いに認められ信用日々

百五十萬圓拂込済みの株式會社左右田銀行の設立を見るに至れり。

現取締役頭取は左右田喜一郎氏にして専務取締役は左右田棟一氏支配人中山新太郎氏なり。

●株式會社第二銀行 本行は創業明治七年十一月にして本邦銀行界に於ける最も古き歴史と堅實なる基礎を有し、其業態の整

に増大して、現在に於ては幾多同業の所在せる横濱市金融界に嶄然頭角を現はし頗る優良なる業績を示しつ、あり。

現頭取は左右田棟一氏にして、金融界の重鎮をなせる人なり。

●株式會社戸塚銀行 本行は明治三十二年十二月の創立にして資本金參拾萬圓、拂込金貳拾萬圓、相州戸塚町廿六番地に本店を有し、横濱市神奈川町、高座の地澁谷村長後、保土ヶ谷町、鎌倉腰ヶ谷、田浦町船越、久良岐六浦莊村三分等に支店を有し、専ら地方金融界の中心動力となり、商工業の資金運轉産業の誘導開發に努め、縣下經濟界の重要機關たり、創業既に斯くの如く古き歴史を有し、而かも着實なる營業方針は本行の特色にして、其業績に見るも常に優良なる成績を表はしつ、あり。現頭取は田邊徳五郎氏にして、支配人は加藤孝三氏なり。

●株式會社鎌倉銀行 本行は神奈川縣鎌倉町小町參百九番地に在り、資本金壹百萬圓にして拂込總額四拾七萬五千圓を算す、明治三十年十二月の創業にして、現取締役頭取は栗田傳兵衛氏、取締役は伊藤秀之助、猪熊元之助、三橋茂三郎、田川平三郎諸氏なり第五拾七期決算報告を見るに、公金預金前期繰越高參拾壹萬九千八拾五圓、當期預高八萬九千七百五拾參圓拾六錢其他一般預金額を總計せば四百拾七萬四千四百拾圓にして、之に對し政府供託證券參萬六千八百五拾參圓四拾參錢貳厘を有す、而して當期純利益金は五萬壹千貳百貳拾參圓四拾七錢五厘にして平均配當率は年九朱を繼續しつ、あり。

現在本行の支店出張所は、鎌倉由比ヶ濱、材木座、長谷、小坂村小袋、横須賀市元町、同逸見、逗子町、葉山町、同一色、川口村の十一ヶ處にして、本行の統一完備せる營業方針に向ひ益々行運隆盛を極め、縣下有數の銀行として、一般金融界に重きをなしつ、あり。

●株式會社關東興信銀行 本行は大正十四年十二月の創業に係り資本金壹百萬圓を擁す、相州藤澤町七三〇に在り、現頭取は井阪孝氏にして、専務取締役は齋藤虎五郎氏、支配人藤永文發氏等實業界錚々たる人々に依つて經營せられたつ、あれば、創業日尙淺しと雖も、業態頗る隆盛にして、益々金融界に重要視せられたつ、有り、横須賀、浦賀、三崎、長井、大磯、小田原、腰越の各地に支店を有せり。

●株式會社平塚銀行 神奈川縣平塚町に於て金融界の中樞をなすものとは問はゞ第一に株式會社平塚銀行に指を屈すべし、斯くの如く當行は一般的に其業態の堅實味を知られ居るものにして而已ならず實に明治廿九年七月の創立てふ古き歴史を有し、過去四十有餘年來終始一貫、着々として業務の進展を圖り、大衆の金融機關として總ゆる利便を圖り、地方商工業の發達進歩に貢献せし努力蓋し僅少なるものにあらず、第五十九期の決算報告に於ても利益金貳萬九千參百四拾五圓六拾八錢四厘を算し配當金七歩の平均率を示しつ、あり。

現頭取は原田敬治氏取締役原田榮太郎、加藤銀藏、齋藤銀次郎船津愛之助の諸氏にして、何れも行務の實際に携はり、よく財界一般の推移を考查し融通組織甚だ合理的なるものあり。業態逐年隆興に趣き、現在縣下須馬村及金目村に支店を有し、

平塚町新宿及豊田村本郷には何れも出張所を設置し一般銀行業を極めて親切に敏速に取扱つゝあり。

●株式會社伊勢原銀行 神奈川縣下に於て銀行業を開始せし實に明治二十九年九月にして、時恰かも日清戦役の直後、國家經濟界は亂調に陥ち入り、一高一低遽かに豫測すべからざる財界波瀾の過渡期にてありしも、斯くの如き一般經濟界の亂調期に是を収集平調ならしめ、以て經濟界の平衡を保たしめんと目的に依り、毅然として其旗幟を鮮明ならしめ創業せられたるは即ち本行にして、資本金壹百萬圓を擁し、一般銀行業務は極めて堅實に、而かも民衆の利益向上を圖るべく凡ゆる利便を與へつゝ業態愈々發展の道程に在り、當五拾九期純利益金は壹萬九千參百七拾貳圓四拾七錢を算し、株主配當八分を下らず、現頭取取締役は山口左一氏なり。

●株式會社相模實業銀行 相州厚木町に在り、大正五年十一月の創業にして全額拂込資本金拾萬圓、堅實なる營業振りは、當地方一般定評の有る所にして地方金融機關の極めて大衆的利便を與へつゝある事は周知の事なれば敢て贅言を要せず、現頭取は小鹽元保氏、取締役小鹽八郎右衛門望月熊坂新井早川の諸氏なり。

●株式會社相模銀行 神奈川縣秦野町曾屋二六二四番地に在り明治廿五年七月八日の創業にして資本金壹百萬圓也、當時資本金百萬圓は現時の壹千萬圓を標榜せる會社銀行よりも、其内容實質に於て頗る堅實味を有し當銀行の如きも初期の目的は専ら地方金融の中樞たらんとする主旨に依りて着々其歩を進めつゝありしも、時代は自然に進化發展し、當地方産業の主たる農産業煙草の如き實に本邦産の重要な生産額を表示する程度に改善され、從而是等産業の向上進展は自ら金融の運轉繁雜を極め、其間幾多の複雑せる金融組織を必要とせしも、本行は其間極めて堅實に而かも一般業界の金融運轉を圓滑ならしめ、着々として最期の目的に邁進し遂に第六拾七期決算報告を提示するの機運に迄到達せり。

而して本行のコールレスポンス先は百十二ヶ所を有し、現在に於ては單なる地方的銀行にあらず、國家金融の樞要機關たるの業態を示しつゝあり。  
現頭取は佐藤政吉氏にして、取締役望月丑五郎、梅原逸太郎石田忠次郎、小泉馬吉諸氏なり。

●株式會社松田銀行 資本金百貳拾萬圓、諸預金百四拾壹萬八百五拾壹圓拾貳錢、當期利益金參萬四千貳拾九圓拾壹錢、内法定積立金貳千圓配當金貳萬貳千貳百參拾七圓五拾錢、(年六分)七百圓賞與金、四千九百壹圓七拾貳錢後期繰越金、是第五拾九期バランスシートに現はれたる數字にして、當銀行は既に明治三十年六月神奈川縣松田町に創立せられ、現在松田驛前、南足柄村中沼、松田町神山、酒田村、足柄村寺町、中の地西野村堀西外五ヶ村に各出張支店を設置し、同地方一般の産業商業資金運轉の中心機關として益々堅實なる營業を繼續しつゝあり。  
現頭取小金忠次郎氏、取締役北村佐一、吉田秀吉外石川、下田矢野、武尾の諸氏なり。

●株式會社川村銀行 株式會社川村銀行は相州足柄上川村宇山

北に本店を有し、資本金貳拾五萬圓、明治二十九年十月創立せしものにして、専ら地方産業開發、一般金融の圓滑を計るべき目的の下に、堅實なる營業方針を繼續し、毎期資本金に對する九歩平均の配當をなしつゝあり。已に知る如く銀行業の經營は頗る至難の業にして、社會組織の變化複雑に伴ひ、之が營業方針も自ら圓轉にして而かも緻密正確なる經營を要すべく、當銀行の如きは此間の計畫常に宜敷を得、地方金融の中樞をなしつゝ、今日に至れるもの基礎愈々強固に、營業益々隆盛に向ひつゝあり、現頭取は瀬戸喜市郎氏、常務取締役は武佐平氏なり。

●株式會社足柄農商銀行 當銀行は其創立明治三十三年五月二十日にして、已に決算報告をなす事五拾壹期、資本金參百五拾萬圓にして、現取締役社長は鈴木仙藏氏田淵好五郎氏武藤龜次郎氏池永新平諸氏にして、頭取は市川繁治郎氏なり。今年下半年に於けるバランスシートを検するに、當期純益金壹萬七千六百八拾四圓九拾錢にして、前期繰越金四千參百六拾六圓參拾七錢五厘を算す、而して當期配當金は壹萬五千圓にして後期繰越金四千五百〇壹圓貳拾七錢五厘、如何に當行が二十有餘年來堅實主義を以て終始一貫せしか、常に見る利益處分法の極めて合理的なるに徴しても明瞭なるものとす。

●京濱電氣鐵道株式會社 本社は明治三十年始めて川崎大師間に電氣鐵道敷設の特許を得て成立し、翌三十一年敷設工事に着手し、同三十二年一月以て車輛の運轉を開始せり。當時車輛の運轉軌道纔かに一哩十鎖、是を大師電氣鐵道と名稱す。明治三十二年更に六郷橋、品川橋間の延長許可を得て、翌年九月より先づ大森、六郷橋の四哩十鎖の敷設工事、發電増設、配電所新築工事に着手、同三十四年二月工程竣工して車輛の運轉を開始せり、斯くして大森延長線の竣工と共に大森町附近に電燈營業を開始し、此處に第二期計畫を遂行せり、明治三十三年十二月、神奈川、川崎間の線路延長特許を得、翌年十月羽田支線延長の許可を受け、先づ羽田支線として六郷橋、川崎官鐵驛間の延長工事に着手し、三十五年九月竣工、直ちに運轉を開始し、其後延長線路の出願許可を續々と實現し、明治三十七年に至りては品川、大森間の軌道竣工、三十九年十二月に至りては、品川、神奈川間の工事成り、品川より神奈川迄十三哩十六鎖は全く交通完成して、兩市の利便頗る多く、全く交通上に一新紀元を劃したるの觀ありき。由來東京南郊の地は氣温順正にして而かも海濱の風光に富み、山野緩かにして廣く都人の郊外生活を營むに好適なるが故、本社經營の電氣鐵道貫通と共に、其沿線は俄かに郊外移住者を以て滿すに至れり、本社は資本金壹千五百萬圓にして最近の事業成績は、客車收入に於て百貳拾參萬壹千五百拾八圓九拾錢貨車收入に於て六千四百貳拾八圓七拾九錢、運輸雜收入參萬五千參百四圓五拾九錢、雜收入貳拾壹萬百六拾圓參拾九錢の純利益を示す。現社長は青木正太郎氏副社長は中根虎四郎氏にして、本社所在地は川崎市堀川町二十五番地なり。

●小田原電氣鐵道株式會社 本社は明治三十三年三月電氣鐵道を起し本邦最古の電氣鐵道たり且つては資本金貳百貳拾萬圓な

りしも、逐年事業成績の擴張進展するに伴ひ、増資に増資を重ね現在公稱資本金六百六拾萬圓の巨額に達し、而かも各期決算貸借對照表を見るに運輸利益金拾四五萬圓に達せざる事なく、株式配當年七朱を平均繼續しつゝあり、目下箱根湯本、福羅間登山電車を小田原迄直通運轉開通し運輸の便頗るよく地方住民の裨益せらるる事甚大なり、從つて本社の收入増大して、毎期



牧野野製

増額して年額八百圓を産出すべしと、斯の如く氏は二十一歳より製絲界に身を投じ四十六年間六十七歳の今日迄専心斯業の發達に盡し種々の困難に遭遇せるも身心共に忍

三十年六月神奈川縣松田町に創立せられ、現在松田町、南足柄村中沼、松田町神山、酒田村、足柄村寺町、中の地西奈野村堀西外五ヶ村に各出張支店を設置し、同地方一般の産業商業資金運轉の中心機關として益々堅實なる營業を繼續しつゝ、あり。現頭取小金忠次郎氏、取締役北村佐一、吉田秀吉外石川、下田矢野、武尾の諸氏なり。

●株式會社川村銀行 株式會社川村銀行は相州足柄上川村宇山

りしも、逐年事業成績の擴張進展するに伴ひ、増資に増資を重ね現在公稱資本金六百拾萬圓の巨額に達し、而かも各期決算貸借對照表を見るに運輸利益金拾四五萬圓に達せざる事なく、株式配當年七朱を平均繼續しつゝ、あり、目下箱根湯本、強羅間登山電車を小田原迄直通運轉開通し運輸の便頗るよく地方住民の裨益せらるる事甚大なり、従つて本社収入増大して、毎期決算に純利益の増額せるは蓋し僅少ならざるべし。尙本公司は静岡縣下にも鐵路延長の計畫と、湯本早川村間に發電所設置の計畫あり早川流水の利用近く實現せらるべく、斯くして電力供給を樹立し、今後益々發展の社運に向ひつゝ、あり。現社長は中根虎四郎氏にして副社長は森恪氏なり。

●相模鐵道株式會社 本社は神奈川縣茅ヶ崎町に在り大正五年十二月の創立にして、資本金百八拾萬圓を擁し、目下開通營業線は茅ヶ崎厚木間九哩及側線二哩にして、厚木八王寺間の十六哩は未成線なり着々之れが竣工に急ぎつゝ、あり、沿線名勝舊蹟頗る多く、附近國幣中社寒川神社、相模川堤の櫻花等名所在り目下許可敷設工事のものに厚木より東京府八王子市に通ずる延長十哩の工程を急ぎつゝ、あれば、近く竣成運轉を開始せらるべく、是が全通の曉は本社の事業成績彌が上にも向上すべく、又地方開發に裨益する處尠なからざるべし、現社長は南俊二氏にして、取締役松方乙彦、南波禮吉、柴田榮吉、望月珪治伊藤清左工門、藤堂大藏氏等専ら主腦經營の任に努む。

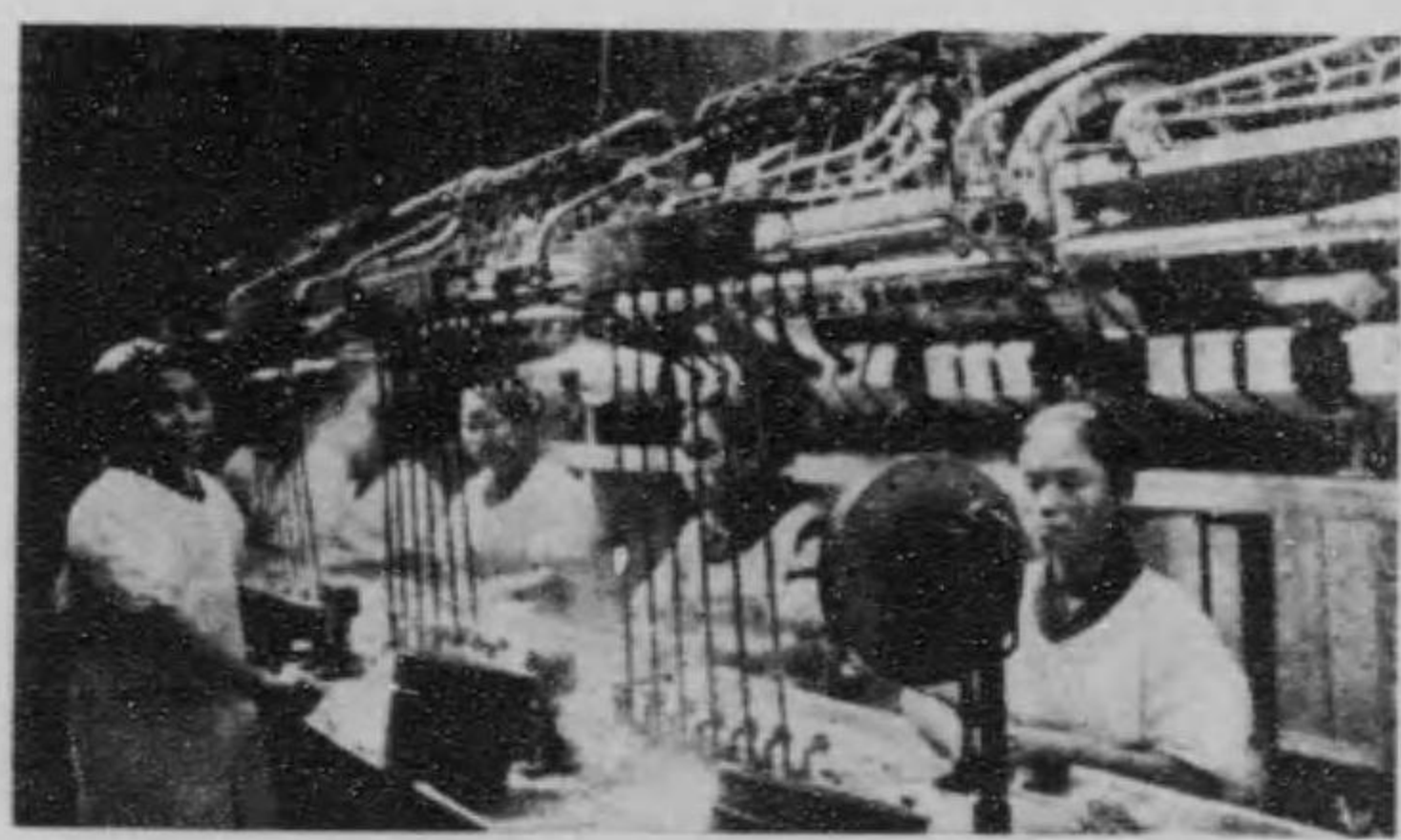
●伊勢原自動車運輸株式會社 本社は資本金拾萬圓を以て、大正八年三月創立せられしものにして、専ら相南各地の名勝舊蹟觀光旅客運搬、及地方交通運輸の便に供すべき主旨の下に着々營業を繼續し居るものにして、相州平塚驛前及國府津驛前に各出張所を設け、同地の交通運輸に多大なる利便を與へつゝ、あり本社所在地は、伊勢原町伊勢原三三二にして、専ら親切第一主義を社是とし居るが故に同會社の名聲日と共に隆盛に赴きつゝ、あり、現社長は龜井藤藏氏、取締役佐野鎗十郎、加藤宗兵衛他伊藤原田小宮諸氏

●牧野製絲所 本縣の製絲業は余り發展を見ず又斯業に注目する者も無く、たま／＼相當成績を擧ぐるものありしも之れは一時的にして何れも大正九年の財界變動の爲め殆んど倒れ長期の財界不況の爲め休業するの止むなきに至る、此の間にありて現時盛んに事業を繼續せるは獨足柄上郡金田村に在る牧野製絲所なり、同所は牧野仁三郎氏の經營に拘り最も古き歴史を有し本縣最初の製絲所にして氏が二十一歳の時即ち明治十一年頃始め座繰、踏取、と漸時改良せられ、明治二十五年初めて蒸汽應用の機械製絲に移り、爾來工場擴張と共に品質の改善を圖り、一面氏は全國製絲工場を歴訪して之れが研究に資する等、着々斯業發展に努め大正三年當時製絲業界の大恐慌に遭遇せるも何等支障なく今や敷地千五百坪、建坪千百坪の大工場を有し、釜數百八個、多數の従業員を抱容す。

年産額五百捆を算し、本縣第一の製絲場となるに至れり、氏は更に工場能率の増進を圖るべく目下試験として六口六ワタの電氣裝置の製絲機械を設置し研究中なりし所成績良好なる爲め漸次之れが改善をなすべく、本年に於ても一部を裝置し三百捆

雜收入參萬五千參百四圓五拾九錢、雜收入貳拾壹萬百六拾圓參拾九錢の純利益を示す。現社長は青木正太郎氏副社長は中根虎四郎氏にして、本社所在地は川崎市堀川町二十五番地なり。

●小田原電氣鐵道株式會社 本社は明治三十三年三月電氣鐵道を起し本邦最古の電氣鐵道たり且つては資本金貳百貳拾萬圓な



製絲所電氣裝置

増額して年額八百捆を産出すべしと、斯の如く氏は二十一歳より製絲界に身を投じ四十六年間六十七歳の今日迄専心斯業の發達に盡し種々の困難に遭遇せるも身心共に忍耐し製絲の改良に盡瘁せられ大正九年十月大日本蠶絲會總裁大勳位功二級載仁親王殿下より表彰の光榮を賜ひ、又同會神奈川支會長神奈川縣知事井上孝哉氏及子爵清浦奎吾氏より表彰せらる。

●合資會社鎌倉ハム富岡商會 是鎌倉郡大船驛脇に在り、鎌倉名物たる鎌倉ハム製造の外ハムライスの素、チキンライスの素、ベーコン、スライスハム、ポーンレスハム、ポイルドハム、ハムソーセージ等を製造す鎌倉ハムに就ては前述せるを以て略す殊にハムライス及びチキンライスの素は最近即席料理の權威として一般家庭旅館料理店等の賞賛を得て非常なる賣行を呈し居れり、同品は美味滋養に富み調理又た至便なり、近來文化生活の流行に連れ最も經濟的に即席に調理し得るを以て旅行等に好適として需要せらる。

●逗子ホテル 是逗子新海岸中央西寄りの所に在り、同地は海の眺望甚だ良く遙に大島、天城、箱根の連山を望み、近くは西に小坪の鼻浪子不動の岡を控へ、東は鳴鶴崎、鐘摺等を眺め又後方に鎌倉より神武寺に連なる山々を見渡し實に絶勝の地なりホテルは岩下家の經營に係り建坪四百五十坪の洋館大建築物にして庭園千二百坪を有し園内にコート及運動場、館内に撞球、圖書部、圍碁俱樂部等の娛樂機關及簡易的の酒場浴場等、の設備あり、又小供用ヨット、ボートの計畫あり夏季避暑に海水浴、冬季避暑の最好適は勿論四時の遊覽に適す、逗子驛より徒歩十分にして達す。

附記 熱海、伊豆山及び伊東の各温泉場は静岡縣に屬し關東に入るべきにあらざるも、地勢及交通の關係上特に概略を附記して江湖の至便に供せり。

### 熱海温泉

「眞冬を知らざる春熱海、眞夏も涼しき秋の海邊に」の熱海温泉は静岡縣田方郡の東北端に位し、伊豆山 温泉、及初島の三區を含み面積三方里、戸數二千餘戸、人口一萬二千餘あり往昔兼山代官所の治に屬せしが明治四年足柄縣の所管となり明治九年轉じて静岡縣の管轄に屬す、南方相模灘に臨み二温泉あり、南は即ち熱海温泉にして北は伊豆山温泉なり、熱海温泉は即ち熱海町の首腦にして、其の地勢斜に三方山を以て屏風の如く、冬季朔風の凜烈を拒ぎ東南の一方は蒼海に面し、山秀で水清く、日光の射射亦よろし、常に新鮮の海風を受くるが故に氣候中和を得て溫暖なれば三冬の避暑に適するのみならず、

殊に温浴と海水浴とを兼ねるを得べし。土地乾燥にして濕氣少く夏季蚊帳の患なく、加之風光明媚にして四時の賞観備らざるは無く、春光和氣に當りては歩を梅園に移すべく秋色期に及びては月を錦浦に賞すべし、而して前面海上三里を隔て、雲樹蒼然たる初島を望み、房總の遠山遙に黛を水天髣髴の間に曳けり左方に伊豆山眞鶴ヶ崎あり、右は乃ち奇巖突兀たる魚見崎、遙に相隔て雲濤一碧の中に大島の噴烟を認む、丘上に登れば遠く南方天城山より、近くは玄嶽、日金山、岩戸山、等北西に連り其後方に箱根の諸山及び富士の白雪嶺々として雲表に聳え自ら此の勝地を誇るに足る、北方の一丘上野山に抱かれたる地あり其の僅かに開きたる海岸の右を和田磯、左を横磯と呼ぶ、其の間に構へたるを市街となす、設備の整然たる温泉宿は何れも清浄なる浴室を備えたる二層三層の旅舎軒を並べ客棧肆店相連り、規模壯麗を極め居れり、温泉の由来に至りては種々傳説あり



代仁賢天皇の御宇此地の海中に忽然と温泉湧出し煙氣沖に立ちのぼり潮汐は熱湯となり魚介の類多く死しけり故に熱海ヶ崎と稱せりと、其後三十八代天智天皇の御宇に、箱根山の萬卷上人常州鹿島大神宮に詣し、神力に頼み現在の地に移せりと爾來幾多の變遷を経て今日に至れり、要するに日本最古の温泉にして、二千有餘年前の起原にかゝれること世人の確信せる所なり、熱海は滿地温泉と云ふべく海岸近傍の地何處を穿つも温泉の湧出せざる所なし、往昔は七湯と稱へ、大湯清左衛門湯、小澤湯、風呂湯、河原湯、左治郎湯一名目の湯、野中湯等なりしが現時は四十餘湯となれり、近年又諸所に堀抜井戸を用ゐ自家用に供するもの増加せり、泉質は目の湯無鹽湯を除く外、皆鹽類泉に屬せり、而して其温度成分に至りては、温泉湧出の位置及時期に依り少差あるも大同小異なれば次に大湯及び蒸氣水、目の湯の分析を擧げん。「大湯」は無色透明にして臭氣なく鹹味を有し其の中性の反應は一リットル中含有固形分九二三五瓦なり其の各成分及量は左の如し

代仁賢天皇の御宇此地の海中に忽然と温泉湧出し煙氣沖に立ちのぼり潮汐は熱湯となり魚介の類多く死しけり故に熱海ヶ崎と稱せりと、其後三十八代天智天皇の御宇に、箱根山の萬卷上人常州鹿島大神宮に詣し、神力に頼み現在の地に移せりと爾來幾多の變遷を経て今日に至れり、要するに日本最古の温泉にして、二千有餘年前の起原にかゝれること世人の確信せる所なり、熱海は滿地温泉と云ふべく海岸近傍の地何處を穿つも温泉の湧出せざる所なし、往昔は七湯と稱へ、大湯清左衛門湯、小澤湯、風呂湯、河原湯、左治郎湯一名目の湯、野中湯等なりしが現時は四十餘湯となれり、近年又諸所に堀抜井戸を用ゐ自家用に供するもの増加せり、泉質は目の湯無鹽湯を除く外、皆鹽類泉に屬せり、而して其温度成分に至りては、温泉湧出の位置及時期に依り少差あるも大同小異なれば次に大湯及び蒸氣水、目の湯の分析を擧げん。「大湯」は無色透明にして臭氣なく鹹味を有し其の中性の反應は一リットル中含有固形分九二三五瓦なり其の各成分及量は左の如し

格魯兒那篤留母	五、四〇九	重碳酸加兒奧母	痕跡
格魯兒加留母	〇、三五四	第一鹽化滿佈	痕跡
硫酸加兒奧母	〇、一三一	格魯兒加留母	痕跡
格魯兒加兒奧母	二、八九三	格魯兒那篤留母	痕跡
格魯兒麻留奧母	〇、〇一五	有機物	痕跡
重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二	固形分合計	九、三二七五
硫酸	〇、五三五	温度	二百九度乃至二百二十六度

蒸氣水一リットル中硫化水素の量は〇〇〇〇五三〇三瓦乃至〇〇〇〇九二三九瓦なり又一リットル中の蒸氣殘渣は〇、五〇〇五瓦にして各成分及量は左の如し、

格魯兒加兒奧母	〇、〇二九八	格魯兒麻留奧母	痕跡
格魯兒加留母	〇、〇八四三	硫酸	痕跡
格魯兒那篤留母	〇、三九五	蒸氣熱度	二百十度乃至二百二十六度
硫酸	〇、〇〇七		

屋中田屋等の旅舎あり、泉質鹽類泉にして無色透明微酸を帶ぶ其反應は酸性なり、主治効用は頭痛、肩背痛、眩暈、癩癩、皮膚、四肢麻痺等の諸病に適し殊に神經衰弱に奇効あり附近の名勝は古々井森、千人風呂遊園地、伊豆山神社、走湯山磐若院、稻村等著名なり。

◆伊豆伊東温泉

「目の湯」無色透明にして臭氣なく鹹味を有す其反應は中性にして各成分量左の如し

格魯兒那篤留母	四、七八八	酸化鐵	〇、〇〇一
格魯兒加兒奧母	二、五九八	重碳酸加兒奧母里炭酸鹽	痕跡
格魯兒加留母	〇、三五四	酸化滿佈	痕跡
格魯兒麻留奧母	〇、〇四二	格魯兒加留母	痕跡
硫酸加留留母	〇、一四五	有機物	痕跡
硫酸	〇、一五一	固形分合計	八、〇八四瓦
温度	百四十三度	比重	攝氏十三度に於て一、〇〇七

主治効用は内服、外浴共に宜し近來蒸氣浴、及び新式の砂蒸風呂の設けあり諸病に應用するを得べし、獨逸國ドクトルホウマン氏の説により諸病の適應症を擧ぐれば左の如し、小兒の腺病及び之より生ずる諸病、風濕及び慢性の痛風、炎性滲出に於て其炎既に退くの後、滲出物の吸収を催進す、尿管外液滲出及び通常の水腫に於て吸収を催進するの効あり、脚氣の水腫を兼る者皮膚の神經痛等慢性胃腸風及び慢性下痢、慢性咽喉及び氣管支傷風、慢性膀胱傷風、慢性子宮傷風、膽管の慢性傷風、等なり、殊に其運行怠慢及び皮膚或は粘液膜の弛緩せしものには兼て此の泉を飲用して効果あり、上町に有名なる間歇泉あり海濱を距る三町、海面より高き事七十四尺、定期間歇泉にして俗に之れを大湯と稱す、一晝夜に二回規則正しく噴出す、其の噴出模様及び週期的のもの外國にも類例尠く我國に於ても今は熱海と、宮城縣の鬼首温泉とにあるのみ、此地附近一帯名勝舊蹟多く、横磯、和田磯、魚見崎、錦浦、念佛山、水口園、丸山梅園、來宮、目金山、上野山、櫻ヶ岡等著名のものにして殊に梅園の香花、錦浦魚見崎の舟遊、横磯の海水浴、上野山及目金山の眺眸、水口園の勝區等に至りては特筆すべきものなり、又交通至便にして熱海線開通以來東京より直通列車一日に九回往復し僅かに三時間半にして達するを得、一日の日歸り旅行にも好適の地たり、斯の如く熱海は温泉地としての特長を備へざるはなく眞に東海唯一の樂園と云ふべく浴客の四時股賑を極むるも豊偶然にあらざるなり、又町の中央に畏くも御用邸あり、



伊豆山温泉 横磯の高丘に陸軍衛戍病院あり其他諸官衙を始め銀行會社等あり旅館は四十餘戸あり、何れも整美を極め居れり、

伊豆山温泉 は熱海驛より十町、走湯と稱へ海岸に接せる山脚の空洞中、數ヶ所より湧出す、湧出量多く温度百四十四度あり、海面より數十尺の高地に數戸の温泉宿あり木篋を以て温泉

を引き浴槽に湛へるの外之れを湯瀧として浴者の患部を打たしむれば頗る効驗あり、頭痛、眩暈には尤も好なり、又前睡に三條の竹桶をかけたる湯瀧あり、海岸波打ちよする所なれば浴するに壯快なり、旅舎相模屋の千人風呂は遊泳自在にして浴槽偉大なり之れを伊豆山唯一の名物となす其他僭樂園、古谷、伊豆

松原方面に山田屋、榎屋、東京館、湯本館、元猪戸、新山田、旭屋、大東館、松川館、東龍館等、玖須美方面に伊東館、大阪屋、松林館、辰太、暖香園、櫻屋、村上旅館、伊東ホテル等主なるものなり、交通としては東京より熱海線あり熱海より更に自動車或は汽船の便あり、最近伊東温泉組合の企劃にて熱海及び小田原より飛行艇の便あり僅に三十分にして到着を得べく、又東海道線三島及沼津驛より駿豆鐵道にて修善寺驛下車更に自

格魯兒加兒與母	〇、二九八	格魯兒加兒與母	〇、〇四一〇
格魯兒加兒與母	〇、〇八四三	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、三九五	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇〇七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二



温度百四十四度あり、海面より數十尺の高地に数戸の温泉宿あり木笥を以て温泉

を引き浴槽に湛へるの外之れを湯瀧として浴者の患部を打たしむれば頗る効驗あり、頭痛、眩暈には尤も好なり、又前庭に三條の竹樋をかけたる湯瀧あり、海岸波打ちよする所なれば浴するに壯快なり、旅舎相模屋の千人風呂は遊泳自在にして浴槽偉大なり之れを伊豆山唯一の名物となす其他借樂園、古谷、伊豆

屋中田屋等の旅舎あり、泉質鹽類泉にして無色透明微酸を帶ぶ其反應は酸性なり、主治効用は頭痛、肩背痛、眩暈、癩癩、皮膚、四肢麻痺等の諸病に適し殊に神經衰弱に奇効あり附近の名勝は古々井森、千人風呂遊園地、伊豆山神社、走湯山磐若院、稻村等著名なり。

### 伊豆伊東温泉

伊東は伊豆半島の東海岸に位し相模灣に面せる一勝區にして東京を去る三十六里、靜岡縣田方郡に屬する一都邑なり、西北南に山を負ひ東前面に蒼海を抱き三伏の暑季と雖も涼氣多く華氏八十五度を越えず、冬季後方の山峯にて朔風を避け最下四十五度を降らず、又降雨量東京と大差なく、風は春季西風多く夏季東南吹きて氣候の中和を補ふ、要するに伊東の氣候は四時を通じて人體に好適し眞に理想的避暑地と言ふべし、猶山を負ひ水に臨む伊東温泉の風光に至りては日本の温泉中比肩すべきものなく一度眼を東北に放てば三里の沖合に初島の青螺、波に浮びて淡く墨繪の如く、晴快の日水天彷彿の間に房總の諸山を望み雲煙模糊たる所、一抹の噴煙を吐く大島を瞰る事を得、若し夫れ白砂青松の間に歩を運ばんか金波銀浪、岸に碎けて玉と散り夕宵欄に倚れば白帆點綴する所、櫓聲波に和して哀愁の響を送り、旅情油然遊士の腸を絞るの趣きあり、伊東の起原に至りては往古は茫漠として不明なるも、中世源家勃興の前後に於て世に知られ、維新前迄は松原、湯川、岡、鎌田、新井、竹内、和田の七ヶ村を併て玖須美の庄、又は伊東の郷と稱せしが後合併して伊東村となり明治三十九年一月町制を施きて伊東町となり、伊豆は源家發祥の地にして源平盛衰の歴史に深く殊に伊東に居城を有せる伊東祐親と頼朝の關係は悲慘の歴史を語り、



伊豆伊東温泉

また復讐美談として傳はる曾我兄弟は此祐親の孫なり破門權現の法鼓をならした僧日蓮の流遇されし地も此處なり、伊東町の現在戸數凡三千百餘、人口約二萬、旅館は四十戸に近く二層三層の客館別館を有し一ヶ年の浴客十萬人を數ふ、伊東は到る處温泉湧き發掘されし新古とも五百ヶ所に及び其の内名高き由緒ある温泉は玖須美猪戸出來湯の三温泉なり、泉質は三湯大同少異にして鹽類泉温度百二十度なり、定量分析は

格魯兒加兒與母	〇、七六二八	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇四一〇
格魯兒加兒與母	〇、〇〇二八	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、二五五七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、一七五〇	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇九一七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇九一七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇九一七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇九一七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇九一七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二
格魯兒加兒與母	〇、〇〇九一七	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二二

にして痲瘋質斯、神經痛、神經衰弱、腦病、子宮病、生殖器諸病、胃腸病、脊髓病、慢性呼吸病、皮膚等に効用あり、旅館は

神奈川縣埼玉縣

### 埼玉縣

#### 沿革

關東平野の西部を占め其の西北に秩父連山を受け南に大東京を控へ、豊饒なる緑野、東と北とに連々として萬頃の田園盡きず、條々として幾線條の河川流る、埼玉縣は和名抄に知々夫と註する古の秩父國にして、牟那志と相接して別に一國を爲せし處その國造本記に「知々夫國造瑞籬朝(崇神天皇)御世八意思兼命十世の孫知々夫彦命拜詞大神」とあり、之に依れば兄多毛比命始めて牟那志の國造に任ぜらるゝに先だつこと數百年前、既に國造を置かれ皇化稜威の曙光を早くも此地方に放ち開拓の緒に就きたるを推知するに足る、降て景行天皇の御代日本武尊御東征の際知々夫を御通過遊ばされ、山川の風光を御賞讃ありしと傳ふ、彼の武甲山は尊の「武具甲冑納藏の山」の謂にして其他由緒明かなる史蹟數多く、又續日本記に「武藏國献和銅」とあり是れ本邦銅産の淵源にして慶雲五年なりしかば年號を和銅と改元し、亞いで貨幣を鑄す、之れ我國に於ける貨幣の濫觴にして和銅開鑄と稱す、承平間符に「武藏國秩父牧御馬貢之」とありて貢馬を奉りし牧場ありしことも窺はる、按ずるに現今國神村字野牧、下吉田村字上野原牧林等は其牧場たりしならんか、日本記に「村上天皇の御代天曆二年八月武藏國秩父御馬索進天徳元年八月御馬二十四匹仍天皇御仁壽殿」とあり牧場の別當には山田別當有重、齋藤別當實盛の如き土豪を以つて任ぜられ、又東國の壯丁は忠實勇武にして事に耐ゆるを以つて稱徳天皇より特に召されて劍を賜はり策士として官廷の警護に當る等雲深き神代の頃より由緒ある史蹟を有する靈境とも云ふべき地にして、關東に其の名の冠たる蓋し此處に存する所以にあらざるか明治四年廢藩置縣の實定るや浦和町に縣廳を置き一市九郡を管轄區域として現今に至る。

#### 地勢

關東平野の西部に位し東は江戸川、渡良瀬川及權現堂川を隔て茨城、千葉の二縣に對し、西は秩父山脈によりて山梨、長野兩縣と接し、南部一帯は東京府と土地相錯し、北は利根、神流渡良瀬の諸川を挾んで群馬、栃木の兩縣に境す。東徑百三十九度五十四分に起り北緯三十六度十七分に了る。廣袤東西二十四里、南北十三里、面積二百四十六方里餘にして



一市九郡を管し、四十四町三百二十八ヶ村を包含せり。  
 地勢縣下の西部は峰巒重疊の秩父山系にして高山峻峰天際に屹立し、澗谷深く古木老樹險崖に密生して深水淙々として奔流せり。東部は所謂武蔵野平原にして田圃遠く展けて沃野茫茫たり。河川の重なるものに荒川、利根川、神流川、入間川、權現堂川、元荒川、中川等あり。皆舟楫の便甚だ大なり。荒川は東京市を貫流する隅田川の上流にして其水源を甲武信嶽に發し隨所に奔流碧潭の勝景を作り、幾多の支流を合して東京府に入る、利根川は群馬より來り鬼石の勝に名高き神流川を納れ本縣の境界を過ぎ其間渡良瀬川を合し、後一は權現堂川を岐ちて中川となり東京府に入り、本流は溶々八州の野を流れて千葉縣に入れり。入間川は荒川の支流にして上流を名栗川と稱し水清く舟楫の便を有し鮎魚を以て名有り。秩父一帯及び荒川沿岸の地質は天然地質教室の稱を有せる學界の珍寶とする所其地形を見るに東部に始り原代の結晶片岩系及秩父古生代下部御荷鉾系、南北西の三方は、標式的に發達せる秩父古生代より成り中央に秩父盆地と稱する新生代を圍繞し、西部中央三田川村田の頭より中生代の縦谷帶狀を成して長野縣日向に向て走る地溝帶の在るあり。而も盆地内荒川、赤平川、横瀬川の沿岸よりは、種々なる貝類、巨獸の骨、鮫の牙などの化石を出し三田川村河原澤附近には「トリゴニヤ」の化石を出す等、原始代より新生代に至る地層を網羅せり。

●山岳 本縣の西部は所謂秩父山塊にして雲厚く霧深く鬱蒼たる處女林は天を摩し人跡未踏の境地多く、山岳連亘して蜿蜒巨濤の寄するが如く實に本邦屈指の神秘境たり。山岳は概ね二千米内外にして主なるもの左の如し

- 甲武信嶽 二、四六八
- 不破山 二、三二七
- 牛王院山 二、一〇九
- 雁坂峠 二、〇八二
- 十文字峠 二、〇七一
- 大洞山 二、〇六八
- 白石山 二、〇三六
- 雲探山 二、〇一七
- 白岩山 一、九二一
- 妙法嶽 一、三三二
- 武甲山 一、三三六
- 長野、山梨、埼玉、三縣に跨る
- 山梨、埼玉兩縣の境界に聳立す
- 山梨、埼玉二縣の境界をなす
- 山梨、埼玉二縣の境界にあり
- 長野、埼玉兩縣に跨る
- 山梨、埼玉二縣の國境に在り
- 秩父郡の西南部大瀧村にあり
- 山梨、東京、埼玉三府縣に跨る
- 東京、埼玉の二府縣に跨る
- 秩父郡の西南部大瀧村にあり
- 秩父郡の東南部横瀬村にあり

●氣象

氣候は全國氣象區域の第五區に屬し、縣下を二分して平原部と山岳部とに分つ、即ち秩父郡を山岳部として以下北足立、入間、比企、兒玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾の八郡を平原部とす、而して平原部の南東部は氣候溫和なれども稍や大陸的氣候を免れず雨量少く空氣乾燥し冬季より春季に互りては地方固有の風多く好天氣持續して大雪を見ること稀なり、西方山岳部は千米突以上の峻峰屹立し雲霧の去來多きを以つて雨雪尠なからず、氣溫高低の差亦甚し、暴風雨襲來期の八九月の頃は天候不穩の患ひ尠く晴天多きを以て野外の勞役に好適す。氣溫は東部に高く西部山岳地方に低し熊谷に於ける平均氣溫は十三度一にして川越市に於ける平均溫度は華氏九十二度三分を示し、深谷町の最高溫度華氏九十五度最低三十四度五分にして之を東京地方に比すれば、尙六度の低溫なるも之を同緯度又南

の長野縣南部、山梨縣等に比較して遙かに溫暖なり風は冬季より春季にありては北西の風烈しく毎秒二十米を越ゆること往々にして且つ數日に互ること珍らしからず、ホイン風と稱する風の種類に屬し比較的温かにして乾燥せり、通俗に所謂上毛の空風之なり、降雨は冬季に少なく夏季に多く其の深厚なる低氣壓の通過は秩父山地に猛雨を齎らし河川氾濫の患屢々なり、殊に初夏の候は甲信地方より秩父山地に屢々雷雨性の小低氣壓を生じ平原地方に落雷頻繁にして往々降雹を見ることあるの外概ね平和なり。

●土地

本縣の土地は總反別三十一萬四千八百九十二町步餘にして内譯左の如し。

- 御料地 一、一七
- 官有地 四四、四三八・五
- 民有地 二七〇、四四二・四
- 計 三二四、八九二・六
- 田 六七、八九〇・五
- 畑 九八、〇七一・六
- 如地 一六、〇一七・二
- 宅地 七〇、七一四・七
- 山林 八、六八二・〇
- 池沼雜種地 四五六・〇
- 計 二六一、八三二・〇

民有地は更に有租地二十六萬一千八百三十二町步と免租年期地七千八百七十九町五及び免租地七百三十町九に分たる、有租地の細別を擧ぐれば。

●戸口

大正十四年度國勢調査に依る本縣人口は百三十九萬四千四百五十八人にして、世帯數二十五萬三千二百六十六にして一方里五千六百五十五人の割合なり。大正九年國勢調査の當時百三十一萬九千五百三十三人に比し七萬四千九百二十五人の増加なり大正十三年度の推計人口細別と國勢調査の結果を比較對照すれば左の如し。

郡名	男	女	計
川越市	一三、九〇〇	一四、三〇〇	二八、二〇〇
北足立	一三七、四〇〇	一四一、五〇〇	二七八、九〇〇
入間	一一〇、七〇〇	一一五、六〇〇	二二六、三〇〇
比企	四七、四〇〇	五〇、三〇〇	九七、七〇〇
秩父	五三、二〇〇	五四、七〇〇	一〇七、九〇〇
兒玉	三七、二〇〇	四二、九〇〇	八〇、一〇〇
大里	八〇、四〇〇	九〇、一〇〇	一七〇、五〇〇
北埼玉	七六、五〇〇	八〇、七〇〇	一五七、二〇〇
南埼玉	六七、九〇〇	七〇、六〇〇	一三八、五〇〇
北葛飾	四二、九〇〇	四六、一〇〇	八九、〇〇〇
合計	六六七、五〇〇	七〇六、八〇〇	一、三七四、三〇〇
第一回國勢調査結果	男 一五、七二九	女 一六、一七五	計 三一、九〇四
川越市	六八二、〇八二	七一二、三七六一	一、三九四、四五八

●交通及通信

古來中仙道の要路に衝り交通早くより四通發達し荒川利根川



氣候を免れず雨量少く空氣乾燥し冬季より春季に互りては地方

固有の風多く好天氣持續して大雪を見ること稀なり、西方山岳部は千米突以上の峻峰屹立し雲霧の去來多きを以つて雨雪尠なからず、氣溫高低の差亦甚し、暴風雨襲來期の八九月の頃は天候不穩の患ひ尠く晴天多きを以て野外の勞役に好適す。  
 氣溫は東部に高く西部山岳地方に低し熊谷に於ける平均氣溫は十三度一にして川越市に於ける平均氣溫は華氏九十二度三分を示し、深谷町の最高溫度華氏九十五度最低三十四度にして之を東京地方に比すれば、尙六度の低溫なるも之を同緯度又南



秩 父 三 峯 神 社

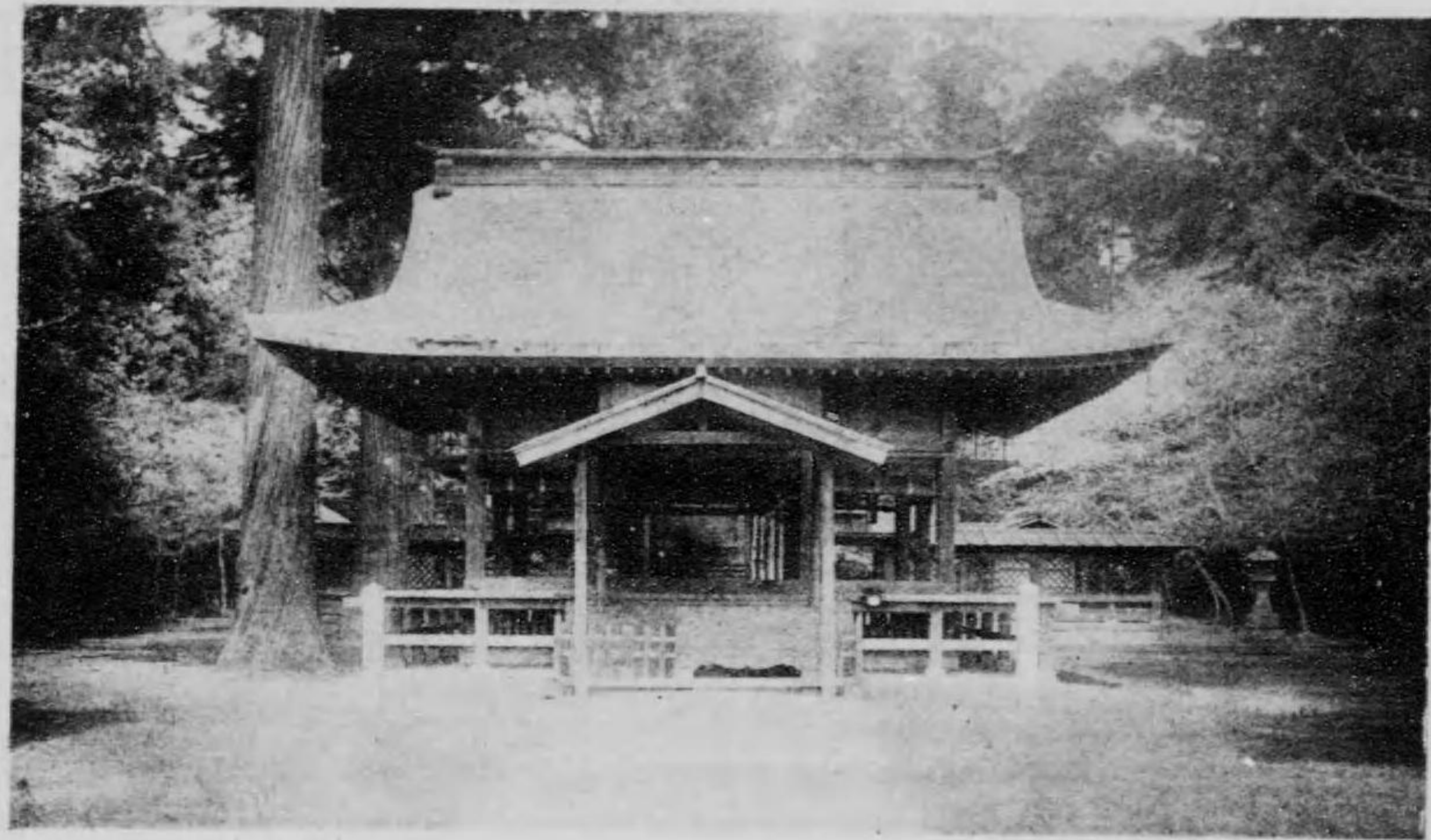
南	北	合	第一回國	川	總
葛	葛	計	調	越	數
玉	飾		査	市	
			果		
六七、九〇〇	四二、九〇〇	六六七、五〇〇	男	一五、七二九	六八二、〇八二
七〇、六〇〇	四六、一〇〇	七〇六、八〇〇	女	一六、一七五	七一二、三七六一
一三八、五〇〇	八九、〇〇〇	一、三七四、三〇〇	計	三一、九〇四	三九四、四五八

交通及通信

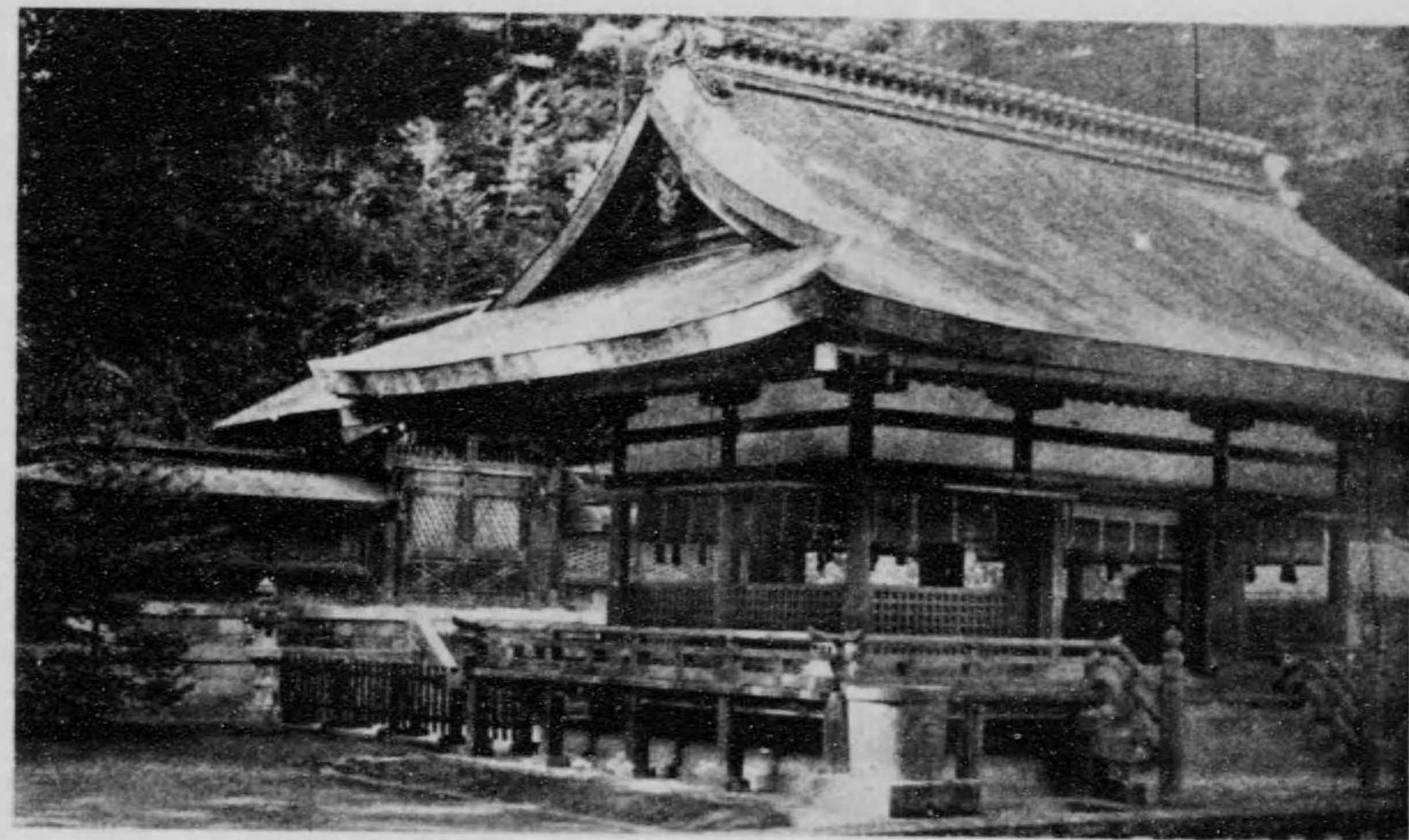
古來中仙道の要路に衝り交通早くより四通發達し荒川利根川



松山町縣社弓箭神社



社神川氷社大幣官



社神鑽金社中幣官



社神調社縣町和浦



穴百ノ見吉町山松





尊動不同ケ動不



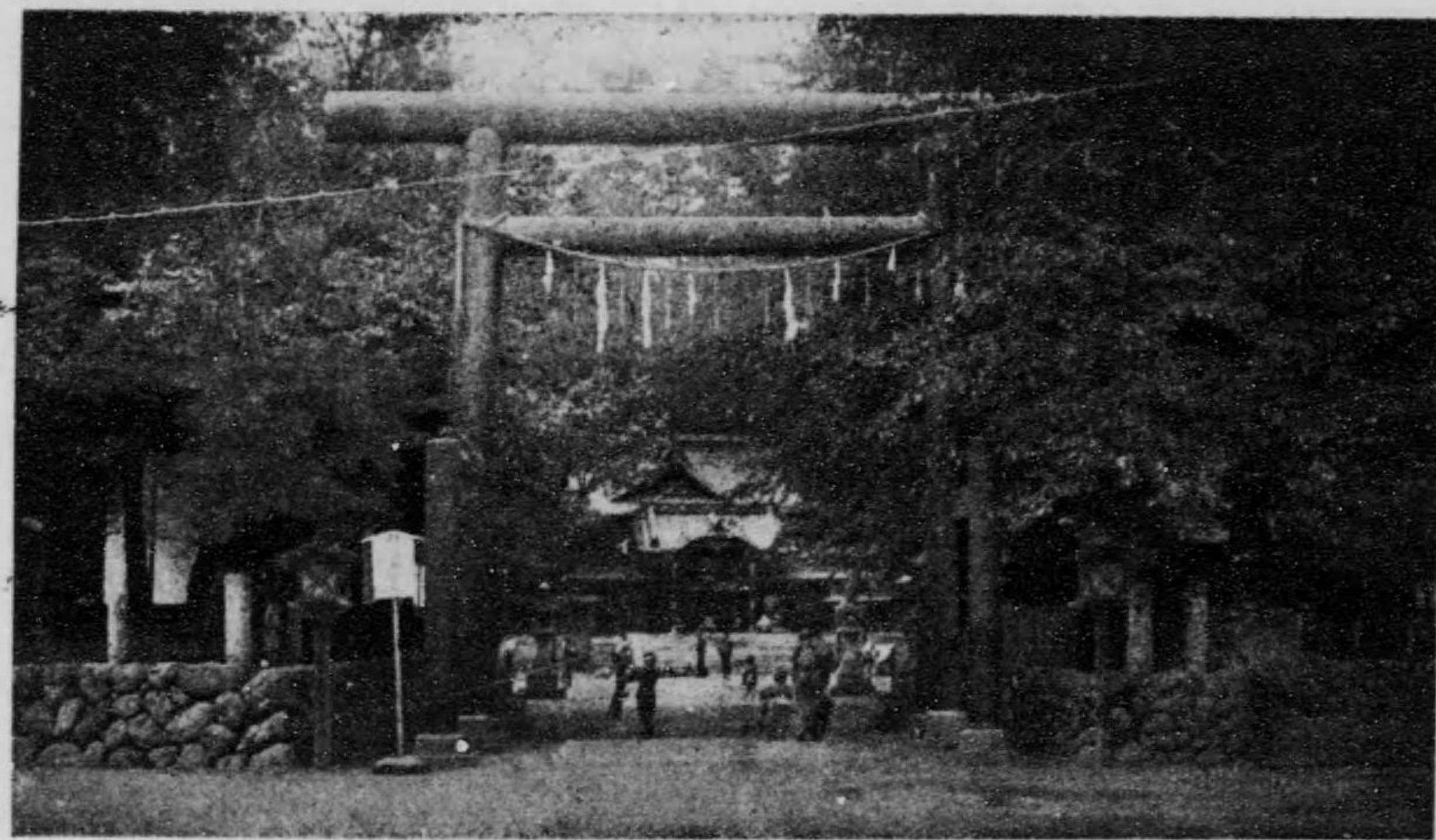
ム望ヲ町能飯リヨ山覽天



社神敷玉社縣町西騎



所務事合組業同物織澤所



秩父町縣社秩父神社



秩父長瀨ノ奇勝

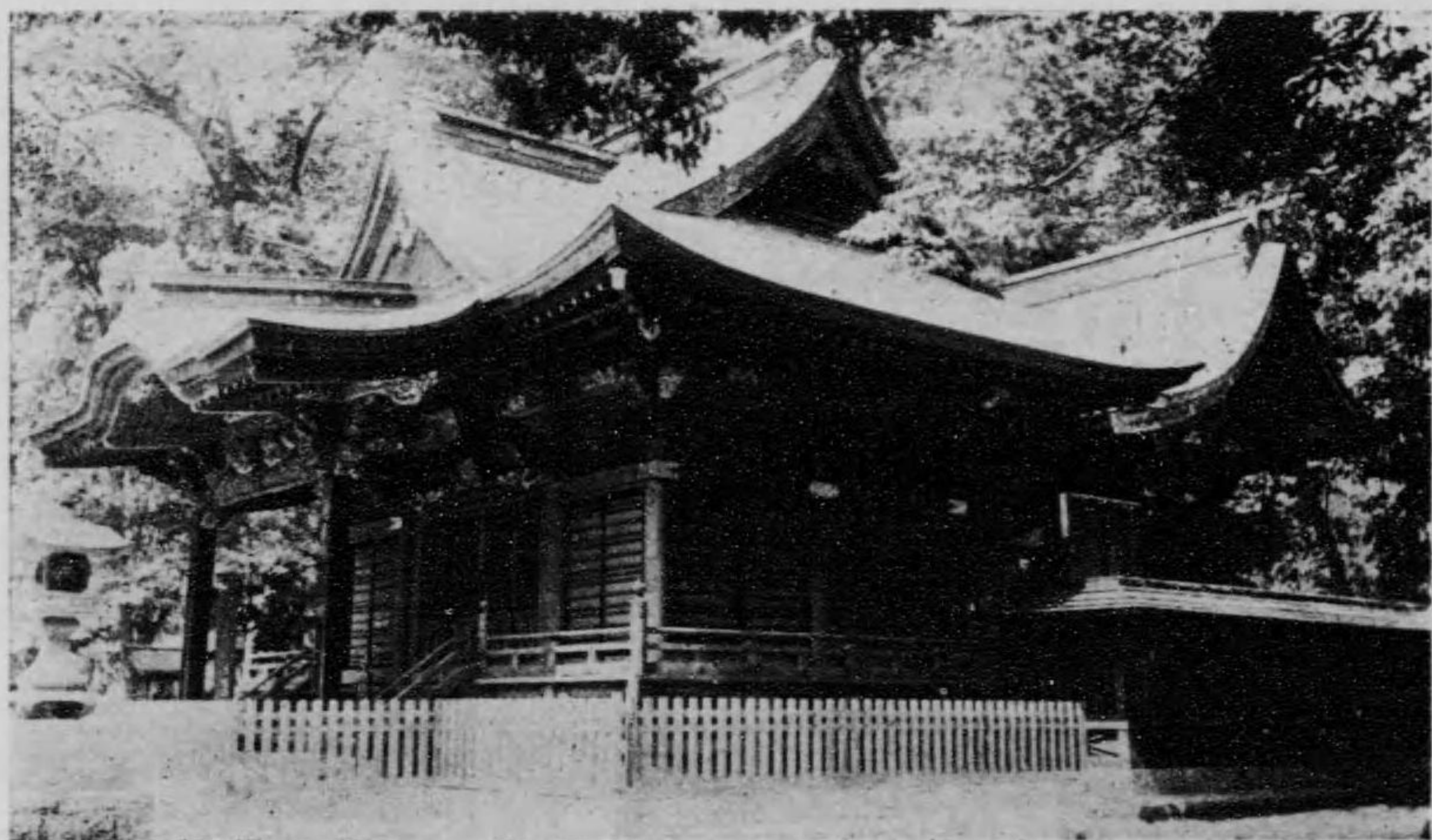


秩父町ノ全景



本庄町縣社金銀神社鳥居前

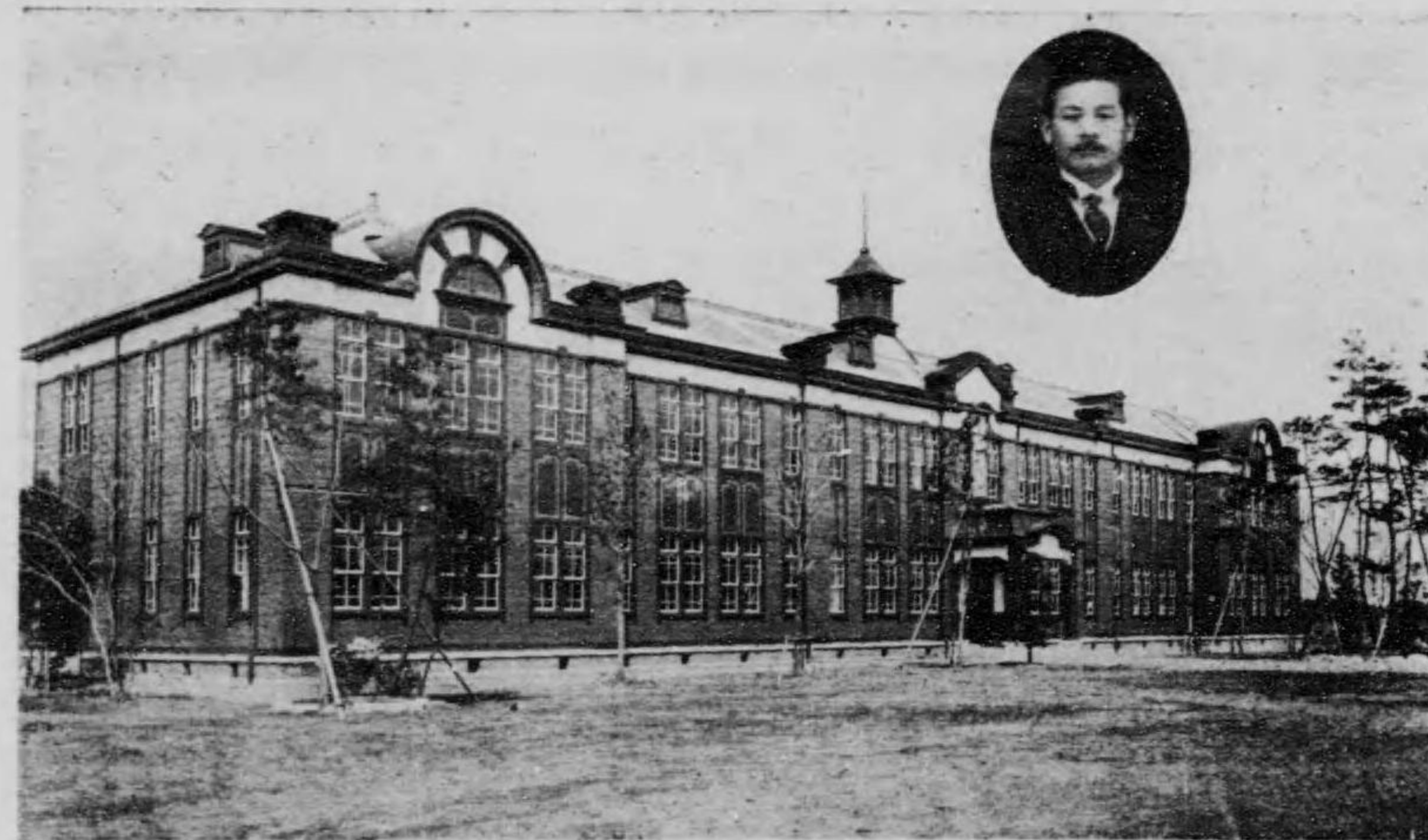




社神幡八社縣町玉兒



花櫻ノ堤谷熊



校學業商谷深立縣



校學業實社進競町玉兒

江戸川等皆舟運あり、明治年間に入りてより國有鐵道の敷設を

見續いて各所に地方鐵道の開通するありて今や本縣管内に於ける鐵道總哩數は三百哩に垂んとし尙出願中のものも多數に上り本縣交通網は殆ど完備の域に達せんとせり。

◆國有鐵道 本縣を通過するものに東北線あり、而して之を分ちて東北本線及び高崎線となる。

本線は東京上野を起點とし川口町を本縣に於ける最初の驛として縣内通過十七哩七分、蕨、浦和、與野を経て大宮に至る國鐵

◆鴻巣線 川越市に始まり鴻巣町に終る。

◆上尾線 上尾町を起點とし川越市に終る。

◆志木線 志木町に起り川越市に至る。

◆東京線 川越市に起り大和田町に終る。

◆所澤線 川越市に起り所澤に至る。

◆豊岡線 豊岡町に始まり川越市に終る。

◆越生線 川越市を起點とし越生町に至る。

◆秩父線 川越市を起點とし秩父町に至る。

◆坂戸線 坂戸町に始まり川越市に終る。



江戸川等皆舟運あり、明治年間に入りてより國有鐵道の敷設を見續いて各所に地方鐵道の開通するありて今や本縣管内に於ける鐵道總哩數は三百哩に垂んとし尙出願中のものも多數に上り本縣交通網は殆ど完備の域に達せんとせり。

●國有鐵道 本縣を通過するものに東北線あり、而して之を分ちて東北本線及び高崎線となる。

本線は東京上野を起點とし川口町を本縣に於ける最初の驛として縣内通過十七哩七分、蕨、浦和、與野を経て大宮に至る國鐵は此處より高崎線を岐ち西武鐵道川越線とも連絡し蓮田に至り西武鐵道岩槻線と接続し久喜に至りて東武鐵道と交叉し更に北上して栗橋を最終として茨城縣に入る。

高崎線は本縣通過四十八哩七分にして大宮より分岐し上尾、桶川を過ぎ人形の産に名高き鴻巣を経て熊谷に至り秩父鐵道と連絡し、更に西北に進みて製絲に名を得たる深谷を経て本庄に至り本庄電氣軌道と接続し神保原を最終とし神流川を渡りて群馬縣下に入る、而して東北本線と高崎線を合して六六哩四分あり。

地方鐵道 電氣軌道及鐵道を合して二百哩を越ゆる盛況にあり。

●東武鐵道 縣内主要交通機關にして國有鐵道を挟み東西に併行する二線を有し縣内通過七十哩を越ゆ、東なるを東武鐵道の本線とも云ふべきものにして全線電化の計畫を有し現在越ヶ谷迄日々十數回電車の運轉を見つ、あり、東京淺草驛を起點として草加、大澤、粕壁、杉戸の縣内都邑を経て國有鐵道東北本線と久喜にて連絡し、羽生にて秩父鐵道と接続し川俣驛を本縣最終驛として利根川を越え群馬縣に入る、西方東上線は東京池袋を起點とし膝折、志木等を経て縣内第一の都會川越市にて西武鐵道と接続し百穴に名高き松山を過ぎ終點寄居にて秩父鐵道と合す。

●秩父鐵道 國有鐵道高崎線熊谷驛より一は東に走り羽生にて東武鐵道と合し他は西方荒川沿岸を縫ひ寄居にて東武鐵道東上線に連り愈々上流の山間部に分け入り幾多の勝景を窓外にして武甲山下の影森に達する延長三十八哩九分の電氣軌道なり、西北山間部唯一の交通機關たり。

●西部鐵道 東京府下國分寺より起り、所澤にて武藏野鐵道と交叉し入間川を経て東武鐵道東上線と川越にて連絡し、更に東に走りて大宮にて國有鐵道と接続する延長二十哩六分の電氣軌道にして南部地方交通に便する甚だ大なり、尙外に國鐵東北本線蓮田より岩槻に至る四哩餘の鐵道を有す。

●武藏野鐵道 東京池袋を起點とし陸軍飛行隊に名高き所澤町にて西武鐵道に連り飯能を以て終點とする電氣軌道にして縣内通過十三哩二分なり。

●本庄電氣軌道 國有鐵道高崎線本庄驛より兒玉町に至る四哩四分の電氣鐵道なり。

●道路 國道延長三十一里縣道五百一里にして之を各道路別に列擧すれば左の如し

- 川越線 大宮町を経て浦和町に至る
- 松山線 松山町に起り川越に至る。

埼玉縣

- 鴻巣線 川越市に始まり鴻巣町に終る。
- 上尾線 上尾町を起點とし川越市に終る。
- 志木線 志木町に起り川越市に至る。
- 東京線 川越市に起り大和田町に終る。
- 所澤線 川越市に起り所澤に至る。
- 豊岡線 豊岡町に始まり川越市に終る。
- 越生線 川越市を起點とし越生町に至る。
- 秩父線 川越市を起點とし秩父町に至る。
- 坂戸線 坂戸町に始まり川越市に終る。
- 兒玉線 川越市を起點とし兒玉町につく。
- 新河岸線 川越市に起り新河岸に至る。
- 國道 東京千住町を起點とせる國道は東武鐵道に沿ひ北上して茨城縣下の古河町に至る其の一つは東京板橋に起り東武本線高崎線と相並び東上して群馬縣下の新町に至る延長合して三十一里に及ぶ。
- 郵便 東京逓信局の管下に屬し二等郵便局二、三等郵便局八四、電信取扱局一三、電話取扱所五にして電話加入者四千四百五十七口にして郵便切手賣捌所千四百一ヶ所にして郵便函の配備千三百九十四函に達し通信事務は山間避地に至るまで不自由を感ずることなし

◆産 業

縣の西部山岳地方よりは夥しき林産物を産し東南一帯の地は田畑開けて農工産に富み、縣内年々の總生産額四億に達す、その産物の主要なるものは米、麥、織物、生絲、繭、足袋、鑄物酒、甘藷、茶等にして機業は西北部之が主産地を爲す、大正十二年度に於ける生産高を類別して擧ぐれば次の如し

農 産 物	一、二〇、五三七、七六〇	礦 産 物	四五八、八一六
畜 産 物	五、九三五、五七七	水 産 物	二五九、〇五三
林 産 物	六、五〇八、七八七	工 産 物	一七六、〇三八、一一四

因に五年前の大正七年度は二四八、六一五、四九六圓なり

●農業 秩父山塊地方を除けば一望際涯なき所謂武藏沃野土壤豊饒にして各種農作物の栽培に適し一部浸洪地以外は農耕地として米麥、大豆、甘藷等年額一億八千萬圓を産す、耕地面積水田六萬七千五百三十五町六段歩、畑九萬七千六百六十二町九段歩合計面積十六萬四千六百九十八町五段歩にして農家戸數六十一萬千七百二十八人一戸當耕地段別九段九畝歩内外に相當す。

●米穀 縣内農産物中の首位を占め産額百十八萬石價格六千五百萬圓に達す、作付段別は水稻六萬七千四百八十四町、陸稻八千六百九十町内外にして平年收穫水稻百八萬九千六百四十七石陸稻九萬四千九百八十六石にして、逐年増加の氣運に向ひつ、あり、縣、郡農會に於ては品種の雜駁による收量並に品質上の不利、引ひては商取引に及ぼす不利益を除去すべく大正十二年以來縣設採種園を設置し優良なる縣原種の播種普及に努めつ、あり、その結果最近品種も稍や統一せられて着々改善の機運に向ひつ、あり。

●麥 平年作付七萬四千五百七十二町收穫高百三十九萬三千五百九十石にして段當平均收量一石八斗七升に當り、比較的他府縣に比し進歩の道程を示し居れり、品種比較的統一せられ雜駁



七八十種を出でざるべく而して農家の熱心なる麥作は今や米作を凌駕せんとするの状態にありて前途頗る有望なり。

甘藷 古來著名なる産物にして川越芋の名天下に普く年産額入間郡を通じて千三百萬貫價格二百餘萬圓の巨額に達し、内四百萬貫は川越市に於て集散し他は主として東京方面に輸出せらる、品種は紅赤種の選出にして其美味は更らに一段の聲價を高めつゝあり、最近は貯藏法の研鑽なりて絶へず需要に應ずるを得るに至る、縣當局に於てはより一段の向上を計るべく採種園を設置し熱心指導しつゝあり。

製茶 は主として入間郡狭山に産す、明治初年の製茶貿易の進展に伴ひ頓に發達せるものにして現在面積各郡を通じて八百六十八町八段歩に達し年産額二七〇、五三一價格六八七、一三九圓に上る、中頃一時弛廢して荆棘の間に遺棄し去らるゝもの多かりしが近時需要増進に伴ひ漸次勃興して、其の栽培法施肥等に付き研究の爲め他府縣に出遊するもの或ひは又茶業組合、講習會等を興して大に改良發展を劃策しつゝあり。

耕地整理 食糧自給問題講究の秋に際し耕地の整理擴張改善は將に時代の要求として又順應と謂ふべく各々其緊要なるを認む、縣下に於ける本事業の濫觴は明治三十四年にして以來年を趁ふて勃興し河川の改修、農業水利の改良と相俟つて所期の効果を擧げん事に努め居れり、左に其の成績を示せば、耕地整理施行組合設立認可地區數一二七、面積二萬二千二百八十九町歩全國第十位にして工事完了地區數一〇五此の面積一萬七千七百五十五町歩全國第三位にして換地處分認可地區數九二、面積一萬五千四百町歩全國第四位にあり同終了地區數四三、面積二千七百三十一町歩全國第九位にありて、既成事業の左記三ヶ組合は特に縣下の優良組合として其他之を範として相並べて起り遂に今日の成績を見るに至れり、左に組合の概略を記録して一斑を示さんに、入間郡山田村の全村を區域とせる入間郡山田村耕地整理組合は位置川越市の西北に位し南田面澤に東は川越市に接し西北は入間川を隔て、比企郡伊草村に隣る平坦なる地勢にして古來優良米の主産地たりしが、灌漑排水路の劃然たる設備なく土壤の乾燥交通路の不完全とは相俟つて耕耨に不利少なからざりしが、整理法は區劃井然として灌漑排水意の如く道路の四通は耕耘に運搬に便利に、而かも濕田變して乾田となり二毛作行はれ爲めに土壤常に新陳代謝作用を起しエンゲルの土地遞減の法則を如實に現はし、收益累次増加し復昔日の比に非らざるを認む、施行發起明治四十一年三月七日にして終了大正六年四月二十六日總面積四百八十六町八段九畝二十二歩工事費二萬九千九百二十五圓を計上せり、現在組合員數六百六十六人を有せり。

蠶業と桑園 本縣の蠶業起源は極めて遠く紀元五百七十年崇神天皇の御宇既に多少養蠶のことは行はれたるもの、如く、其の高麗人の歸化して入間郡地方に入るに及び頓に發達せしかと徳川氏の末世に至り一度禁絹令の發布に遭ひ衰退したりと雖も幾何ならずして安政年間に及び對外貿易の端緒開けてより生絲輸出品の等位を占むるに至り古き歴史と長き經驗とに胚胎せられたる本縣蠶業は旭日昇天の勢を以つて發達し遂に現今の隆盛

を臻せり、大正九年の統計を稽ふるに桑園二萬六千六百五十町三段養蠶戸數十萬三千三百八十四掃立枚數四十三萬二千八百九枚繭石數三十一萬五千五百六十三蠶種製造額框製四千百萬一千七百四十四蛾平付七十七を算し縣下重要物産の班に列し之れが盛衰は縣勢の消長に至大の關係を有するに至れり、現在桑園段別二六、六五〇、三にして指數二五五にて春夏秋蠶の段別及び其割合は春蠶の二三九〇、〇夏秋蠶專用二、六六〇、三にして春蠶用全國の九〇%を占め夏秋蠶一〇%に當り兒玉、北足立、入間の三部最も重要位置を占め居れり、養蠶は其始め西北部即ち秩父山塊を始め兒玉、比企、入間の山間部より漸次平原地帯へ推移し安政年間開港以來生絲の需要増加し、且つ其價格次第に騰貴し斯業の經營著しく有利となり比年顯著なる發達を見るに至れり現在養蠶戸數一〇三、三八四掃立枚數四三二、八〇九、收繭額三一五、五六三石に達し飼育方法の如きも明治初年の頃までは専ら天然育なりしが其後温暖育折衷育等行はれたるが、近時勞銀の昂騰は斯業の經營に少からざる困難を來たし爲めに生産費節減を主せる經濟育俄かに増加の傾向を呈し來れり、大正九年度に於ける飼育戸數及び其の割合は對桑育七五、〇五四、七九%七七にして全芽育二、六〇九、二%七七、全芽育三、七一〇、三%九四にて條桑育は一、二、七一八、一三%五二合計九四、〇九一にして一〇〇%に當る、又夏秋蠶の起源は明治五年にして之れ本邦に於ける秋蠶の鼻祖なるべし爾後秋蠶の發達年と共に著しく、今や其收繭額は春蠶の累を摩せんとするに至れり大正九年度に於ける收繭額は春蠶一七四、三二一にて夏蠶は四、九三三、秋蠶一三六、三〇九にして其の割合は春蠶五五%二四に當り夏蠶一%五六、秋蠶の四二%二〇を示せり。

山林業 本縣に於ける林野面積は縣下地積の約半を占む、往古の制度は記録の釋するものなく之を審かにする能はずと雖も徳川時代に及び幕政稍や整ひて見るべきもの尠からず、當時に於ける林野の保全は郡奉行之を司どり造林及山林維持に大いに力を至せり、中頃拓殖熱の爲めに林政大いに弛廢し濫伐の弊風に陥入りしが明治昭代に及び諸制度大に整ひ久しく荒廢に任せし林政も茲に再び規矩なりて以つて現今に及べり、抑も林野と治水とは常に唇齒補車の關係にありて其の荒廢は本縣下の如き大河の流域區域にあつては直接に農工業に大なる影響を與ふるや論を俟たずされば有志相謀りて一大團體を作り林業の改善發達に適切な事業を設け林産物の豊富と治水の兩果とを收めんとし孜孜として之れが經營に盡粹しつゝあり。

山林會の事業は林業の改良發達を圖り其の利益を増進するを目的とし  
一、林業に關する各般の調査研究試驗及實施指導をなすこと  
二、林業に關する各般の調査設計、鑑定及照會等の依頼に應じ又は林業上の質疑に應答すること  
三、林業に關し官廳に意見を開申し又は諮問に應答すること  
四、林業に關する講習講話會共進會又は品評會を開催すること  
五、林業に關する圖書標本器具機械其他の參考資料を蒐集陳列し斯業の參考に供すること  
六、苗圃事業を經營し優良樹苗の配付を爲すこと

- 七、林産物の販路擴張並斡旋をなすこと
  - 八、林業に關する有益なる印刷物及毎年一回以上會報を發刊すること
  - 九、斯業に關する功勞顯著なるものを表彰すること
  - 十、其他林業に關し必要と認むる事項
- 次に大正九年施行したる林野調査の結果に依れば林野總面積十四萬六千九百五町歩にして國有民野の内譯左の如し

用材	薪炭	材	價格
數量	數量	數量	價格
二七、三〇五	二、七三四、七六七	二四、五三二	一、〇九七、四六九
價格	價格	價格	合計
二、七三四、七六七	二、四五五、六二六	三、八七、三五六	

林産物 大正八年度に於ける縣下林産物の總價格は五百七十萬圓にして以來年々増加の傾向を示し居れり、同年の統計を調査すれば用材二八二、七一五石價格二、四五五、六二六圓、竹材

崇神天皇の御宇既に多少養蠶のことは行はれたるもの、如く、其の高麗人の歸化して入間郡地方に入るに及び頓に發達せしかと徳川氏の末世に至り一度禁絹令の發布に遭ひ衰退したりと雖も幾何ならずして安政年間に及び對外貿易の端緒開けてより生絲輸出品の等位を占むるに至り古き歴史と長き經驗とに胚胎せられたる本縣蠶業は旭日昇天の勢を以つて發達し遂に現今の隆盛

又は林業上の實績に應答すること  
三、林業に關し官廳に意見を開申し又は諮問に應答すること  
四、林業に關する講習講話會共進會又は品評會を開催すること  
五、林業に關する圖書標本器具機械其他の參考資料を蒐集陳列し斯業の參考に供すること  
六、苗圃事業を經營し優良樹苗の配付を爲すこと

- 七、林産物の販路擴張並斡旋をなすこと
  - 八、林業に關する有益なる印刷物及毎年一回以上會報を發刊すること
  - 九、斯業に關する功勞顯著なるものを表彰すること
  - 十、其他林業に關し必要と認むる事項
- 次に大正九年施行したる林野調査の結果に依れば林野總面積十四萬六千九百五町歩にして國有民野の内譯左の如し

種別	面積	種別	面積
國有林	一七、三四二町	私有林	一、二〇、九一七町
公有林	六、〇九五町	計	一、四六、九〇五町
社寺有林	二、五五一町		

因に土地總段別を見れば御料地一一、七町、官有地四四、四三八町五にて民有地は二七〇、四四二町四にして有租地は即ち水田の六七、八九〇町五、畑九八、〇七一町六、宅地の一六、〇一七町二、山林七〇、七二四町七、原野八、六八二町、池沼雜種地四五六町合計二六一、八三二町にして當縣下の一段歩宛平均地價は水田四二圓八六、畑一二圓三九宅地九八圓五八、山林一、一一原野の〇、五二其他〇、六一なりとす。

●森林の狀況 縣下の西方秩父盆地を除く一帯の地は地勢平坦にして丘陵林及平地林其の大部分を占め、天然林は荒川水源地の上方秩父地方に蒼々たる原生林を劃き、扁柏、樅、梅、唐檜、胡桃、藍地、桂、榲、栗、檜、椴等の有用材繁茂す、人工林は山岳林の一部丘陵林及び平地林に多く主として杉、扁柏、赤松、檜等を栽植す、入間郡名栗村、吾野村地方は杉扁柏の造林に於て最も古き歴史を有し、其施設方法完備し且つ蓄積豊富にして當に本縣の林業を代表するのみならず關東に於ける吉野として推賞せらる、而して縣下の林産物の大部分は入間川荒川を利用して筏流に依りて東京市場に輸出せらる。

●御料林 是概して開墾地及び秣草地帯大體を占め森林として特筆すべきものなし。

●國有林 是全林野面積の約一割に相當し之を民有林に比し面積甚だ狹隘なりと雖も秩父地方千古不滅の天然林の大部分を占め從て豊富なる蓄積を有す。

●民有林 是其面積一二〇、九一七町にして全面積の九割七歩を占め全縣下に亘るに雖も新舊過度期の林地弛廢に際し過伐に陥りし結果蓄積は稍や反比例の數を示せる傾向あり、然れとも最近大いに覺醒する處ありて苗樹の栽植嚴重なる過伐取締に依つて年々増加復舊の趨勢にあり、加ふるに最近森林の經營は大規模を利とし森林組合なるものを組織し相互救済を爲す事とせり組合人員六千二百七十八名に達し地區面積臺帳千三百四十町六段四畝二十二歩に及べり、而して本組合の主なる目的事業は造林、盜難火災の二様に大別し造林部を施業組合と名稱し専ら造林立木竹産物の處分森林保護、經營等を主宰とし、後者は保護組合と命名し盜難火災の防禦、病害蟲の驅除豫防等を管掌すること、し優良なる實績を擧げつゝあり、

●伐採の狀況 交通機關の發達と諸種工業の勃興とは勢ひ過伐の惡弊を促し年々の過伐採量を確かむる能はざるも統計に表はれし伐採量を摘記すれば左の如し

數量	價格	數量	價格	價格	
				合計	平均
二七、三〇五	二、七四七、六七	一、四一五、三三	一、九三六、六九	三、八七三、五六	

●林産物 大正八年度に於ける縣下林産物の總價格は五百七十七萬圓にして以來年々増加の傾向を示し居れり、同年の統計を調査すれば用材二八二、七一五石價格二、四五五、六二六圓、竹材の數量六四、六六八束價格一、〇一八五六圓、薪材の數量一三七、六八二束價格一、〇九八、九六七圓にして木炭の數量四、八四五、四九〇貫價格一、六六七、九六二圓其他の産物四一四、九七一圓に達し居れり。

●造林の狀況 本縣下に於ける優良森林地帯は秩父、入間、比企、大里、兒玉の諸郡に存するを以つて縣當局に於ても此の地方に對しては一段の指導獎勵を行ひ更らに副業の發展を計る等銳意力を致す所ありしを以つて近時著しき發達を見るに至れり曩に秩父郡大瀧村地方に東京帝國大學農學部の演習林設置せられて一般林業の範を垂れ又縣は大正九年林野の基本調査を行ひ民林改良の基礎を確立し、更らに大正十年埼玉縣山林會設立せられて林業の改良發達に努めつゝあり、されば往年凶荒なりし原野も次第に苗樹移植せられて人工林の面積逐年増進しつゝあり、本縣林業の將來は甚だ囑望に價するものあり。

●畜産業 本縣の畜産業は家禽及豚に於て見るべきものありと雖も其他は尙發展の餘地少なしとせず、累年の比較と現況とを生産飼育と屠殺兩方面より推理して逐年漸次發達の趨勢にあるを窺ひ知らる大正九年度に於ける飼育生産頭數は畜牛三、五三四頭にして生産數五五九頭、馬匹の二〇、七三〇頭に生産數八三〇、豚の一七、一〇三頭生産數一六、六一八四山羊の四〇一頭生産數の一頭にして年々の屠殺頭數は九年度に於て之を檢するに牛一、三二三、馬四九一、豚一〇、七七六にて之を大正元年に比すれば二倍強の増加を示し居れり、畜牛は明治八九年頃より搾乳業を始めたるも一般に牛乳の効果を知らるに至りたるは五六年以後の事にして其後飼育頭數逐年増加し明治四十年頃には既に六百頭に達したり、古來役用の家畜としては馬匹を使役し役牛飼養は明治四十二年頃に於て漸く始めたるものにして、縣の農業經濟の現象を察し中國地方より購入したる耕牛を各郡に寄託し、耕牛の利用は次第に普及し購入するもの多く殊に時局以來益々之が必要を自覺し種類は乳用牛にありてはホルスタイン及同種大部分を占め、又役牛は多く之を朝鮮より輸入せらる、馬匹は由來本縣一般に産馬の思想に乏しく秩父、兒玉兩郡の一部に僅かに蕃殖を圖る者あるの外は地方より幼駒を購入し五六歳に至れば更らに他へ轉賣するを風習とせり、故に兩三年間の購入數は三千頭内外なるも輸出頭數却て多數超過する一現象を見るに至る、養豚は明治廿一年縣に於て種豚十一頭を購入し入間郡其他に配布し、漸次普及して各郡へ配布するに至り四十二年本事業を縣農會に移管し四十四年迄は著しき發達を遂ぐるに至れり尙東京市場に於て有名なる玉川豚と稱して取引したるが其大部は本縣産なりし。

工業

製糸業 本縣製糸業の濫觴は安政年間海外輸出の途開けしに...

其後玉絲製絲は農家の副業として普く縣下に行はるゝに至りたるも工場經營者絶望の状況なりしが...

足袋 は北埼玉郡下の忍町附近一帶より産出せらるれども就中忍町最も熾盛を極め世に所謂行田足袋の稱ある所以にして口碑傳ふる處によれば起源は貞享の頃なりとか、其の頃二三の當業者ありて職工を使用する外、舊忍藩士の家族に賃職せしめたるに創まる、古來同地方一帶は草綿葉盛の栽培に好適し農家の副業として、青編白木綿の生産に従事するもの多く亦其産額も尠からざりしを以つて兩々相俟つて足袋の製造上多大の裨益を來たしたるものにして、當時の製品は甚粗悪なりしがやがて交通運輸の途開けるや專業者續出し且つ技工も大に進み遂に現今の名を爲すに至れり、最近に於ける年産額は四千萬足價格千九百萬圓に達する盛況にありて主なる輸出先は東京及東北諸縣滿州、支那、南洋なりとす



川口鑄物組合陳列所

製紙業 の起源に關しては記録の釋するものなく之を詳かにする能はざるも寛文の初年、小川町附近各村落の農民の副業として製出せられしに創まり以つて現今に及べるものゝ如し、産地は秩父山麓に添へる槻川、兜川、都幾川の諸川に沿へる一帶の村落諸町村にして就中小川町最も著はれ遂に取つて以つて製紙の小川と稱へるに至れり、紙質優良にして産額亦多し殊に明治三十四年製紙同業組合の設立後は講習、講話に實地指導等に依つて業界啓發せられ品質の改善と相俟つて生産力大いに昂り

織物業 縣下に於ける織物業は銘仙織界の巨星として全國に冠たる秩父織を始

年々の産額二百萬圓を超ゆるに至る、製品は小川町に集中して同町の手を経て東京市を始め神奈川、栃木、茨城、三重、愛知の諸縣へ輸出せられつゝありしが最近小川町製紙信用購買生産組合の設立成るや陸軍糧秣廠及砲兵工廠等を始めとして各地に新販路開拓せられ輸出益々擴張して繁多を極めつゝあり、製品の主なるものは手漉和紙にして美濃紙、西の内、障子紙、細川

相對峙して製品の優劣に雌雄を決せん意氣熾にして改良に改良を加へつゝあり、從て生産能力も増大し現下の年産三十萬圓を超え東京、群馬、長野を始め遠く海外にまで輸出するに至る。

年々の産額二百萬圓を超ゆるに至る、製品は小川町に集中して同町の手を経て東京市を始め神奈川、栃木、茨城、三重、愛知の諸縣へ輸出せられつゝありしが最近小川町製紙信用購買生産組合の設立成るや陸軍糧秣廠及砲兵工廠等を始めとして各地に新販路開拓せられ輸出益々擴張して繁多を極めつゝあり、製品の主なるものは手漉和紙にして美濃紙、西の内、障子紙、細川紙、横口紙、蠶卵臺紙、大和塵、折塵、與茂川、黒川文庫紙等にして強靱性を特徴とする紙類に屬するものに純楮皮を原料として澆造する所謂生漉紙に細川紙最も著はる、本紙は紙質堅牢にして諸帳簿用に供せられ汎く稱讚せられ需用盛んにして年々の産額七十五萬圓に達す。蠶卵原紙の四十五萬圓、障子紙の二十萬圓之に亞ぐ。

●釀造業 縣下の釀產品は清酒、味淋、燒酎と嗜好調味料に屬する醬油味噌等にして之等の年産額一千六百六十萬圓に達し縣下工産品中第四位を占め、逐年増加の傾向を示し輸出總額年々五百八十萬圓内外に達し前途頗る有望なり、和酒は清酒、燒酎味淋、にして清酒之れが尤たり、明治二十三年酒造組合設置以來全國に率先して酒造法の改良を叫び孜孜として研鑽に没頭し品種の向上を計りたる功空しからず、第三、四回の日本醸造協會關東支部主催關東酒類品評會に於て優等の成績を贏ち得今や名聲四隣を壓して灘廣島の醇良品と劍鏑相創するの狀態にありされば生産力の激増と販路の大擴張とはよく權衡を保ち需要供給に過剩を來す等の患なく其の前途各々有望として一般に重要視せらるゝに至れり、大正十四年度に於ける年産額千四百二萬九千六百三十九圓に達せり、醬油は釀造戸數百戸内外にして年石高四萬石を超へ價格二、〇九七、六六七圓に達し千葉縣野田と相匹敵して名聲赫灼たり。

●製粉業 文化生活に伴ふ麥粉需要の激増は今や全國的となり各地の生産額に振ふに至る、近代別して本縣の如きは殊に麥産は米産を凌駕するの趨勢にあれば從て其の生産も亦大に昂まり年々の産額八百七十四萬七千九百二十三貫に達し其價格五百三十八萬八千三百四十六圓の巨額に上る、大里郡最も熾にして入間比企の兩郡之に次ぐ、製造は概ね電力を使用し何れも大規模の工場にありて生産せらる、大里郡能谷町の松本米穀製粉株式會社深谷町の埼玉興業株式會社等最も著はる、移出先は全國各地に亘ると雖も、其の最も主なるものは東京、群馬、茨城、静岡、宮城、山形の諸縣なりとす。

●雛人形 名を得たる鴻巣町は北足立郡の一名邑起源は遠く天正年間、胎胎し京都伏見の某當地に來り地を卜して土偶を製作せしに創まる、かくて萬治寛文を経て明和、安永の頃に至り、技稍や進み江戸方面より來り學ぶもの漸く多きを加ふるに至り茲に始めて急足の發達を遂ぐるに至りたるものにして現今製造せらる、主なるものは雛人形、玩具類、造花、袋鯉、破魔弓、幟、羽子板等にして内雛人形最も著はる、大正元年大演習に際し川越大本營に於て天覽に供し且つ、獻上の光榮を荷ひ、又嘗つて大正三年に開催せられし大正博覽會場に於て皇室の御買上の光榮を賜り近くは大正九年國母陛下官幣大社氷川神社御參拜の砌り數多御買上の光榮を負ひ今や福岡縣下博多人形と東西

して製出せられしに創まり以つて現今に及べるものゝ如し、産地は秩父山麓に添へる槻川、兜川、都幾川の諸川に沿へる一帯の村落諸町村にして就中小川町最も著はれ遂に取つて以つて製紙の小川と稱へるに至れり、紙質優良にして産額亦多し殊に明治三十四年製紙同業組合の設立後は講習、講話に實地指導等に依つて業界啓發せられ品質の改善と相俟つて生産力大いに昂り

相對時して製品の優劣に雌雄を決せん意氣熾にして改良に改良を加へつゝあり、從て生産能力も増大し現下の年産三十萬圓を超え東京、群馬、長野を始め遠く海外にまで輸出するに至る。

●織物業 縣下に於ける織物業は銘仙織界の巨星として全國に冠たる秩父織を始め川越絹平、所澤飛白之に次ぐ、巨頭秩父織物の起源は遠く崇神天皇の朝に發し皇子知々夫彦命國造として下降あるや民業を納め産業を奨め給ひ授くるに織物を以てせられたるに始まる、



飯能丸中織物工場

其後幾多の變遷を経て鎌倉時代に至り武門の間に愛用せらるゝに及び一時大に振興せしかど幾何ならず戰國時代となつて兵燹相亞いで到り殆んど終熄の狀態に陥入りしが徳川時代に及び海内漸く定まりて民其の堵に寧んするや久しく荒蕪せし織物再び勃興し遠き歴史と長き經驗とは經に絹綿を麻を織りたる平と稱する特地の製織を爲すに至り、一世に愛玩せられて業界爲めに大いに振ひしが偶々農民の農閑期を利用して同製の鬘斗絲又は玉絲を原料として白太織を製織し之に草根木皮を用ひ特殊の染色を施し織無織物等を製織し専ら實用向織物として自家の着料となし、漸く旺んとなるに及びて平織衰ふるに至りたるも後世本織物次第に發達して遂に現今江湖の賞讃を博しつゝある本場秩父織と呼ばるゝに至り需給生産今日の巨數を示すに至る、今試みに大正十三年度の生産價格を一瞥すれば數量八四六、一九四疋を示し價格一五、一〇七四七六圓に達せり、斯く生産率の増大につれ民心安逸に耽れて製品の漸く粗惡に流るゝは人情の自然にして免かる能はざる處茲に於てか織物同業組合なるもの組織せられて之等の惡弊を排除し益々品種の向上發展を劃し相互利益の協調を計りつゝあり、織物の種類は縞物、緋切緋、工風緋、模様緋、大正緋、夜具地、座布圍地、色無地、白太織、糸好絹、本絲織、玉絹、雜緋、綾物、壁織、袴地、風呂敷地等其の重なるものとす。而して取引制度は市場制度にして組合立市場の設置ありて毎週二日間を以つて開市し各買織商の仲介に依り來客と製遠造家の直接取引をなす制度なり川越織物は其由來する所極めてく、新記に「川越絹は入間郡川越市及坂戸村にて製す總て之を川越絹平と呼ぶ其の初め秋元但馬守齋朝實永二年甲斐國都留郡谷村より川越へ轉せられし時絹緋の職人をこゝに移して今の如く絹をも製し江戸へ送る云々」と又産業事蹟に「萬延二年の夏川越の人中島某たま／＼行きて横濱の新貿易港に至り、一商家に細縷綿絲を鬻ぐを見、心竊かに以爲く之を以つて唐棧織に模し、綿布を組織せば世人の常用衣服の料に適し需要廣かるべしと其綿絲若干を購求し郷里に歸り人に謀り唐棧の模倣機織に着手し種々の考案を勞し織製したるもの即ち今の二子織と諷稱して廣く各所に産出せらるゝに至れるものなり」爾來年々發達

して殊に縣立工業學校及び圖案調製所、工業試驗場等の設立ありて當業者を指導し之れが進歩改良を謀り、次いで織物市場を開設して取引の改善販路の擴張を得今や絹織物、綿織物及び絹綿交織、廣幅織、コール天等あらゆる織物の種類を網羅し實に關東有数の織物産地として發達するに至れり。  
大正十二年度に於ける生産數量は二、七九一、一三〇反にして其の價格一、二〇五、九七四圓に達せり。



秩父特産絹織物陳列館

### 商 業

本縣商業に關する機關としては明治三十三年川越市に川越商業會議所設立せられたる外縣令商工會規則に依り縣下各地に商工會設置せられたるもの四十箇所の多きに達し而して是等商工會は會員相互の意思を疏通し和親を圖り商工業の發達を企圖するを目的とするものにして、會の事業は各會によりて之を異にするも大體に於て商工業の改善發達に資せんとする事項は一、商工業上弊害矯正に關する施設、二、商工業に關する各種の調査建議答申三、商工業に關する統計の發表四商品の産地價格の證明又は其紹介、五、商工業に關する講習講話若しくは品評會共進會の開催、六、功勞者店員職工其他使用人の表彰又は獎勵七、會員間に起る紛議の調停、八、其他商工業の發達上必要なる事項等なり。

### 金 融

縣下の金融機關として普通、農工、貯蓄の三種銀行は本社及支店を合して百五ヶ銀行を有し資本總額七四、〇四九、四六五圓積立金六、七二四、〇七四圓にて預金總額一五九、七七二、〇四三圓、貸付總額一三〇、一三八、四五五圓にして金利は高低一定せざるも日歩一錢五厘乃至五錢の間を往來し金融上甚しき不便を感ずることなく、主なる銀行及其資本額等を表示すれば左の如し

銀行名	所在地	資本金	拂込資本金	積立金
浦和商業銀行	浦和町	500,000	500,000	330,000
埼玉農工銀行	浦和市	1,000,000	1,000,000	110,000
第八十五銀行	川越市	1,000,000	1,000,000	110,000
川越渡邊銀行	川越市	1,000,000	1,000,000	110,000
所澤銀行	所澤町	1,000,000	1,000,000	110,000
飯能銀行	飯能町	1,000,000	1,000,000	110,000
武蔵松山銀行	松山町	500,000	500,000	500,000
忍商業銀行	忍町	1,000,000	1,000,000	110,000
秩父銀行	秩父町	1,000,000	1,000,000	110,000
秩父銀行	秩父町	1,000,000	1,000,000	110,000
深谷銀行	深谷町	1,000,000	1,000,000	110,000

産業組合 各種産業の進歩發達に伴ひ自然に生ずる悪弊を排除し一面向上發展を計るべく之が統一機關として明治三十三年三月産業組合法發布せらるる當時は組合の性質を知るもの極めて少なかりしが翌三十四年二月入間郡元狹山村に有限責任元狹山信用組合、比企郡大河村に有限責任大河信用組合の設立を見るに至り、其五月には兒玉郡共和村に無限責任殖産信用組合の設立せらるるに及び、縣下僻陬の農村南北相呼應して産業組合設立の聲を聞くに至る、以來各郡下を通して雨後の筍的に叢生して大正十年十二月末には其數實に三百九十八組合に達せり、今試みに各郡の状況を調査すれば北足立郡四二、南埼玉の四〇、北葛飾二三、秩父郡七三、入間郡八一、比企郡二六、兒玉郡の二七、大里郡の四四、北埼玉郡の四二等にして普及歩合の最も良好なるは入間郡にして大里、南北兩埼玉、比企郡之れに亞ぐ今試に明治四十四年以來組合員及組合資産の狀態に付き其進歩の程度を示せば左の如し

深谷商業銀行	深谷町	200,000	200,000	200,000
武州銀行 <td>浦和町</td> <td>8,100,000</td> <td>8,100,000</td> <td>8,100,000</td>	浦和町	8,100,000	8,100,000	8,100,000
西武銀行 <td>秩父町</td> <td>1,000,000</td> <td>1,000,000</td> <td>1,000,000</td>	秩父町	1,000,000	1,000,000	1,000,000
加須銀行 <td>加須町</td> <td>500,000</td> <td>500,000</td> <td>500,000</td>	加須町	500,000	500,000	500,000

### 會社

本縣商工業會社は、大正十四年の調査を次に記す。

年次	組合員	出資金	積立金
明治四十四年末	三二,六一二	七六九,七九八	九六,二六七
大正五年末	四八,七三五	一,二六九,七二一	三二八,〇八八
大正十年六月末	一〇〇,八五〇	四,七七二,四四六	七二七,三七六

### 財 政

大正十二年度に於ける縣歳出入の状況を一瞥すれば左の如し

科 目	本年歳入	科 目	本年歳出
縣 庫 下 渡 金	六,七三六,四四〇	國 庫 補 助 金	五〇五,二六五
其ノ他ノ經常部	一五,五五〇	寄 附 金	一四,一三七
其ノ他ノ臨時部	四六,六三六	縣 債	二,六九九,〇〇〇
合 計	二,〇一九,八九一	合 計	二,六九七,四四〇

### 長 官

本縣に於ける歴代長官左の如し

補任年月日	異動事項	氏名
明治元年六月十九日	鐵道府ヨリ任(初武縣知事)	大宮縣知事 山田政則
同 二年正月十日	辨事出仕ヨリ任	宮原忠英

租税 本縣に於ける歳入歳出の概況は前表に示せるが如くなるが更らに歳入の重要なものを擧ぐれば即ち左の如し。

勸業費耕地整理費	補助費	其ノ他ノ臨時部	其ノ他ノ經常部
八〇,〇九三	一,〇〇,七三三	一,五三三,一三〇	一,二六七,五〇〇

川越邊銀行	川越	1,000,000	700,000	1,200,000
所澤銀行	所澤	1,000,000	1,500,000	1,000,000
飯能銀行	飯能	2,000,000	800,000	500,000
武蔵松山銀行	松山	500,000	2,500,000	500,000
忍商業銀行	忍	1,000,000	700,000	500,000
秩父銀行	秩父	1,000,000	1,100,000	400,000
深谷銀行	深谷	2,000,000	1,100,000	500,000

勸業費耕地整理費	八八〇,〇〇〇	補助費	四〇〇,〇〇〇
縣稅取扱費	一五〇,〇〇〇	債費	一,〇〇〇,〇〇〇
其ノ他ノ經營部	二六〇,〇〇〇	其ノ他ノ臨時部	一,五〇〇,〇〇〇
河川改良工事費	一,〇〇〇,〇〇〇	計	二,六〇〇,〇〇〇
庫納付金			

租稅 本縣に於ける歳入歳出の概況は前表に示せるが如くなるが更らに歳入の重要なものを擧ぐれば即ち左の如し。

國稅	二,七〇〇,〇〇〇	酒稅	三,七〇〇,〇〇〇
地稅	一,〇〇〇,〇〇〇	糖稅	一,五〇〇,〇〇〇
所得稅	七〇〇,〇〇〇	油稅	二,五〇〇,〇〇〇
營業稅	六〇〇,〇〇〇	其他稅	四〇〇,〇〇〇
營業稅	一,〇〇〇,〇〇〇	計	一,二〇〇,〇〇〇
賣業稅	二,七〇〇,〇〇〇		

國稅附加稅	二,八〇〇,〇〇〇	縣稅	三,〇〇〇,〇〇〇
地稅	一,〇〇〇,〇〇〇	營業稅	一,〇〇〇,〇〇〇
所得稅	七〇〇,〇〇〇	酒稅	一,〇〇〇,〇〇〇
營業稅	五〇〇,〇〇〇	糖稅	一,〇〇〇,〇〇〇
營業稅	二,五〇〇,〇〇〇	油稅	一,〇〇〇,〇〇〇
賣業稅	二,八〇〇,〇〇〇	其他稅	一,〇〇〇,〇〇〇
		計	六,〇〇〇,〇〇〇

市町村稅及夫役現品豫算	三,六〇〇,〇〇〇	戶數	三,〇〇〇,〇〇〇
國稅附加稅	一,〇〇〇,〇〇〇	營業稅	一,〇〇〇,〇〇〇
地稅	七〇〇,〇〇〇	酒稅	一,〇〇〇,〇〇〇
所得稅	五〇〇,〇〇〇	糖稅	一,〇〇〇,〇〇〇
營業稅	三,〇〇〇,〇〇〇	油稅	一,〇〇〇,〇〇〇
營業稅	二,〇〇〇,〇〇〇	其他稅	一,〇〇〇,〇〇〇
賣業稅	三,〇〇〇,〇〇〇	計	六,〇〇〇,〇〇〇

議會

貴族院 埼玉縣多額納稅議員は現任田中源太郎氏にして其互選有権者は左の如し

直接納稅額	職業	氏名
四,五一一	商	西川武十郎
三,九二〇	農	永田勘六
三,八三九	商	柿原萬藏
三,六四八	農	酒卷敬之助
三,六一六	同	田島竹之助
三,六一一	商	大森喜右衛門
三,六一一	農	田中源太郎
三,二四一	工	永瀬庄吉
三,一九五	商	田村新藏
三,〇一〇	農	金澤理三郎
二,七六五	商	齋藤善八
二,六八八	農	白石昌字
二,六二二	同	上雄之助
二,五四八	同	井原彌三郎
二,四六八	同	榎本善兵衛

衆議院 定員十名にして前記議員は左の如し  
 山崎猛、秦豊助、長谷川宗治、野呂丈太郎、龍野周一郎、高田良平、神谷彌平、粕谷義三、外二名  
 縣會議員 定員四十一名にして選舉有権者は十二萬九千四百五十一名なり、

埼玉縣

長官

本縣に於ける歴代長官左の如し

補任年月日	異動事項	氏名
明治元年六月十九日	鐵道府ヨリ任(初武縣知事)	大宮縣知事 山田政則
同 二年正月十日	明治二、一、〇從ス	宮原忠英
同 四月九日	辨事出仕ヨリ任	同島冬道
同 九月二十九日	明治二、二、九大宮縣知事ト稱ス	浦和縣知事 間島冬道
同 四年十一月十三日	明治六、五、二一卒	埼玉縣令 野村盛秀
同 六年十二月廿七日	改稱 明治四、一、一三廢縣 任名古屋縣知事事務埼玉縣ニ屬	埼玉縣令 白根多助
同 十五年三月廿四日	同縣知事ヨリ明治八、二、九縣令ニ任 明治一、五、三、一五卒	吉田清秀
同 十九年七月十九日	明治一、九、七、一九官制改正知事ニ合ヨリ更任	埼玉縣知事 同
同 廿二年十二月廿六日	任内務大臣秘書官ヨリ	小松原英太郎
同 廿四年四月九日	任内務省警保局長	久保田貫一
同 廿五年十二月三日	非職	銀林綱男
同 廿七年一月二十日	任靜岡縣知事	千家尊福
同 三十年四月七日	依願免本官	田村政
同 卅一年一月廿六日	依願免本官	荻原汎愛
同 卅二年二月廿一日	依願免本官	正親町實正
同 卅三年十月廿五日	福島縣知事ヨリ	山田春三
同 卅五年二月八日	任靜岡縣知事	木下周一
同 卅八年九月四日	任大分縣知事	大久保利武
同 卅九年十二月廿七日	任農商務省農務局長	島田剛太郎
同 四十年六月一日	任岐阜縣知事	添田敬一郎
同 三年六月六日	任山梨縣知事	昌谷彰
同 五年十月十三日	休職 大分縣知事ヨリ	岡田忠彦
同 八年六月廿八日	任神戶市市長	西村保吉
同 十二年十月廿五日	任東京府内務部長ヨリ	堀内秀太郎
同 十三年六月廿四日	任朝鮮總督府殖産局長	元田敏夫
	任長崎縣知事	齋藤守閣
	任千葉縣知事	
	任千葉縣知事	

官公署

埼玉縣廳 浦和町にあり、明治四年廢藩置縣定るや縣廳を浦和町に置く、以來多少の併合離散ありて現今の一市九郡の管轄を見るに至れり、管内の市舊郡役所及所在地を記せば左の如し

川越市役所	川越市
北足立郡役所	浦和市
入間郡役所	川越市
比企郡役所	松山町
秩父郡役所	秩父町
兒玉郡役所	本庄町
大里郡役所	熊谷町
北埼玉郡役所	忍町
南埼玉郡役所	岩槻町

科	本年度豫算	科	本年度豫算
警務費	九六、七〇〇	土木費	一、〇二六、三三〇
土木費	八三、六〇〇	河川改良費	一、五八六、二六〇
郡役所費	二六、六二〇	教育費	二七、八〇〇
教育費	一、〇七六、六三〇	勸業費	五九、五六〇

北葛飾郡役所 杉戸町

浦和地裁判所 浦和町に浦和區裁判所を置き、志木、大宮鳩ヶ谷、上尾、鴻巣、深谷、寄居、所澤、見玉、入間、杉戸、越生、飯能、妻沼、岩槻、草加等を始め三十三の出張所を有し熊谷町には浦和地裁判所熊谷支所同區裁判所等の五區裁判所を有す

警察機關の配置 浦和警察署を始め川越、熊谷、深谷、忍、川越、松山、羽生、加須、所澤等に本署を置き寄居分署以下十二分署警部補派出所四、巡查部長派出所の二九、巡查派出所の二三、巡查駐在所の四二七ヶ所を設置す。

稅務署の管轄 埼玉縣稅務署は東京稅務監督局の管下に屬し浦和稅務署を始め熊谷、川越等の樞要町に設けあり。

林區署區畫 秩父小林區署秩父町にあり東京大林區署の管轄に屬す。

聯隊區司令部 縣下の一部分は即ち北足立郡、南埼玉郡、北埼玉郡、北葛飾郡は東京第一師管第二旅管本郷聯隊區管下に屬す。

教育

從來本縣は全國府縣中の最下位にありしが最近代表的新人多く出でて大いに教育制度の改制を唱へ、自治發達に努めれば駁々乎として勃興し來る新らしき町の勢は遂に教育の振興を喚發し、普通教育より實業教育に或ひは社會教育機關の設置となりて絢爛として勃興し來り今や他府縣を凌駕するの趨勢にあり小學校數は本校分校を合して四百七十三校に及び、中等教育機關としては縣立師範校を始め女子師範、中學校、高等女學校實科高等女學校、甲種程度の實業學校に縣立農業學校、同蠶業學校及私立同校、縣立工業學校、同商業學校、町村立の農業、商業、蠶業の各學校及び同補習學校、中等校類似の私設校十二を合して實に四百十四校に達す、縣立實業補習學校教員養成所亦此の内に在り、浦和高等學校は縣下に於ける最高學府たり、

就學兒童 大正十四年度に於ける教育狀態を調査するに小學校は尋常小學校の六三と六分校とを有し、尋常高等小學校の三百五十三に同分校四九に高等小學の二校を合して四百七十三ヶ校に及び、就學兒童男女合して二十二萬一千三百七十人にして不就學兒童の七百九十六名、未就學兒童の三萬二千三百四十名とを有し、就學百人比例は實に男女合して九九、六二の歩合を示せり。

出席歩合を調ふるに尋常校に在りては男女を合して九五、二三を表し、高等科に在りては九六、二七の比例を産み總平均九五、三六の歩合を示せり。

埼玉學園 教化事業を目的とし小學校程度の教授を爲す、職員五名生徒五十名を收容し居れり

教員 本科正教員三千四百四十二専科正教員三百六十四、准教員三百八十六、代用教員五百三十、にして學校百に付本科正教員七八、〇六に相當す、而して俸給は平均小學校本科正教員六拾八圓八十錢同女四拾七圓五錢、尋常本、正男五拾四圓拾錢同女四拾壹圓四錢、専科正男四十貳圓拾壹錢に當り同女三拾八圓八錢

准教員男三拾六圓九拾壹錢、同女三拾四圓一錢代用教員男三拾三圓、六拾一錢、同女三拾壹圓七錢なり、

基本財産 小學校基本財産は各市町村共多少の現金、有價證券、土地等にして、それより生ずる收益一年一、二八一、一二七圓に達す。

基本財産の縣經濟に係はるものは普通資産二、七二六、八六八圓、基本財産二〇、五六七圓、積立金四七、四二三圓にして市町村經濟は普通資産一〇、九二六、二八三圓、基本財産一、五八六、三〇九圓、積立金三二九、四七四圓なりとす

浦和高等學校 浦和町にあり多年縣民の懸案になる處大正十年遂に大英斷の下に創設せられたる最高教育機關にして現在生徒五百七十一名を收容し、教員講師合して三十八名を置かる。

中等學校 縣下の中等學校の主なるもの左の如し

學校名	所在地	學校名	所在地
川越中學校	川越市	松山中學校	松山町
不動岡中學校	不動岡村	熊ヶ谷中學校	熊谷町
箱壁中學校	箱壁町	浦和中學校	浦和町
師範學校	浦和町	女子師範學校	同
浦和高等女學校	浦和町	川越高等女學校	川越市
忍高等女學校	忍町	熊谷高等女學校	熊谷町
熊谷農學校	熊谷町	秩父農林學校	秩父町
川越工業學校	川越市	川越商業學校	川越市

兵事

本縣所澤町には近衛師團氣球隊を置き陸軍航空學校の設けあり。學生を毎年二回採用入校せしめ航空の學術を修得せしむ。操縦學生、偵察學生、機關學生、特種學生、研究學生、臨時學生に分ち外に操縦生と稱して中學三年修學程度の者を航空機操縦生として採用し官費を以て依託教育せしむ。

徵兵管區 本縣の徵兵管區は第一師管に屬し川越市、入間郡比企郡、秩父郡は麻布聯隊區に屬し、北足立郡、南埼玉郡、北埼玉郡、北葛飾郡、大里郡、見玉郡は本郷聯隊區に屬す。

壯丁檢査成績 大正十三年度に於ける壯丁體格成績は檢査人員一萬三千四百六十六人中甲種四千八百八十人、第一乙種一千五百八十八人、第二乙種、三千五百四十四人、丙種二千五百七十八人、丁種四百八十五人、戊種四十人とす。而して教育程度は專門學校卒業以上は百八十八人、中等學校卒業以上は七百三十五人、高等小學卒業以上は五千六百六十一人、尋常小學校卒業以上は五千四百三十二人、尋常小學校半途退學者二千二百六十二人、不就學者五百人なり。

社會事業

青年團 本縣の青年團は其起源審かならざるも自治觀念の發達に因つて自然に形成せられたるものなるべく現在三百七十六ヶ團會員六萬四千二百六十二名は町村を單位として組織せられ樞要の區域に其支部を設け専ら青少年の訓練を目的として亦社會の爲めに貢献する處尠からず、大正十三年度に於ける經費は實に六萬四千九百九十五圓に達せり。

處女會 縣下の處女會は其の數三百七拾ヶ團にして會員四萬六千六百七十六名を有し大正十三年年度の經費二萬八千二百四十四圓を支出せり。

圖書館及文庫 縣下に於ける圖書館の利用は未だ以つて足れりと爲すには尙客なるものあり、試みに最近の調査に係はる圖書に達せり會の目的は専ら家政婦としての心得及び淑徳守節等其他一般的婦道の奨励に努め之が機關としては講演會を開催する等諸般の機關を利用して訓練に努めつゝありと雖も未だ成績の見るべきものなく尙幾多の改善を必要とするものなり。

罹災救助 縣下の罹災救助基金は一、七三八、三三〇圓にして大正十二年度に於ける救助支出額七七、一一八圓にて總戸數四、八二四戸に及べり。

救恤 地方費支辨に係はる救助人員十五名に上り支出額百四十圓を支出せり。

軍事救護 大正十二年度に於ける救護戸數一九七戸人員六二

出席歩合を調ふるに尋常校に在りては男女を合して九五、二

三を表し、高等科に在りては九六、二七の比例を産み總平均九

五、三六の歩合を示せり。

●埼玉學園 教化事業を目的とし小學校程度の教授を爲す、職

員五名生徒五十名を收容し居れり

●教員 本科正教員三千四百四十二専科正教員三百六十四、准教

員三百八十六、代用教員五百三十、にして學校百に付本科正教

員七八、〇六に相當す、而して俸給は平均小學校本科正教員六拾

八圓八十錢同女四拾七圓五錢、尋常本、正男五拾四圓拾錢同女

四拾壹圓四錢、専科正男四十貳圓拾壹錢に當り同女三拾八圓八錢

圓に達せり會の目的は専ら家政婦としての心得及び淑徳守節等  
其他一般的婦道の奨励に努め之が機關としては講演會を開催す  
る等諸般の機關を利用して訓練に努めつゝありと雖も未だ成績  
の見るべきものなく尙幾多の改善を必要とするものなり。

●圖書館及文庫 縣下に於ける圖書館の利用は未だ以つて足れ  
りと爲すには尙客なるものあり、試みに最近の調査に係はる圖  
書館數は公立七九、私立の一〇總計八九にして藏書九萬四百六  
十八冊に達し之を類別すれば左の如し。

名	所在地	創立年	圖書冊數
八基村立圖書館	大里郡八基村	明治四十三年	二、二二七
熊谷町立圖書館	同 熊谷町	同 四十五年	七、四四三
中瀬村立圖書館	同 中瀬村	大正四年	一、四九四
御正村立紀念圖書館	同 御正村	同 五年	一、二八〇
大寄村立紀念圖書館	同 大寄村	同 六年	五五〇
三尻村立圖書館	同 三尻村	同 十一年	五〇九
深谷町立圖書館	同 深谷町	同 十二年	七二五
妻沼町立圖書館	同 妻沼町	同 十二年	一、八四九
花園村立圖書館	同 花園村	同 十二年	四〇〇
幡羅村立圖書館	同 幡羅村	大正十三年	九一
三輪野江村立簡易圖書館	三輪野江村	同	一、二五〇
豊田村立簡易圖書館	豊田村	同	一
櫻田村立簡易圖書館	櫻田村	同	一
田宮村立圖書館	田宮村	同	一
堤郷村立文庫	堤郷村	同	一
幸松村立圖書館	幸松村	同	一
彦成村立圖書館	彦成村	同	一
上高野村立圖書館	上高野村	同	一
太田村立圖書館	太田村	同	四九二
禮羽村立簡易圖書館	禮羽村	同	六一一
種足川村立圖書館	種足川村	同	二二五
種足村立圖書館	種足村	同	二二〇
鴻巣村立圖書館	鴻巣村	同	四八四
大桑村立圖書館	大桑村	同	七六九
埼玉村立圖書館	埼玉村	同	一五八
騎西町立圖書館	騎西町	同	六四八
共和村立圖書館	共和村	同	八五
持田村立圖書館	持田村	同	一、五七一
長野村立圖書館	長野村	同	六三
扇栗村圖書館	扇栗村	同	一七三
加須町立圖書館	加須町	同	二〇
川俣村立圖書館	川俣村	同	二八五
利島青年團私立圖書館	利島	同	二六〇
私立浦和簡易圖書館	浦和町	同	六九〇
市立川越圖書館	南久保町	大正四年	一

尙入間、比企兩郡に公私立四十ヶ圖書館、簡易圖書館及文庫  
あるも特筆すべき程度に至らざるを以て省略す。

●救濟事業 慈善救濟基金は明治三十年、英照皇太后御大喪及  
び明治四十五年明治天皇崩御の御下賜金を以つて之が基本金と  
爲し更に大正十二年大震災救恤金の剩餘金を繰入れ又一方地方  
有力者の寄附金を合して基本財産となし一般救濟事業に充つ其  
の重なるものは濟生會、感化教育、兒童保護等にして年々の經  
費支出尠からず、今左に之等を類別して一般的概要を示せば

●恩賜濟生會 大正十四年度に於ける年末現在は寄附者一、九  
二八人寄附金總額一九九、八八一圓に達し、濟生會より委託せ  
られたる診療患者數は八九七人にして之が延人員二三、八五五  
人員に達し經費支出數千圓に達せり

埼玉縣

社會事業

●青年團 本縣の青年團は其起源審かならざるも自治觀念の發  
達に因つて自然に形成せられたるものなるべく現在三百七十六  
ヶ團會員六萬四千二百六十二名は町村を單位として組織せられ  
樞要の區域に其支部を設け専ら青少年の訓練を目的として亦社  
會の爲めに貢献する處尠からず、大正十三年に於ける經費は  
實に六萬四千九百九十五圓に達せり。

●處女會 縣下の處女會は其の數三百七拾ヶ團にして會員四萬  
六千六百七十六名を有し大正十三年年度の經費二萬八千二百四十

●罹災救助 縣下の罹災救助基金は一、七三八、三三〇圓にし  
て大正十二年度に於ける救助支出額七七、一一八圓にて總戸數  
四、八二四戸に及べり。

●救恤 地方費支辨に係はる救助人員十五名に上り支出額百四  
十圓を支出せり。

●軍事救護 大正十二年度に於ける救護戸數一九七戸人員六二  
七人にして一三、四五六圓の支出額を算せり。

●業兒 大正十二年未現在人員地方費一、私費五、計六名にして  
地方費支出額三四六圓、私費七三三圓合計一、〇五九圓なりとす

●感化教育 本縣に於ける感化教育事業は慈善救濟基金を基礎  
とし其の事業の一として現在職員五名生徒五十名を收容し授く  
るに小學校教科書を以てせり。

●人事相談所 縣下の主なる警察署内に設け主として勞資の爭  
議協調其他の紛議解決に關する事項、身上に關する事項、職業  
紹介、性行不良者の感化救濟、衛生事項、住宅問題、貧困者救  
濟、傷痍又は疾病に罹りたる困難者保護等に關し、懇切なる指  
導調停に従事しつゝあり。

●社會教育會 社會教育の補助機關として縣教育會を始め婦人  
會、共和會、同志會、振興會等の各團體會員を組織し、智徳修  
養を目的として或ひは講演會を開催し又或ひは交誼會を催して  
會員相互の友誼を温むる等及び協力一致市町村の啓發に就く等  
青年淑女の教育に努めつゝあり、各會各團共に當番幹事を置き  
て諸般の事務を管掌せしめつゝあり。

●娛樂機關 毎月一日の商店公休日を利用して小學校内に店員  
を集め講演、運動、音樂等を行ひ一定時間内休養の間に修養と  
娛樂とを兼ねしむる方法にして一切の事務は小學校に於て管掌  
せしむること、し文化學校と名づく其の一般的なものには活動  
寫眞館を一位とし劇場寄席之に亞ぎ、逐年増加の趨勢にあり。

●免囚保護 鐵窓の下に囚はれの身となり社會の適應性を失脚  
せる免囚徒の爲に縣下の各寺宗主催となり縣警察亦之に與り熱  
心に事業に従事し着々良果を納めつゝあり。

●社會事業協會 縣下各地方の有志名望家を以つて組織せる  
共濟會にありては委員に囑託して一般家計の調査を爲し家庭經  
濟の整理、衛生に關する注意事項を擧げて保健と相俟ち經濟の  
緊縮を計り以つて住民の生活を寧くし大は一町一村の爲鋭意經  
濟の豊饒を劃策し駈々乎として實績を擧げつゝあり。其主なる  
項目は 一、家庭經濟の整理改善 二、飲食物に關する注意事  
項三、物品購入に關する注意事項 四、物品使用に關する注意  
五、服裝に關する件 六、勤儉貯蓄に關する注意等にして今や

縣下の諸設備は過去十九世紀の劃時代的に恰當すれば刷新の曉  
は他府縣の模範となるべし、吾人は近き將來に燃へ出でんとす  
る縣下に多大の囑望を繋ぐ其の一人なり。

社 寺

埼玉縣下に於ける神社及寺院の概要を示せば官幣大社一、官  
幣中社一、縣社一七、郷社二四、村社一、四五九、無格社八四  
〇、合計二、三四二、寺院は眞言宗一、〇六八、禪宗七〇三、天  
臺宗二〇四、淨土宗一七二、其他一〇一合計二、二四八にして



埼玉縣

神職一、八〇一人住職二、一二人、而して教務所又は説教所に屬するもの、神道二七三、佛道五四、基督教二八、合計三五五あり、左に著名の神社及所在地を擧ぐ、

官幣大社水川神社	北足立郡大宮町
官幣中社金鑽神社	兒玉郡青柳村
縣社三峯神社	秩父郡大瀧村
縣社秩父神社	秩父郡秩父町
縣社榎神社	秩父郡下吉田村
縣社寶登神社	秩父郡野上村
縣社箭弓神社	比企郡松山町
縣社調神社	北足立郡浦和町
縣社檜山神社	大里郡幡羅村
縣社高城神社	大里郡熊谷町
縣社北野天満宮	入間郡小手指村
縣社三芳野神社	川越市舊城趾
縣社水川神社	川越市宮下町
縣社玉敷神社	北埼玉郡騎西町
縣社金鑽神社	兒玉郡本庄町
縣社八幡神社	兒玉郡兒玉町
縣社 <small>今城、青坂、池上、神</small>	兒玉郡神保原村
縣社 <small>稻實、池上、神</small>	兒玉郡松久村
縣社ミカ神社	

川越市

沿革 縣下の東南部に位し西に秩父連峯を望み東は荒川を控へ廣袤東西三十五町、南北一里十五町にして面積〇、八五方里大正十四年度國勢調査に依る世帯數六千五百八、人口三萬一千九百四人内男一萬五千二百二十九人、女一萬六千七百七十五人有す、舊松平氏の居城地として繁榮たりし處その往古は舊記の釋するものなく索ぬるに由なしと雖も起原は大凡今を去る八百八九十年前ならむか。彼の東鑑に河越太郎重頼居住の地と記され亦前太平記には「長元三年十月二十日平忠常追討の爲め、源頼信朝臣武藏に出陣す忠常の弟陸奥權守忠頼河越に對陣す」とあり、現在南町の養壽院の古鐘には「武藏國河肥庄新日吉山王宮奉鑄推鐘一口」云々と、按ずるに其の古は河越若くは河肥と書き川越と一般に書き初めしは近世の事ならんか、之を要するに上杉持朝及太田道真父子が築城の時を以つて紀元と見るを妥當とせむ、

小田原記 武藏風土記稿其他の古書に據れば上戸地方と稱して河越庄と呼びなせると言へば、紀元前は他にありしこと疑ひなし、徳川氏に及び酒井、堀田、柳澤、松平の諸豪交々藩主となりて民政を統べしかば十六萬石の城下として繁榮日に旺となり遂に小江戸の繁華を見るに至る、かくて維新の變革にあひ三年川越縣を置かれ同四年十一月入間縣と改稱され六年熊谷縣の所轄となり、九年埼玉縣を浦和に設置せらるゝや入間郡川越町として入間高麗郡役所の所轄となり、同二十九年四月高麗郡を廢し別に比企郡植木村を併せ新たに入間郡となるに至り、明治二十二年町村制施行せらるゝや中臺を福原村に編入し、野田の一部及び小仙波を編入し川越、松郷、脇田、小久保、東明寺、寺井小仙波、野田の八大字を分ち自治の基礎始めて定まる、大正十一年十二月一日入間郡川越町同仙波村を合し其區域を以つて川越市を置かれ以て今日に至れり。

銀行會社 爾來農本位の當地方に於ては金融機關としての銀行會社等極めて少數なりしが、大正年間に入りてより激増し現

在地域内に於ける會社數は四十三を算し、株式會社の二十五に次ぐに合資會社の十四、合名會社三にして此外地區外の會社にして支店及營業所を置くもの九に達せる狀況にて如何に最近同地方が工業熱の旺盛なるかを察知するに難からず、其の最も重なるものを列擧すれば資本金八百九十九萬の株式會社武州銀行支店を始め株式會社日比谷銀行支店の三百萬圓、第八十五銀行の三百萬圓等にして又會社の重なるものは東京電燈株式會社川越出張所を始め大興紡績株式會社川越工場等にして何れも相當の業績を收め居れり。

武州銀行支店 大正七年十一月の創立にして多賀町南町にあり。

日比谷銀行支店 明治二十八年三月の創立にして市内連雀町に在り。

第八十五銀行 市内南町にあり明治十一年五月の創立にして市内最古の銀行たり

石川組製絲所支店 は北久保町にあり大正十一年の創設にして資本金は五百萬圓なり。

東京電燈株式會社 川越出張所は堅久保町にあり大正十四年の創設になる

大興紡績株式會社川越工場 大正十年十月の創立にして市内永井町にあり綿絲紡績製造を専らにす。

産業 古來芋を以て其名天下に響きたりしが文明は從來の農業地を轉化せしめて純然たる工業地を創造するに至り、その東上線の縦貫は工業的機運に嚮へる當市の事業界に一段の活氣を添ふるものと想像せらる、縣外輸出品の主なるものは農産に米麥甘藷あり工産物に製茶、生絲、繭、織物等にして之等の年産額大約二百五十五萬八千九百餘圓に達し殊に軟近織物の名聲大いに揚り逐年生産増加の趨勢にありて當市事業界の前途將に逆暗し難きものあり。

教育

明治六年學制の頒布ありて以來教育思想一般に濃厚となり遂に今日の隆盛を爲すに至れり。

小學校九校 七十四學級は四千五百五十五名にして就學歩合百人比例は九八、六一を示し他府縣に遜色なく相當成績を收めつ、あり。

縣立川越中學校 縣立中學としての創立は明治三十二年にして前身は入間、高麗郡立中學校、私立共和學校にして始め第三中學校と稱せしが後現在名稱に改めしものにして校地九千九百九十五坪經費四萬八千三百三十一圓生徒數五百八十四名にして創立以來卒業生千二百餘名を出せり

縣立川越高等女學校 市内六軒町に在り校地九千七百七十五坪八合にして一年の經費三萬二千七百二十七圓四十錢現在在學生徒四百三十一名にして創立以來卒業生七百八十八名を出せり

縣立蠶業學校 小仙波に在り敷地六千二百坪一年の經費二萬六千三百五十八圓餘現在生徒數百三名にして卒業生本科生三十名別科生十四名専修科生十一名を出し皆斯業界に貢獻し居れり

市立實業補習學校 文部省令實業補習學校規程に依り、大正三年四月に設立したるものにして始め町立川越實業補習學校と



登録商標 味噌 醬油 製造元益子佐平 栃木縣栃木町

電話二〇六番



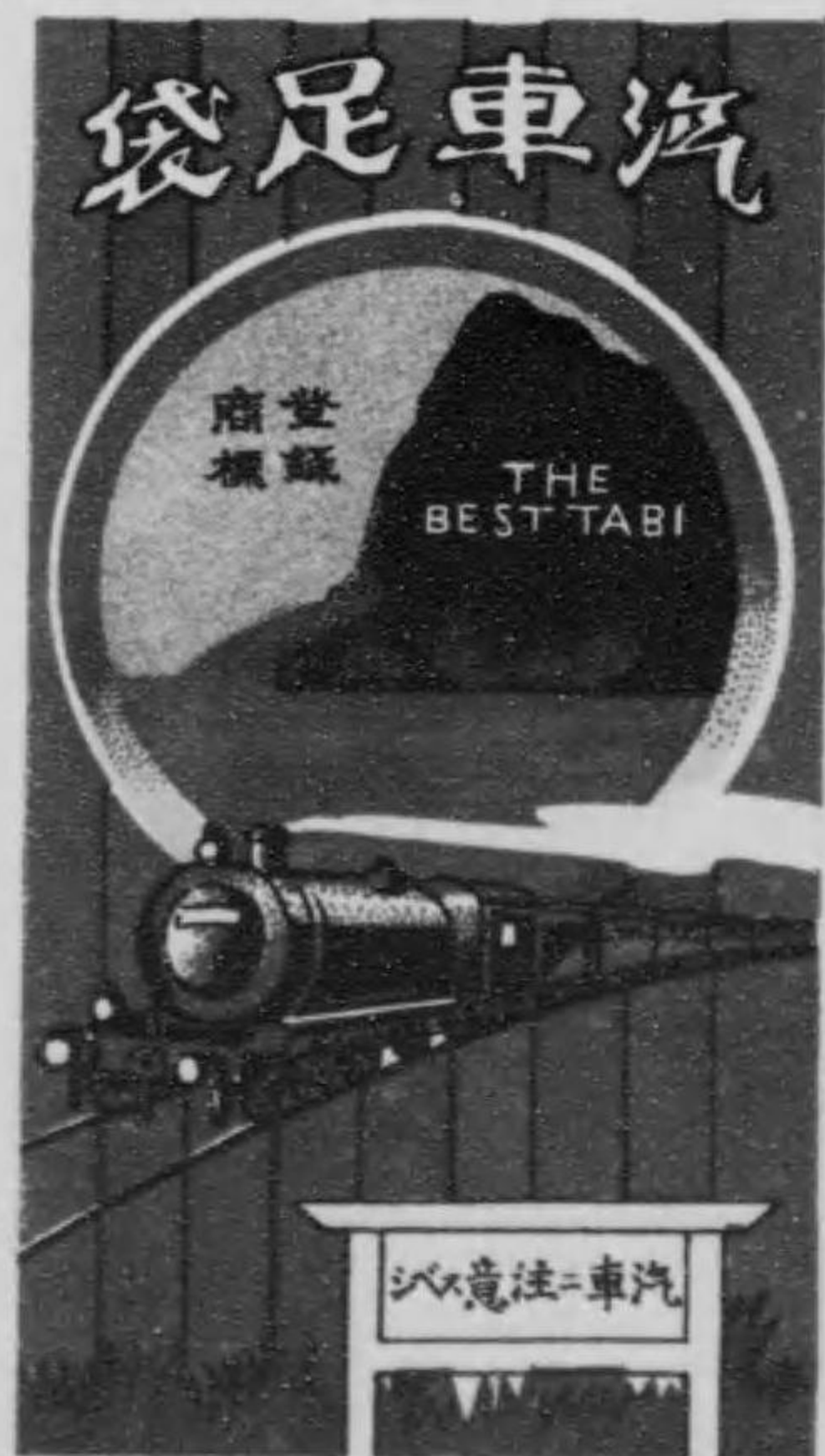
年町村制施行せらるゝや中幸を福原村に編入し、野田の一部及び小仙波を編入し川越、松郷、脇田、小久保、東明寺、寺井小仙波、野田の八大字を分ち自治の基礎始めて定まる、大正十一年十二月一日入間郡川越町同仙波村を合し其區域を以つて川越市を置かれ以て今日に至れり。

銀行會社 爾來農本位の當地方に於ては金融機關としての銀行會社等極めて少數なりしが、大正年間に入りてより激増し現

銘酒 登録  
朝日 本直  
釀造元 相良行一  
栃木縣下都賀郡岩舟村  
電話岩舟二三番電器。九  
振替口座東京八三九五番

登録商標 吟月正宗 釀造元 渡邊万吉  
栃木縣栃木町  
電話三五二番

製造元 行田工業株式會社  
埼玉縣行田町  
電話一。番電器ギ  
振替東京一七八。番



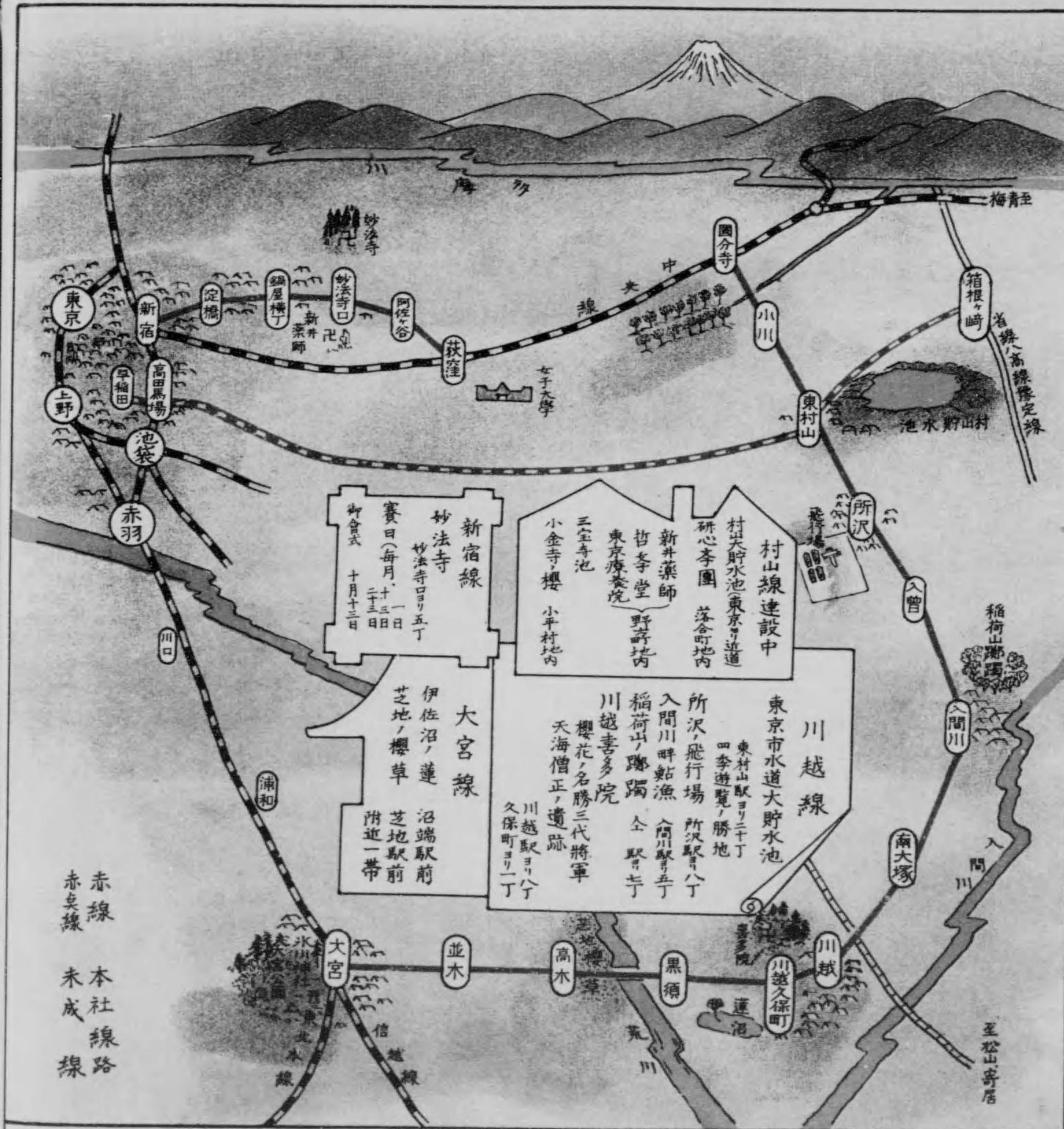
印味噌製造元 酒類醬油清酢商  
鳥海藤藏商店  
栃木縣栃木町驛前  
電話栃木二四二番  
振替東京三五九六番  
電信岩舟(ト)又(トリ)

登録商標 味噌 製造元 益子佐平  
栃木縣栃木町  
電話二。六番

八合にして一年の經費三萬二千七百二十七圓四十錢現在在學生徒四百三十一名にして創立以來卒業生七百八十八名を出せり

縣立蠶業學校 小仙波に在り敷地六千二百坪一年の經費二萬六千三百五十八圓餘現在生徒數百三名にして卒業生本科生三十名別科生十四名専修科生十一名を出し皆斯業界に貢獻し居れり

市立實業補習學校 文部省令實業補習學校規程に依り、大正三年四月に設立したるものにして始め町立川越實業補習學校と



(中設建) 線山村・線宮大・線越川・線宿新

# 西武鉄道株式會社

本社 東京府淀橋町角

電話 四谷一三三三、三五七一

# ルービンオニユ

## ーダイサ矢ッミ ラモレ矢ッミ

**BEST LAGER BEER**  
TRADE MARK  
**UNION**  
SPECIALLY BREWED FOR EXPORT  
**NIPPON BEER**  
**KOSEN CO. LTD. TOKYO, JAPAN**

日本麥酒鑛泉株式會社

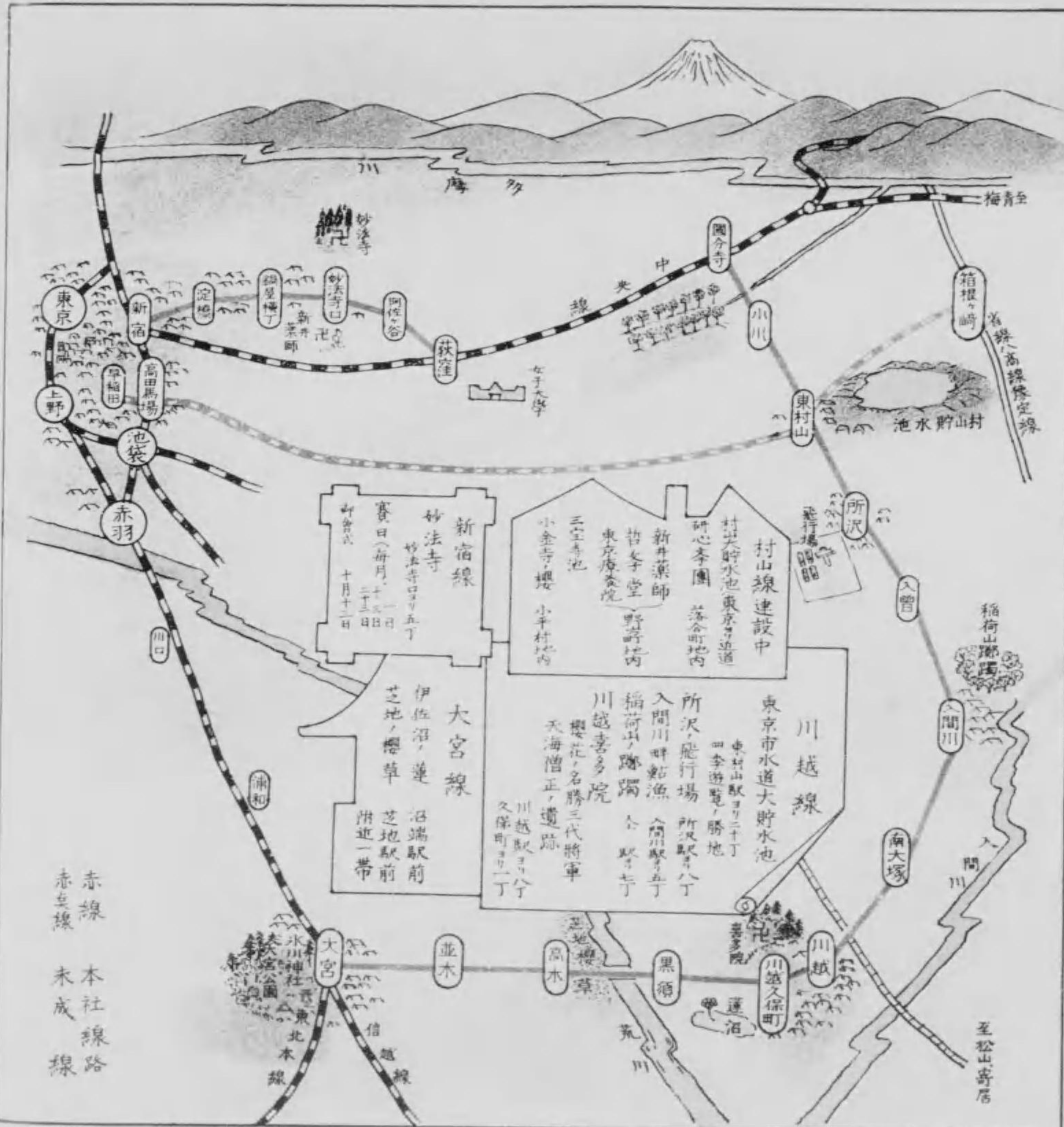
稱し主として男子には商業科を、女子には裁縫、家事科を授けたりしが大正十一年十二月市制實施と共に市立となり次いで川越商工實修學校と改稱せり。

特種教育 慈惠救濟の第一歩として明治四十二年八月認可を得て草創せるものにして各宗寺院及有志の協立に係はり始め埼玉縣和協會訓盲學校と稱し主として盲人に鍼按並に普通教育を授けしが大正十一年度より更に擴張して埼玉盲啞學校と改め盲啞者の矇を啓くことせり。

人事相談所 大正九年九月より川越警察署内に人事相談所を

神社佛閣

縣社三芳野神社 舊城本丸の東に當り社殿宏壯朱壁燦として人目を射る、社は素盞鳴尊、稻田姫命と天夷鳥命建雄命とを配祀せしが一條天皇の長徳年間菅公五世の孫菅原修成武藏國司たりし時北野天神を合祀す、之東北に天満天神を祀れる權輿なりと云ふ、清和天皇の貞觀三年在原業平嘗つて參拜し敬虔の念措かず銅製の扇を奉納せり、後之を神體とし業平の靈を合祀す社内梅樹多く三月の候腹郁たる花下を逍遙する雅客亦少なからず



(中設建) 線山村・線宮大・線越川・線宿新

## 西武鐵道株式會社

本社 東京府淀橋町角

電話四谷三三三、三五七一

# ルービンオニユ

## ーダイサ矢ッ三

## ラモレ矢ッ三



日本麥酒鑛泉株式會社

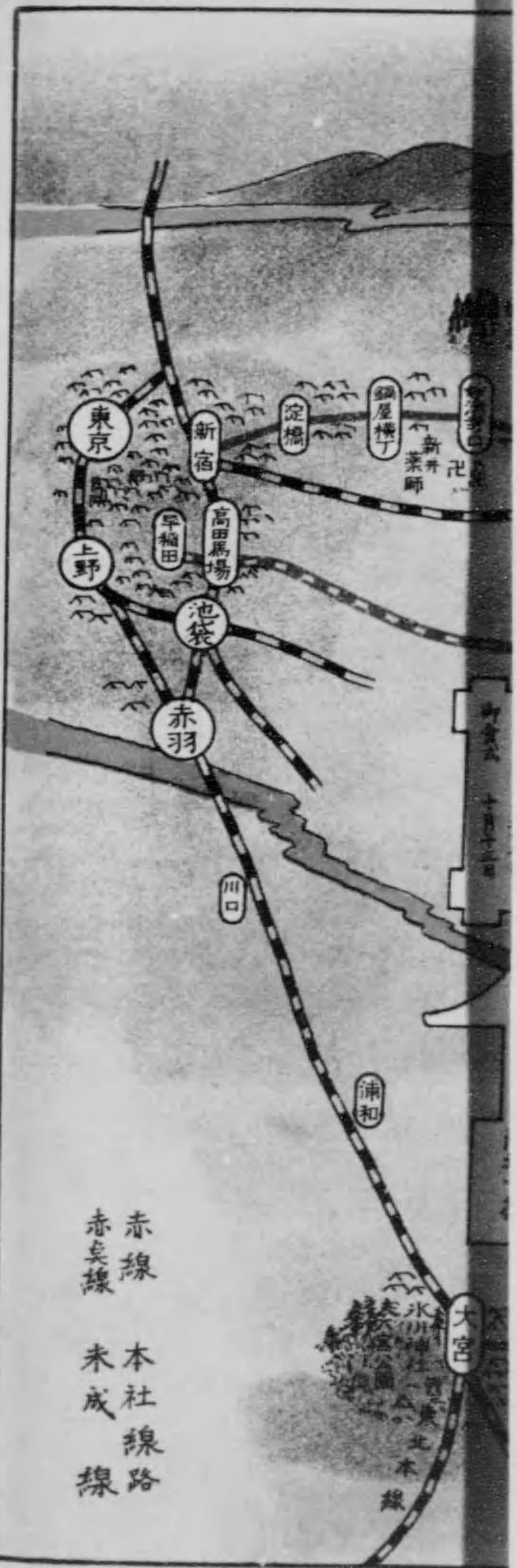
稱し主として男子には商業科を、女子には裁縫、家事科を授けたりしが大正十一年十二月市制實施と共に市立となり次いで川越商工實修學校と改稱せり、

◆特種教育 慈惠救濟の第一歩として明治四十二年八月認可を得て草創せるものにして各宗寺院及有志の協立に係はり始め埼玉縣和協會訓盲學校と稱し主として盲人に鍼按並に普通教育を授けしが大正十一年度より更に擴張して埼玉盲啞學校と改め盲啞者の瞳を啓くことせり。

◆人事相談所 大正九年九月より川越警察署内に人事相談所を

◆神社佛閣

縣社三芳野神社 舊城本丸の東に當り社殿宏壯朱壁燦として人目を射る、社は素盞鳴尊、稻田姫命と天夷鳥命建雄命とを配祀せしが一條天皇の長徳年間昔公五世の孫菅原修成武藏國司たりし時北野天神を合祀す、之東北に天満天神を祀れる權輿なりと云ふ、清和天皇の貞觀三年在原業平嘗つて參拜し敬虔の念措かず銅製の扇を奉納せり、後之を神體とし業平の靈を合祀す社内梅樹多く三月の候散花たる花下を逍遙する雅客亦少なからず



社  
山線 (中設建)

稱し主として男子には商業科を、女子には裁縫、家事科を授けたりしが大正十一年十二月市制實施と共に市立となり次いで川越商工實修學校と改稱せり、

●特種教育 慈惠救済の第一歩として明治四十二年八月認可を得て草創せるものにして各宗寺院及有志の協立に係はり始め埼玉縣和協會訓盲學校と稱し主として盲人に鍼按並に普通教育を授けしが大正十一年度より更に擴張して埼玉盲啞學校と改め盲啞者の嚆を啓くことせり。

●人事相談所 大正九年九月より川越警察署内に人事相談所を設け左の事項を取扱ひ社會公益に補せり。

- 一、勞資の爭議協調其他の紛議解決に關する事項
- 二、身上に關する事項
- 三、職業紹介に關する事項
- 四、性行不良者の感化救済に關する事項
- 五、家出人搜索其他の保護に關する事項
- 六、衛生に關する事項
- 七、住宅に關する事項
- 八、貧困者の救済に關する事項
- 九、傷疾又は疾病に罹りたる困難者保護に關する事項

●市立託兒所 一般勞働者に生業を營ましめ及學齡中の子守兒童に専心教授を受けしめんが爲め其の幼兒を收容保育する所に於て川越尋常高等小學校舎内にあり

●職業紹介所 市役所内に設置し勞資相互間の調節を圖りつゝあり

●交通 天惠を地の利に享け交通四通發達して百貨常に輻輳し商業殷盛なり、縣道十三線を幹線として町村道綴縫して網狀線を書き各市街との連絡殊に便利なり、即ち川越浦和線を始め松山線、鴻巣、上尾線、志木線、東京線、所澤、豊岡、秩父、越生、坂戸、兒玉、新河岸線等車馬の往來常に絶へず、

●鐵道 西武鐵道川越線は明治二十八年三月の開通にして川越鐵道と稱し、後武藏水電の經營に移り武藏水電の帝國電燈に合併するに及び更に電車部と共に西武鐵道株式會社となりしものにして新田南大塚入間川所澤を経て東京府下國分寺驛に到り國有鐵道中央線に合す一つは立川八王子を経て山梨縣甲府市に至る。

●東武鐵道東上線 は明治四十四年十一月の開通にして初めは東上鐵道株式會社の經營なりしが後東武鐵道に合併し現在に及ぶ東京府下池袋を起點として、川越東京沿道に沿ひ更に延長して群馬縣澁川町に通ずる豫定にして目下工事中なれば近く竣工の機期に到るべく貫通の上は一段の便利を副ふものとして世人の嚆望して措かざる處なり

●電氣鐵道 川越電車は明治三十九年四月の開通にして川越電氣鐵道株式會社の經營に係り、後武藏水電株式會社に移り同社の帝國電燈に合併するや西武鐵道の經營に移りたるものにして中仙道大宮に到り省線に合す。目下大宮より岩槻方面に延長の計畫あれば之が實現の曉は一層の便利思ひやらる。

●通信事務 川越二等郵便局は志義町に在りて郵便電信電話を取扱ひ、川越本町郵便局は無集配三等局にして郵便事務を取扱ふ。

●神社佛閣

●縣社三芳野神社 舊城本丸の東に當り社殿宏壯朱壁燦として人目を射る、社は素盞鳴尊、稻田姫命と天夷鳥命建雄命とを配祀せしが一條天皇の長徳年間菅公五世の孫菅原修成武藏國司たりし時北野天神を合祀す、之東北に天滿天神を祀れる權輿なりと云ふ、清和天皇の貞觀三年在原業平嘗つて參拜し敬虔の念措かず銅製の扇を奉納せり、後之を神體とし業平の靈を合祀す社内梅樹多く三月の候馥郁たる花下を逍遙する雅客亦少なからず偶々右側の丘上に登れば三芳野一帯の水田を隔て遙かに伊佐沼を望むべく洵に景勝の地なり。

●縣社水川神社 大正十二年三月縣社に列す宮下町の東隅にありて素盞鳴命稻田姫命大國主命脚摩乳神手摩乳神を合祀す、欽明天皇の即位八年北足立郡大宮町の官幣大社水川神社より勸請せしものなりと傳ふ、代々の尊信厚く社殿宏壯として彫刻精緻なるを以つて知らる、廣潤なる境内は老樹高天を摩し後方は一望萬頃の水田相連り夏時暑熱を忘る、二十四社の末社境内に存す。

●招魂社 水川神社境内にありて明治十四年七月十二日の造營になり明治十年の西南役及び同廿七八年同三十七八年戰役殉難將卒の靈を合祀し、毎年四月十六日を祭典日と定め殷賑を極む

●喜多院 小仙波にあり寺歴の傳ふる一神話に古昔仙芳仙人此地に棲みけるが當時は渺々たる江海の如くにして神童此處に住みけると仙人神龍に請ひ、仙術を以つて波上に法衣を布きあるひは土佛人鬼の形を作りて水底に埋めしに不思議や江海變じて陸地となれり以て名所の起原となすと、信疑論するまでもなけれど佛縁の地たるを知るに足る、享和天皇の御宇天長七年仙人の遺蹟を起さんとして僧圓仁後の慈覺大師を使はされ、一字を建て無量壽寺と命名し本尊に阿彌陀如來及不動尊を左に右に多開天を靜祀す後三百七十餘年を経て土御門帝の元久元年兵燹に罹り烏有に歸せしが第九十一代伏見天皇の御代永仁四年大僧正尊海勅を奉して下向し靈地を索めんと、その小橋に差懸りたる頃南方老杉の梢上明星の輝けるを望み遂に此處に索め得再建して星野山無量尊佛地野と號し、三寶再び光を放つに至る、かくて二百餘年を経て後奈良天皇の天文六年再び兵火に罹り精舎灰燼に歸せり、徳川氏に至り慶長十七年僧天海をして堂宇を納めしめ以つて今日に至る、境内の大師堂、三代將軍誕生の間、開小堂、五百羅漢、經藏、林泉、苑庭、明星井等は其の主なるものにして亦什物數十點を藏せり。

●蓮馨寺 松郷連雀町に在り浄土宗總本山智恩院の末にして孤峰山寶池院と號し、關東十八壇林の一なり、草創は天文年間川越城主大道寺駿河守政繁の母の招請にして建立せるものなり本尊に阿彌陀如來を安置す、天正十八年豊太閤寺領二十石を下す往時は莊嚴の大精舎なりしが明治二十六年三月大火に類焼して亦昔日の莊觀を止めず、近時稍や舊觀を形造れども昔日の比に非ず有名なる吞龍上人を勸請し毎月八日は縁日として賽するもの多し。

●養壽院 南町にあり寛文年間城主川越遠江守經重の建立する所にして青龍山と號す、傳燈大阿闍利圓慶の開祖に係はり、後

扇更後嗣となるに及び禪院となる家康朱印地十石を下す、寶物の見るべきもの多數を藏す。

東明寺 下町にあり伏見天皇の永仁年間僧眞教上人の開山にして稻荷山稱名院と號す、往昔は境域廣大なりしが東明寺合戦後興廢常なく今は時宗大本山藤澤清淨光寺の末に屬す。

川越城址 上杉持朝、太田道真等の手に築かれし名城今は廢壘殘濠僅かに當時の面影を偲ぶに足るのみ桃李語らず東風に鳴く松の聲はそも何事をか告まじ。

田面の澤 わするなよたのむの澤をたつ雁も  
いなはのそよく秋の夕ぐれ

と歌に詠まる、田面の澤は今浮島神社の北方にある沼地にして古昔は附近一帶の葦原なりしなるべし、今も片葉の芦生じて小池所々に清泉を湛へ、陽春の候芹の生するや摘草に賑ふ維新前は雁巢くひて秋の風情に一段の趣を添へたりと川越城を初雁城と云ふも蓋し之に因由するなりと

霧吹の井 舊城内なる廓町新曲輪趾にあり、傳へ云ふ昔此城敵軍に包圍せられ危殆に陥りし時此井の石蓋を開けば深霧濛々として天地を蔽ひ忽にして敵軍を潰亂せしむ可しと、今は民有地に屬し石蓋を以つて土を覆へり。

唯心庵 一名灌紫園とも云ふ柳澤美濃守の家臣山東小市郎風流の嗜み深く赤間川の流を引きて築山を構へ珍花奇石の排列妙を極め當時風流人の會合して歌俳諧に茶の湯に慰情を寄せし古の樓今は喜多氏の邸宅に屬す、唯心庵の稱は柳澤氏移封後荒廢せしを僧修覆して住したれば里人唯心庵と呼ぶに至れり、星霜移り人は去ると雖も花信花を招ずれば紫藤松杉の梢に懸り緑水の蔭をひたし殊に秩父連山波濤の如く野徑の寸馬豆人は一幅の丹青に似て眺望佳なれば詩客騷人酒肴を携へて佳景を賞讀して措かず。

荻生徂徠屋敷跡 一世の大儒荻生徂徠柳澤吉保に仕へて川越に居せり現今の宮下町に其の屋敷跡を止め又當時愛翫せしと云ふ石燈籠は今も尙近郊の某農家にありて古人の跡を偲ぶものありと。

善知鳥坂 一に鳥頭坂又は鳥塘坂とも書き古歌に記す處なり  
うたう坂越へて苦しき行末を  
やす方となく鳥の音もかな

と川越東京間の道路に沿ひ老杉路を蔽ふほとり細雨の景掬すべし。

北足立郡

地勢沿革 明治十一年十一月五日郡制施行の地、縣下の東南に位し十三町五十三ヶ村よりなり廣袤東西六里九町、南北十里三十三町面積三十一方里〇六人口二十七萬八千九百人中男十三萬七千四百人女十四萬一千五百人を有し、東南は東京府南足立郡に境し南は東京府北豊多摩郡に連り西南は東京府北多摩郡に隣し西は荒川、柳瀬川を以つて大里郡、比企郡、入間郡と犬牙相接す、北は元荒川を隔て、北埼玉郡に接し東は綾瀬川を挾んで南埼玉郡に界す、地勢概む平坦にして田園遠く開け南北に長く

東西に狭くして其形状恰も大和薯の如し、仲仙道中央を貫通して七十餘の公益道路は葉脈の如く之を補綴し加ふるに仲仙道、奥州、東武、東上の各鐵道及西武鐵道電車の施設ありて、交通頗る便利なり、荒川綾瀬等の諸川は郡の東西を環流し舟楫の便亦尠からず加ふるに土地肥沃にして農作に適し、一般的に人煙稠密なり、市街の最も繁華なるは大宮町及川口町にして浦和、鴻巣、鳩ヶ谷之に亞ぎ商工業年を逐ふて盛んなり、舊郡役所を浦和町に置く浦和は戸數二千九百九十六戸人口一萬一千六百九十三を有し縣下の樞要地たり。

産業 工産物の三六、〇九三、九二七圓を主腦として農産の二〇、八九三、八一三圓之に次ぎ畜産の一六〇三、二八二圓、林産の一三三、七〇一圓等の順位にして商業の繁榮と相俟つて一般財界の潤澤をかもし財源の餘潤は商工業の向上發展を助長しつゝあり、

交通 國道延長十二里二十九町、縣道六六路は、九十五里八町に延び其他の重要里道一、一一二餘に達し此の延長二百七十六里十二町は網狀線の如く發達せる中を國有私設の鐵道四方に延び而も郡下を貫流せる二大河川は水勢豊かにして舟楫の便に乏しからず、水陸相俟つて交通の至便なる稀に見る處なりその國有鐵道は中仙道線奥州線と合して三十一哩八分に延び私設の東武、東上、川越電車は合して四十五哩一分に達す。

郵便局 市街股賑なれば従つて通信機關の設置も多く浦和郵便局を始め十七個所の三等郵便局及電信電話の取扱局を合して二四ヶ所の配備あり通信事務には何等の不便なく電話加入者の如きも近時著しく増加して一、一七八口に及べり。

官公署 浦和警察署は浦和町にありて鳩ヶ谷、川口、大宮、鴻巣、の各所に警察署及分署を置き管内治安に任ぜり、

裁判所 浦和區裁判所は浦和町にありて二町十二ヶ村を管轄し、志木、大宮、鳩ヶ谷、上尾、鴻巣等には各出張所を設け登記事務を掌らしむ。

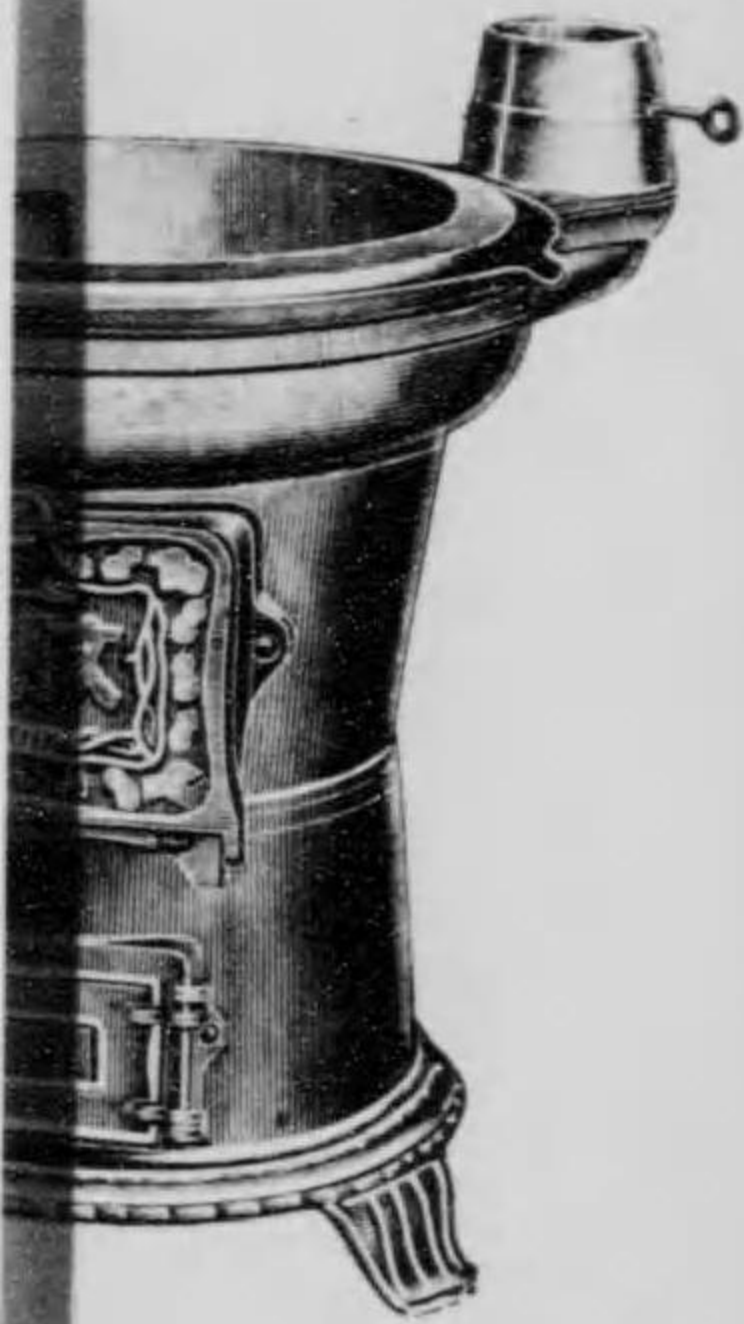
浦和稅務署 浦和町にあり東京稅務監督局の管下に屬し北足立郡一圓を管轄す

教育 一般に教育觀念濃厚にして小學校數本校七十七校十ヶ分校を有し就學兒童數男女合して四萬五千八百二十八名に達し就學百分比は實に九九人六八の歩合を示し出席歩合亦良成績を納め居れり

各種學校 中等程度の各種學校は公私立を合して八校あり公立武陽實業學校を除く他は私立にして大正實科學校、松壽學校浦和産婆看護婦學校、鴻巣裁縫學校、埼玉産婆看護婦學校、細田裁縫學校、宮崎裁縫女學校等にして之等各學校は何れも相當の生徒を收容し幾多の卒業生を出し事蹟の見るべきもの亦尠しとせず。

浦和高等學校 多年郡下の翹望せる處にして大正十年大英斷の下に創設せられたる縣下最高の高等教育機關にして現在生徒數五七一教諭講師合して三十八名あり。

官幣大社氷川神社 東北本線大宮驛より東北十一町大宮町高鼻に在り、須佐之男命、大己貴命、稻田妃命、の三座を祭神とし孝昭天皇の御宇創建されたるものと傳ふ源鎌倉に頼朝



金物卸問屋

鳴

鍋

埼

電

明治十一年一月五日郡制施行の地、縣下の東南に位し十三町五十三ヶ村よりなり廣袤東西六里九町、南北十里三十三町面積三十一方里〇六人口二十七萬八千九百人中男十三萬七千四百人女十四萬一千五百人を有し、東南は東京府南足立郡に境し南は東京府北豊多摩郡に連り西南は東京府北多摩郡に隣し西は荒川、柳瀬川を以つて大里郡、比企郡、入間郡と犬牙相接す、北は元荒川を隔て、北埼玉郡に接し東は綾瀬川を挟んで南埼玉郡に界す、地勢概む平坦にして田園遠く開け南北に長く

の生徒を收容し幾多の卒業生を出し事蹟の見るべきもの亦尠しとせす。  
 浦和高等學校 多年郡下の翹望せる處にして大正十年大英斷の下に創設せられたる縣下最高の高等教育機關にして現在生徒數五七一教諭講師合して三十八名あり。  
 官幣大社氷川神社 東北本線大宮驛より東北十一町大宮町高鼻に在り、須佐之男命、大己貴命、稻田妃命、の三座を祭神とし孝昭天皇の御宇創建されたるものと傳ふ源鎌倉に源稱を頼朝



營業科目

登録商標

文明竈

鳩特製印

大正竈

鳩

鳩崎平五郎商店

振替東京一七九七番  
 電略(シマヤ)又ハ(ハマシ)

埼玉県川口町

錫平本店

電話四〇番

資本金八百貳拾九萬圓

(全額拂之濟) 埼玉縣北足立郡浦和町



株式會社

武州銀行

頭取 大川平三郎

支店所在地

東京市内 埼玉縣下 支店

東京支店 麹町区永樂町二丁目一番地  
 京橋支店 京橋区柳町五番地  
 日本橋支店 日本橋区新葎町三番地

川口町 幸手町  
 蕨町 草加町  
 大宮町 熊谷町  
 岩槻町 妻沼町  
 粕壁町 本庄町

川越市本町  
 川越市南町  
 入間川町  
 豊岡町  
 松山町

白井式工口型  
齒科鉄骨汽燈臺

林



製造發賣元

埼玉縣川口町若舟町

白井鑄工場

工場主 白井福藏

埼玉縣川口町金山町

白井機械製作所

主任 宇谷千代松

埼玉縣大宮町

武州銀行大宮支店

電話長五一番

温泉  
割烹

大宮遊園地ホテル

電話二一〇番

埼玉縣大宮町氷川公園

千ヨダ式高級  
稲麦扱機

名譽大賞金牌受領



埼玉縣川越市六軒町

木屋製作所

電話二一〇番

埼玉縣東上郡川越驛前

木屋製作所工場

電話四四四番

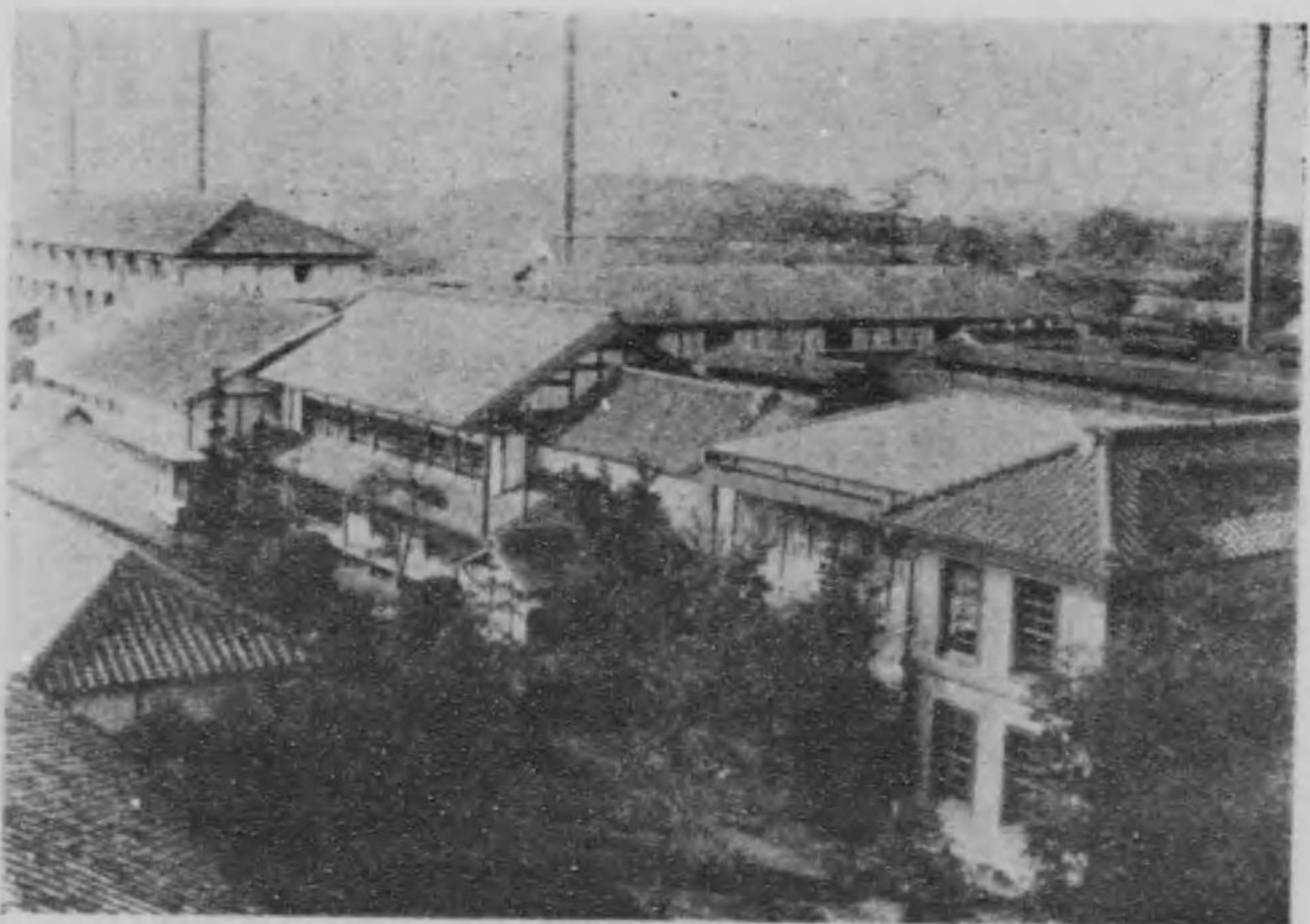
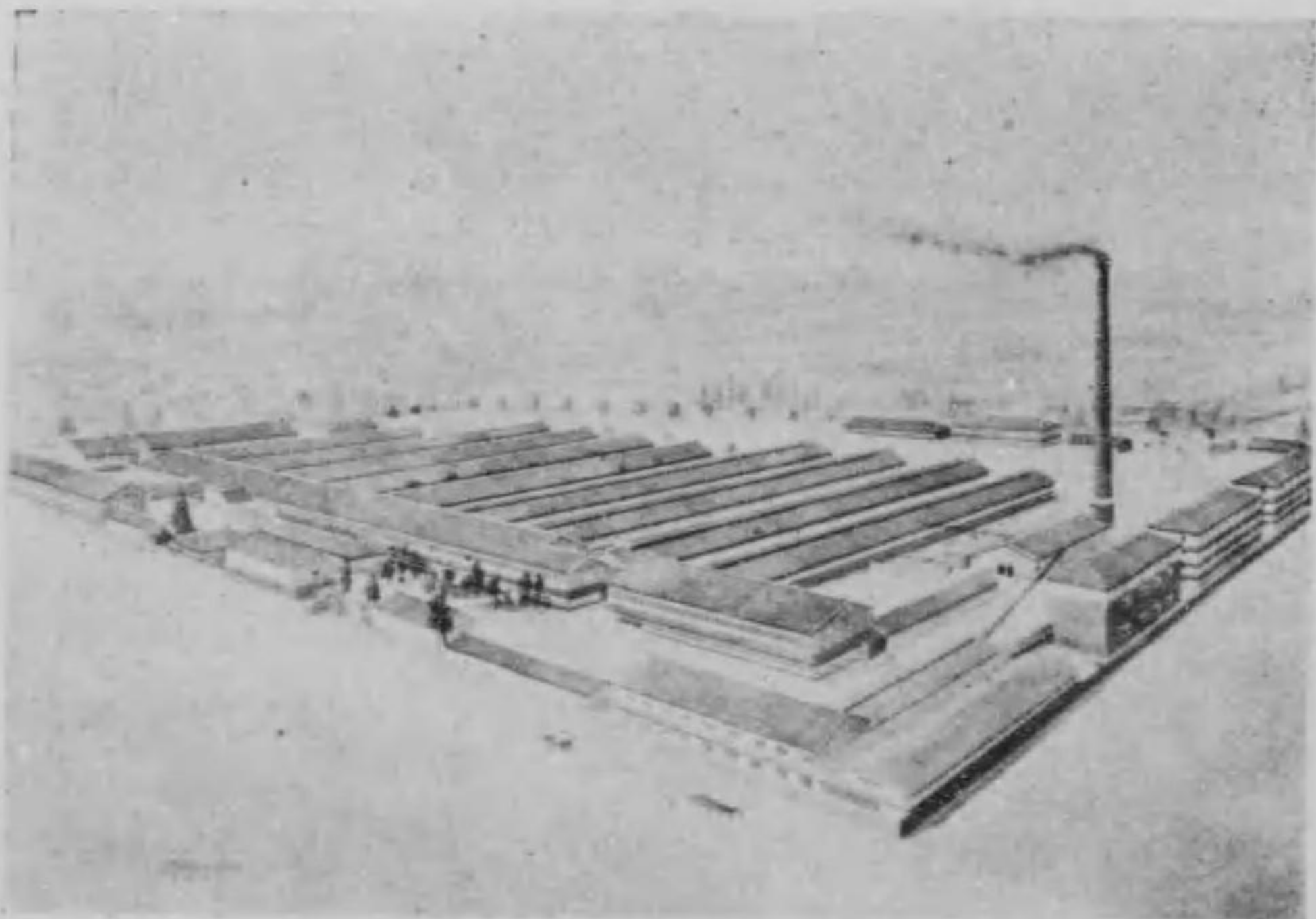
千ヨダ式稲麦扱機  
製造元

九 渡邊組大宮製絲所

埼玉縣大宮町

所長 山崎幸次郎

電話大宮一〇〇番  
電話長六番長二六九番



埼玉縣大宮町

共 大宮館製絲所

電話長六番長二六九番  
電話長六番長二六九番  
電話長六番長二六九番

へて以來武門の崇敬頗る厚く明治大帝東京御遷幸の後先づこの社に行幸ありしより神威いよ／＼あらたかなり。八月一日を例祭とす(別項名所舊蹟の部参照)

調神社 浦和町にあり、縁起を繹ねれば神皇十代崇神天皇の勅命に依りて伊勢皇大神宮の近郷より御初穂を集納の御倉を此に建立して勅使倭姫命宮柱大敷天照皇大神神稻倉魂をして所豊受姫命二柱の大神を奉齊し調神社と稱し奉れり、寶龜二年六月

夏時納涼に適す又東方畑地に接し櫻樹多し園内に忠魂碑あり陽春の候遠近より杖を曳く者多からず。

田島原櫻草 櫻草を以て名高き田島原は土合村大字田島に在り浦和町より志木町に通ずる沿道一帶の原野にして往古武蔵野の俤を見る、夏秋の候は茅茨繁茂し毎歲河水氾濫して土砂と共に之を浸し冬季に入りて芟除せられ春季は野草萌出し



領受牌金



埼玉縣東上緑川越驛前

木屋製作所工場

電話四四四番

千石式稻麦扱機  
製造 一元

共大宮館製絲所

埼玉縣大宮町

電話長六番長二六九番  
電信異端(一、二、三、四)  
振替口座東京三四五九一番

へて以來武門の崇敬頗る厚く明治大帝東京御遷幸の後先づこの社に行幸ありしより神威いよ／＼あらたかなり。八月一日を例祭とす(別項名所舊蹟の部参照)

調神社 浦和町にあり、縁起を釋ねれば神皇十代崇神天皇の勅命に依りて伊勢皇大神宮の近郷より御初穂を集納の御倉を此に建立して勅使倭姫命宮桂大敷天照皇大神神稻倉魂をして所豊受姫命二柱の大神を奉齊し調神社と稱し奉れり、寶龜二年六月二十日には勅使宮内少輔從五位下中臣朝臣常奈奉幣を納む醍醐天皇延長五年十二月右大臣藤原忠平延喜式神名帳を奉り本社も是の式中に記載せられ改めて其の奉幣數に預りたり、建武二年足利尊氏社殿改築の上祈願所となし又那賀郡廣木村吉原城主一色大興寺入道範行は田五ヶ村を寄附せり貞和觀應の頃兵燹に罹りし爲宏大なる社殿も灰燼に歸せしが康暦二年に至り佐々木近江守持清北條分國の時社殿改築を寄附せり、斯く當社は古來より武將の尊崇厚く社殿の改築、幣錢の寄附等其の數を知らず、近くは明治十二年七八兩月英照皇太后陛下伊香保行啓の御時上下兩度まで御小憩遊ばされ金幣を賜ふ、明治三十二年四月三日縣社に昇格す。

玉藏院 浦和町にあり、新義真言豊山派にして弘仁十二年嵯峨天皇の御宇弘法大師勅を奉じて弘教利民の爲め東國遍歴の際此處に一字を建立し自ら地藏尊の像を彫刻し、之を安置したるの靈地にして其後中興第十二世住職有尊大日如來を安置して本尊となし後世別に地藏堂を建つ堂宇は屢々火災に罹り再建したるものにして現在の本堂は元龜三年第四世住職有盛の經營なりと云ひ傳へ毎年八月地方稀なる大施餓鬼ありて群集堵の如し。

妙顯寺 日蓮宗にして戸田村大字新曾に在り本尊は日蓮大菩薩の像にして之を子安の祖師と稱し相傳ふ、文永八年日蓮配所佐渡國に到るの途墨田五郎時光の領内新座村を過ぎし時偶々時光の妻難産に苦めるあり請ふて安産の符を得忽ちにして男子生る依つて徳丸と名づく時光の信仰厚く父子共に終に甲斐國身延山に入り身を日蓮に投じ出家して日徳、日堅と云ふ後ち日蓮の高弟日向を請ふて開山し父子相續いて二世三世の住職たりしと云ふ、安産の靈符は効顯著しく遠近之を請ふもの尠からず。

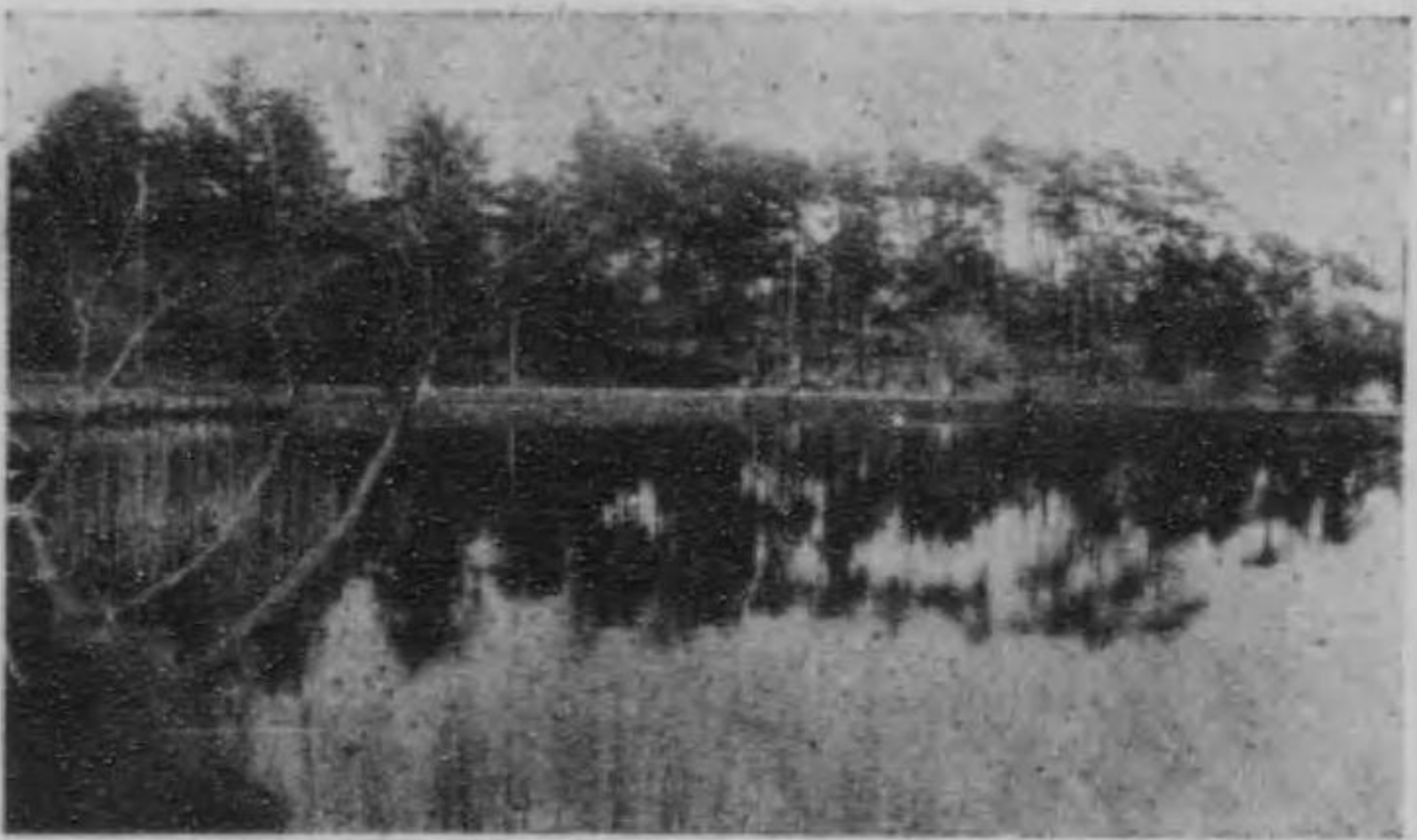
泉福寺 川田谷村にあり、天台宗にして地藏大菩薩を本尊とす淳和天皇の天長年間僧慈覺大師の營みし梵宇本尊は大師自作と傳ふ阿彌陀如來十一面觀音藥師如來亦然り、壽永年間兵燹に罹りたるを文暦年間春、住尊上人之を再興し寶暦二年改築し現今に至る、阿彌陀如來は國寶として指定せらる。

平林寺 大和田町大字野火止にあり、臨濟宗妙心寺派にして本尊は釋迦如來なり、永和元年城主太田道眞の創立にして開祖は勅諭直指見性禪師なり、天正十七年兵火の爲め寺宇全焼し將に荒廢せんとせしを家康幾山和尚に請ひて再興せしむ、松平輝綱此の地に移すや堂宇寺門輪奐の美を極む、其の本寺は妙心寺派の別格中本寺にして同所の専門道場として且つ名士の墳墓寺として著名なり。

調宮公園 浦和町にあり明治七年二月調宮公園偕樂地と定められ縣の管理地たりしが明治二十四年九月以來町の經營に屬せり地域四千九百四坪は縣社調神社に接續し櫻杉老樹鬱蒼として

夏時納涼に適す又東方畑地に接し櫻樹多し園内に忠魂碑あり陽春の候遠近より杖を曳く者尠からず。

田島原櫻草 櫻草を以て名高き田島原は土合村大字田島に在り浦和町より志木町に通ずる沿道一帶の原野にして往古武藏野の俣を見る、夏秋の候は茅茨繁茂し毎歲河水氾濫して土砂と共に之を浸し冬季に入りて芟除せられ春季は野草萌出し所謂百花爛漫たるほとりを荒川の碧流近く圍り仰視すれば武甲連山霞の裡に幻影として浮き出で眺望佳なり其の櫻草は史蹟名勝天然物記念保存法に依り又學問上貴重なる天然物として大正五年七月十七日、内務省告示を以て保存告知ありたり



水川公園

氷川公園 大宮町高鼻にあり、官幣大社氷川神社の北南一帶の高地にして縣の管理に屬す園内杉木鬱蒼として幽邃の勝地たり。

伊奈備前守忠次の墓 鴻巣町大字鴻巣勝願寺に在り、忠次は三州小島城主伊奈忠家の子少くして大志あり家康に従ひて屢々軍功を樹つ亦克く人民を愛撫して或ひは水利を治め又或ひは勤儉素朴の風を養ふ等富國力作の治績大に揚る、今上陛下功勞を思召され特に正五位を追贈せらる勝願寺は忠次の閑居せる處墳墓亦寺内に在り

松平伊豆守信綱の墓 は大和田町野火止平林寺にあり、舊大瀧藩主の菩提寺にして元岩築に在り信綱智謀絶倫にして功績の偉大なることは普く世人の知る所、今上陛下御即位の大典を行はせらるゝや其功勞を思召され從三位に追陞せらる

善光寺 川口町にあり平等山阿彌陀院と號す、信濃國善光寺に安置する阿彌陀の告により建久六年五月十五日三尊の彌陀を模鑄す、後堂宇を建立して善光寺に擬せり。

入間郡

武藏野は月の入るべき山もなし  
尾花が末にかゝる白雲

西部一帶の地は秩父連山に接するの故を以つて地勢高燥なれども以外の地は所謂武藏野の平原にして林野田圃遠く相連る、此處入間郡は東に荒川を挟みて北足立郡に境し西は秩父連山を以つて秩父郡に接す、南は東京府下北多摩、西多摩の兩郡に隣り北は越邊川を隔て、比企郡と相對す廣袤東西一里十八町南北六里二十町面積五方里〇九人口二十二萬六千三百人中、男十一萬七百人、女十一萬五千六百六十人なり。舊幕時代に於ける小藩割據の地明治二十九年八月一日郡制施行せられ現在の六町五十六ヶ村に分たる。

豊岡町 は人口七千五百五十一人(大正十年末)郡内の名邑にして舊藩時代日光街道の要路に衝り現今は模範町として小都邑を

形成せり。

●**所澤町** は二十世紀の初頭を彩る文化の魁として天下の所澤たり飛行機と關聯して其名最も著はる戸數一、七六五戸人口八六一九を有し所澤飛白茶甘諸繭等を産す、村山耕三富甘諸とは古來著名なる産物にして他に其比を見ざる逸品たり、明治四十二年の創設なる陸軍航空學校を始めとして氣象觀測所、飛行機製作所、同格納庫等白亞相連りて天を摩せり

●**産業** 主なる産物は米麥甘諸の農産物を始め、生絲、眞綿織物等にして年産額尠ならず、又特有物産として相當の収益を納めつゝ、あるものに川越双子織あり、所澤よりは飛白を産しその越生よりは越生絹を産す、茶の名邑狭山よりは銘茶を産し宇治と東西相拮抗せり。

●**教育** 初等教育よく普及し就學兒童數三六、五五六に達し其の就學百分比は九九、六七の趨勢を示し居れり、町村立の各種學校に農業學校、實科高等女學校、實業補修女學校、蠶業學校、實業學校等あり、補助機關として公立三一ヶ圖書館、私立圖書館二あり、多く和漢書を藏す、平均一日の閱覽人員二八一名なり。

●**佐々沼** 川越市にあり、赤間川北より注ぎ分れて九十川となり灌漑の便水産の利多し、沼西の藥師堂は松原美濃守吉保の建立せし所にして清秋觀月の勝あり。

●**本城山城趾** 柳瀬村にあり柳瀬川近く迫り懸崖絶壁自然の要害を爲す築城年月詳かならざれども長祿以後に太田、北條氏此に據れり現時僅かに壘濠を止むるのみ。

●**天覽山** 飯能町を去る北西數丁の處に老松鬱蒼たる一小丘あり、天覽山之なり、丘上十六羅漢の石像を刻せるに依り羅漢山とも呼べり。若しそれ山頂に起ちて四顧せんか峯巒の間を流るゝ名栗川の清流を眼下に俯視し萬頃の周圍樹林延亘幾十里に互りて其窮まる處を知らず眼を轉じて南西を望めば雲煙模糊の間に富士の麗姿を望み語るが如き筑波の翠黛は東方に聳ゆ明治十六年近衛師團の演習に際し 明治天皇此處に行幸あらせられ親しく諸軍を御統監あそばされし聖跡に因み是より天覽山と改稱し頂上の碑に行啓の盛事を記して永久に不朽を傳ふ。



飯能天覽山

●**北野天神社** 入間郡小手指村にあり、國謂地祇神社、物部矢神社及天滿神社の三社を併稱して俗に北野天神社と云ひ菅原道真公を合祀す

●**法恩寺** 越生町にあり天平十年行基菩薩の創建にして應永年間僧榮曇の中興せし所眞言宗にして關東十一ヶ寺の一たる古刹なりしが明治三十四年火災に罹り烏有に歸せり

●**新月ヶ瀨梅** 梅園村にあり古來梅花の名所として知られ文人

墨客の賞觀する處明治三十二年越邊河畔の地を下して公園と爲せり、爾來都人士の來遊年と共に多きを加へ新月ヶ瀨の稱あるに至る。

●**龍穩寺** 曹洞宗關東三ヶ寺の一にして草創大同二年太田道真の中興せし所なりと云ひ傳ふ大正二年五月火災の爲め烏有に歸せり境内幽邃にして俗塵を絶つ

●**狭山の御茶**

御茶は終るしお茶師は歸る  
焙爐ながめて眼になみだ  
姿悪くも色香は深い狭山銘茶の  
味のよさ  
お茶になりた  
狭山のお茶に  
なつてお主に  
好かれたい

とは、なべてあどけなき女童子の口吟むお茶に由縁りの茶摘歌なれども編者をして釋すれば  
戀衣うらみいまわの限りぞと  
知らせて絶ゆる命ともかな

となむ、切なる戀慕の情になやめるものを知るや知らずや花恥かしき乙女子が、そが茶摘の小手の上るさに拍子揃へての節面白くうたひにこそ、茶摘みに名も高き宇治は山田の里にのみと思ひしにこは如何に此處は武藏國に其名も入間なる狭山が里の繁田園ならむとは、只知る園は遠き足利時代より日本茶五場の一として名聲隠れなき武州狭山の名園徳川氏の其の頃は旅商人や參勤交代の其折に旅の疲れも名園の一服の妙香に癒へ身も心も清々とかつぐ陸尺も輕ろやかにお茶は狭山や、狭茶はお茶よと甲乙語り傳へてもてはやしければ其の名の津々浦々に至る迄で響き渡りぬ、當主繁田武平氏は明治初年米國に販路を開拓し製茶直輸出の魁をなし栽培に製法に一層の研究を積み學理と經驗とに基き遂に獨特の製法を案出し斯業に一新紀元を劃するに至れり、其の蘊奥は再製の秘法にありて殆んど天下獨歩と稱せられ最近の機械應用に關しても他の追従を許さざる特技を有せりさればにや明治大正を通じて高貴の御用命を始め江湖の愛顧日に月に加はる所以のもの蓋し故なきに非らざるなり

●**山口千手觀音** 入間郡の山口にあり、千手觀音を本尊とし不動毘沙門をも合置す、開山は僧行基にして開基は弘法大師なりと云ひ傳ふ、行基大師第四十五代聖武帝の勅願によりて諸國を遊化し遂に當地に來たり翁樽たる樹林の中にて千手蛇羅尼を唱ふる聲鈴瓏として聞へければ大師奇異の思をなし樹下に懸つて俱に念誦し玉ふ、その聖容を拜するに及び靈光の偉を末世に傳へ有縁の



山口千手觀音



株式會社

飯能銀行

埼玉縣入間郡飯能町

電話 三〇番  
電信 異号(〇八)

高橋丹徳  
鈴木徳次郎商店  
材木商  
建築請負

埼玉縣川越市六軒町  
電話 川越八番



株式會社

能 銀行

埼玉縣入間郡飯能町

電話 三〇番  
電信 異号(〇八)

南千住支店 東京府下南千住町  
出所 埼玉縣入間郡吾野村  
全 同縣同郡名栗村  
全 同縣同郡高萩村



飯能織物同業組合  
埼玉縣入間郡飯能町  
電話 一四番

丸花印特殊廣巾綿織物

ワイシャツ地 子供服地  
子供帽 子生地

埼玉縣飯能町



丸中織物株式會社

電話 四三番  
電信 畧號(〇ナカ)

材木商 建築請負

鈴木徳次郎商店

高橋丹徳

埼玉縣川越市六軒町  
電話 川越八番



埼玉縣入間郡飯能町  
武藏野鐵道株式會社

埼玉縣所沢町

株式會社 所澤銀行

電話 所澤 二番

國分寺支店

中央線國分寺駅  
電話 一四番

入間川支店

埼玉縣入間川町  
電話 六五番

北野天神社 入間郡小手指村にあり、國謂地祇神社、物部矢神社及天満神社の三社を併稱して俗に北野天神社と云ひ菅原道真公を合祀す  
法恩寺 越生町にあり天平十年行基菩薩の創建にして應永年間僧榮曇の中興せし所真言宗にして關東十一ヶ寺の一たる古刹なりしが明治三十四年火災に罹り烏有に歸せり  
新月ヶ瀬梅 梅園村にあり古來梅花の名所として知られ文人

武帝の勅願によりて諸國を遊化し遂に當地に來たり翁鬱たる樹林の中にて千手蛇羅尼を唱ふる聲鈴瓏として聞へければ大師奇異の思をなし樹下に懸つて俱に念誦し玉ふ、その聖容を拜するに及び靈光の偉を末世に傳へ有縁の



音 觀

朽を傳ふ。

北野天神社 入間郡小手指村にあり、國語神社、物部矢神社及天満神社の三社を併稱して俗に北野天神社と云ひ菅原道真公を合祀す  
 法恩寺 越生町にあり天平十年行基菩薩の創建にして應永年間僧榮曇の中興せし所眞言宗にして關東十一ヶ寺の一たる古刹なりしが明治三十四年火災に罹り烏有に歸せり  
 新月ヶ瀬梅 梅園村にあり古來梅花の名所として知られ文人

行基大師第四十五代聖武帝の勅願によりて諸國を遊化し遂に當地に來たり翁傳たる樹林の中に千手蛇羅尼を唱ふる聲鈴璫として聞へければ大師奇異の思をなし樹下に懸つて俱に念誦し玉ふ、その聖容を拜するに及び靈光の偉を末世に傳へ有縁の



能 株式 會社 飲能銀行

電話 三〇番  
 電信 異号(〇八)

南千住支店 東京府下南千住町  
 出所 埼玉縣入間郡吾野村  
 全所 同縣同郡吾野村  
 全所 同縣同郡高萩村



飲能織物同業組合  
 埼玉縣入間郡高萩町

丸花印特殊廣巾綿織物  
 ワイヤツ地 子供服地  
 子供間子生地

丸中織物株式會社

電話 四三番  
 電信 異号(〇ナカ)

埼玉縣飲能町

材木商 鈴木徳次郎商店

埼玉縣川越市六軒町  
 電話 異号(八番)



武藏野鐵道株式會社

株式會社 所澤銀行

電話 所澤 二番  
 國分寺支店 中央線國分寺站  
 所澤支店 中央線所澤站  
 入間川支店 所澤市入間川  
 所澤支店 所澤市

銘酒 湖乃月

釀造元

奥川梅三郎商店

埼玉県入間郡四百澤村  
電話川越二〇四番

登録商標

一里乃譽一

和洋菓子  
武蔵おかし  
里自慢

製造本舗

埼玉県川越市南町

分亀屋榮泉

電話二二八番  
振替東京五二〇九番

店主 中島良輔

銘酒 高標 袋代川

埼玉県川越市志多町

釀造元 合資 名坂商店

電話一三二番  
電信黒野(十廿九)

埼玉県川越市

埼玉製氷株式会社

電話三〇二番

營業 科目 小麥粉製造販賣

埼玉興業株式会社

埼玉県深谷町

電話一三番(四九番)  
電界(廿三)(八八番)

埼玉県本庄町

橘館製絲株式会社

本庄工場

電話長一〇番

埼玉県北埼玉郡忍町

株式 忍商業銀行

電話行田 一三五番  
一七七番

埼玉県北埼玉郡加須町

株式 加須銀行

久喜支店 埼玉県南埼玉郡久喜町四一三  
東京支店 東京市日本橋区南茅場町四四

埼玉県本庄町

武州銀行本庄支店

道俗をして二世の所願を遂げしめんと茲に度生の方便を遣し玉ふ、後數世を経て嵯峨天皇の御代に弘法大師湯殿山遊行の砌此地の美なるを知召めされ樹下に坐して阿觀禪念を凝らし給ふに不思議や忽然白髮千丈宛然たる老翁現はれ大師に言つて曰く吾れは此の山の地主なり、大徳の來儀を待つこと久し干斯行基大士惠得の千年觀音在ませど土人愚にして靈像風雨の爲めに既に了はらん大徳速に行きて堂宇を建て給へと言ひ了りて消ゆ、大

せられたる梵鐘其他の寶物多數を藏す、境内に在る坂東九番の觀音堂は曩年寺社保存法に依り内務省より資金下賜あり、四面山に圍まれ東方の一角僅かに都幾川の溪谷に依りて開かれ眺望に富む。

物見山 岩殿觀世音に接する地にして四顧眼界を遮るるものなく遠く兩嶺、富岳の模朧を見るべく近くは關八州の平野を一眸の間に聚めつくして眺望佳なり、近時都獨、櫻花の名所とし

# 合資 名坂商店

電話 一三二番  
電報 果野 (ナサカ)

# 武州銀行本庄支店

道俗をして二世の所願を遂げしめんと茲に度生の方便を遺し玉ふ、後數世を経て嵯峨天皇の御代に弘法大師湯殿山遊行の砌此地の美なるを召召めされ樹下に坐して阿觀禪念を凝らし給ふに不思議や忽然白髮千丈宛然たる老翁現はれ大師に言つて曰く吾れは此の山の地主なり、大徳の來儀を待つこと久し干斯行基大士惠得の千年觀音在ませど土人愚にして靈像風雨の爲めに既に了はらん大徳速に行きて堂宇を建て給へと言ひ了りて消ゆ、大徳言の如く之を需むれば果して茅棘の下に尋ね得依つて草堂を縮び尊像を安置せられたるものなりと、山口在の善男善女が二世の祈願所として尊崇厚く齋き祭る處なり。

## 比 企 郡

西部は四五百米の山嶽蟠屈し其の系脈蜿蜒として次第に東方に陵夷し松山町の東部に及ぶ槻川、都幾川の二川郡の中央を貫き南東に走りて越邊川に合し、更らに入間川に合して荒川に注ぐ中央部は林野耕地相半し東南部は平地遠く拓けて水田に富む茲比企郡は縣下の中央に位し縣全面積の十四分の一強に當り東は荒川を隔て、北足立郡に對し、西方は秩父山地に連り南東は越邊入間の二川を以つて入間郡に境し北は大里郡に接す、廣袤東西七里三十五町南北五里二十五町面積二十一平方里二九を有し人口九萬七千七百人を有し中、男四萬七千四百人、女五萬三百人なり。明治二十九年郡制施行の際多少の合離集散を見現在の二町二十六ヶ村と成る、松山町は舊郡役所の所在地として戸數一、五二三人口七、三六〇人を有し、郡下第一の大邑なり

●産業 重要物産としては米麥を第一位とし蠶絲之に次ぎ織物第三位に列し共に年産額相當に納め得らる、畜業林業の收穫亦見るべきものあり。

- 教育 郡下を通じて小學校三三校あり就學兒童數一八、〇一九にして就學百分比は九九、七一の比を示し成績良好なり、各種學校としては實業補習學校三三、幼稚園一、等にて何れも相當の發達を遂げ居れり。
- 縣立中學校 松山町に在り六學級生徒二九七人を有せり
- 圖書館 機關として公立圖書館六私立一あり主なる圖書は和漢書にして冊數合して七千内外に及ぶ
- 縣社箭弓神社 創建の年月は詳かならざれども巷間傳ふる處に依れば源賴義の勸請なりと境内老杉古松鬱蒼として風趣高雅なり、松山町に在り (詳細別項)
- 菅谷館址 菅谷村にあり往昔鎌倉府の豪勇島山重忠の館址にして廣袤三町四方今尙處々に殘堤を認め得て往時豪壯の様を想倒せしむ。
- 高見古戰場 往昔上杉定正、古河政氏を誘引し上杉顯定と戦ひし有名なる古戰場にして現在の高見四津山神社境内の山林一帯の地なり
- 笠山 腰越に在り一つに乳首山と稱し郡下第一位の高山にして海拔一千尺山頂に笠山神社を祭る西北に秩父連山を望み東方は關八州の沃野を看下し眺望絶佳なり
- 都幾山慈光寺 大字西平にあり草創は今を去る一千餘年前にして開基は釋道忠天台宗に屬し東國の名古刹にして國寶に指定

埼玉縣

せられたる梵鐘其他の寶物多數を藏す、境内に在る坂東九番の觀音堂は曩年寺社保存法に依り内務省より資金下賜あり、四圍山に圍まれ東方の一角僅かに都幾川の溪谷に依りて開かれ眺望に富む。

●物見山 岩殿觀世音に接する地にして四顧眼界を遮るものなく遠く函嶺、富岳の模糊を見るべく近くは關八州の平野を一眸の間に聚めつくして眺望佳なり、近時躑躅、櫻花の名所として曳杖の紳士亦尠からず。

●岩殿山恩障院 大同二年坂上田村麿の創立にして智山派眞言宗に屬し夙に關東の名古刹として知らる、後世源範頼の館址たりしと大字御所にあり。

## 秩 父 郡

縣下の西南部を占め四面殆んど山岳重疊して所謂秩父山塊をなし東京府下及び群馬、長野、山梨の諸縣と地を接し、其の長野と山梨と本縣との境に跨り毅然として峙てる甲武信嶽より二條の大山脈蜿蜒起伏して郡内に入り一つは北東に其の一つは南東に走り、所謂秩父盆地を劃す中を長江荒川、赤平、槻川、浦山、浦山横瀬の各支流を合して郡の中央部を東より北に貫流し舟楫の便稍や拓く、明治四年廢藩置縣の事あるや。



荒川上流大瀧 發電所附近之景

始め岩鼻縣の管轄となり、後入間熊谷の諸縣に屬し九年埼玉縣下に編入せらる、廣袤東西十一里、南北八里面積六十三方里にして縣下第一の大郡なり。大正十三年度人口十萬七千九百人、中男五萬三千二百人女五萬四千七百人なり、往昔は知々夫國と稱し別に國造を置かれ崇神天皇の御代八意思兼命十世の孫知々夫彦命國造として此地を賜ひし事あり、現今の秩父神社は此の二神を奉祀せるものにて當町下は夙くより近郷物貨の集散地として繁榮を極め、殊に汽車開通後は都會の華美風習を贏し市街の面目刷新せられしと雖も素より一部分的にして他は尙山間にありて多く機業に従ひ人情淳朴にして生活亦安定なり織物の名産地として夙に著はる。

●産業 世の所謂秩父編は郡下一圓より産出し起源遠く古へに胚胎し景行天皇の御宇創始せられたりと傳ふ、其の一般的に稍や注目を惹くに至りたるは文政年間の頃にして當時郡下の高篠村、横瀬村秩父町等に於て天然藍又は木皮木葉の煮出汁を以つて原絲を染色し一種の織物を製織せり之れ秩父銘仙の權輿にして以來幾多の變遷改良を加へ維新後に至り、専ら玉絲を原料として其製法に更らに一段の改良を加へ漸く表織物地となりたるものにして、價格の低廉と地質の堅牢とは好評噴々として今や雙壁たりし桐生伊勢崎を壓倒し一つに秩父二に伊勢崎、三に桐

生と指を屈するに至るもの蓋し因由無しとせず、伊勢崎、桐生地方は從來其の生産高に於て遙かに秩父の上位にありしと雖も價格の高騰は遂に既住過度期の經濟的恐慌時代に於て販路梗塞の蹉跌を招來し、生産過剩の處置に付き聊か當惑の状態に陥入りしかば止むなく之を秩父市場に提供し纔かに生産過剩の疲弊を免かれしと雖も一方世人は之を推知するに難く秩父織として賞翫するに至り秩父の名多いに著はれ遂に現今の隆盛を見るに至り。

往年全國的に冠たりし桐生、伊勢崎の兩邑の斯業界が現今の退嬰的氣味を醸すに至りたるは吾人邦家の爲め一つは以つて同地方に於ける斯業の前途に衷心遺憾とする處なりしが、幸に同地方の先覺者輓近之が恢復に銳意劃策する處ありて着々其の實績を擧げつゝある状態なれば近き將來に於て再び總花的殷盛を見るべしと豫想せられ聊か愁眉を開くに至る。

大正十二年度に於ける秩父郡の製品種類産額を列擧するば左の如し。

種類別	生産數量	價 格
絹 物	五、五二、三三六	九、五〇〇、一八七
切 絹	四七、一五〇、〇	八八七、三六三
工 絹	一、三〇二、〇	三五九、四一八
襪 絹	一三、二一一、〇	三二八、六四九
大 正 絹	三四、七一一、一	六三二、七八五
座 布 絹	一七、三五五、〇	五〇七、二八六
夜 具 地	六三、六〇一、〇	一、一五七、五三八
色 無 地	三三、一一一、〇	六一九、一七五
白 太 織	一九、五〇一、一	三〇五、〇〇三
計		一四、二三六、四〇四

郡は地勢山嶽相重りて耕地狭少なれば従つて農産物の特筆すべき事項尠く生絲繭の年額三十四萬一千三百三十五圓に大麥栲の稍や見るべきものあるのみ之等を總括して年額百五十八萬千八百九十六圓を産するに過ぎず。

教育 明治昭代に入りてより教育思想一般に濃厚となりて現在小學校數本校三十六校、二四分校を設置し兒童男八、二九三、女七、三〇九計一萬五千六百二名に達し其百分比例九九、四一の歩合を示せり、中等教育機關としては町立實科高等女學校、縣立農林學校の各一校あり、社會教育機關としては郡教育會、同青年團、同處女會、町村青年團、同處女會の外公私立圖書館の十九館を備へ教育の普及智能の發達に努めつゝあり。

交通 秩父鐵道株式會社の經營せる秩父鐵道は哩數二七哩九分にして年々の貨物集散一二八、九九〇噸を算せり。

縣社秩父神社 秩父町にあり、祭神は八意思兼命、知々夫彥命の二神を奉祀し更らに允恭天皇の三十四年知々夫彥命の遠祖を合祀して柞社と號す、嘉禎九年雷火の爲めに焼失せしを徳治二年に至り再建し遷宮式を行ふ後永祿十二年再び兵燹に罹り空しくなりしを天正七年に至り北條氏邦假宮を建立し圭田七石を附す同二十年七月徳川氏本殿を造營して今日に至る、明治四年縣社に列せらる、境内老杉古檜鬱蒼として壯嚴襟を正さしむ。

縣社猿田神社 吉田村字葦田に在り祭神は猿田彦命、天兒屋根命、武甕槌命、經津主命、比賣神にして造營は日本武尊なりと傳ふ、尊東夷征討の歸途立寄らせ給ひて御銜を御神體として猿田彦大神を祠り賜ひしものにして、明治十五年六月縣社に列せ

られ越えて大正十年十月神饌幣帛料供進神社に指定せらる。  
 縣社三峯神社 大瀧村字三峯にあり伊弉諾尊、伊弉冊尊を奉祀す社域千古の杉檜蒼として幽邃極りなし（別項參照）  
 縣社寶登神社 野上村藤谷淵にあり祭神は神日本盤余彥命、火産靈命、大山祇命にして日本武尊東夷征伐の途皇祖神日本盤余彥命を奉祀し給へるものなりと云ふ、明治三十一年九月縣社に列せらる、山麓に玉泉あり當時御秩を行はせ玉ひしと言ひ傳ふ、因て玉泉と呼び。

廣見寺 秩父町にあり、曹洞宗大林山と號し本尊は釋尊にして明德二年天光良産禪師の創建に係はる、本堂外、惣門、樓門庫裡開山堂、禪室等壯美なりしが大正二年祝融に災されて烏有に歸したれとも今や本堂再建の工竣れり。

大陽寺 大瀧村にあり臨濟宗建長寺派にして大日向山と號す後嵯峨天皇の第三皇子廣濟國師の開師にて國基三十四歳の時、佛光禪師の提誨に依りて大法の妙理を究め結跳跣座し給ひ草庵を卜して遂に入寂し給へり寺寶に國師の用ひ給ひし金綱法衣水晶珠數等寺寶として現存せり。

淨蓮寺 大河原御堂にあり妙榮山と號す法華道場にして靈驗極めて驗かなりと傳へ尊信せらる昔日は松山城主の一族殊に尊崇かりしと縁起に見ゆ。

金仙寺 影森村にあり應永年間香庵道虎和尚の創立に係はる臨濟宗建長寺派、建立後屢々兵火に罹り舊記悉く烏有に來し由緒詳かならず、現今の堂宇は元文二年五月造營せられたるものにして庭前の老櫻花時客と呼ぶ。

和銅遺蹟 原谷村黒谷にあり、元明天皇の和銅年間銅を献す銅澤と呼ぶ、附近に銅洗堀あり當時洗滌せし所なりと傳ふ。

鐘乳洞 武甲山麓なる影森村に在り、石灰岩壁の千仞勢ひ半空を摩するを見る崖下に一大洞窟横はる、稱して胎内潛と云ふ燭を點して洞内に入れば鐘乳點滴堆積して、巖形變化百出佛體を爲し蓮華を形造り龍蟠り雲捲く千態萬狀亦奇觀たり。

長瀨 秩父赤壁の稱ある長瀨は郡の國神村にあり秩父鐵道長瀨驛より約二町にして到る荒川の清流漸く窮まらんとするほとり奇峭亂立して奇景を展ぶ山高く水低く半林の山月を眺むの勝に至つて正に其名の赤壁に背かず（別項參照）

大 里 郡 地勢縣下の西北部に位し西南の一方は秩父連峯の餘脈を受け一體の高陵起伏すれども他は概ね平坦なる曠野にして、東に北足立、北埼玉の二郡を控へ西は兒玉郡に南は比企、秩父の二郡に接す、北は利根川を隔て、群馬縣に接す、廣袤東西五里三十二町南北四里十四町にして面積二十一方里八十、人口十七萬五



寶登山神社

秩父長瀨停車場前

溫泉旅館 寶登山亭

川魚料理 別業落成客室増加致し候へり 山中食御本憩共御主奇奉侍候

登 録 各種たび本舗

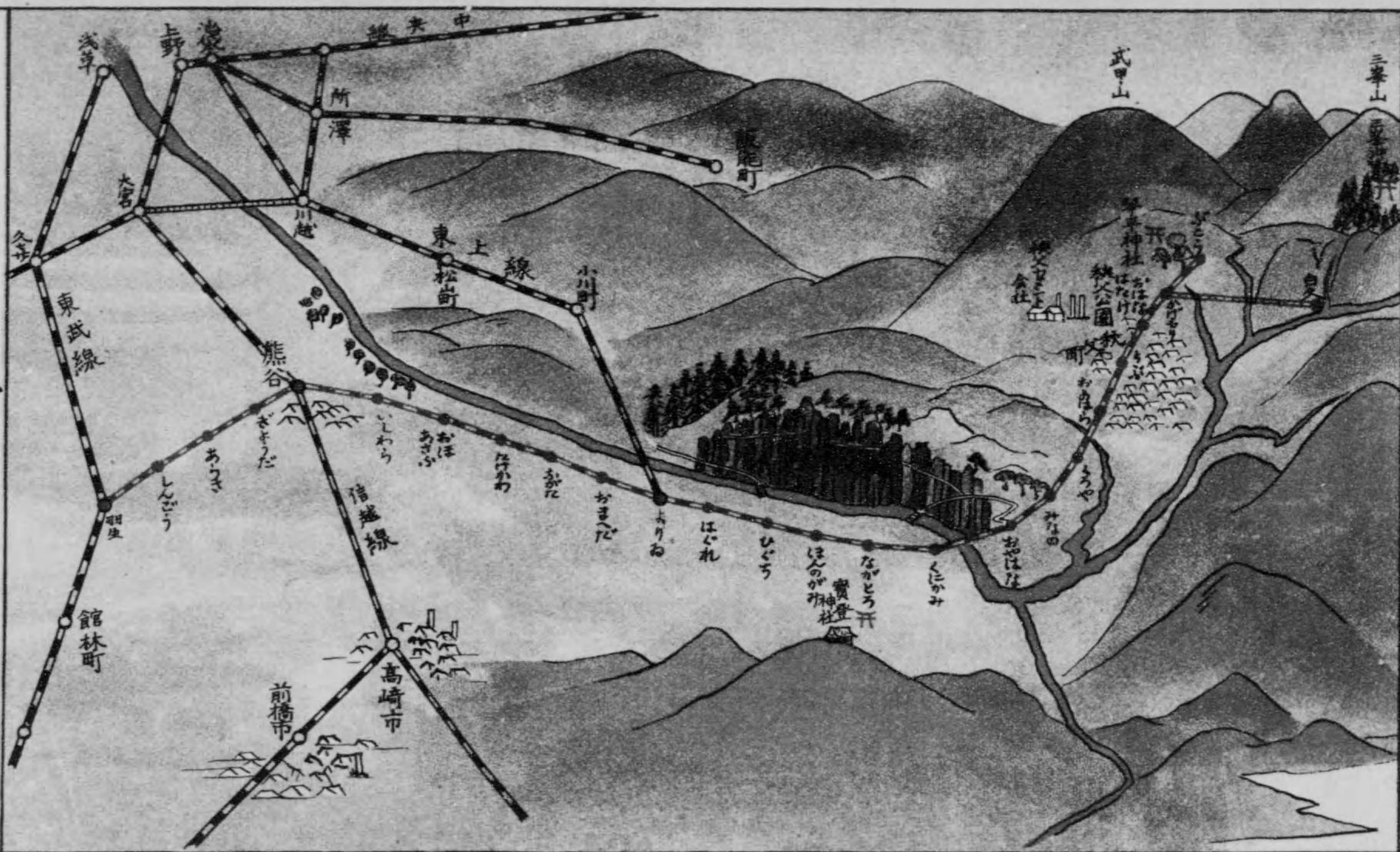
卸商 秋山沼助商店

各種たび 埼玉縣 行田町 電話 三三一 振替 東京二二〇五五番 電報 尾崎(アキ) 又(アキ)

縣社に列せらる、境内老杉古檜鬱蒼として壯嚴標を正さしむ。  
 〇縣社猿神社 吉田村字葦田に在り祭神は猿田彦命、天兒屋根命、武甕槌命、經津主命、比賣神にして造營は日本武尊なりと傳ふ、尊東夷征討の歸途立寄りせ給ひて御鉾を御神體として猿田彦大神を祠り賜ひしものにして、明治十五年六月縣社に列せ

秩父長瀨停車場前  
 温泉旅館  
 川魚料理  
**寶登山亭**

別業落成、客室増加致し候、付  
 中食御休憩共御立寄奉侍候



秩父鐵道株式會社  
 埼玉縣大里郡熊谷町  
 電話熊谷一四二番

日光足袋本舗  
**嶋島村株式會社**

本店 埼玉縣北埼玉郡新御所  
 電話羽生一七六 振替東京三二七  
 支店 東京市麹町三番町六八  
 電話四谷特長五二二番

地勢縣下の西北部に位し西南の一方は秩父連峯の餘脈を受け一體の高陵起伏すれども他は概ね平坦なる曠野にして、東に北足立、北埼玉の二郡を控へ西は見玉郡に南は比企、秩父の二郡に接す、北は利根川を隔て、群馬縣に界す、廣袤東西五里三十二町南北四里十四町にして面積二十一万里八十、人口十七萬五

登 録  
 コール 〇石刺印  
 〇英雅印  
 〇龍印  
 各種大〇  
 高 標  
 卸商 秋山沼助商店  
 埼玉縣行田町  
 電話三一 一 番  
 振替東京三二〇五五番  
 電話見玉(一五)二二二番

虎の巻醸造元藤崎物産商店は専ら百有十年至前の創業にあり、現店主物産氏は其子代自前醸造品は古今稀に見らる純良品に、其品質及各種賞金等出品毎に優等賞状等授賞あり、現至の醸造石高は各支店共併して五千石余下販路は、東京方面及埼玉縣下一周程と



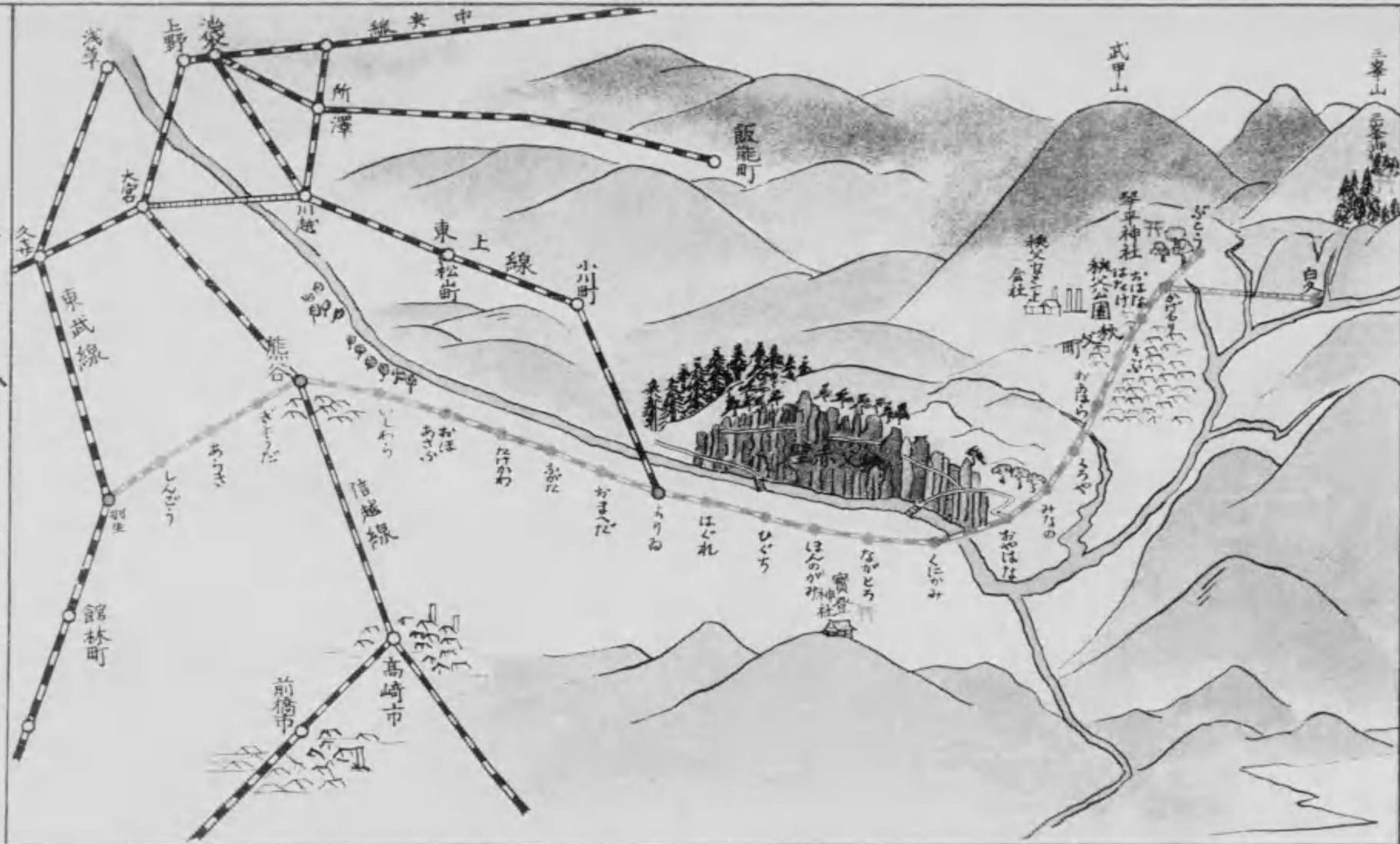
本 店 埼玉縣秩父線寄居町  
 第一醸造場 全縣全寄  
 第二醸造場 全縣 玉井村  
 第三醸造場 全縣 秩父町

目 業 營  
 足袋式 株式 會社  
 秋山商店  
 松緑足袋總本店  
 埼玉縣行田町  
 電話二六四番  
 振替東京三二二一三番



明治四年  
 縣社に列せらる、境内老杉古樹鬱蒼として壯麗を正さしむ。  
 團縣社椋神社 古田村字葉田に在り祭神は猿田彦命、天兒屋根命、武甕槌命、經津主命、比賣神にして造幣は日本武尊なりと傳ふ、曾東夷征討の歸途立寄りせ給ひて御鈴を御神體として猿田彦大神を祠り賜ひしものにして、明治十五年六月縣社に列せ

秩父長瀬停車場前  
 温泉旅館  
 川魚料理  
**寶登山亭**



秩父鐵道株式會社  
 埼玉縣大里郡熊谷町  
 電話熊谷一四二番

日光足袋本舗  
**鳩島村株式會社**

本舗  
 支店

地勢縣下の西北部に位し西南の一方は秩父連峯の餘脈を受け一體の高陵起伏すれども他は概ね平坦なる曠野にして、東に北足立、北埼玉の二郡を控へ西は兒玉郡に南は比企、秩父の二郡に接す、北は利根川を隔て、群馬縣に接す、廣袤東西五里三十二町南北四里十四町にして面積二十一万里八十、人口十七萬五

郵商 秋山物産商店  
 各種丸  
 高崎



本店  
 支店  
 支店

足袋本舗  
 秋山商店  
 支店

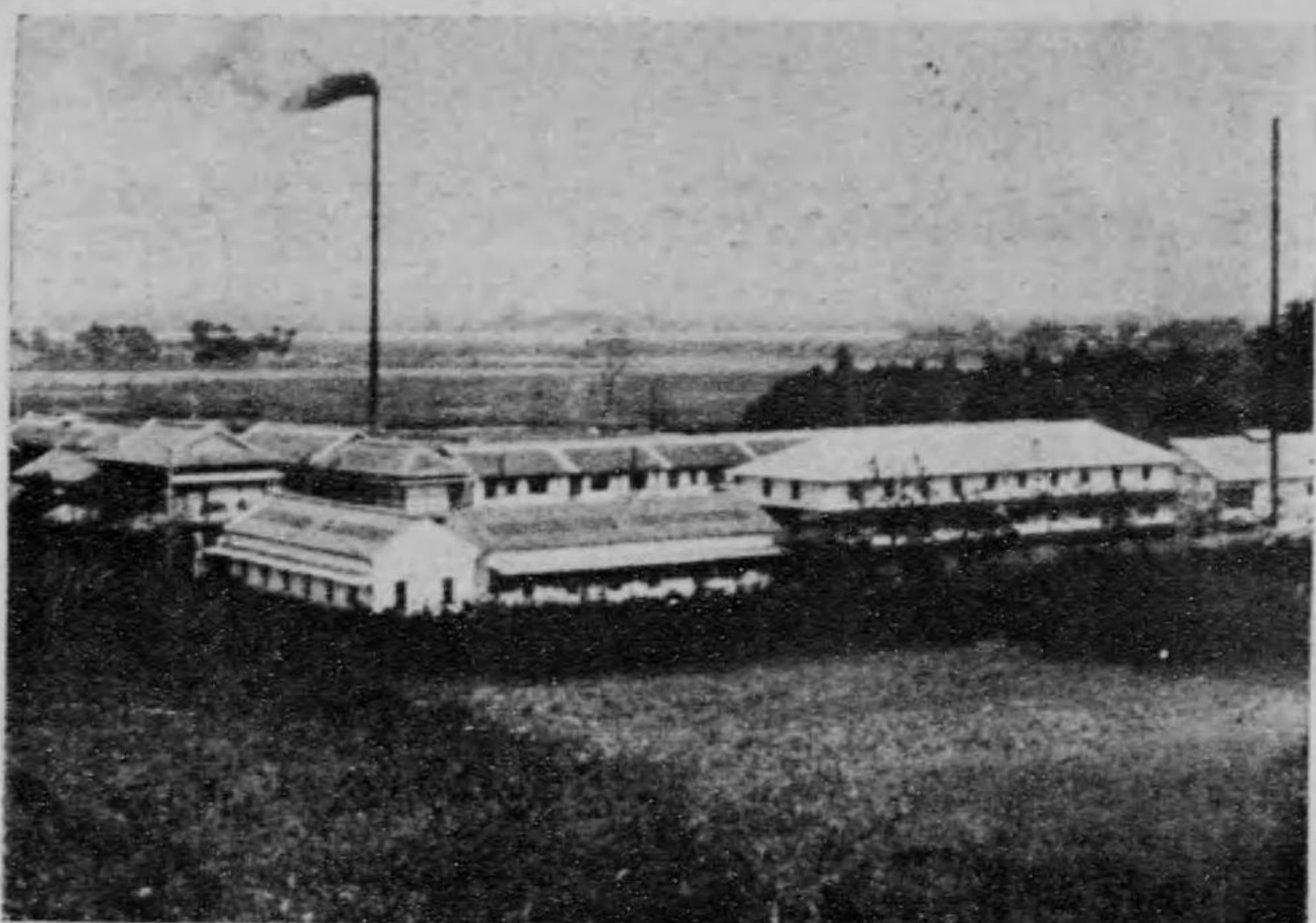
資本金六拾萬圓  
諸積立金貳拾五萬圓  
諸預金貳百四十萬餘圓

埼玉縣深谷町

株式會社 深谷商業銀行

電話七番

下敷 妻沼支店 大里郡妻沼町  
寄居支店 同 郡寄居町  
本庄支店 見玉郡本庄町  
小川支店 比企郡小川町



埼玉縣本庄町  
林合名社會支店 (A)  
電話一三六番  
電報(ホ)八(ホ)六

創立明治廿九年五月  
資本金參百萬圓

埼玉縣深谷町

株式會社 深谷銀行

電話三番一〇番  
電報(ホ)〇七

熊谷支店 埼玉縣大甲郡熊谷町 電話二四一番  
寄居支店 同縣同郡寄居町 電話一九番  
上尾支店 同縣比企郡上尾町 電話二六番

三 武州富國館製絲所

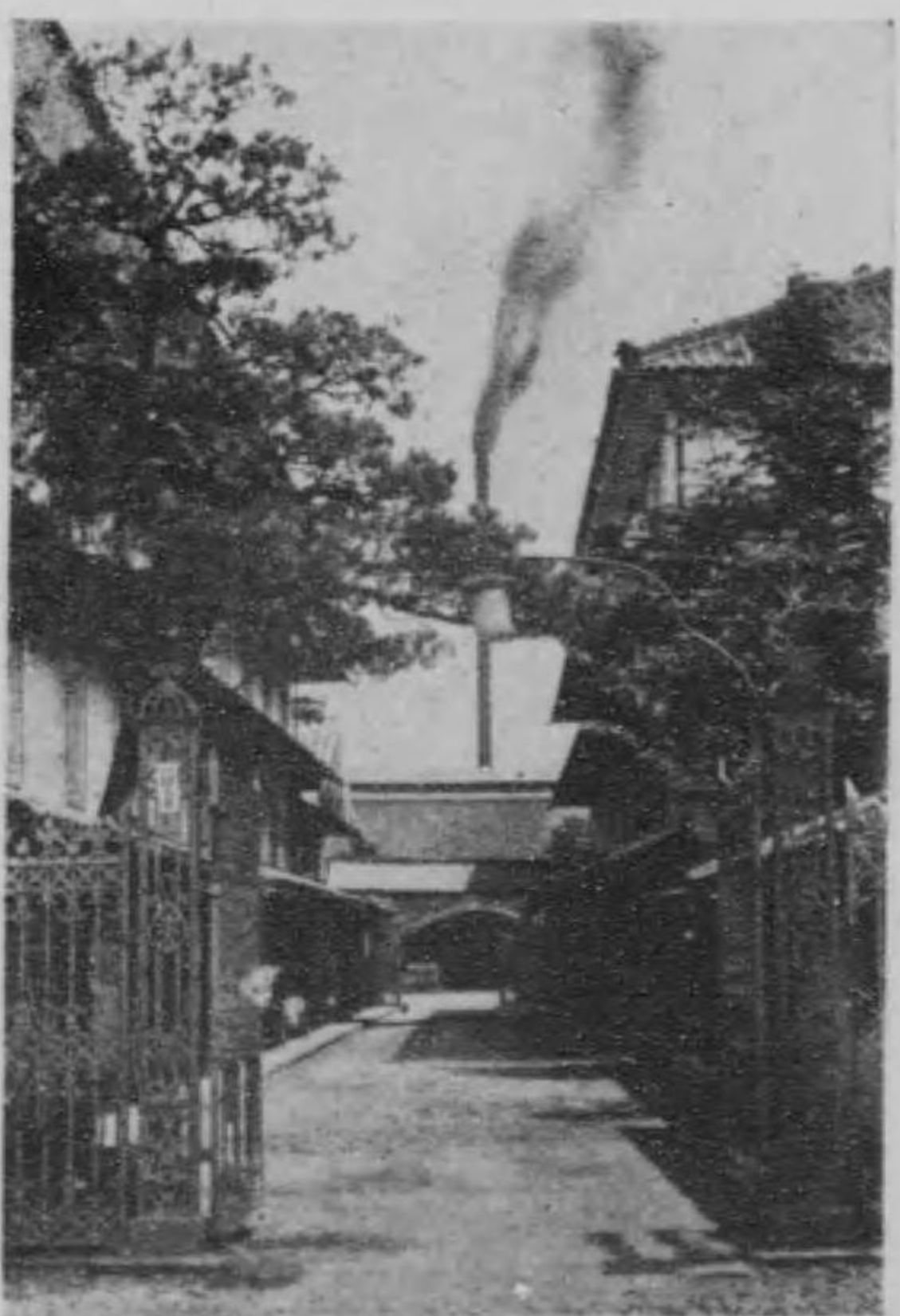
埼玉縣深谷町

電話長六番電報(ホ)五  
振替口座東京三六六五番

工場 福島市外宮木野  
工場 静岡縣金谷町

開國館製絲所

三



埼玉縣深谷町

電話長五番五十番  
振替東京一八三五電報(ホ)

今 山手製絲株式會社 本庄製絲所

埼玉縣見玉郡本庄町

電話本庄 二九番  
二二番  
二二番

百人中、男、八萬四百人、女、九萬百人なり。明治二十二年町村制施行の地四町三十五ヶ村よりなり熊谷町に大里郡役所を置けり。

産物 米麥の主要農産物を始めとして、工産物の織物之に亞ぐ年々の産額巨額に達し、郡下に於ける一般經濟界は豊裕なり  
教育 初等教育を始め、幼稚園、實業學校、公設圖書館設置せられ教育事業よく發達し居れり

ものなりと、明治二十六年四月十八日保存資金五拾圓を内務省より下賜せらる。

聖天堂 妻沼町に在り、本尊は歡喜天別當歡喜院にして齋藤實盛の信仰特に厚かりし古刹建久年間阿闍梨源頼朝に請ひ關八州を勸化して堂宇を再建し、本殿は慶長年間に造營せるものにして彫刻の美、銅甍莊嚴を極む、老杉巨樹境内に繁茂し關東名題の靈場として遠近信徒の參詣多し。

熊谷櫻 吉野櫻の一目千本のそれならぬも、熊谷櫻の花は

熊谷支店 埼玉県大里郡熊谷町 電話二四一番  
 寄居支店 同縣同郡寄居町 電話一九番  
 上尾支店 同縣北足尾郡上尾町 電話二六番

株式會社 電話本店 二一九番  
 二二二番

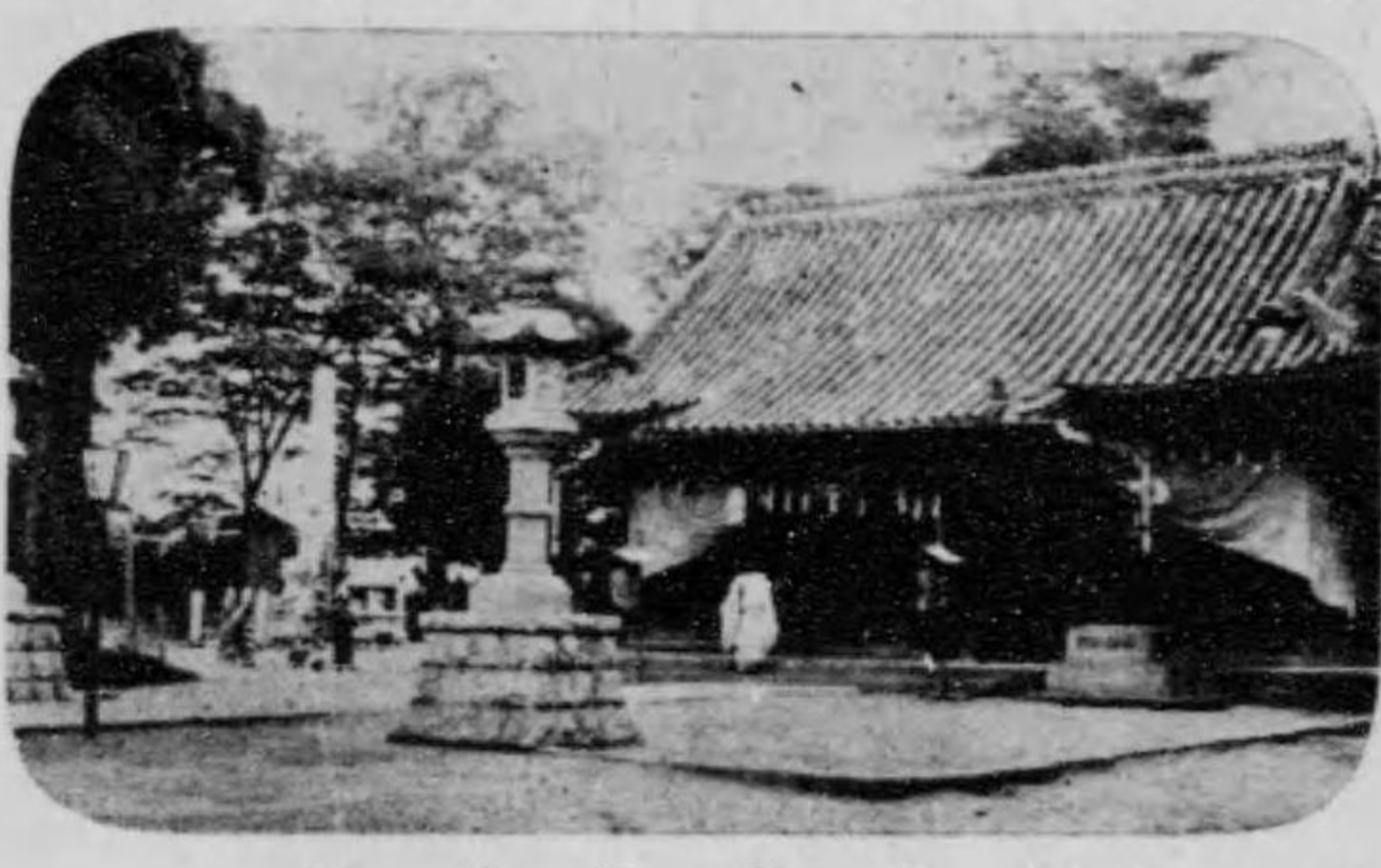
百人中、男、八萬四百人、女、九萬百人なり。明治二十二年町村制施行の地四町三十五ヶ村よりなり熊谷町に大里郡役所を置けり。

●産物 米麥の主要農産物を始めとして、工産物の織物之に亞ぐ年々の産額巨額に達し、郡下に於ける一般經濟界は豊裕なり

●教育 初等教育を始め、幼稚園、實業學校、公設圖書館設置せられ教育事業よく發達し居れり

●圖書館 熊谷町立圖書館を筆頭に十ヶ所を設置す何れも最近の施設に係はり、圖書の種類は殆んど和漢書を以つて充せり、其の主なる圖書館は八基村、中瀬、御正、の各村立にして之等は何れも一千部以上の圖書を藏し居れり。

●高城神社 熊谷町にあり延喜式内社にして草創は遠く崇神天皇の御代にありて高皇產靈尊を祭神とし齋き祭れる縣社にして御別名を高木神又は高城神と仰ぎ奉り特に出生神として郷民の崇敬厚く、遠近の賽客絶ゆる時なく爲めに熊谷町の繁榮又是れに胚胎すと以つて崇仰の一般を知るに足る、天正十四年兵燹に罹り久しく一古祠として存在せしが徳川氏の寛永十六年阿部忠秋封ぜらるゝに及び深く尊信して再興を圖る寛文十一年に造營なる現在の本殿拜殿之れなり、是より累代の領主深く尊信するところ曾ては安永五年四月將軍家日光社參の砌り當社に參拜ありて愈々崇仰高まる明治



社 神 城 高 社 縣 上 尾 郡 北 足 尾 町

七年二月村社に列せられ尋いで四十年十月神饗幣帛供進を指定せられ越へて大正五年四月十九日縣社に昇格せらる、寶物に阿部忠秋の寄進せる郷義弘作の太刀、及び村山某の奉納せる天國の明劍、寛文十年弘文院學士林恕の撰びし録記同六月神道學者吉川惟是の謹考したる勘文等あり、其他重寶古書三十有餘を藏せり

●熊谷寺 熊谷町にあり、本尊は阿彌陀如來にて關東最初の念佛道場にして熊谷蓮生法師の開山に係はり天正年間幡隨上人の再建せしもの遺品多衣絹六字名號旗兜軍扇其他の寶物古文書を多數に藏す

●國濟寺 釋迦如來を本尊とせる郡下屈指の名刹にして幡羅村にあり、峻翁令山禪師の開山にして康應二年の創立に係はり深川城主の祖先陸奥守憲英公の開基に成る。

●弘光寺 不動尊を本尊とせる古刹にして本郷村の針ヶ谷にあり、天平年間天竺僧空阿法錫を停め草庵を結び佛門院と稱せしを文治年間此地に移し現稱に改む、源賴朝境内へ百五十貫を寄附し、七堂伽藍を建て三十六坊を構へ常法檀林の本山なりしと明治二十四年七月九日内務省より保存資金百圓を下賜せらる。

●極樂寺 寄居町大字落田にあり、象ヶ鼻聖天堂の別當にして本尊は阿彌陀如來、口碑傳ふる處寺は弘仁年間弘法大師の創立にして、清和天皇の六孫王經基卿及源賴義、義家の信仰淺からざりし名刹にして其の七堂伽藍は天慶年間賴義父子の建立せる

ものなりと、明治二十六年四月十八日保存資金五拾圓を内務省より下賜せらる。

●聖天堂 妻沼町に在り、本尊は歡喜天別當歡喜院にして齋藤實盛の信仰特に厚かりし古刹建久年間阿闍梨源賴朝に請ひ關八州を勸化して堂宇を再建し、本殿は慶長年間に造營せるものにして彫刻の美、銅甍莊嚴を極む、老杉巨樹境内に繁茂し關東名題の靈場として遠近信徒の參詣多し。

●熊谷櫻 吉野櫻の一目千本のそれならねども、熊谷堤の花は帝都の向島に似て春花秋月の候東西南北より雲集する觀客賭の如し。

●象ヶ鼻 明治三十九年長くも 今上陛下の東宮にましませし折鮎漁を行啓台覽あらせられし處寄居町大字落田にあり、荒川の深淵に臨める數丈の怪巖一見象鼻に似たり、遠く秩父連山を仰ぎ近く鉢形城址を望む鮎漁遊覽の勝地なり。



寄 居 町 象 ヶ 鼻 之 勝 地

●深谷町

縣下の北部を占め海拔百二十四尺町の南部藤澤村に接するあたりは高臺にして町内を流るゝ小川の源を爲す、東幡羅村に接し西は岡部村に境し南は藤澤村へ隣り北は萬頃の沃田を以つて大寄村に連なる、廣袤東西二十三町九分南北十五町にして面積〇、二五方里地形略方形を爲して萱場の一部藤澤村に突出す、戸數二千四百六十六戸人口一萬三千九十四人、町役場縣立商業學校の所在地にして舊伊奈備前守代官の支配地、其往昔は記録の釋するものなく之を測り知る能はずと雖も按ずるに大利根と荒川の二大流相合し洋々たる水郷にして蘆葦徒らに繁茂し水禽互に友を呼びかはしたる沼澤なりしならんか、その西島と云ひ或ひは大沼と呼ぶもの何れも水に因める名稱を持つて呼びなされ、加ふるに畑地到處を交へ大沼附近一帯の粘土の堆積せるは明かに之を證するに足るならんか、而して縷々人煙の立ち昇るに至れるは奈良朝時代の前後ならんか、慈覺大師の開山大銅或ひは承和年間と傳ふるが如き名所に古墳の散在せる等此の間の消息を傳ふるもの、如し、斯くて戰國時代を経て次いで徳川氏の幕政を閱し無慮數百年を経て明治維新に至り、二十二年自治制度の施行に當り、郡の併合行はれ縣内十八郡を合して九郡となせる際大里郡に屬し、四隣の大字を併合して現今の深谷町となり發達するに至れるものなり、同町は地形上水利疎なれども一望涯なき肥沃の土地は農工に最も適し加ふるに交通の便は商工業の發達を助成して近時長足の進歩發展を見るに至り其生産額農産物を凌駕するに至る、工産物の主なるものを列舉すれば生絲、酒、製粉、織物等にして年産額實に五百八十五萬八百六十五圓を算し之を農産物の二十二萬四百七十八圓に比すれば其の懸隔の甚しきに一驚を喫せざるを得ず、此處に於てか目覺めたる深谷は英才現商工會長安部安平氏を筆

頭に撰越せる同會議員同參事會の諸士の熱心なる改造論策主張に官民一致戮力して銳意事に當り孜々として倦まざるものあれば諸般の工業着々實に就き一躍して商工業地として面目を一新するに至り、新興の深谷目覺めたる深谷と賞讃の下に愈々健實なる發達を期しつゝあり此の趨勢を以つて進展するに至れば此處數年を出でずして縣下屈指の商工業地として否中樞として遺憾なき發達を見ん事火を賭るよりも明かなりと信ず、吾人は當町下の大方諸賢の一致團結の確乎たる精神に深く敬虔すると共に一大商工業地の創造化を禮讃するに吝ならず。

●縣立深谷商業學校 深谷町啓發の殊勳者とも稱すべき現商工會長安部安平氏は輓近此の急劇なる商工業界の發展に鑑み時勢を洞察して一般町民の意嚮をも參酌し中等教育機關の設置の必要を認め之を町内有力者に諮り熱心努むる處あり、偶々一般町民の向學心頓に増進せる折とて和合直ちになりて有志篤志家の寄附四方より蒐り十四萬四千圓に達せしかば、之を本校設置費並に教育費積立金の資に充て茲に町立深谷商業學校の創立を見るに至るかくて大正十年四月より授業を開始し翌十一年四月には更らに工費十萬餘圓を捻出して輪奐壯麗なる現在の校舍を新築し翌十二年四月之を縣に移管し縣立深谷商業學校の現名稱を冠するに至る、之偏へに安部安平氏の力に依りてなると雖も亦一般町民の意嚮與つて力ありと謂ひつべし、校長高橋潛藏氏外職員八名、學級四、生徒二百餘名を包擁し居れり。

●深谷城址 康正二年上杉房憲の築城にして子孫相繼いで居城となし舊幡羅榛澤兩郡の大部及大里郡の一部を領して北武地方に威を振ひしが、徳川氏の時代となるに及び松平康忠、松平忠輝、酒井忠勝、松平忠長の居城となれり、今は僅かに天守臺、城壕、庭園の位置外濠の一部なる管領の池と稱する周圍二百拾餘間の泥沼、釣鐘池、相生松等の存するに過ぎざるのみ、附近一帶は耕地と化して亦昔日の面影を止めず、松風徒らに嘯ひて古の名残を惜むに似たり、址内に一社あり天王社と稱し代々城主の尊崇せし所にして毎年七月二十八日祭典を行ひ賽客蟬集す。

●平の忠度の墓 行きくれてこのしたげをやとせせば  
花や今宵のあるじならまし

とは壽永の昔文武の道に名を得たる薩摩守忠度の詠歌になむ、墓は深谷町萱場清心寺境内に在り古色蒼然たる五輪の塔、花語らす壽永の秋の昔を偲ぶにあまりあり口碑傳へて曰く豪勇岡部の六彌太忠度を討ちてのち物の哀れを悟り後世を弔ひやらんと此墓を樹つと墓側に一株の老櫻樹あり忠度の室(菊の前)わが亡き夫の追善の爲めにはるばる尋ね來りて、此木を植ゑたるものなりと云ふ、忠度櫻即ち之れなり、

●高臺院 田谷にあり禪宗曹洞派に屬し人見村昌福寺の末社にして深谷山永明寺と號す、草創は上杉氏の家人高橋永明にして開山は臥龍伊天和尙にして本尊に釋迦文殊普眼を安置す、永祿二年一度衰廢せしが上杉憲賢の妻高泰姫の再興に係はる後今の臺に改め以つて現今に至る。

●縣社楡山神社 幡羅村大字原郷に鎮坐あり老松古杉鬱蒼として繁茂し就中楡老樹今尙千古の翠を湛へ毅然として聳ゆるを見

る祭神は伊邪那美命にして舊幡羅郡の總鎮守にて延喜式内社なり大正十二年縣社に昇格す  
●瀧宮神社 深谷驛の南方約二町西島にあり、瀧宮公園の中にあり、正平二年の勸請にして火々出見命を祭神とし豊受神社、八幡神社天神社、御嶽神社を合祀す境内幽邃にして神池自らみどりを漲らす。  
●東源寺 稻荷町にあり文明十八年の草創にして淨土宗西蓮寺末稻荷山玉寶院と號し、三尊彌陀を本尊として安置す空蓮社眞譽善公の開山にして一度回祿の災に罹り其後文久三年檀徒協力して現在の本堂を再建せしものなり。  
●長福寺 稻荷町にあり淨土宗鎮西派にして弘經寺末本照山壽記院と號し、本尊に阿彌陀如來を安置す、開基は本間氏の祖先なりと云ふ



縣社山神社

●見玉郡

秩父山脈の餘脈南部より漸次北方に蜿蜒し各所に景勝を恣にして郡下に入り平垣となり、東西に平潤なる曠野を劃す見玉郡は縣下の西北に位し東は大里郡に隣り西は神流川の急湍を隔て、群馬縣多野郡に界す、西南部は四百五十米の山嶽蟠屈し餘脈蜿蜒次第に東南部に陵夷して大澤村に及び山脈を隔て、秩父郡に隣る、北は刀水の流れを挿んで群馬縣佐波郡に接す、廣袤東西三里十五町南北五里十八町面積十一方里九八を有し、人口八萬一百人中、男三萬七千二百人、女四萬二千九百人なり。明治十二年市郡制を施行し以つて現今に及ぶ見玉町は往時見玉黨の據りし處にして絹布を産し何れも繁榮を極む。本庄町は養蠶地の中心地として繭、生絲の市場を有し、舊郡役所の所在地なり  
●産業 土地肥沃にして各種農産物に富み、米麥を始めとして各種の産物亦尠からず、其の主なるものを列擧すれば米産額の四五、五五〇石にして價額二、三二五、一〇三圓麥の三四五、九五四圓に蠶業の三、八八三、〇六六圓等にして之等は何れも縣外輸出品として重要な物産たり。

●教育 小學校數二十二校にて児童數一二、二八五人、此外私立町村立の各種學校二十六校ありて生徒總數二、一五六人を有し教育普及の度合中等にあり。  
●兒玉實科高等女學校 は本庄町にあり生徒八三名を有し創立以來五十一名の卒業生を出せり。

●圖書館 藤田、共和、本泉、東兒玉の四村に各一ヶ所の簡易圖書館あり、圖書は主として和漢書にして洋書は極めて少し、即ち、藤田の五九四冊、共和の四九〇、本泉四八一、東兒玉の四、四二六洋書一三二冊にして平均一日の閱覽人員一人強に當る。

●競進社實業學校 本邦蠶兒飼育界の權化として斯界の權威者たりし故木村九藏氏に依りて明治十七年創設せられたる競進社

の後身にして始め養蠶傳習所たりしが明治二十九年蠶業講習所と改め、尋いで明治三十三年組織を變更して文部省の認可を得て競進社實業學校と改稱し大いに學理と實地の技術とを教授し

年間の創立にして後正應年間新田義貞社殿を修繕せしも天正年間神流川の兵燹に罹り燒失せしが川窪信俊同年神流川の右岸に再建す。

傍ら優良蠶種の頒布技術員の派遣等本邦蠶業界に貢献しつゝあり、人も知る木村氏は青柳村の出身にして夙に本邦蠶兒飼育法の研究に志し明治二十一年伊佛兩國に渡り同地方の蠶業を視察し、其蘊奥を極め歸朝後は學校を起し後進の士を誘導補掖する

●勅使河原直重の墓 直重は武藏丹黨の一族にして代々賀美村の勅使河原に住せり、延元元年尊氏京師を犯すや新田義貞との力戦に努めしも利あらずして自刃せる忠烈の士、大正四年十一月十日御贈位あらせらる。  
●縣社ミカ神社 は兒玉郡松久村大字廣木字御社鎮座にして、

とて功勞勲しとせす、茲に於て後進の士相諮りて頌德碑を建

して深谷山永明寺と號す、草創は上杉氏の家人高橋永明にして開山は臥龍伊天和尙にして本尊に釋迦文殊普眼を安置す、永祿二年一度衰廢せしが上杉憲賢の妻高泰姫の再興に係はる後今の臺に改め以つて現今に至る。

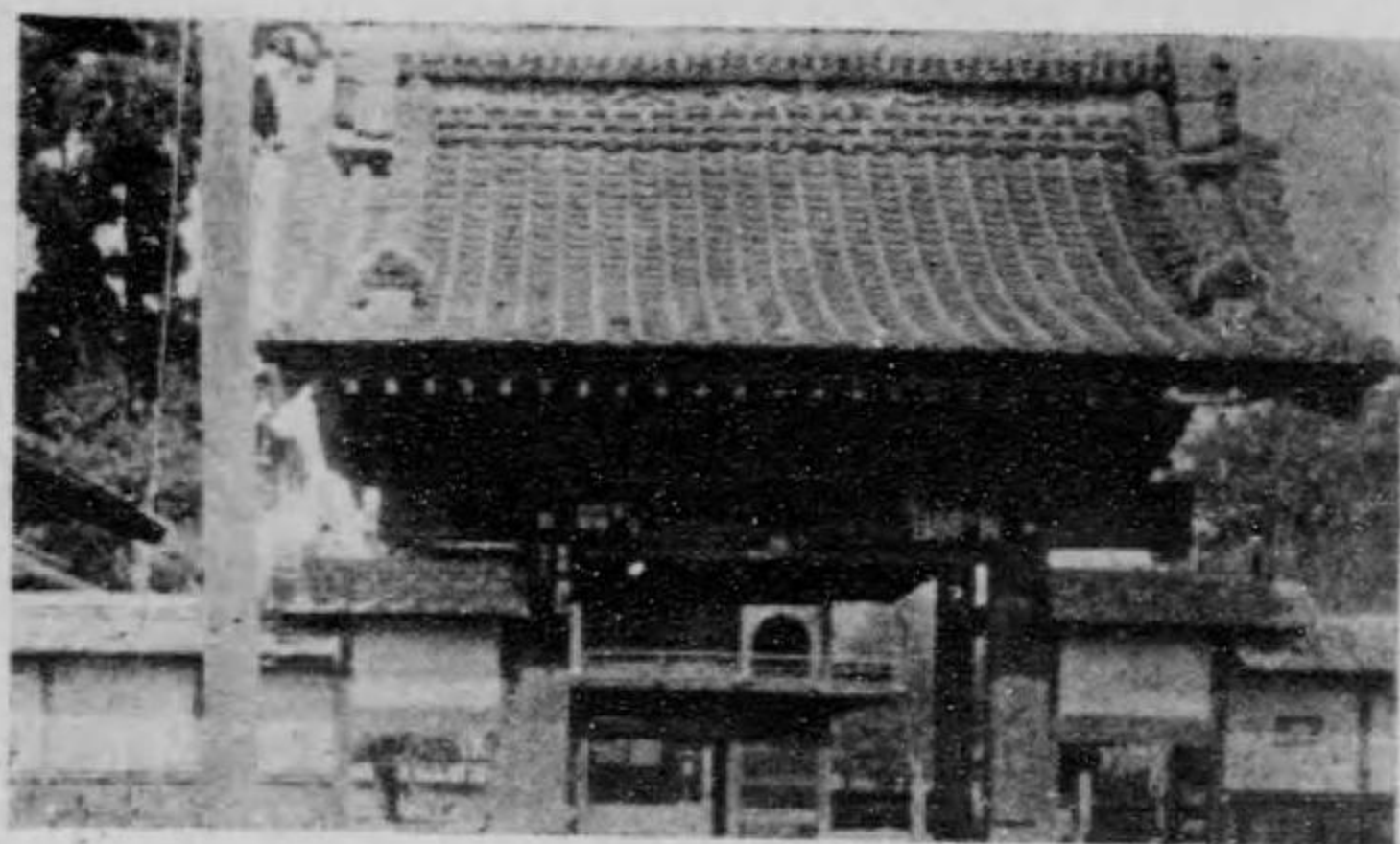
●縣社檢山神社 幡羅村大字原郷に鎮坐あり老松古杉鬱蒼として繁茂し就中檢老樹今尙千古の翠を湛へ毅然として聳ゆるを見

の後身にして始め養蠶傳習所たりしが明治二十九年蠶業講習所と改め、尋いで明治三十三年組織を變更して文部省の認可を得て競進社實業學校と改稱し大いに學理と實地の技術とを教授し傍ら優良蠶種の頒布技術員の派遣等本邦蠶業界に貢献しつ、あり、人も知る木村氏は青柳村の出身にして夙に本邦蠶兒飼育法の研究に志し明治二十一年伊佛兩國に渡り同地方の蠶業を視察し、其蘊奥を極め歸朝後は學校を起し後進の士を誘導補掖するところ功勞多しとせず、茲に於て後進の士相諮りて頌德碑を建設せり、事天聽に達して大正七年贈從五位に叙せらる。

●縣社金鑽神社 本庄町にあり、祭神は天照大御神、素盞鳴尊日本武尊の三神を齋き祀り毎年十一月三日を例祭大祭日とし神輿渡御式の儀行はる、社は欽明天皇の二年に創立せられたる社にして官幣中社金鑽神社の遙宮たり、中世紀よりは兒玉黨の本社四郎衛門尉時家の子孫代々當所に住し最も崇敬厚く弘治二年本庄城主宮内少輔宮殿を再建し土地を寄附して本庄領の總鎮守とせり、かくて數世を経て寛永年間に至り、十六年小笠原左衛門佐忠貴宮殿を改造し寶曆十一年には氏子等神輿を新調して町内渡御の式を行ひ御神威を發揚せり安永七年には本社修理あり幣殿拜殿を改築して先規より宏壯に爲す安永八年には仁和寺宮法親王絹幕提灯等の御寄附ありて御信仰深かりし由緒ある社にして明治十七年五月五日縣社に昇格せらる、大祭は祈年祭三月十日、例祭十一月三日、新嘗祭十二月一日の三回にして祈年祭は五穀豊稔の祈願祭典にして最も古くより行はれたる重き祭祀にして世に之を春の借日と稱せり。

●縣社八幡神社 兒玉町にあり、永承六年源義家の建營せるものにして義家父頼義に従ひ奥賊追討の折當所に泊し其の凱旋の日之を築けるものなりと。

●安養院 本庄町の北部石尊山に隣り風光明媚の雅境に一大寺院を望むべし、之なむ曹洞宗上州發知迦葉山龍華寺院の末寺たる安養院にして境内には故諸井春圭書家の大建碑其他有名なる町功勞者の碑多數を樹つ現住職は哲學の聞へ高き前、前橋禪林中學校に教鞭を執りし星野仙梁氏にして開善寺慈恩寺、大正院、圓心寺泉林寺、廣西寺、佛母寺等の各宗協和會の會頭として各宗派間の圓滑を圖りつ、あり。



安養院

●官幣中社金鑽神社 青柳村大字二ノ宮にあり、社殿は御嶽山麓にありて風景最も良し、日本武尊東征の功なり凱旋の日其伊勢の倭姫命より授けられたる火打金を御靈代として天照大神及素盞鳴命を奉祀し金鑽神社と奉稱す、火打金は地中に齋藏し其地を御室嶽と稱す、欽明天皇の朝日本武尊を合祀し武藏國名神大二社の内に列せらる依つて二の宮と奉稱す。(別項参照)

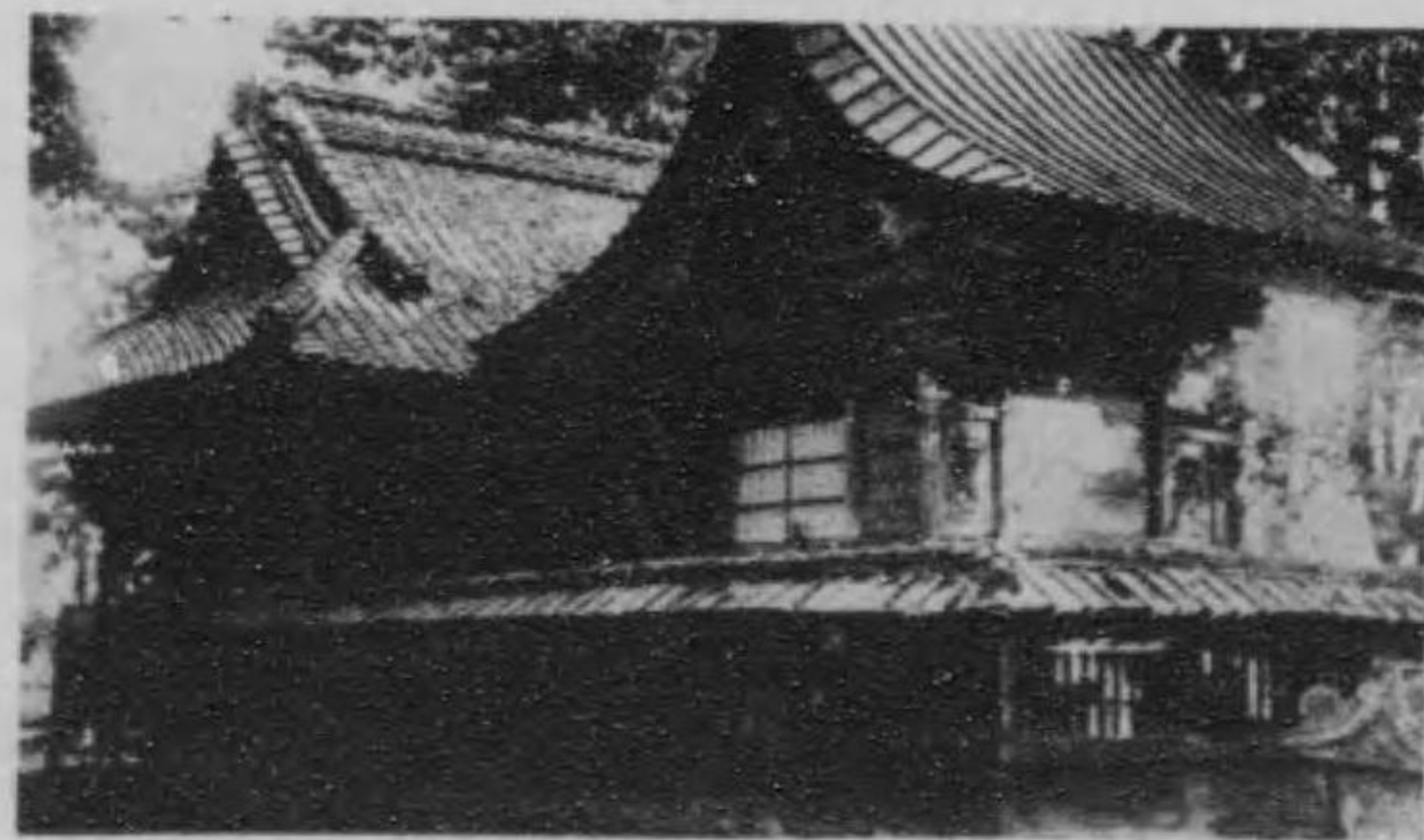
●縣社今城青坂稻實池上神社 神保原村大字忍保にあり、和銅

埼玉縣

●圖書館 藤田、共和、本泉、東見玉の四村に各一ヶ所の簡易圖書館あり、圖書は主として和漢書にして洋書は極めて少し、即ち、藤田の五九四冊、共和の四九〇、本泉四八一、東見玉の四、四二六洋書一三二冊にして平均一日の閱覽人員一人強に當る。

●勅使河原直重の墓 直重は武藏丹黨の一族にして代々賀美村の勅使河原に住せり、延元元年尊氏京師を犯すや新田義貞との力戦に努めしも利あらずして自及せる忠烈の士、大正四年十一月十日御贈位あらせらる。

●縣社ミカ神社 是兒玉郡松久村大字廣木宇御社鎮座にして、祭神櫛御氣野命、櫛賤玉命を祭る、創立の年代等は詳かならずと雖も延喜式所載の古社にして當國四拾四座の一なり古來舊那珂郡の總社と稱し享保八年正一位の神位を授けられ寶曆八年に建設したる碑に正一位ミカ神社とあり。壹萬七千百餘坪の境内は古杉老樹繁茂し櫻樹等も加はり春秋の例祭には近村の參拜者多し、明治三十七年一月十六日縣社に列せらる。



縣社ミカ神社

御例祭十月十五日

●塙保己一の碑 言の葉の及ばぬ身には目に見ぬも なかくよしや雪のふじのね

とは享保の頃ほひ一世の碩學を以て鳴りし心眼智學院塙保己一の詠歌、氏は埼玉縣兒玉郡金屋村大字保木野に生る、幼にして失明強記にして學を好む、曾つて一夕の挿話に夜間先生の膝下に在りて諸弟子と共に講義を享く偶々風ありて燈火消ゆ諸人大に驚き騒ぐ獨り保己一悠然として笑つて曰く「さてもくも明眸の士は不自由なるものかな」と以て其の豪邁亦知るべし、今金屋村保木野に贈正四位知學院心眼智光大居士の建碑あり塙保己一の偉功を表せる碑にして澁澤榮一氏の篆額になり碑文は文學博士芳賀矢一氏の撰文なり、生家は今尙同村に現存して當主を萩野茂十郎と呼ぶ

### ●北埼玉郡

面積十九方里七七、北部は利根、渡良瀬の二川に依りて茨城群馬の二縣に境し東西南の三方は北葛飾、大里、南埼玉、北足立の四郡に接す、大正十三年度の人口十五萬七千二百人中男七萬六千五百人、女八萬七百人にして元郡役所のありし忍町始め四町四十五村を包含せり、地勢概ね平坦にして、利根、渡良瀬兩川は水運の利甚だ大に郡内の諸川も亦灌漑の便を有す。東部鐵道及び秩父鐵道は羽生町に接続して郡内の樞要交通機關たり忍町は松平氏十萬石の舊城市にして元郡役所のありし所忍城の址あり、此地足袋の製造盛なり。羽生、加須の兩町よりは青藕木綿の産多し。

●小崎ヶ池 埼玉村大字埼玉尾崎通りにあり、古の埼玉の津

の地なりと云ふ。

忍城址 忍町にあり文明年間成田親泰兒玉武藏大榎重行を亡して之に代り後寛永年中徳川家の硬骨漢阿部豊後守忠秋の封となり、文政六年阿部氏白河に移封せらるゝ、及び松平忠堯伊勢より來りて城主となり維新の新政に及べり。當時祿高十萬石殘壕今猶存せり。

玉敷神社 北埼玉郡の騎西町に在り大巳貴命を祭神として天照大神、豊受大神、伊弉諾命、伊弉册命、輪邊突智命を合せ齋き祭る縣社にして神階正一位を贈らる久伊豆大明神と稱して往古より關東武將の深く崇敬する處たりしが永祿五年城主小田助五郎朝興、上杉謙信の爲めに攻掠せられたる際兵火に罹りて後現今の攝社宮目神社々域に遷宮す、元和年間騎西領主大久保加賀守篤く之を尊崇して社領を寄進し又家臣に命じて社殿を造營せしむ、爾來騎西領の總鎮守として遠近の崇敬盛んなり、現社司河野省三氏は國學院大學講師にして篤學の士として知らる。

南埼玉郡

縣の東部に位し北葛飾郡及び北足立、北埼玉の三郡に包圍せられ面積十八方里五六あり、大正十三年度人口十三萬八千五百人中男六萬七千九百人、女七萬六百人を有し六町三十六村を包含す。

綾瀬川、大落古利根川は北葛飾北足立二郡と境界を爲し元荒川郡の中央を流れ皆共に水運に富めり。東武鐵道は東北方を走り東北本線は西北に通じ、西武鐵道蓮田より岐れて郡内の郡邑岩槻町に達す。

岩槻城址 岩槻町にあり、町は郡内第一の都邑にして元郡役所の所在地たりし處大岡氏二萬三千石の舊城下にして城は太田道灌の築きしもの、亦名城の一たるを失はず。

越ヶ谷桃林 昔より關東名所の一として知られ桃林は元荒川の北岸にあり、花時の美觀言語に絶し附近一帯に梅林ありて早春の候清遊探梅の客多し東武鐵道越ヶ谷若しくは大澤より近し

北葛飾郡

地勢沿革 明治四年廢藩置縣の事あるや爾來所轄區域の變更相踵いで起り、越えて十二年郡制施行に際し更らに多少の異動を見以來二十九年に至るまで改併屢々にして安定を見ざりしが同年三月法律第四十號に依り現今の三町二十七ヶ村廣袤東西二里南北十一里面積十三方里餘に定められ以つて現今に及べり、郡は縣下の東端に位し東は權現堂川、江戸川を以つて茨城縣猿島郡、千葉縣東葛飾郡に接し西は大落古利根川を隔て、南埼玉郡に隣り、南は東京府下南葛飾郡に界し北は北埼玉郡に接す、大正十三年推計人口八萬九千人にして男四萬二千九百人、女四萬六千一百人とす。

産業 郡の重要物産は米麥の農産物を第一位として、工産第二位を占め畜産、林産、水産之に次ぐ何れも縣外輸出品として其の消長は直接間接に郡下全般の經濟界に影響する所大なりとす。

交通 國道延長五里七町二十三間、縣道五十七里十一町二十

九間にして町村道は六百五十九里十五町一間其の主なる道路は幸手久喜間、寶珠花柏壁間、杉戸關宿間、金杉越ヶ谷間、吉川越ヶ谷間の通路とす。

郵便 郵便局七、電話局六、公衆電報取扱所十二は町を始め主要村落に設置せられ通信事務に憾みなきを保せり。

官公署 杉戸警察署は杉戸町にありて幸手、吉川の兩町には分署を置き栗橋、寶珠花に派出所を配置して保安行政を掌らしむ。

區裁判所出張所 浦和區裁判所出張所は幸手、吉川の二町に各出張所を置き登記事務を掌らしむ。

教育 普通教育の狀態を稽るに小學校三十九校は二百二學級に分ち兒童數一萬二百四十八名に及び就學百分比例は男女合して九九、六一の歩合を示し、他府縣郡市に遜色なし。

圖書館 教育補助機關として三輪野江、豊田、櫻田の三ヶ村に簡易圖書館を上高野、田宮、幸松、彦成の四ヶ村に圖書館を設け堤郷村には文庫を設けて助長發達に資せり、以上の圖書館は何れも大正十三年御慶事記念事業として設置せられたるものにして、創立日猶ほ淺く圖書部數の如きも一館千冊内外に過ぎず

牛島の藤 幸松村大字牛島に在り、粕壁停車場を距ること十餘町棚は面積百七十餘坪花房の長さは四五尺に及び花時は觀客頗る多く東武鐵道株式會社は特に割引券を發行して觀客の便を計れり。

二郷半領の早稻 萬葉集に 仁保島の葛飾早稻をにへすとも 其のかなしきを外に立てめやも

と東國人の詠歌に徴しても歸けく吉川町より三輪野江、早稻田八木郷、彦成、戸ヶ崎の各村に亘る附近一帶の地は水田廣く舊二郷半領と稱し、毎年七月下旬に至れば新米を産す古來二郷半の早稻として著名なり。

静女の墓 栗橋停車場の傍靜村大字伊坂にあり、口碑傳へて曰はく墓は文治年中源義經兄頼朝の勘氣を蒙り奥州へ下向するや愛妾靜跡を慕ひて此處に至る、途に義經の變死を聞き悲嘆の餘り剃髮して後生を吊はむとて此處に來り俄かに病みて空しくなりしかば、高柳寺の住僧この地に葬れりと、中田の光了寺に緣起並に靜の舞衣と唱ふるもの什物と傳ふ、尙墓側に享保三年郡代中川飛彈守の建設せる碑あり。

行幸堤及權現堂堤 幸手町行幸村の北西豊田村の南に古利根川の一分派たる島川あり、權現堂川村に於て權現堂川に注ぎ古來水勢激甚にして其の漲溢するや島川に逆流するを以つて島川の兩岸に埭六千間を築けり、其の狀細囊の如く秋夏屢々壞崩し人畜漂沒慘害甚し、此處に於て明治九年行幸村大字外國府間及高須賀の附近に長さ七百六十一間の大堤を築き以つて汎濫の備に供せり、明治天皇陸奥御巡幸の際蹕を經てて此處を櫛はし給ひ行幸堤の名を賜ふ、權現堂堤は行幸堤の南に連り天正四年初めて築く所にして古來徳川幕府の直營に係はり共に縣下屈指の大土功たり

明治九年六月四日御東巡の際及十月十日御還幸の際御小休あらせられたる御舊蹟は建物其儘當時の面影を忍ぶものあり、之即

銘茶 製造卸販賣 敬業田園

電話 一〇番 振替東京二五五九番

株式 秩父銀行

小鹿野支店 吉田支店 親巢支店

埼玉縣入間郡豐岡町

埼玉縣豐岡町

埼玉縣秩父郡秩父町

埼玉縣秩父郡秩父町

●産業 郡の重要物産は米麥の農産物を第一位として、工産第二位を占め畜産、林産、水産之に次ぐ何れも縣外輸出品として其の消長は直接間接に郡下全般の經濟界に影響する所大なりとす。

●交通 國道延長五里七町二十三間、縣道五十七里十一町二十

備に傳せり。明治天皇陸奥御遊幸の際御幸を始めて此處を檢はし給ひ行幸堤の名を賜ふ、權現堂堤は行幸堤の南に連り天正四年初めて築く所にして古來徳川幕府の直營に係はり共に縣下屈指の大土功たり

明治九年六月四日御東巡の際及十月十日御還幸の際御小休あらせられたる御舊蹟は建物其儘當時の面影を忍ぶものあり、之即

銘茶製造卸販賣 **繁田園**

電話一〇番  
振替東京二五五九番

埼玉縣八潮郡豊岡町

醬油醸造元 **繁田醬油店**

本庄電話一〇番  
第二工場電話三四番

埼玉縣川越市

株式會社 **第八十五銀行**

頭取 綾部利右衛門

埼玉縣川越市大宮町

**大宮山丸製絲所**

電話四七番、官廳電話二七番  
振替東京四三三七番

片倉製絲紡績株式會社 **大宮製絲所**

電話長五番  
電信異稱(〇二)

埼玉縣川越市大宮町

東京電燈株式會社川越出張所

電話二一九番

埼玉縣川越市大宮川越

**鶴巻製絲所**

電話本庄一七〇番  
電信異稱(〇二)(〇七)

埼玉縣見玉郡本庄町

大和合名會社 **神保原製絲所**

電話本庄國一三〇番  
電信異稱(一七)(二)

埼玉縣見玉郡神保原町

株式會社 **秩父銀行**

小鹿野支店。吉田支店。親鼻支店

埼玉縣秩父郡秩父町

株式會社 **西武銀行**

大瀧支店。野上支店

武州秩父町

**大森喜右衛門商店**

電話四〇番、二五二番  
振替東京七四七番  
電信異稱(才木)

埼玉縣秩父町

**村上喜藏商店**

電話五五番  
電信異稱(ムラ)

合名會社 **大尾商店**

電話四二番、七七一〇番  
振替東京一四五一番

埼玉縣秩父町

**柿原萬藏本店**

埼玉縣秩父町

**橋本喜助商店**

電話三番、電異(ハシキ)  
振替東京二二〇九七番

埼玉縣行田町

株式會社 **武州銀行熊谷支店**

埼玉縣大里郡熊谷町

埼玉縣浦和町

東京電燈株式會社浦和出張所

埼玉縣浦和町

株式會社 埼玉縣農工銀行

電話 七四四番  
振替東京二一七六九番

埼玉縣浦和町

株式會社 浦和商業銀行

電話 三九九番  
振替東京四一五八番

埼玉縣北足立郡南平柳村

上印味噌 田中徳兵衛商店

電話 川口五〇番  
振替東京一三二九番

東屋

東印赤味噌 大熊武右衛門

埼玉縣北足立郡南平柳村  
電話 川口二五〇番

埼玉縣北足立郡川口町

各種鑄物 販賣問屋 高石幸三郎商店

埼玉縣川口町寿町

諸機械 鑄物 千葉鑄工所

電話 工場用三八番  
自宅用二三八番

埼玉縣川口町

株式會社 武州銀行川口支店

埼玉縣深谷町

株式會社 深谷製絲所

電話 五五番  
振替東京三九三六番

埼玉縣深谷町

三関深館製絲所

電話 四四番  
電界(カ)又(カ)

埼玉縣深谷町

利小口館製絲所

電話 國一七番  
電界(カ)又(カ)

埼玉縣深谷町

海產物 委託商 永徳屋商店

代表社員 安部 彦 平  
電話 國八番(カ)又(カ)  
電界(カ)又(カ)  
振替東京一三六六番

埼玉縣川口町

鑄物類式 製造販賣 鳩矢崎本店

電話 三七番

埼玉縣北足立郡川口町

諸機械 農具器 建築用 鑄物製造所 毛矢澤茂左衛門

電話 一一〇番

水道用鑄鐵管及付属品式製造

正永瀨鐵工所

所主 永瀨鐵三郎  
電話 埼玉縣川口町  
電話 二二番

埼玉縣川口町金山町

一石川商店金物部

電話 三番一四〇番  
振替東京六六三四七番

ち現栗橋町長池田義郎氏邸なり。

明治十四年七月三十一日北海道及び山形秋田兩縣御巡幸の際及  
明治二十九年十月二十日二十一日二十二日の三日間御行在所に  
充てられたる御齋蹟は幸手町中村元治氏邸にして、今尙舊の如  
く御出入遊ばされたる玄關には木柵を設け殊に御居間に充させ  
られたる室には平素他人の出入を嚴禁しあり。

名勝舊蹟

「エドワルド、エス、モトルス」氏來觀して草味時代の民居の跡な  
りと斷じ又埋葬の擴なりと判じ共に充分なる研究に基ける説に  
非ずして肯定するに吝なりしが明治二十年八月大學院學生生理學  
士坪井正五郎氏其友人若林勝邦氏を携へ來たつて土室穿掘を試  
みんことを語り、時の帝國大學總長渡邊洪基氏理科大學の菊地  
大麓氏の贊助を得て之に従ふ、即ち大澤穹那をして之を監せし  
む、半歲にして土室總數二百三十を發掘す乃ち雜木を拔去し草  
木を剪除し山骨を暴露するに至りたれば孔穴等二并列し正に



電話 工場用三八番  
住宅用二三八番

所主 永瀨鐵三郎  
電話 埼玉縣川口町  
電話 二二二番

# 株式會社 武州銀行川口支店

埼玉縣川口町金山町

# 石川商店金物部

電話 三番一四〇番  
振替東京六六三三七番

ち現栗橋町長池田義郎氏邸なり。  
明治十四年七月三十一日北海道及び山形秋田兩縣御巡幸の際及  
明治二十九年十月二十日二十一日二十二日の三日間御行在所に  
充てられたる御齋蹟は幸手町中村元治氏邸にして、今尙舊の如  
く御出入遊ばされたる玄關には木柵を設け殊に御居間に充させ  
られたる室には平素他人の出入を嚴禁しあり。

## 名勝舊蹟

官幣大社氷川神社 武藏國北足立郡大宮町に鎮座まします延  
喜式内名神大社にして武藏國一の宮たり、社は神宮第五代孝昭  
天皇の三年四月末日の草創に係はり素盞鳴尊、大己貴命、稻田  
姫命の御三柱を齋き祀る、代々武運の守護神として上下の尊崇  
厚く屢々社殿の造營寄附等の事ありて賽客常に絶ゆる時なく瓊  
々として響く神鈴の音は絶  
ゆる時なく維新直後明治天  
皇御遷都の擧あるやまづ宮  
社に行幸遊ばされ御親しく  
皇祖の不朽と皇國の無窮を  
御祈願遊ばされ亞いで詔勅  
を下し給ひて當國の鎮守勅  
祭の御社と定めさせ給へり  
越えて明治四年官幣大社に  
列せられ毎年勅使參向東遊  
の御奉納あり、かく皇室御  
尊崇の御事は申上ぐるも更  
なり、明治三年及同十一年



官幣大社氷川神社

には行幸御參拜の御事あらせられ同六年には皇太后后陛下、二  
十九年には皇太子殿下の御參拜等の御事ありて御尊崇の事蹟枚  
舉に違あらず、古語に上を見倣ふ下之より甚しきはなしと、況  
してや神祇を崇ひ祖先を尊ぶ下萬民の尊敬の様に至つては縷々  
の筆を展ぶるも愚かし、年中神事は一月元旦の歳旦祭より十二  
月の大祓に至まで總て神社の祭祀令に據る處なるも他に古來一  
社相傳の由緒ある諸祭式あり、其の今日に傳はるものは的祈事  
(中祭)二月七日、神樂(中祭)三月十五日、鎮花祭(中祭)四月  
十五日、神事(中祭)五月五日、御鎮座祭(中祭)五月九日、  
道饗祭(中祭)五月二十一日、例祭(大祭)八月一日、神幸祭  
(大祭)八月二日、神穗神事(中祭)十月九日、朔瓶祭(中祭)十  
月二十一日、誓詔祭(中祭)十月二十八日、大湯祭(中祭)十  
二月十日にして例祭と大湯祭とは殊に盛儀を極む。

吉見の百穴 松山驛に車を捨て、西すること約十五町にして  
比企郡西吉見村に達す、北方丘陵の連亘する處に古來吉見の百  
穴と稱する一地あり、穴窟二百餘之を遠く望めば宛然蜂の巢の  
如く奇觀極まりなし、由來は考證なければ之を知るに由なけれ  
ども傳説に曰く往古火の雨の降りしとき里人の遁れし所なりと  
素より信を繋ぐに足らず、又曰はく封建時代に於ける松山城主  
の兵器を藏めたる處なりと、老翁語つて曰く之れ即ち上古屍を  
斂めたる擴穴なりと或ひは然からんか、偶々神田孝平、黒川眞  
頼、柏木貨一郎諸氏及外人「ヘンリーホン、シーボルト」氏及び

埼玉縣

「エドワルド、エス、モールス」氏來觀して草昧時代の民居の跡な  
りと斷じ又埋葬の擴なりと判じ共に充分なる研究に基ける説に  
非ずして肯定するに吝なりしが明治二十年八月大學院學生理學  
士坪井正五郎氏其友人若林勝邦氏を携へ來たつて土室穿掘を試  
みんことを語り、時の帝國大學總長渡邊洪基氏理科大學の菊地  
大麓氏の贊助を得て之に従ふ、即ち大澤穹那をして之を監せし  
む、半歲にして土室總數二百三十を發掘す乃ち雜木を抜き草  
木を剪除し山骨を裸露するに至りたれば孔穴層に併列して正に  
一奇觀抑も此の穴窟は大古時代穴居人一部落の遺蹟にして而し  
て又埋葬に使用したる事實も考證せられ今や全く疑なきに至る  
依て之を縣官に請ひ保護を標榜すると共に一面に於て無頼の徒  
の亂入を防ぐべく丘圍に柵を繞らし事務所を置きて之を看守せ  
しむ。

名勝長瀨 秩父赤壁の稱ある名勝長瀨は秩父郡の國神村にあ  
り、秩父鐵道長瀨驛に下車して南二町にして達す、荒川の奔流藤  
谷淵に至り遂に窮まりて關東平野に出でんとし茲に長瀨の勝境  
を現出す、綠泥片岩、石瀑褶曲して岩石露出し斷崖轟々百匁衣  
するに凝松を以つてし水は巖間を迫り凝つて數尋の碧潭となり  
數條の飛泉天空に懸り更らに一段の景趣を添ふほとり對岸の峯  
巒翠松の間に山櫻楓樹を交へ、山高く水低く若し夫れ月明の夜  
一葉の扁舟に駕して流れに掉さんか山月天心に懸り山骨の突出  
せるは古木に宿せる寒禽を認め其の回なるは色黒みて幽邃言は  
ん方なく、よしや唐朝の文豪蘇東波ならずとも詩趣陶然として  
湧き來り將に一吟して幽邃の潛蛟を舞はし孤舟の婦を泣かしむ  
るもの豈に怪むに足らざるなり、況んや秋深くして滿崖の紅葛  
紅葉霜に飽きて炎々燃ゆるが如き美觀を望むに至りては如かず  
李白の遠登寒山石逕斜、生白雲所在人家、車駐坐愛楓林間霜葉  
二月花紅なりの詩趣も如實に味はれ情趣言はん方なく茲に於て  
陶然として歸るを忘る、官なるかな秩父赤壁の稱ある亦偶然に  
非らざるなり、流に従つて下ること數丁にして水漸く展げし處  
に白鳥岩とあり岩上假寐姿態をつくす古松を以て埋もれ中に鬼  
の井戸窟則及鬼の足跡と稱する奇跡今尙顯然として存す蓋し長  
瀨は天下の勝地、さればにや大正十三年十二月内務省に於て名  
勝天然記念保存地として指定せらるゝに至る、故なきに非ず。



三峯山麓龍橋

三峯の山をしづけみ水清き  
かみとこしへにしづまりいます  
とは東久世山神卿の詠歌になむ、此處三峰神社は埼玉縣秩父郡  
の西南部標  
高約二千米  
突の雲採、  
白岩、妙法  
の三山に鎮  
座します  
縣社にして  
祭神に伊弉  
諾伊弉册の二神を齋き祀り後景行、文武、聖武の三帝を合祀す  
秩父驛より五里半途中強石まで四里の間馬車自動車の便あり、

これより峻坂曲徑を攀登すること一里半にして達す、境域數百町歩に亘り社殿の幽邃と壯嚴とは實に關東第一位にあり、往古景行天皇の四十一年日本武尊東征の砌此山に登山あそばされ伊奘諾、伊奘册の二神を奉祀し給ひ賊徒平定を祈願し玉ふと傳へらる之れ草創にして三峯の社號は翌四十二年景行天皇東國御巡狩の際行幸あらせられて下し賜へるものなりと言ひ傳ふ、明治十六年縣社に昇格し同二十二年内務省より保存資金二百圓を下賜せらる。

**所澤飛行場** 埼玉縣入間郡の最南端に位し東京府下と土地相錯す古くより所澤耕を以つて其名知らる明治四十四年陸軍臨時軍用氣球研究會設置せられて以來本邦最初の飛行場として其名を知らるるに及び移り住むもの比年激増して内外人の出入頗る繁く面目を一新するに到れり、飛行場は面積六十萬坪を超へ中央部に格納庫及び氣象觀測所あり、格納庫には無數の機整然として格納しあり、現今我國に於ては戰闘機の練習機として甲式三型あり本機は構造輕快にして高等飛行用にも供せられ發動機ロ式二百二十馬力、全幅八米二〇、上昇力三千米(十五分)速度百六十吉米(一時間)總重量五百三十斤、始め佛國製品たりしが現今は吾國にて盛んに製作せらる。

甲式一型練習機は基本操縦の練習機にて操縦裝置二重組織にして發動機ロ式八十馬力、全幅九米二〇上昇力三千米(二十分)速度一時間百三十吉米、總重量七百六十斤  
甲式四型驅逐機 本機は一見強固にして敏捷なれば世界の優秀機として數へらる、胴體モノコック製とて全部合板によりて製出せらる、發動機イ式三百馬力全幅九米三〇、上昇力五千米(十九分)速度二三六吉米(一時間)總重量千五百斤其他乙式一型偵察機、同練習機、丙式一型戰闘機、同二型戰闘機、丁式一型爆撃機デボアチン小型同戰闘機ユンケル等數十種無慮五百臺を有し海軍飛行機又十數種あり、大正十二年度に於ける飛行回數四六一二一回、飛行時間一四八四四分内事故一八一件機體破損一八一殉死重傷傷共十一人を出せり、現今世界の趨勢を調査すれば米二八〇〇臺佛二五〇〇臺英一二〇〇臺、伊七二〇臺日本五〇〇臺、支六五臺、露五〇〇餘臺、獨、不明にて現在本邦には海軍を除きて下志津、明野、第一大隊各務原、同二大隊同所同三大隊、四日市同四大隊太刀洗五大隊立川六大隊平壤等の八飛行場あり



所澤飛行學校

**箭弓神社** 取鏡ふ武藏の國梓弓、比企の郡の千代かけて變らぬ色と常盤なる名も松山町に底津磐根に宮柱太敷立て無窮に鎮座すその掛巻も綾に畏き縣社と尊崇し祀る、保食神を祭神として齋き祭るその年代は古記の釋するものなく詳かにする能はずと雖も社記の錄する處に依れば人皇第六十八代後一條院の御宇長元元年平忠常下總に據りて謀叛し城主安房守平惟忠を殺し勢

ひ猖厥を極む、平直方之を伐つも勝つ能はず遂に安房、上總、下總を略取し武藏國の入間郡河越に入る、天皇源賴信をして討伐せしめ給ふ、賴信途に松山に露營し神勅を蒙り忽ち平定す凱旋後此處に祠宇を建立し箭弓稻荷大明神と奉稱す、天正十年兵燹に罹り烏有に歸し僅かに草叢林中の一小祠に過ぎずして將に煙滅せんとするを時の城主松平内膳正家廣慨歎して再建の議を家康に謀る、家康喜多院の住職天海僧正を別當となして元和二年社殿を再建せしに、神威赫々として揚り靈顯感應響の物に應ずるが如く代々城主の尊崇殊に厚く、文化初年本殿の規模を擴大にするや總て樺材を以て構造し破風高梁崇柱に至るまで文華を飾り藻綺を刻す、殿内丹碧麗髮金色燦爛として人目を眩す、その幣殿は天保六年領主地頭及び一般崇敬者相諮りて建立せしものにして文槍華梁彫鏤鏤精麗壯觀深を極め奇巧幽秀を悉くさるるはなし、明治二十九年六月郷社に列せられ大正十二年五月縣社に昇格す境内に日露戰役記念碑あり左右の大砲二門砲彈十數個は共に當時の戦利品にして陸軍省より下附せられしものなり、境内廣濶にして四時の眺望に富み春の櫻花に朝霞み夏の綠翠、秋の清朗冬の清閑一つとして天然美ならざるはなく神徳稜威と相俟つて愈々威靈高し。

**官幣中社金鑽神社** 高崎線本庄驛より電氣軌道にて兒玉町に至り馬車の便を驅りて馳すこと一里半にして青柳村に達す、社は二の宮御室ヶ嶽に鎮座まします官幣中社にして金鑽神社と讃へ奉る延喜式内名神大社にして、武藏の國の二の宮たり、草創の由縁を温めれば景行天皇の四十一年日本武尊御東征の砌伊勢神宮にて倭姫命より東國鎮護のためとして賜はりし草薙寶劍に副へて佩し給へる火鑽金を御靈代として御室ヶ嶽に藏め天照大御神と素戔鳴尊とを祭神として齋き奉り玉ふ。後欽明天皇の二年日本武尊を合せ祭る、されば早くより皇室の御尊崇厚く殊に名ある武將の尊敬する處嘗つて坂上田村麿、源義家朝臣共に日本武尊の吉例を追ひ當社に祈願をなして東夷平定の功を奏せりと依りて義家は凱旋後琵琶弓劍等を献納せり、今に存して神社の寶物たり、徳川氏は朱印地三十石を寄附せり、明治十八年四月東國鎮護の神社たるを以つて、官幣中社に列せらる、大祭は四月十五日の例祭、二月十七日の祈年祭に十一月二十三日の新嘗祭にして特に嚴肅なる御祭典を行はせらる、この外福迎神事、火鑽祭等の古式の神事あり、御室嶽の神境は三町歩ありて古より人民の登山を許さず實に神さびたる神山にして社殿の壯嚴と相俟つて御神威の愈々高きを覺ゆ、現今の御社は明治三十五年伊東博士の設計によりて改造せられしものにして其構造は地方神社の模範とする處たり、特別保護建造物として塔婆(一名多寶塔)構造形状寸尺



官幣中社金鑽神社

二重塔 中唐戸 一ヶ所

脇連子窓 二ヶ所  
組物三千先軒二重垂木  
二重圓高欄 拭板  
外部丹塗 内部丹塗  
屋根柿葺 露盤鑄鐵製  
相輪鑄鐵製鎖付初重方十三尺二寸此建坪四坪八合四勺

三尊を刻して安置し、専ら淨土念佛の法門を弘め一切經を石に書して收め以つて丘と爲し寶塔を建て又山王祠を築きて國家の昌平と庶民の榮福を祈る、後星野山無量壽寺の勅額を賜ひ勅願所と定めらる、かくて伏見天皇の永仁四年僧正尊海を遣はされ再治せしめ玉ふ、尊海慈慧大師の靈像を勸請し庶民の念願を

同四大隊太刀洗五大隊立川六  
大隊平壤等の八飛行場あり

●**箭弓神社** 取鑑ふ武藏の國梓弓、比企の郡の千代かけて變らぬ色と常盤なる名も松山町に底津磐根に宮柱太敷立て無窮に鎮座すその掛巻も綾に畏き縣社と尊崇し祀る、保食神を祭神として齋き祭るその年代は古記の釋するものなく詳かにする能はずと雖も社記の錄する處に依れば人皇第六十八代後一條院の御宇長元元年平忠常下總に據りて謀叛し城主安房守平惟忠を殺し勢

なる御祭典を行はせらる、この外福迎神事、火鑽祭等の古式の神事あり、御室嶽の神境は三町歩ありて古より人民の登山を許さず實に神さびたる神山にして社殿の壯嚴と相俟つて御神威の愈々高きを覺ゆ、現今の御社は明治三十五年伊東博士の設計によりて改造せられしものにして其構造は地方神社の模範とする處たり、特別保護建造物として塔婆(一名多寶塔)構造形状寸尺

二重塔 中唐戸 一ヶ所

脇連子窓 二ヶ所

組物三千先軒二重垂木

二重圓高欄 拭板

外部丹塗 内部丹塗

屋根柿葺 露盤鑄鐵製

相輪鑄鐵製 初重方十三尺二寸此建坪四坪八合四勺

初重高地盤より茅葺外面まで十二尺八寸

二重高地盤より茅葺外面まで二十三尺二寸

地盤より露盤下端まで三十二尺三寸

同相輪頂上まで四十四尺六寸

●**縣社八幡神社** 兒玉郡兒玉町の白鳩峯に鎮座まします縣社にして祭神は譽田別尊姫大神氣長足姫尊の三柱に座せり、鎮座の年元を按ずるに人皇七十代後冷泉天皇の永承六年源義家父頼義に従ひて怪傑安部頼時を討つに當り出征の途次當地に將帥を駐めて齋場を築き石清水八幡宮を遙拜して戰捷を祈る、後十三年を経て康平六年に至り奥州平定の功を奏して凱旋す、父頼義は鎌倉の地を卜して八幡宮を建立し義家は當地に社殿を造營して男山八幡宮の御分靈を移し齋き祀りて神田若干を寄進し、社頭を東石清水白鳩峯と稱ふ、之鎮座の由緒にして以來各地武將の守護神として尊崇厚し、時に夏目豊後守定基當地方一圓を領して城主たりしが其の雉岡城を築くに當り、領民の意嚮を洞察して八幡山領の總鎮守となし社殿の改築を營み次いで境内に末社を建立する等諸制を整へ社領若干を寄進して厚く崇敬しければ規模大に擴張す、毎年八月十五日を祭禮日とし嚴肅なる祭儀行はる、星霜移り領主換はると雖も益々尊崇厚く神威彌々遠近に輝き武藏國の八幡宮と崇め又東石清水八幡宮と稱へて其の名の關東を蔽ふに至れり、かくて明治十六年十一月郷社に列せられ越えて十七年四月九日縣社に昇格せられたり、三大祭は九月十五日の例祭と三月十五日の祈年祭、十二月十日の新嘗祭三回にして當日は本縣より供進參向あり古式神輿渡御式の執行ありて祭儀嚴肅を極む。

●**喜多院** 川越市に在り、往時勅定に係はる關東天皇の本山にして徳川三代將軍家光の誕生せし江戸城紅葉山の別殿を移せるものにして遙かなる由來を尋ぬれば當地方往古は渺茫たる海沼にして神龍棲めりと池畔に仙芳真人と稱する一仙人ありしが、法力を以つて海水を去り佛像を安置せりと之れ當院の開創なりと云ひ傳ふ。後淳和天皇の天長七年天皇僧圓仁即ち慈覺大師に勅して佛法を關東の州に弘通せしめ玉ふ、大師靈地を求むる途次偶々仙波の邊りを過るに不思議なるかな其の騎せる牛蹠て進まず、止むなく大師此の宿に一宿す然かるに夜中星光燦として叢林を射るを見怪んで林中を探ぐるに果して清水澄徹せる宛然靈地其のもの、如き小池あり(今に残れる明星杉之れなり)依りて止まり彌陀、不動、毘沙門の



喜多院ノ奥庭

三尊を刻して安置し、専ら淨土念佛の法門を弘め一切經を石に書して收め以つて丘と爲し寶塔を建て又山王祠を築きて國家の昌平と庶民の榮福を祈る、後星野山無量壽寺の勅額を賜ひ勸願所と定めらる、かくて伏見天皇の永仁四年僧正尊海を遣はされ再治せしめ玉ふ、尊海慈慧大師の靈像を勸請し庶民の念願を満足せしめ併て一乘の妙法を弘む、天皇之を嘉みして官田五十石の租を除き永く當院に賜ひ關東天臺宗の本山と定め玉ふ、亞いで正安三年二月東國天臺の本山たるべき勅書を賜ひ、後奈良天皇は亦野山の宸翰を賜ふ、天文六年七月兵燹に罹りて堂宇烏有に歸し以來僅かに茅屋に依つて法燈を掲ぐることに久し、斯くて慶長年間に及び家康大僧正天海をして管せしむるや十六年朝廷に奏して復古を謀る、寺境四萬八千坪、酒井忠利をして工事を監せしめ、官田五百石を資糧に充て關東天臺の僧徒を總理せしめらる、此の時より後陽成上皇東叡山號の額を賜ふ、又元和二年家康駿河に薨するや遺命に依り日光山に移す、時に天海大僧正護衛たり此の寺に止まりて回向する七日遂に東照宮を建て、祭祀す、寛永二年天海寂するや家光天海の像を作らしめて之を安置す現在の開山堂之れなり、四代綱吉は寺領二百石を奉ずかくして明治昭代となるや同三十九年農商務省令二十五號に依り國有林の全部を境内に編入を許可せられ茲に寺觀を回復するの端緒開かる、起源古き名刹なれば從て亦寺寶多く後奈良天皇星野山號勅額を始め不動明王天真親王筆、大明院宮御筆蹟、家康の短冊、慈眼大師の筆蹟、狩野元信筆(國寶)梵鐘正安二年の銘あり(國寶)家光寄進の橘友成作の太刀(國寶)等其他數十種を藏す。

●**不動ヶ岡不動尊** 北埼玉郡の不動岡村にあり、東武鐵道に依りて加須驛に下車すれば行くこと約半里にして詣る、王嶽山總願寺と號し智證大師の作になれる不動尊を本尊として祭る、像は元京都紫宸殿に安置せられしものなりしが事變に際して今を去る八百有餘年武州吉見領に移遷せられしが長曆三年洪水の折流れて此地に止まり給へりと里人相諮つて不動岡に一字を建立し之に安置し祀ると、別當總願寺は元和二年僧源信の創立に係る源信高野山に螢雪の苦を積む十四年業なりて諸國を編歷遊説すること六年にして當不動堂に來り病む一日尊像を拜して病俄かに癒ゆ、靈光の偉大を感じて士民と相謀り協力して遂に一寺を建立す、之れ即ち現今の王嶽山總願寺なり、境内廣濶にして眺望に富み後園に起ては富士、日光、筑波の三峯を居ながらにして望み得首を回らせば千里蒼々たる田園を一眸の内に收め眺望佳なり、嘗つて明治三十四年七月中央新聞社は投票を以つて全國神社佛閣に對する尊信の趣向を天下に問ふや當山不動明王第一位を占む以つて其の功德の偉



不動ヶ岡總願寺

大なるを知るべし、縁日は二月廿七、廿八、廿九の三日に六月廿七、廿八、廿九日、十月廿七、廿八日にして就中正月は年中の大縁日として舊廿九日はお練供養にて大護摩を修行し稚兒數十名を出せり、又二月節分の豆撒きには他に類例なき鬼追式を行ふ當日は東京方面の力士俳優年男を勤め、東武鐵道は汽車賃の大割引をなす等亦臨時列車の増發等流石に關東三大節分會の隨一として頗る股賑を極む。

◆主要銀行會社

●株式會社埼玉農工銀行 縣下第一流の銀行にして本店を北足立郡浦和町に置く明治三十一年三月を以て創立され、資本金百五十萬圓、全額拂込済とす、大正十四年度上半期に於ける營業狀態を檢するに縣下の重要物産たる織物業不振の爲め未だ財界好轉の機運に向ふ能はざりしと雖も借入請求の總額は前期の繰越を合せ七百四十五口、金百九十六萬三千七百七十四圓にして貸付總額は四百七十四口金百四萬七千圓なり、現取締役頭取は齋藤安雄氏にして監査役に板本善兵衛氏等就任せり。

●株式會社武州銀行 は大正六年一月の創立にして資本金八百二十九萬圓、全額拂込済にて縣下有數の大銀行なり、本店を浦和町に置き、支店を東京に三ヶ所、川崎市に二ヶ所、其他川口、蕨、與野、大宮、岩槻、粕壁、幸手、草加、熊谷、妻沼、本庄、兒玉、入間川、豊岡、松山の樞要都邑に設け最近元大宮商業銀行を合併し愈々其大を爲せり、現下經濟界の不況に處し當行は堅實穩健を行是とし最善の努力を致し特に縣下產業資金の供給と金融の調節に力を注ぎ、當期末の預金總額は四千萬圓に及び、現頭取は大川平三郎氏にして、常務取締役は永田甚之助、柴田愛藏兩氏あり監査役に石坂養平氏等就任せり。

●株式會社浦和商業銀行 是明治三十三年四月の創立、資本金六十萬圓、拂込高五十萬八千三百九十圓にして浦和町に本店を置き、支店を東京下板橋、成増、練馬、石神井及び鳩ヶ谷、志木の七ヶ所に設け縣下南部より東京郡部に涉りての金融機關として貢獻するところ甚大なるものあり。現取締役頭取は小谷野傳藏氏にして監査役に松本武治氏等あり。

●株式會社第八十五銀行 是川越市大字川越にあり、明治三十年五月の創立に係り資本金三百萬圓、拂込金二百五十萬圓を積立金貳百四萬四千八十三圓にして始め第八十五國立銀行と稱し縣下銀行中最も古き歴史と永き經驗を有せり、支店を秩父、熊谷、本庄、松山、志木の五ヶ所に設け、基礎健實にして信用頗る厚く縣下屈指の金融機關たり、取締役頭取綾部利右衛門氏以下六名の役員あり

●株式會社所澤銀行 是所澤町にあり、明治二十六年二月の創立にして資本金三百萬圓、拂込金百五十七萬五千圓とし支店を入間川町及び東京府下國分寺に置き嶄新なる營業方法を以て同地方に活躍しつゝあり。取締役頭取に小澤久助氏、常務取締役に藤篋氏以下十一名の重役あり。

●株式會社飯能銀行 是明治三十四年五月の創立にして資本金貳百萬圓、内拂込金八十七萬五千圓なり本店を入間郡飯能町に置き東京府下南千住町に、出張所を同郡吾野村、名栗村、高萩

村に設置し同地方金融界に重きをなせり、現取締役會長は綾部利右衛門氏にして其他重役九名業務に當りつゝあり。

●株式會社深谷商業銀行 是大里郡深谷町にあり、明治三十四年四月創業し資本金六十萬圓、拂込金三十萬圓にして妻沼、寄居、本庄、小川の四ヶ所に支店を置き穩健確實の下に業務の擴張に努力し成績亦見るべきあり、取締役頭取に塚田啓太郎氏、專務取締役に丸山伊勢松氏、監査役に加藤徳平氏等あり。

●株式會社深谷銀行 是大里郡深谷町にあり、同地方金融界の覇者にして明治二十八年一月の創立に係り資本金三百萬圓、拂込金百二十萬五千圓を有し寄居、上尾、熊谷の三支店を設け、成績良好にして益々發展の域に進みつゝあり、現頭取齋藤安雄氏、專務取締役に大谷藤三郎氏外六名の重役行務に盡力しつゝあり。

●株式會社秩父銀行 秩父郡秩父町にあり、明治二十七年七月の創立にして資本金百五十萬圓拂込金百一十一萬圓を擁し同地方金融界の重鎮を爲す、郡内皆野、小鹿野、吉田、親鼻の四支店を有し業務取扱迅速且堅實なる營業振りを以て知らる。取締役頭取に大森喜右衛門氏就任し以下取締役六名監査役五名あり。

●株式會社西武銀行 秩父郡秩父町にあり、明治二十九年十月の創立に係り資本金百萬圓、拂込四十七萬五千圓にして同地方金融界一方の覇者たり。郡内大瀧、野上の兩村に支店を設置し金融の圓滑に努めつゝあり、取締役頭取は柿原定吉氏にして以下七名の重役行務を分擔其れ、行業の伸展を圖りつゝあり。

●忍商業銀行 足袋に名高き忍町行田に於ける隨一の金融機關にして資本金百萬圓、拂込七十五萬三千圓にして明治二十九年五月の創立に係る。羽生、騎西、吹上、鴻巣、桶川、鳩ヶ谷の諸町村に支店を設く。現取締役頭取は松岡三五郎氏なり。

●開國館製絲所 是大里郡深谷町にあり、總敷地貳萬坪、建坪六千坪、工場、事務所、倉庫、乾燥場、病院、教室、食堂、寄宿舎等百四十六棟を有し、建築宏壯なり、同所は其始め長野縣人林國藏氏の經營にかゝり明治三十三年の創業なり、大正六年合資岡谷製絲會社と合同經營するに及び更に豊富なる資力と一層健實なる營業方針とを以て基礎の鞏固と事業の發展を企圖すると共に内に工女の教育及待遇に留意し其施設の宜しきは斯業界に稀に見る所なり、現在釜數壹千百貳拾釜を算し之れが從業員壹千五百人を包擁し年産額參萬五千貫に達せり、蓋し縣下第一流の大工場と言ふべし。

●富國館製絲所 是大里郡深谷町にあり其建造堅牢壯麗にして眞に縣下屈指の工場たり、場主は長野縣人兩角幸助氏にして明治三十三年一月の設立なり、工場敷地壹萬二千坪、建坪三千六百坪、釜數壹千五百釜、從業員千四百人を算し年額參萬貫を産するの盛況に至れり、又福島縣信夫郡野田村に千百釜の支工場を始め静岡縣金谷町に貳百五拾釜の支工場を有す。

●大宮邊製絲所 是北足立郡與野町に在り、本店は長野縣諏訪郡長地村にして渡邊豊治氏の經營なり明治四十四年三月の創業に係り現在釜數六百釜を有し男女工九百人を使備するの盛況にあり、同製絲所の管理は渡邊綱治氏にして所長は山崎幸治郎氏たり。

●株式會社深谷製絲所 大里郡深谷町にあり、元藤森治郎吉氏の個人經營なりしものを大正十二年七月五十萬圓の株式組織となし同館の面目躍如として光彩を放つに至れり、現在使用工手

の地に求めんとして阿波國齋部の民を率ひ此地に來り麻穀の蕃殖を獎勵せるに其沿革を發せり、古語拾遺に好麻所生、故謂之總國、穀禾所生、故謂之結城とあるに徴して國號の起原を察し得べく安房は阿波に通せるや推して知るべし。而して總の國を

立にして資本金三百萬圓、拂込金百五十七萬五千圓とし支店を入間川町及び東京府下國分寺に置き嶄新なる營業方法を以て同地方に活躍しつゝあり。取締役頭取に小澤久助氏、常務取締役に藤篠氏以下十一名の重役あり。

●株式會社飯能銀行 は明治三十四年五月の創立にして資本金貳百萬圓、内拂込金八十七萬五千圓なり本店を入間郡飯能町に置き東京府下南千住町に、出張所を同郡吾野村、名栗村、高萩

●株式會社深谷製絲所 大里郡深谷町にあり、元藤森治郎吉氏の個人經營なりしものを大正十二年七月五十萬圓の株式組織となし同館の面目躍如として光彩を放つに至れり、現在使用工手四百五十人、釜數三百四十八釜にして專務取締役に大谷藤豊氏取締役兼工場長として淺原美都雄氏就任し一層健實に業運の發展を企圖しつゝあり。本工場の最も特筆すべきは男女工手の慰安待遇方法にして、體育の奨励は特に重きを置き工場内に庭球場、野球場、其他幾多の施設をなし或は運動會を開催し、或は旅行に、或は體操に心神の鍛鍊に努めつゝあり。

●林合名會社支店 は大正十四年四月の創立にして資本金十五萬圓全額拂込済とす、本社は長野縣諏訪郡平野村にありて開清館と稱したるを本庄町に於ける舊大星製絲場並に信榮館と合併せしめ合名會社と爲したるものにして二工場を有し六百五十人の男女工手を使用し業績頗る舉れり。林寛一氏代表社員たり

●松本米穀製粉株式會社 大里郡熊谷町にあり、大正三年四月の創立にして資本金參百三十萬圓、拂込金貳百三十九萬貳千圓なり、工場は大規模にして電力、機械力を以て大量生産を爲し、販路は東京を始め群馬、茨城、静岡、宮城、山形の諸縣より全國各地に移出さるゝに至れり、東京深川に支店を設け東京方面の販路擴張に任じつゝあり、現社長松本眞平氏なり

●久田合名會社 は兒玉郡兒玉町に本店を置き、秩父町及鴻巣町に支店を有し酒類、醬油、味噌、の製造販賣及物品販賣を營むものにして現在代表社員は久田圓藏氏なり、同店は天保年間より久田圓藏氏個人名義にて營業繼續し來れるも時代の趨勢に鑑み明治三十年一月事業擴張と共に合名會社に組織を改む、爾來確實なる發達を遂げ、現在秩父町、鴻巣町に支店を見玉町及鴻巣町に工場を設け、使用人數百三十人に及び年産額清酒三千石醬油四千石味噌壹千石を製造販路は縣下は勿論東京横濱及群馬地方に移出するの盛況にあり、今や縣下醸造界に其の覇をなし益々活躍發展を遂げつゝあり。

●秩父鐵道株式會社 秩父鐵道は高崎線熊谷驛より、一路西南に走り、寄居、波久禮、長瀨を過ぎ、秩父峽谷の明媚なる山容に接しつゝ、荒川の清流に沿ひ、銘仙の産地秩父町に至る線と更に熊谷驛より、足袋の産地行田を経て東武線羽生驛に接續する線にして全線四拾哩餘の電氣鐵道なり、貨物の輸送亦電氣機關車を使用し秩父山中より多額の林産物及鑛産物の運輸を爲しつゝあり、本社は大里郡熊谷町にして資本金五百五拾五萬圓拂込金參百六拾五萬圓を有する縣下第一位の鐵道會社なり、取締役社長諸井恒平氏常務取締役米山熊次郎氏外數名の取締役監査役ありて何れも斯業の發展に貢献しつゝあり

# 千葉縣

## 沿革

[ 95 ] 本縣の管轄に屬する安房上總下總の地は往古之を總の國と稱し、有史以前は暫く置き神武天皇即位の初め天宮命沃土を東國

埼玉縣、千葉縣

産するの盛況に至れり、又福島縣信夫郡野田村に千百釜の支工場を始め静岡縣金谷町に貳百五拾釜の支工場を有す。

●大宮渡邊製絲所 は北足立郡與野町に在り、本店は長野縣諏訪郡長地村にして渡邊豊治氏の經營なり明治四十四年三月の創業に係り現在釜數六百釜を有し男女工九百人を使備するの盛況にあり、同製絲所の管理は渡邊綱治氏にして所長は山崎幸治郎氏たり。

の地に求めんとして阿波國齋部の民を率ひ此地に來り麻穀の蕃殖を奨励せるに其沿革を發せり、古語拾遺に好麻所生、故謂之總國、穀禾所生、故謂之結城とあるに徴して國號の起原を察し得べく安房は阿波に通せるや推して知るべし。而して總の國を上下二國に分ちたるは何れの時代なりしや分明せざれども帝王編年說に依れば安閑天皇元年上總下總兩國に分つとあり、一説には孝德天皇大化改新の時なりとも云へり、安房は元上總の一部にして元正天皇の養老二年上總の四郡平群、安房、朝夷、長狹を割きて安房國を建て、後聖武天皇の天平十三年、又之を上總に合併し、孝謙天皇の天平寶字元年に及びて再び舊の如く一國となせり、かくて安房は國府村府中に、上總は市原村能滿に下總は市川町國府臺に國府を設置し地方の行政を司らしめ民生を治めしめたり、當時國府の所在地は自ら一國政治、軍事の中心地として繁榮したるものなり。淳和天皇の御宇、上總、常陸上野の三國を親王の任國となし其守を太守と稱せり。當時藤原氏朝權を恣にし、上下華美を競ひ、詩歌管絃に日を送り紀綱弛廢して威令行はれず此時に方りて勢力を地方に養ひ藤原氏の文弱を歎きて他日奮起飛躍の好機を狙ひしものを源平二氏の武人となす。桓武天皇の曾孫高望王は宇多天皇の寛平年間平氏を賜りて上總介に任せられ、雄を關東に稱せり、孫將門勇悍にして霸氣を帯び自ら新皇と稱して暴威を逞うし勢頗る猖獗なりしかば、平貞盛、藤原秀郷、朝命を奉じて討つて之を平ぐ、將門の從姪忠常志を繼ぎ下總に亂を起せしも幾干もくな誅に伏す、其子常將宥されて介となり千葉城に居り爾來子孫相繼ぎて千葉姓を名乗れり、治承年間に源賴朝兵を相模に起し、石橋山の合戦に敗れて安房に遁れ同地豪族の援助を得て次第に勢力を加へ上總を経て下總に進む、下總の千葉常胤(常將四世の孫)上總のす廣常其他諸族來り會し賴朝の軍大いに振いて平氏を西海に追ひ遂に霸を鎌倉に稱ふるに至れり、かくして安房は賴朝の直轄するところとなり下總は平廣常舊の如く領有せしが後罪を得て足利義兼更つて任せられ上總は千葉常胤、結城朝光之を分領したり。建武中興の際足利尊氏下總、武藏、常陸三國の守護に任せられ吉野朝に入りて安房と上總とは其所屬を定めず、下總は千葉貞胤(常胤七世の孫)南部に、結城直朝(朝光六世の孫)は北部を領せり。足利氏の末葉は諸侯割據して鎌倉は既に覆權たらす古河にて古河公方と稱せる足利成氏僅かに餘威を保ちたりしも上杉氏に追はれて千葉に通る。城主千葉孝胤迎へて之を奉じ、安房の里見義實、上總の武田信興亦來りて之を助く、之より先安房に流寓せる里見義實勢を得て房總二國の主となる。上總の地は足利時代の初期鎌倉管領の執事上杉氏の領有たりしも守護代武田氏に奪はれ後里見氏の略取するところとなれり。里見氏は公方の勢力挽回に努めんとして足利義明を生實に奉ず所謂小弓御所にして義明國府臺に北條氏綱父子と戦ひ敗死するや小弓御所隨つて亡ぶるに至れり。國府臺の一戦に大勝せる北條氏は餘威を以て千葉結城二氏を従へ勢力頗る加はりしも豊臣氏大舉して小田原に迫り北條氏を屠るや關東悉く風靡し北條氏に黨せる千葉氏亦其の領土を沒收せられ遂に滅亡するに至れり。里見、結城の二氏は早く風を望んで歎を豊臣氏に通せしを以て其領土事なきを得たるも里見氏は安房以外の領土を削られ後徳

川氏に至りて罪を受け元和年間除せられたり。關ヶ原の一戰に徳川氏代りて天下を統一するや關東は其藩屏として譜代若しくは親藩を以て要地に封せり、所謂關東十八城の如き是なり。房總三州は治世三百年領封の變轉常なかりしと雖も要するに徳川氏の譜代大名の幾多の小藩に分封せられたるに過ぎざりき。而して其間旗本領と直轄領たる天領を配置せり、房總三州中十萬石以上を領せしは佐倉藩のみにして幕末時勢の先覺者堀田備中守正睦は實に其藩主たりき。今維新當時房總の列藩を示せば左の如し。

安房 勝山一萬二千石 酒井 忠一	曾我野一萬二千石 戸田 忠正
同 館山一萬石 稻葉 正巳	同 (同) 上
同 長尾四萬石 本多 正誦	上總 久留里三萬石 黒田 直養
同 (維新ノ除徒封)	同 飯野二萬石 保科 正益
同 花房三萬五千石 西尾 忠篤	同 菊間五萬石 水野 忠敏
同 (同) 上	同 (同) 下
上總 大多喜二萬石 松平 正和	同 一ノ宮一萬三千石 加納 久微
同 佐貫一萬六千石 阿部 正恒	同 鶴舞六萬石 井上 正直
同 小久保一萬石 田沼 寛尊	同 (同) 上
同 (同) 上	同 大網一萬一千石 米津 政敏
同 鶴牧一萬五千石 水野 忠順	同 (同) 上
同 櫻井一萬石 瀧脇 信敏	下總 佐倉十一萬石 堀田 正倫
同 (同) 上	同 宿五萬八千石 久世 廣周
同 松尾五萬石 太田 資美	同 多古一萬二千石 松平 勝行
同 (同) 上	同 高岡一萬石 井上 正和
下總 小見川一萬石 内藤 正徳	同 結城一萬八千石 水野 勝任
同 生實一萬石 森川 俊徳	

七百年來の武家政治破れ政權再び朝廷に歸し維新の改革と爲るや地方政治亦著しく變更せられ明治二年上總に宮谷縣を、下總に葛飾縣を置き舊藩領を管せしめ、列藩は舊の如く稱せしが四年七月廢藩置縣の制施かれて縣知事は舊藩主をして之に當らしめ同年十一月各藩、藩籍奉還するに及び新に木更津縣(上總安房)及び印旛縣(下總)を置き縣令を任じて縣治を司らしめたり。六年六月更に二縣を廢し千葉縣を置き八年五月常陸の新治縣を廢して其所管に屬する香取匝瑳海上三郡を本縣に管轄せしめ利根川以北を茨城縣に屬せしめ後更に茨城埼玉二縣との間に一部境界を變更して現時に至れり。本縣は元安房國四郡、上總國九郡、下總國八郡合計二十一郡なりしものを安房四郡平群、朝夷長狹安房を廢して安房郡となし上總の望陀、周准天羽の三郡を廢して君津郡とし長柄、上埴生二郡を長生郡とし山邊、武射二郡を山武郡となし、下總の東葛飾南相馬二郡を廢して東葛飾郡となし印旛、下埴生二郡を廢して印旛郡となし郡制廢止前十二郡を數へたり。

◆地勢風土

本縣は關東地方の東南部遠く外海に突出せる所謂房總半島の地にして東南及西の一部は太平洋に面し、北方利根川に依りて茨城縣に境し、西方江戸川を隔て、東京府並に埼玉縣に接し、他の西部は東京灣に臨む。廣袤東西二十四里二十三町、南北三十二里三十四町、周圍百四十三里、沿海線九十六里二十二町、面積三百二十九方里二十八を有し安房、上總及び下總の大部を管し一市十二郡三百四十八ヶ町村に分割せり、面積の大半は北海道及び臺灣を除き三府四十三縣中第二十六位に在り。

地勢下總は古來山無國と稱せられ土地概ね平坦其間僅かに丘陵性の臺地を見るあるのみ。西北は沃田曠野遠く連り印旛、手賀其他の湖沼各所に散在し、東南は丘陵起伏の狀を呈し。九十九里濱沿岸は一帶の平野を爲し椿湖の干潟あり。河川に利根川あり、溶々流るゝ七十餘里銚子に至りて外海に注ぎ本縣管内經過三十餘里に及べり。江戸川は關宿町の南方より利根川と分れて十八里餘を流れ浦安町に至りて東京灣に注ぐ、其他栗山川、木戸川、鹿島川あり栗山、木戸の二川は九十九里濱に入り鹿島川は印旛沼に注入せり、利根、江戸の二川は水量多く汽船帆船を泛べて運輸の便頗る大なり、上總の北部及び中央一帶の地は平坦にして山林原野多く房總の國境に至りて鋸、富、伊豫、高塚愛宕、清澄、鹿野、鬼沼等の峰巒重疊して蜿蜒連亘數里に及べり、太平洋方面に注ぐ重なる河川は一宮、夷隅、東京灣に入るものは小糸、小櫃、養老の諸川にして山嶽起伏の間を縫ひて運轉漑溉の便を助け地味亦肥沃なり。安房は半島の南端三面繞らすに海を以てし山嶽多く平原甚稀なり。地形の小なる關係上河川の大なるものなしと雖も港灣漁場多く白沙青松連るところ大小の島嶼波浪の間に出没して其景致の凡ならざるは本縣の特色とするところなり。

◆山嶽

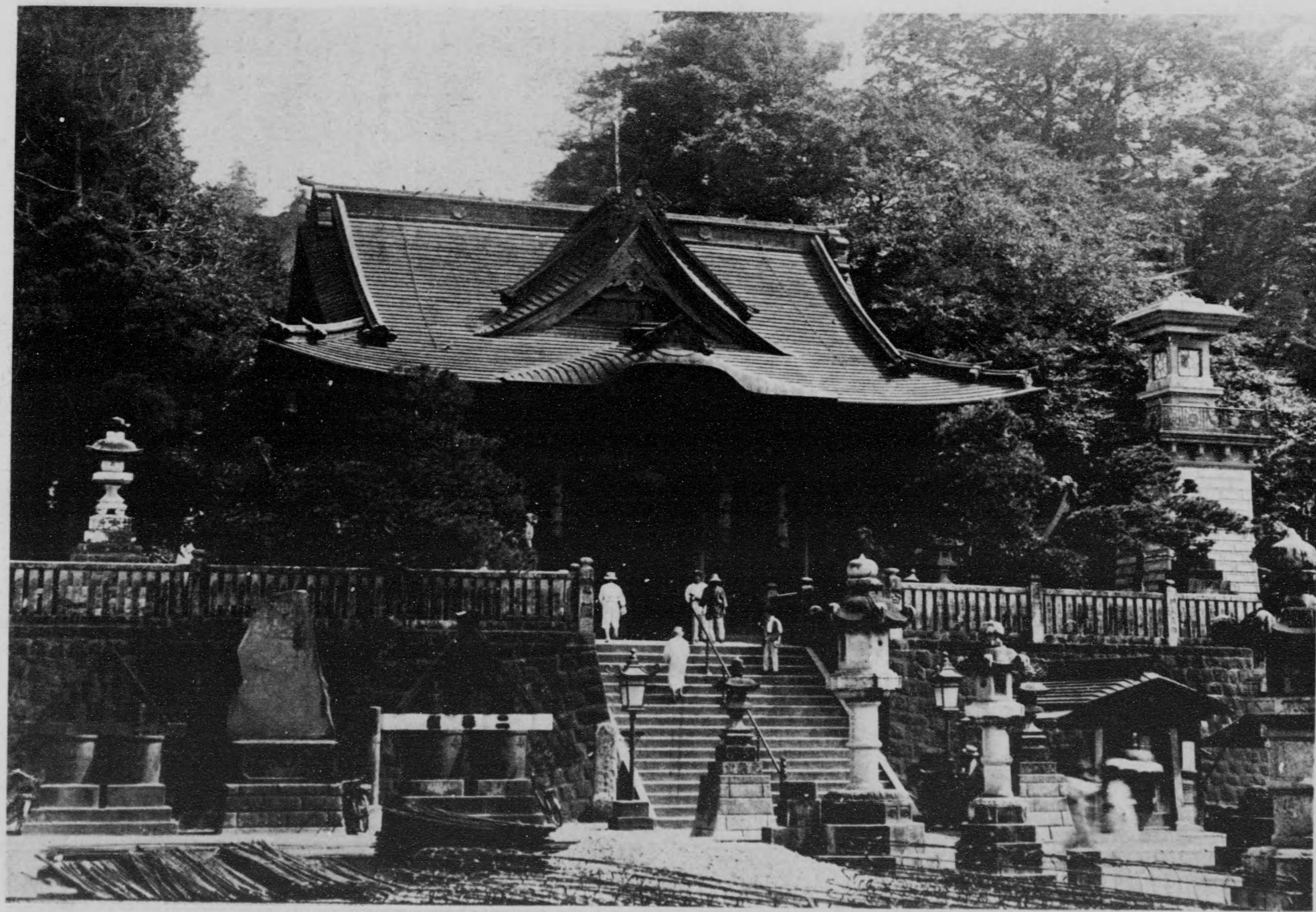
本縣は關東地方に於ける一半島に過ぎざるを以て著しき高山峻峰の如きは見ざるを得ず、只僅かに一千尺内外の低山性の山嶽起伏するあるのみ。著名なるもの左の如し。

- 鹿野山 海拔三百六十九米 君津郡秋元村に在り上總第一の高山にして九十九谷の奇勝、十州一覽の風景あり山中の古刹、神野寺は結構壯麗聖徳太子の草創に係る古來著名の靈場なり。
- 鬼沼山 海拔三百米 鹿野山に接續し、縣基本林たり。傳説あり上古日本武尊東夷御征討の爲め此地に到るや鬼賊敗走して此山中に隠れ日夜號泣せりと依つて鬼沼山と稱せられたり。
- 清澄山 海拔三百六十八米 安房郡の東海岸に聳立し、斧鉞入らざりし靈場なれば古杉老樟鬱蒼たり、山腹に千光山清澄寺山麓に妙の浦あり。
- 富山 海拔三百四十八米、安房郡岩井村合戸の東部に屹立し馬琴の里見八犬傳に於ける、伏姫栖居の地として知らる。
- 鋸山 海拔三百三十米 房總の國境を爲し凝灰岩の山骨露に山頂鋸齒に似たり、山中名所多し。
- 伊豫ヶ岳 海拔一千尺、安房郡平群村の西北に聳へ奇岩怪石よりなり小祠、山嶽にありて洞穴其下を貫通せり。

◆氣象

本縣は地形東西に狭く南北に長く面積亦小ならず、随つて各地多少氣候の相違は免る能はずと雖も、四面河海を以て圍繞せらるゝが故によく中和を保ち寒暑の溫差比較的僅少なり。而して沿海部は稍海洋的性状を帯び溫度の變化緩慢にして結氷積雪の如きは甚だ稀に屬するも北總の平野、房總の山間部の如きは内陸的氣候の變化ありて寒暖の差稍大なるを免れず、平均縣下の氣温は攝氏十四、五度 内外にして最高攝氏三十一、二度を上下し最低零下三、四度を昇降せり。房南布良より白濱附近は縣下最も高温の地にして平均攝氏十六度を示し低温地方平均十四度に比し攝氏二度華氏四度の差を有せり。降水量を見るに縣下の平均二千耗内外にして安房の東海岸に多く内陸に入るに隨ひ減少し、東京灣の沿海中北東部より江戸川





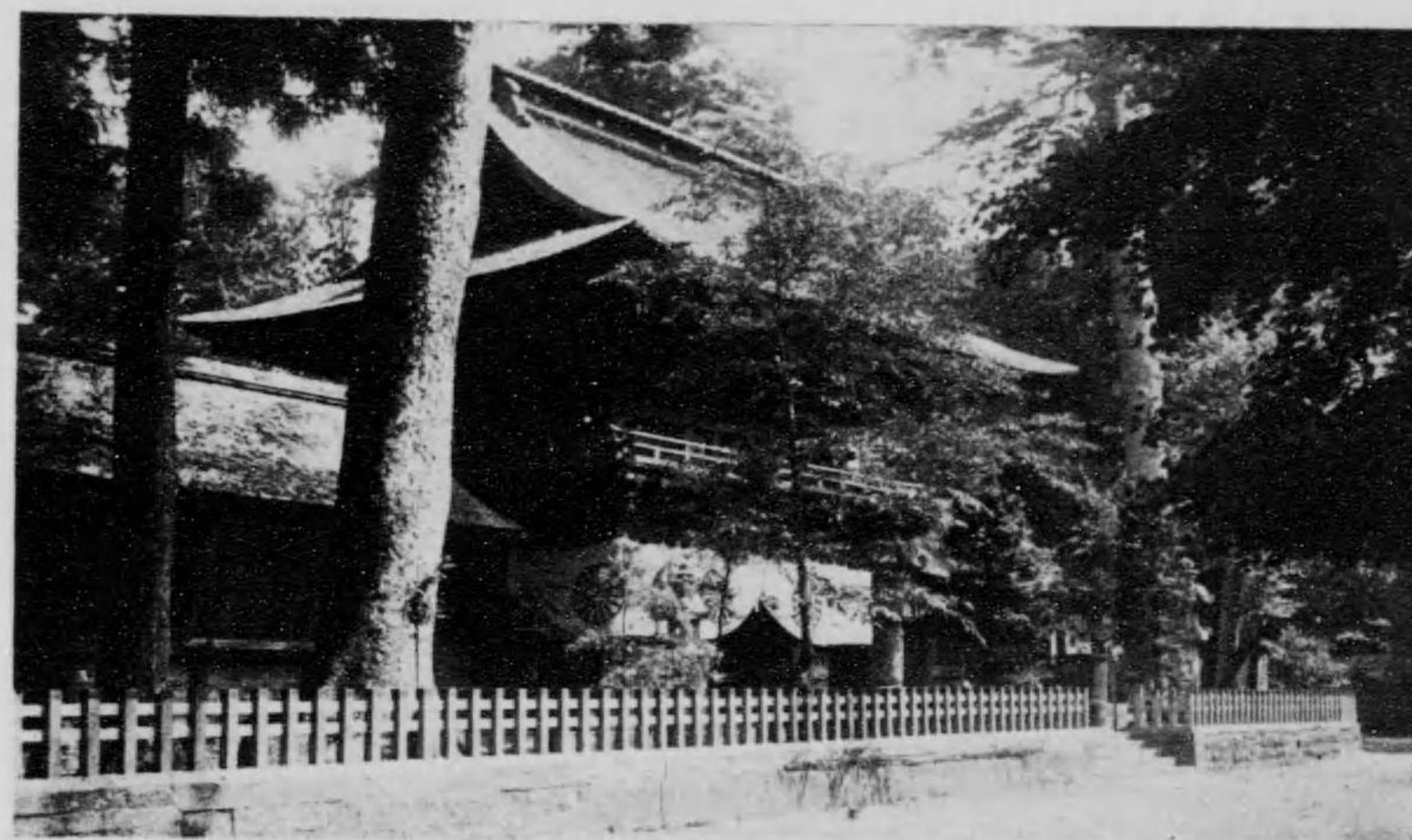
成田山不動尊

本縣は關東地方の東南部遠く外海に突出せる所謂房總半島の地にして東南及西の一部は太平洋に面し、北方利根川に依りて茨城縣に境し、西方江戸川を隔て、東京府並に埼玉縣に接し、他の西部は東京灣に臨む。  
 廣袤東西二十四里二十三町、南北三十二里三十四町、周圍百四十三里、沿海線九十六里二十二町、面積三百二十九方里二十八を有し安房、上總及び下總の大部を管し一市十二郡三百四十八ヶ町村に分割せり、面積の大さ北海道及び臺灣を除き三府四十三縣中第二十六位に在り。

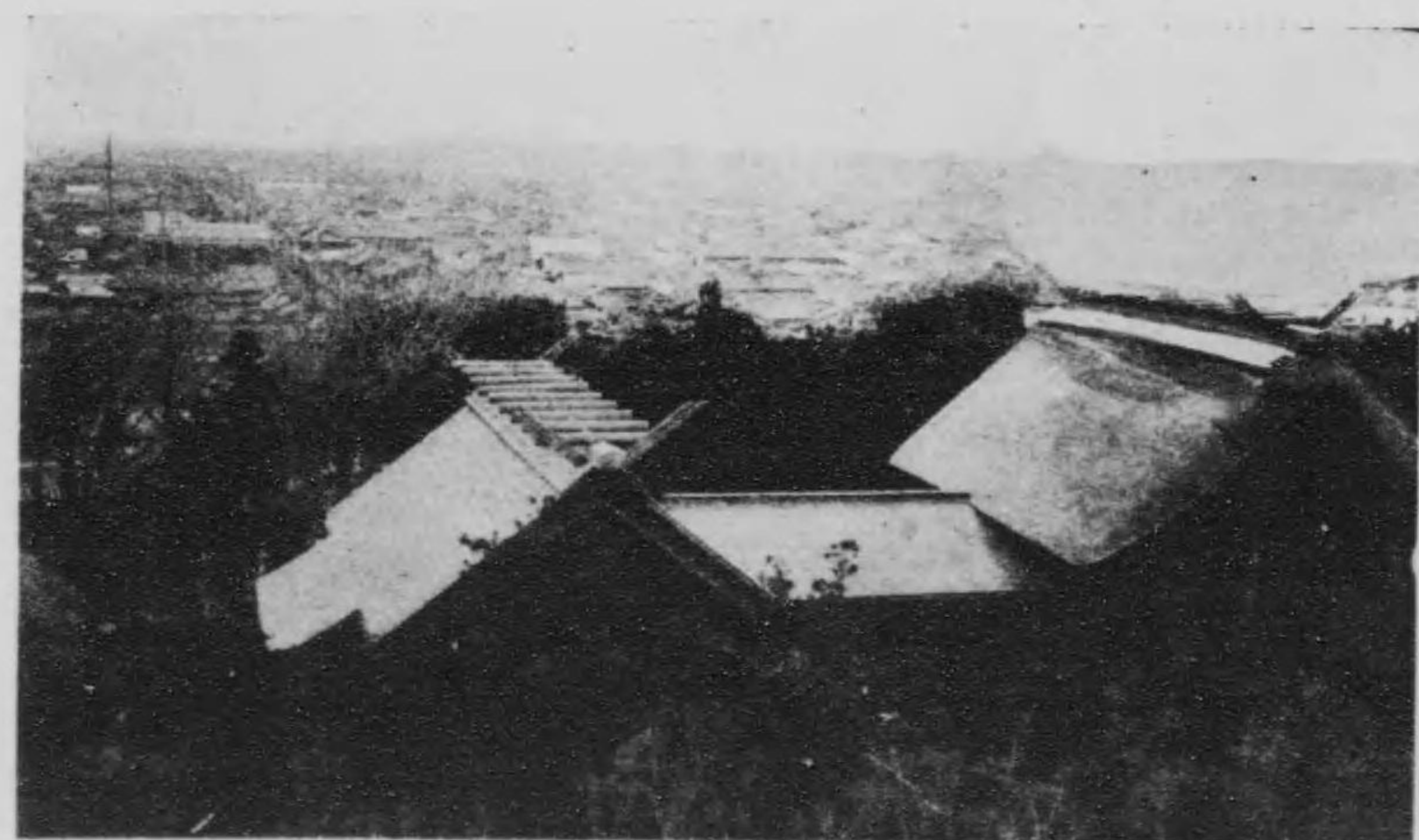
て沿海部は稍海洋的性狀を帯び温度の變化緩慢にして結氷積雪の如きは甚だ稀に屬するも北總の平野、房總の山間部の如きは内陸的氣候の變化ありて寒暖の差稍大なるを免れず、平均縣下の氣温は攝氏十四、五度内外にして最高攝氏三十一、二度を下し最低零下三、四度を昇降せり。房南布良より白濱附近は縣下最も高温の地にして平均攝氏十六度を示し低温地方平均十四度に比し攝氏二度華氏四度の差を有せり。  
 降水量を見るに縣下の平均二千耗内外にして安房の東海岸に多く内陸に入るに隨ひ減少し、東京灣の沿海中北東部より江戸川



成田山不動尊



官幣大社香取神宮



船橋大宮



印旛郡公津村宗吾靈堂





安房館山町大賀岬



安房那古觀世音



安房鏡浦之島



鹿野山神野寺本堂

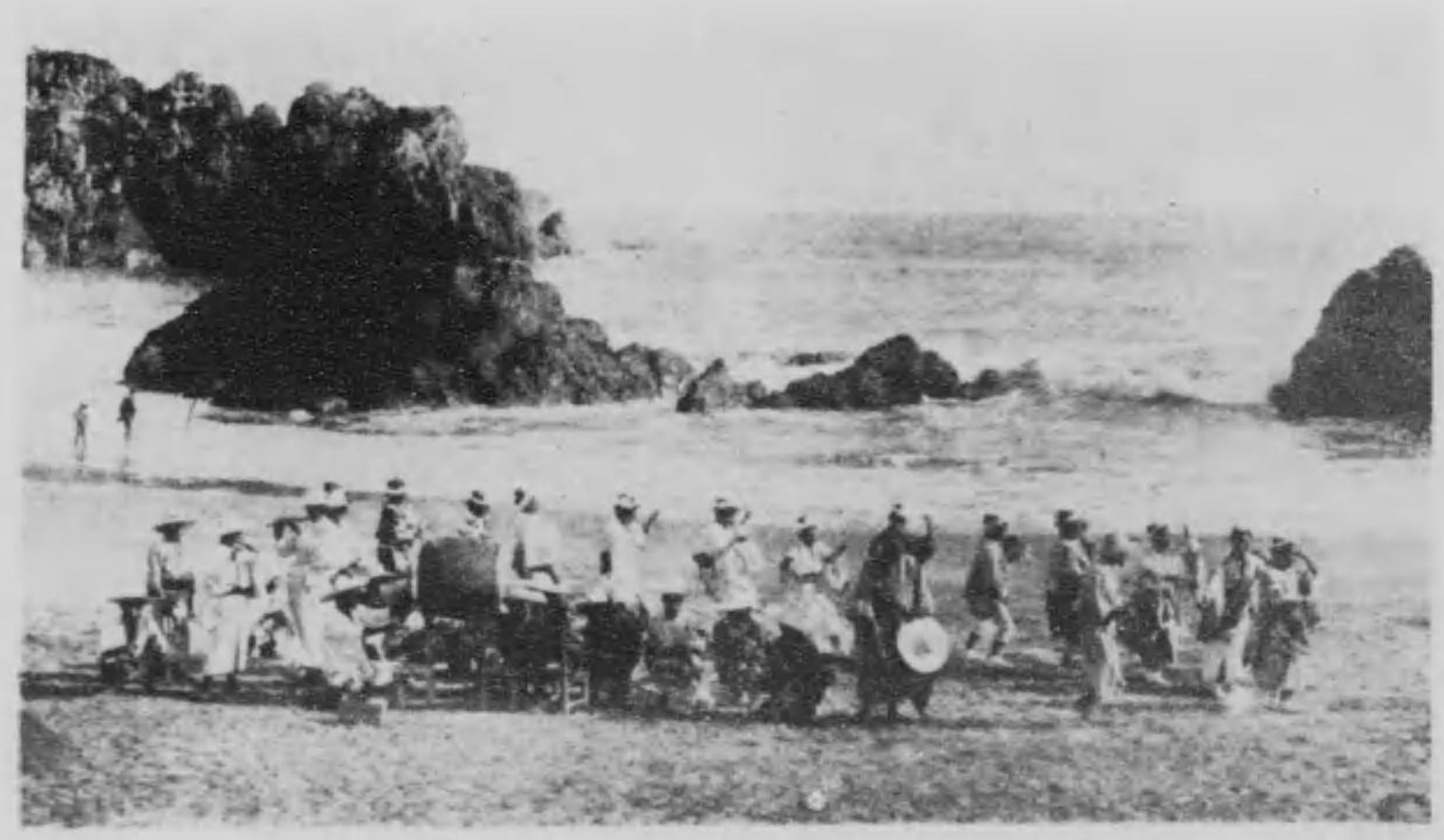




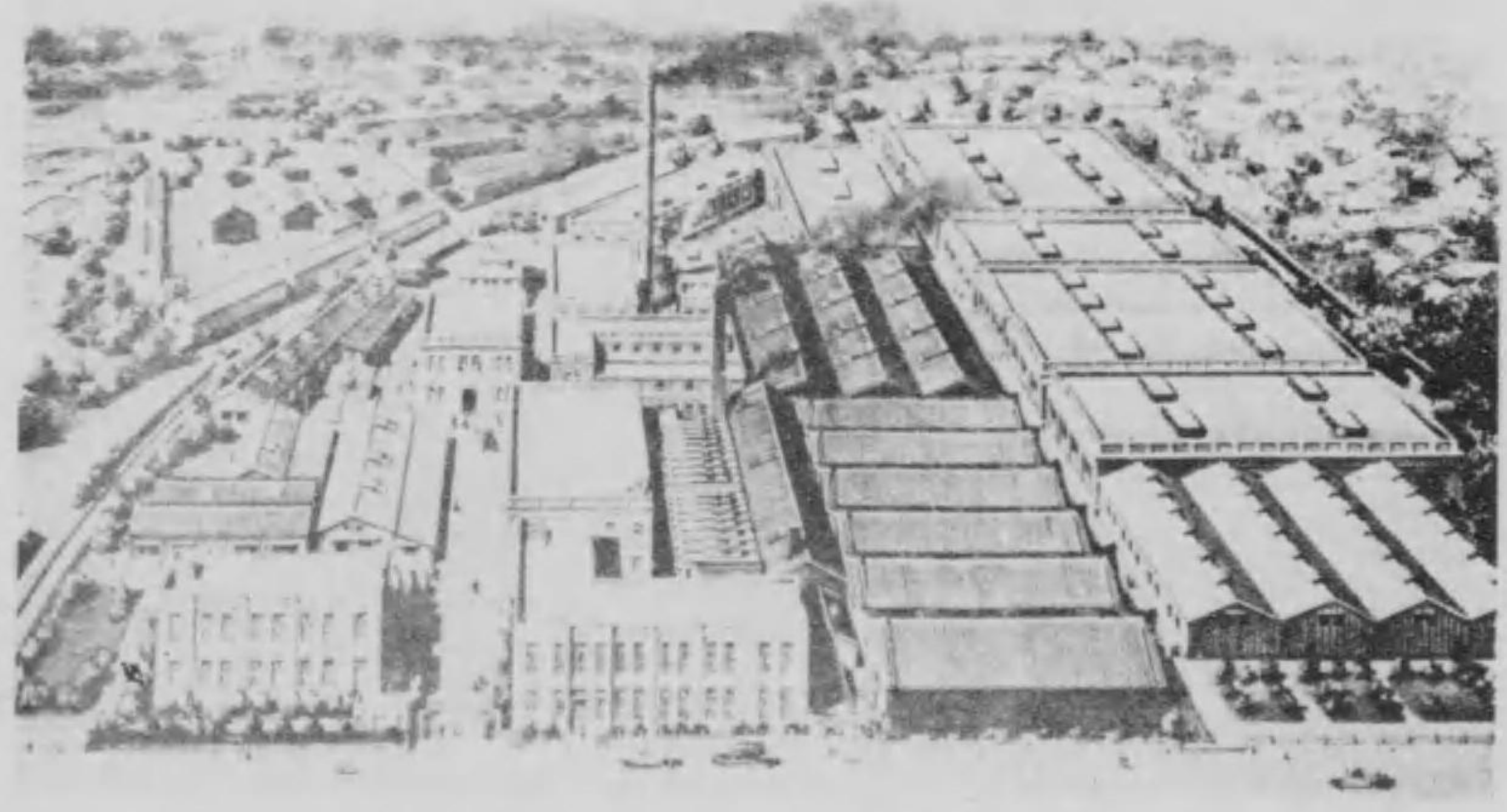
銚子犬吠岬燈臺



銚子犬若浦大岩ノ眺望



銚子名物大漁踊り



銚子醬油工場ノ全景

◆土 地

の末流附近は最小量の地たり。湿度は割合に高く海岸地方は平均七十五%以上、内陸地と雖も七十%を降らす。

◆道 路

せり。其後陸に鐵道敷かれ海に汽船の航行を見自動車電車隨所に走りて交通機關は殆ど完備の域に達せり。而して縣下の通信網は寒村僻陬の地に及びて毫も遺憾なき迄に發達せり。



の末流附近は最小量の地たり。  
 湿度は割合に高く海岸地方は平均七十五%以上、内陸地と雖も七十%を降らす。

◆土地

本縣の土地は大正十三年一月一日現在にて總反別三十九萬五千三百二十六町歩にして細別左の如し。

地種	御料地		國有地		民有地		計
	地	町歩	地	町歩	地	町歩	
田	六三	一四	一〇五、四二八	一〇五、四二八	七六四	一〇六、一四二	二〇六、二八四
畑	二一	二五	八四、六三七	八四、六三七	七二七	八四、六三七	一六九、三〇七
宅地	〇三	二四	一六、一〇〇	一六、一〇〇	八〇	一六、一〇〇	三二、二〇〇
鹽田	—	—	—	—	—	—	—
池沼	—	—	—	—	—	—	—
山林	—	—	—	—	—	—	—
牧場	—	—	—	—	—	—	—
原野	—	—	—	—	—	—	—
雜種地	—	—	—	—	—	—	—
社寺地	—	—	—	—	—	—	—
官衙學校用地	—	—	—	—	—	—	—
其他敷地	—	—	—	—	—	—	—
合計	八、五五三	三三、九三三	三、三三三	三、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三

◆戸口

本縣に於ける戸口は大正十四年度國勢調査の結果にて世帯數二十七萬八百六十九、人口總數百三十九萬九千二百六十三人、中男六十九萬一千二百四十三人、女七十萬八千二百八十人、女百に付き男九七、六に當り一方里に付き四千二百四十九人を數へ既往五年大正九年の國勢調査の人口より六萬三千八百八人の増加を示せり。参考の爲めに大正十三年度に於ける推計人口の細別を示せば左の如し。

郡名	男		女		計
	町歩	人口	町歩	人口	
安房郡	七、八〇〇	三三、〇〇〇	三、〇〇〇	一三、〇〇〇	四六、〇〇〇
夷隅郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
長生郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
君津郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
山武郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
市原郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
千葉郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
東葛飾郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
印旛郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
香取郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
海上郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
匝瑳郡	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
千葉市	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
計	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
大正十四年第二次國勢調査	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
千葉市	三、〇〇〇	一二、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇

◆交通及通信

本縣は山國的天險なく地勢概ね平坦、小都會散在して道路此間を結び、三面海に圍繞され港灣多く船舶の出入頻繁にして數多の湖沼、河川皆よく舟運を有し陸運、水運共に古來より發達

千葉縣

せり。其後陸に鐵道敷かれ海に汽船の航行を見自動車電車隨所に走りて交通機關は殆ど完備の域に達せり。而して縣下の通信網は寒村僻陬の地に及びて毫も遺憾なき迄に發達せり。

◆道路

本縣は曩に道路法の制定せらるゝに當り管内樞要と認むる百四十五路線を縣道に認定し其後交通機關の發達郡制廢止等に鑑み縣道として認定したるものを併せて現在縣道百九十四線延長四百七十九里餘別に國道四路線十六里餘あり。縣下に於て橋梁の大なるものは東京府との境界江戸川に架設せる國道橋二、縣道橋一、及江戸川改修に伴ふ東葛飾郡行徳町地内放水路に架設せる縣道橋なり。其他重なるものに印旛沼の排水口に架設せる長門橋、市原郡五井町の養老橋、君津郡檜葉村の小櫃橋湊町の湊橋周西村の人見橋、長生郡一宮町の一ノ宮橋、夷隅郡中根村の夷隅橋、大多喜町の三口橋、安房郡鴨川町の加茂川橋等とす。

◆土木改修工事 本縣多年の懸案たる道路の改修整理には三千數百萬圓の巨額を要し縣民負擔力をも考慮せざるべからず、縣は之等に鑑み大正十年度より十一ヶ年繼續事業として千三百二十九萬九千三百圓を支出し幅員の擴張勾配の緩和曲部の整理を行ひ其他道路橋梁費五十一萬五千三百圓(大正十三年度)を支出し以て一般運輸交通上の支障なきを保せり。而して本計畫に依りて改修を要すべき道路の延長は約二百二十九里二十四町四十一間にして之が完成の曉は當初道路構造令に準據して計畫したるものと適合する見込なり。尙縣は毎年度豫算の範圍内に於て主要町村道改良費に對しても工費の二分の一以内を限りて補助を與へ經費三萬三千五百圓を計上せり。

大正十二年九月一日の關東大震災に依りて本縣土木施設物の破壊されたるもの甚だ多く其復舊を要すべきもの道路百五十二ヶ所、橋梁七十ヶ所、河川浸濫五十八ヶ所、堤防護岸二百二十六ヶ所、港灣一ヶ所此復舊費百二十萬四千四百三十三圓にして之等は町村組合に於ける復舊費四十六萬四千四百三十三圓にして之等は補助金を交付して助成を期しつゝあり。被害の最も甚しかりしは安房、君津の兩郡にして次いで市原、東葛飾の順なり。前記災害復舊に關しては大正十二年の臨時縣會に於て追加豫算を議決せしのみならず、國庫の補助をも仰ぎて爾來全力を傾注して復舊に努めつゝあり。

◆鐵道及軌道 是縣下至る所縦横に貫通し國有鐵道に東北線の常磐線ありて西北の沃野を過ぎ、總武線は縣内に入りて本線と房總、成田、北條、久留里、東金の諸線を各方面に分岐せり。外に千葉縣營鐵道、同人車鐵道並に私設に北總鐵道、流山鐵道小湊鐵道及び京成、成田、銚子の三電氣軌道を有し最近管内線路の延長は三百五十哩に及び北條線は延びて總武線と合し循環線の開通亦近きにあらんとす。

◆國有鐵道 東北線の常磐線は東京上野驛を基點にして本縣に入り松戸を最初の驛として馬橋に至り此處より、流山鐵道を分岐し柏驛にて北總鐵道と連絡し手賀沼畔我孫子を以て本縣同線中の最後の驛として茨城縣に入る。總武線は總武本線、房總線、成田線、北條線、久留里線、東金

線の總稱にして本線は東京市内兩國橋驛を起點とし市川驛を本縣第一次の驛とし東京灣の沿岸を走りて千葉にて房總線を岐ち佐倉にて成田線、成東にて東金線を分岐して、利根河口の銚子に至る。千葉より岐れたる房總線は蘇我にて更に北條線と岐れて大網に至りて本驛と、成東間の東金線を以て本線に接続せり大網よりは南下して茂原、一の宮の郡邑を過ぎ怒濤澎湃たる太平洋岸の豪壯なる風光に接しつゝ勝浦に至る前に蘇我より岐れたる北條線は波靜かなる東京灣に沿ひ五井驛にて小湊鐵道を岐ちて上總西海岸第一の繁華地木更津にて久留里線と岐つ。

同線は亂山重疊の間を縫ひて走ること十四哩餘小櫃川上流の名邑久留里に至る。木更津よりは觀音に名高き那古船形を経て海水浴場と明媚なる風光とに知られたる安房北條に至る。北條よりは東に折れて房洲の山間部を抜け雄大なる外房の海波を窓外に眺めつゝ現在の終端驛鴨川に至る。此處より豪僧日蓮の誕生地小湊を経て房總線勝浦に至る間は目下工事中にして近く開通の豫定なり。成田線とは總武本線佐倉驛より北上して關東第一の流行佛成田不動尊の所在地成田に至り(千葉縣管輕便鐵道の接續點)西北に轉じて印旛の大流を左に見つゝ利根川と併行して常磐線我孫子に達する二八哩五分と成田より北東利根河畔の郡邑佐原に至る一六哩七分の線を稱す。

地方鐵道 本縣の經營に係る千葉縣管輕便鐵道は國鐵成田線成田驛より櫻と御料牧場に名高き三里塚を経て多古町に至る十四哩六分と三里塚より分岐して總武本線八街驛に接續する八哩六分の鐵道なり。尙縣管の人車鐵道は國鐵房總線大原驛より夷隅川上流の大多喜町に至るものにして九哩七分あり。

流山鐵道は國鐵常磐線馬橋驛より味淋、醬油の醸造地として知られたる流山町に至る三哩五分の鐵道なり。

北總鐵道も同じく常磐線柏驛を交叉して醬油の醸造地野田町に達する九哩一分のものと、船橋に至る十二哩二分の鐵道にして共に西部地方の重要な交通機關たり。

小湊鐵道は國鐵道北條線五井驛より岐れて養老川を遡り日蓮の靈地小湊に達する計畫にて現在里見迄十六哩の間開通せり。

電氣軌道 京成電氣軌道は東京押上より千葉市に至るものにして國鐵總武本線と併行して驅り旅客輸送率甚だ大なり。

成田電氣軌道は成田不動並に宗吾靈堂參詣者を輸送する目的にて設立されたるもの、國鐵成田驛より一は成田山門前に至り他は宗吾社前に至る賽客往還の利便少なからず。

銚子鐵道は銚子附近探勝客の福音にして國鐵銚子驛より外川迄四哩の電氣軌道なり。

水運 本縣は四面繞らずに海と河を以てし水運極めて大なり西部北部を限る江戸利根の兩大河には東京通船、銚子汽船の二會社専ら貨客の輸送を司り日々數雙の汽船を以て東京、行徳、浦安、銚子、霞ヶ浦に航行せしめつゝあり。海上には東京灣汽船會社の定期航行ありて東京より浦賀を経て金谷、保田、那古、北條館山等の内房線と東京より鴨川、天津、小湊、勝浦の外房に至る直航水路の二線を有す。

港灣治水 水運に最も密接なる關係を有するは港灣治水なり而して本縣は地形上港灣多く船舶の出入頻繁にして貨客の集散

夥しく港灣の設備、改修は寸時も等閑に附する能はざるを以て縣は毎年多額の費用を投じて整備に努めつゝありしに這般の大震災は房洲方面の地盤を隆起せしめて船舶の出入に甚だ困難を來すに至れり。此に於て縣は全力を擧げて被害港灣の修築復舊に努力しつゝあり、縣下重なる港灣を擧ぐれば

銚子港 利根河口に臨み大吠岬の北側に在り岩礁多き爲め大船巨船の出入に不便なりと雖も古來著名の要津にして茨城、群馬、埼玉の諸縣は利根川に依りて本港に連絡し陸に總武本線ありて海陸の要衝に當るを以て船舶常に輻輳せり。

勝浦港 東海岸の中央、上總の南部に位し岬角長く海中に突出して瓣形を爲し港内水深く能く大船を碇泊せしむ。

布良港 安房の南端にあり、海上十八海里を隔て、遙かに伊豆諸島を太平洋漂渺萬波の上に望む、海風一度び起らば波濤岩に激し且つ附近暗礁無數にして破船の難に遭ふもの甚だ多かりしが曩に縣費を投じて港口に防波堤を築設して以來安房沿岸は勿論遠く伊豆諸島靜岡縣下の船舶寄港して本縣南部唯一の避難港たり。

館山港 安房の西海岸館山灣に臨む、灣内鷹の島、沖の島ありて天然の防波堤を爲し波穩かに船舶の碇泊に適す。縣下隨一の良港として日々數回京濱地方に定期船往復し軍艦其他大船巨船の寄港絶ゆるなく船舶出入の頻繁縣下第一なりしも震災に因る海底隆起は港灣として可成の打撃を蒙りたるものと云はざるべからず。

寒川港 千葉市の關門にして東京灣に面す、往古渺たる一漁村は置縣後頓に一變して船舶の出入頻繁となれるにも海底淺くして大船巨船を容るゝに由なきを以て縣は港内の浚渫を企畫し長さ六百間、幅二十五間、深さ千潮面以下五尺の浚渫を浚渫し、尙都川口に船溜を設けて、船舶の碇泊に便ならしめ面目を一新せしめたり。

治水の重なるものは利根川に於ける改修工事にして本縣負擔額の内大正十三年度支出額は四十九萬四千圓餘同川の既成部分及渡良瀬川維持費の負擔額三十三萬二千四百圓餘にして其他の護岸及堤防にありては四萬三千五百圓餘を投じ維持管理を爲し居れり。

江戸川の中央より利根川に連絡する運河は明治二十三年五月竣工したるものにして其延長二里八町江戸川より利根川に出づるに十二里餘の航程を短縮し、運輸交通上の利便多大なるものあり。

郵便電信 郵便電信の便は年と共に普及し千葉の二等郵便局を始め縣下を通じて大正十二年度末に於て郵便局總數百七十五ヶ所、中集配局百十五ヶ所無集配局六〇、電信取扱局數百四、其他公衆電信取扱所數二十六ヶ所、無線電信取扱所數二ヶ所あり。

電話 電話も逐年利用する者多きを加へ同年度末に於て電話取扱局所百四十四ヶ所、中交換取扱四十七ヶ所、通話取扱局九十三ヶ所、自動電話四ヶ所を有し、加入者四千二百七十七人なり。

ものは品質概ね優良にして京濱市場に於て名聲常に噴々たり。

落花生 菽類中第二位にして同年度に於ける作付段別四千九十七町歩、收穫高一千二百四十六萬八千八百四十八斤、價額百六萬一千四百九十四圓にして、其産額に於て本邦第一崙然群を援けり。今や縣下殆ど栽培せられざるなしと雖も山武、印旛、匝瑳、海上、香取の諸郡最も多く、品種の優良なるは山武、印旛、匝瑳の三部なり。而して明治二十三年清國に輸出したるを海外

◆産業

本縣は土地廣大にして南部地方の山體地帯を除くの外大部分平坦、特に北部は沃野茫茫地味肥え田畝遠く相連り農産最も豊に、而も三面海に接すると共に大小の湖川ありて魚介の棲息せざるなく漁撈の利北海道に亞げり。其他工産物中原料を農産物に仰ぐ酒、醬油の如きは縣の重要物産として産額亦多大なり。

北條館山等の内房線と東京より鴨川、天津、小湊、勝浦の外房に至る直航水路の二線を有す。  
 港灣治水 水運に最も密接なる關係を有するは港灣治水なり而して本縣は地形上港灣多く船舶の出入頻繁にして貨客の集散

電話取扱局所百四十四ヶ所、中交取扱局四十七ヶ所、通話取扱局九十三ヶ所、自動電話四ヶ所を有し、加入者四千二百七十七人なり。

◆産 業

本縣は土地廣大にして南部地方の山嶺地帯を除くの外大部分平坦、特に北部は沃野茫茫地味肥え田畝遠く相連り農産最も豊に、而も三面海に接すると共に大小の湖川ありて魚介の棲息せざるなく漁撈の利北海道に亞げり。其他工産物中原料を農産物に仰ぐ酒、醬油の如きは縣の重要物産として産額亦多大なり。今大正十二年度に於ける生産高を種類別に擧ぐれば左の如し。

農産	一二一、〇二七、七七三	畜産	一一、五四四、三七六
林産	一一、七四三、五七三	水産	二〇、七七七、〇七五
工産	六八、〇五五、六九四	計	二二三、一四八、四九一
生産額一戸當	九五三、三三一		
生産額一人當	一七一、五四四		

●農業 本縣生産業中其首班に列するは農業にして其生産高は總生産高の過半數を占むるに徴して本縣に於ける農業の地位は如何に重要なかを知るべし。而して此大生産に従事する農家の戸數は大正十年の統計に依れば十六萬四千二百六十六戸、人員四十六萬八千四百九十五人の多きを占め田畑作付反別は

田 一〇六、四〇四町 八四、五八七町 一九〇、九九一町  
 畑 計 一〇六、四〇四町

にして農産物の種類及び價額は左記の如し (大正十二年度)

米	六三、六〇二、三九三圓
麥	九、三四七、三九四
雜穀	八二二、六九九
豆	四、一四七、五九〇
菽類	一五、三二九、三四八
果類	二、一六六、一七六
特用作物	一、四九九、一六六
桑苗、苗木	八三、〇七五
蔬菜	一、〇三八、一八九
綠肥	三五四、六三四
肥料	一五、一〇六、五〇〇
茶	六、八六五、九九五
葉	二二二、九二七
計	一一一、〇二七、七七三

●米 本縣農産品中、第一位を占むるものにして大正十二年度に於ける作付段別は十一萬七千六百四十五町歩九にして香取郡の一萬七千二百四十六町歩九を筆頭とす。收穫高は百九十六萬二千九百五十三石にして同じく香取郡の二十七萬七千八百二十九石を第一とし、一段歩平均收穫高は一石六六六九なり。本邦に於ける縣米の位置は作付反別に於て第三位、收穫高に於て第四位に居り縣外輸出高も毎年數十萬石に及ぶ。

●麥 米に次ぐ重要農産物にして同年度に於ける作付段別五萬八千六百六十町歩八にして東葛飾郡の九千七百四町歩二を筆頭とす。收穫高は八十六萬八千八百九十二石にして同じく東葛飾郡に於ける十五萬五千四百九十八石を第一とし一段歩平均收穫高は一・四九四なり。尙十數年來麥酒用大麥ゴールデンモロンの栽培を奨励し、今や各郡に普及するに至り毎年大日本麥酒株式會社及キリンビール株式會社等に對して販路を有し、頗る良好の成績を収めつゝあり。

●大豆 豆菽類中最も産額多く大正十二年に於ける作付段別一萬六千三百三十八町歩、收穫高十三萬二千三百六十七石、此價額二百十八萬五千三百七十七圓にして長生、市原兩郡より産出する

ものは品質概ね優良にして京濱市場に於て名聲常に噴々たり。

●落花生 菽類中第二位にして同年度に於ける作付段別四十九十七町歩、收穫高一千二百四十六萬八千八百四十八斤、價額百六萬一千四百九十四圓にして、其産額に於て本邦第一嶺然群を援けり。今や縣下殆ど栽培せられざるなしと雖も山武、印旛、匝瑳、海上、香取の諸郡最も多く、品種の優良なるは山武、印旛、匝瑳の三郡なり。而して明治二十三年清國に輸出したるを海外輸出の嚆矢とし現今に於ては歐米各國に販路を有するに至れり

●蔬菜 本縣の氣候風土は、能く各種蔬菜の成育に適し而も京濱の大都市を控へて其需要逐年増加するに従ひ縣下の蔬菜栽培區域も漸次擴張の趨勢を採るに至れり。最も豊富なる産地は東葛飾、及千葉の二郡にして品質亦佳良なり。蔬菜類中産額最も大なるは甘藷にして五百九十二萬四千五百四十三圓、次いで青芋の百七十四萬五千五百九十五圓とす。

●果樹 果樹の栽培は古來各地方に行はれたりしが近時生活様式の歐米化したると一般嗜好の激増に果實の需要日を追ひて増加の傾向あり、隨つて利益亦尠からざるを以て之が栽培區域愈々擴大され大正十二年度に於て作付反別二千四百六十六町歩八にして其主要なるものは日本梨の作付反別五三〇・一町歩、價額六十萬八千八百四十一圓を筆頭に、梅の作付反別二百八十五町歩一、價額三十二萬八千三百五十三圓、枇杷の二百四町歩三此價額二十五萬四千八百七十五圓、其他生柿、密柑、栗、桃等なり。縣も之等果樹の品質及栽培法に多大の努力と經費を拂ひつゝあるを以て其成績亦見るべきものあり、本縣果實の前途將に洋々たるものあらんとす。

◆農 業

本縣に於ける農業は縣經濟を左右すべき重要生産品なれば縣は之に對し幾多の施設を爲し巨額の經費を計上して増收發達の道を講せり。米麥は種子の改良普及を圖り、其他大豆、甘藷、馬鈴薯の主要食料農産物にありては增收指導を奨励し、害虫の驅除豫防は強制的に之を實行せしめ又螟卵蛾の買上に努めつゝあり。

●千葉縣穀物検査所 千葉市千葉吾妻町に在り。本縣産米は頗る多額にして、輸出高又數十萬石を數へたるも從來需要地に於ても他府縣に比し乾燥、調製俵裝、樹量等の點に於て甚だ遜色を見たり此に於て改善の急務なるを認め大正二年三月米穀検査規則を發布し、同四月米穀検査所を縣廳内に設け同六月現位置に移轉せり。而して同年九月一日より米の生産及輸出検査を實施し大正七年小麥検査を加へたるが大正十三年生産輸出の複式検査の制を改め一回検査とし小麥は七月一日より米は九月一日より實施せり經費二十二萬九千五百三十四圓にして所長一名、監督、並に主事補四名、支所十二ヶ所、支所長十二名、出張所、派出所計三百二十九ヶ所之に要する検査員及監督補計四百八名なり。

●縣立農事試験場 明治四十一年十月東葛飾郡中山町に創設し試験事業は翌四十二年より開始せり。當時は専ら園藝作物に關する試験に従事し四十四年度よりは同郡葛飾村に水田を設けて

千葉縣

水稻に關する研究を併せ行ふに至れり。其の後大正二年十一月に同郡松戸町に移轉、便宜上水田部のみは存置繼續する事にせり。越えて大正十一年三月に至りて全部千葉郡都村に移轉せり。現在用地總面積十一町六段三畝六步、經費六萬八千四十一圓にして職員は場長(技師)一名、技師五名、技手九名、主事補二名助手六名とす。業務を種藝化學園藝病蟲畜産庶務の六部に分ち技術上の試験研究を爲す。現在行ひつゝある事業としては米麥及び雜穀に關する品種改良、米麥原種圃の經營、製粉用小麦及落花生に關する農商務省指定試験、土壤肥料に關する事項、特に施肥標準調査、果樹、蔬菜、花卉の栽培試験、病菌害蟲驅除豫防、鶏豚の繁殖飼育、其他農事に關する諸般の試験研究を爲し傍ら實地指導、種苗種子種禽卵種豚及び野鼠チブス菌の配布其他隨時講習講話を開催し或は農事技術員の養成等、斯業の開發進歩に貢獻する事甚大なり。

●耕地整理 本縣の耕地整理は明治三十二年縣農會の縣下に於ける耕地整理を獎勵するに當り模範耕地整理補助規定を設けて特別補助金を支出したるに始まる。當時靜岡縣中遠農會より斯業の實驗家を聘して講習會を開催し縣下普く之が獎勵に努め翌三十三年よりは縣農會に専任技術者を置き耕地整理工費補助規定を出し年々五千圓の補助費を支出する事にせり。茲に於て整理事業漸く其緒に著き三十八年には各地に耕地整理期成會なるもの組織せられ土地の管理、作業方法を講究し之が實行を期するに至り基礎愈々堅實味を加へたり。三十九年よりは縣營となり耕地整理事務の獨立して一課とせられ銳意斯業の發達を企圖せり。現在經費十一萬六千二百二十三圓にして内國庫よりの補助金は一萬五千五百八十五圓なり。大正十三年度に於ける職員並に事業施行ノ概要

職員數	產業技師 二名	嘱托技師 一名	產業技手 三七名
	縣書記 六名	農業技手補 八名	雇 一名
	助 手 一〇名		

種別	施行面積	種別	施行面積
基本調査	七、〇〇〇町	水利及地下水調査	二七、五二五町
部分設計調査	二、〇〇〇町	事務指導	一、一五二町
工事監督	一、〇一〇町	開墾助成事業	三九六町
測定測量	九〇〇町	暗渠排水事業	一九町

蠶

本縣に於ける蠶絲業の起源は未だ詳かに知るを得ずと雖も一千年前の昔時、既に此事行はれたるが如し。元正天皇の靈龜元年初めて奥州蠶業の開發を圖らんとして相模、武藏、上總等關東諸國の富豪を移して養蠶を營ましめ、翌二年には駿河、甲斐、上總、下總等在住の高麗人千七百九十七人を武藏に遷して養蠶機織の業を營ましめ、其後養老年間上總に絲の調貢を命せられ醍醐天皇の延喜年間に至りて上總、下總は兪絲國に列せりと云ふ。往事は多く山桑を以て育蠶の料となせるが如く爾來幾多の變遷を経、一時斯業の不振を見たるも僅かに婦女に依りて繼續せられ徳川時代に及ぶや各藩競つて獎勵せし爲蠶絲業漸く

發達の機運に向ひ明治維新に至れり。明治六年縣は製絲機械を有志に貸與して製絲の改良を企て同十年に勸業試驗場を置きて養蠶製絲の傳習を行ひ降つて二十年蠶絲業組合例則を發布して蠶種の希望検査を爲し翌二十一年桑樹貸付年賦償還規定を發布廿八年蠶種検査規定を發布し検査所を設けて縣内蠶種の検査と移入蠶種の取締をも實行せり。三十一年郡養蠶傳習所補助規定を公布して十六ヶ所に傳習所を設置し生徒の養成をなし次いで種々の規定を設けて改良増殖を企畫せり。四十二年匝瑳郡福岡町(八日市場町)に縣立農事講習所を設置し専ら蠶絲技術員の養成及蠶絲業に關する試験調査並蠶種の配付、講習、講話、實地指導等を行へり。越えて四十三年より大正四年迄大日本千葉支會に補助金を與へて養蠶組合の設置を獎勵し大正二年蠶絲業法に基き千葉地方種蠶審査會を設け繭質の改良整理を圖り大正三年以來引續き千葉縣蠶種同業組合に補助を爲し蠶種製造の改良發展を期し大正五年以來は縣自ら養蠶組合の設置を獎勵するに至り養蠶組合獎勵規定を設け大正八年原蠶種製造補助規定を發布して團體組織の原蠶種製造を獎勵し大正十年新に繭取引改良補助規定を設けて生繭取引市場の設置を獎勵し今日に至れり本縣土壤は頗る桑樹の成育に適し各郡共に桑園を見ざるなく、現在栽培反別一萬二千七百七十四町步八、飼養戸數三萬四千四百八十一戸にして收繭高百六十五萬七千九百七十九貫、價額一千五百十萬六千五百圓なり。蠶種製造は最近四五年愈々不振を極め大正八年當時三十五萬九千三百三十三蛾なりしに大正十二年度には僅かに十二萬六千七百八十六蛾に過ぎず。本縣は地勢上通風佳良にして蠶蛆の被害少なく蠶種の製造は甚だ好適地なるべきを以て努力如何によりては縣内産のみにて需要を充足し得べし他縣よりの移入不必要とするに至るべし。

●蠶業取締所 明治四十五年一月蠶絲業法施行に依り從來の蠶病豫防事務所を改稱し専ら蠶絲業法又は同法に基きて發する命令執行の衝に當れり。經費三萬八千三百三十三圓にして本所を縣廳内に置き所長(技師兼任)及び千葉、成田、八日市場の各支所長一名宛技手十二名主事補四名の職員を有せり。

●蠶業試驗場 明治四十二年九月匝瑳郡八日市場町に農事講習所として設置し同四十四年四月原蠶種製造所を併置し大正四年四月兩所を併合して同十一年十二月蠶業試驗場と改稱す。蠶業技術員の養成蠶絲業關係の試験調査原蠶種の製造配付、講習講話實地指導等を行ふ。經費二萬七千七百二十五圓にして、職員は所長(技師)一名、技師三名、技手三名、主事補一名、實業教師二名とす。

水産

本縣は漁業に於ては天惠頗る豊かに沿海線の延長百里に垂んとし内海、外洋兩方面よりの鹹水漁獲物は勿論、陸に大小の湖川ありて淡水漁獲高亦夥しく北海道に亞ぐ全國屈指の漁業地たり。大正十年末に於て漁業總戸數二萬五千八百八十戸、之に従事する者四萬九千三百三十四人にして水産物内譯並に最近五年間の比較左の如し

年次	漁獲物	養殖	遠洋漁業	製造物	製鹽	合計
大正十年	九、五六一、九六四	一、三六、八七〇	四、〇二二、四四四	五、八六六、六〇四	四、〇九一、〇五五	二〇、〇七七、〇四七
十一年	一一、〇四四、三三七	一、三六、四四九	三、九七〇、七〇七	五、九八六、八八八	三、〇六六、〇〇〇	二五、〇三三、〇〇〇
十二年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇
十三年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇
十四年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇
十五年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇
十六年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇
十七年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇
十八年	一一、〇七〇、七六三	一、三六、六六六	三、九六六、九三三	六、一八六、三三〇	三、〇七三、〇〇〇	二五、六三三、〇〇〇

牡蠣

まがき、いたばがきの二種にして東京灣内、夷隅、房州、銚子等沿岸の岩石に附着するも産額の大部分は養蠶に依るものなり。養蠶は明治十六年頃より縣内各地に試験的に實行したるも充分なる効果を收むる能はず、三十七年に至りて東葛飾郡浦安町及び船橋町地先内蠶及び船橋町五日市先津郡富津町地先並に檜葉村奈良輪地先に於ける牡蠣養殖試験場内にて一般の漁業を禁止し試験に助めたる結果船橋、浦安、檜葉、木更津等に於て漸く曙光を認め以て今日に至れり。産額未だ僅少にし

漁獲物の主なるものは鱸、鯉、鮭、秋刀魚、鯖、鯛、鱈、其他の産額は全國産額たり。天然の好位置を占め天賦の大漁場を

上總、下總等在住の高麗人千七百九十七人を武藏に遷して養蠶機織の業を営ましめ、其後養老年間上總に絲の調貢を命せられ醍醐天皇の延喜年間に至りて上總、下總は龜絲國に列せりと云ふ。往事は多く山桑を以て育蠶の料となせるが如く爾來幾多の變遷を経、一時斯業の不振を見たるも僅かに婦女子に依りて繼續せられ徳川時代に及ぶや各藩競つて奨励せし爲蠶絲業漸く

とし内海、外洋両方面よりの鹹水漁獲物は勿論、陸に大小の湖川ありて淡水漁獲高亦夥しく北海道に亞ぐ全國屈指の漁業地たり。大正十年末に於て漁業總戸數二萬五千八百八十戸、之に従事する者四萬九千三百三十四人にして水産物内譯並に最近五年間の比較左の如し

年次	漁獲物	養	殖	遠洋漁業	製造物	製鹽	合計
大正七年	九,五三,九八五	一,三六,八三〇	四,〇三三,三六四	五,八三,六四〇	〇,九二五,四〇〇	〇,七七〇,七〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇
十一年	二,〇四,〇七三	一,三六,四四九	二,七三,七三〇	五,九八,八八元	一,三六,六八元	三,〇三〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇
十二年	三,〇七,七六六	一,七六,六六六	二,九三,三三三	六,一七,七三〇	三,七三,〇〇〇	三,〇三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十三年	三,七〇,七五五	一,四九,八八五	三,一四,〇九元	五,九〇,九七五	三,五三,二〇〇	三,一七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十四年	三,七〇,七五五	一,四九,八八五	三,一四,〇九元	五,九〇,九七五	三,五三,二〇〇	三,一七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十五年	三,七〇,七五五	一,四九,八八五	三,一四,〇九元	五,九〇,九七五	三,五三,二〇〇	三,一七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十六年	三,七〇,七五五	一,四九,八八五	三,一四,〇九元	五,九〇,九七五	三,五三,二〇〇	三,一七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十七年	三,七〇,七五五	一,四九,八八五	三,一四,〇九元	五,九〇,九七五	三,五三,二〇〇	三,一七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十八年	三,七〇,七五五	一,四九,八八五	三,一四,〇九元	五,九〇,九七五	三,五三,二〇〇	三,一七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇

漁獲物の主なるものは鱈、鯉、鮭、秋刀魚、鯖、鯛、鱈、鰻、其他、鯛、鮓、牡蠣等の介類、海藻類、川魚等とし中秋刀魚、鯛、鮓、鰻の産額は全國筆頭たり。天然の好位置を占め天賦の大漁場を有せる事として本縣にては一般漁業に對し各種の奨励法を講じ以て無盡蔵の寶庫を開拓せしめつ、あり。漁船の改良は特に其急務なるを以て其範を示さん爲め「坂東」、「小鷹」及「ふさ」の石油發動漁船を備へ調査研究の用に供し更に重油發動機附指導船を新造して漁法改良に従事せしめたり。明治四十二年度よりは漁業奨励資金貸付規定を設置し、特別會計となし毎年五千圓乃至一萬圓を一般會計より繰入れ其額十二萬圓に達し發動機附漁船の建造購入及漁具新調の場合に於て其費用の二分の一以内を無利子にて貸與し其償還は七ヶ年以内の年賦とし若し、指定期限に延滞なく返還し得たるものは其割を交付し遅滞したるものは日歩二錢の延滞利子を附加する制度とせり。此經費四萬二千二百八十五圓にして貸付總額二十萬三千四十圓船數百六十二隻なり。

遠海漁業に關しても縣は之に對して實際的技術を與へて漁撈家の養成に努めつ、あり。而して縣外地に通漁するものは明治三十五六年の頃より飛魚漁業のため安房郡より八丈島附近に到り大正五六年頃より秋刀魚流網漁業者東北地方に出漁するなり。又大正八年以後に於ては機關附漁船に據りて遠く長崎縣五島、對馬方面に至るありて何れも皆相當成績を擧せり。

鮭 本縣産魚類の代表的なるものにして特に九十九里ヶ濱の鱈漁は古來著名なり。之が漁具は主として地曳、揚操、小晒、六人網等を使用し鱈の大漁に際しては一網にして能く數千圓の漁獲高を見る事あり。往時は漁獲頗る多かりしを以て之を砂干とし壓搾して肥料となし輸出せしも今日に於ては其製法發達したるより肥料とするの不利なるを知り煮干又は鹽乾品とするもの多し。

秋刀魚 鱈に次ぐ重要魚族の一にして産額に於て本邦無二沿岸殆ど之が來游を見ざるなしと雖も海上郡銚子、夷隅郡の一部及び安房郡東海岸七浦方面を以て主産地となす。漁具は主として流刺網を使用し漁獲物は延繩釣の餌料用、生賣、其他鹽藏として賣買に供せり。

鯉節 鯉も産額甚だ多く房州、夷隅、海上郡銚子沖等を主要漁場とし氷漬として生魚のみ、京濱地方に搬出さる、外鯉節に製造せらる。本縣産鯉節は從來他縣産に比し稍遜色を免れざりしが本縣水産試験場並に水産組合等銳意改良指導に盡瘁したる結果着々進歩の効顯はれ近時漸く良品を出し一般に品位を高めるに至れり。

鮓 本縣に産する鮓はまたがひ、めがひ、くろがひの三種並にとこぶし等にして東京灣内の南部、安房、夷隅の兩郡沿岸に最も多く栖息し年々多大の生産あり。

牡蠣 まがき、いたばがきの二種にして東京灣内、夷隅、房州、銚子等沿岸の岩石に附着するも産額の大部分は養蠶に依るものなり。養蠶は明治十六年頃より縣内各地に試験的に實行したるも充分なる効果を收むる能はず、三十七年に至りて東葛飾郡浦安町及び船橋町地先内鰻及び船橋町五日市先君津郡富津町地先並に檜葉村奈良輪地先に於ける牡蠣養殖試験場内にて一般の漁業を禁止し試験に易めたる結果船橋、浦安、檜葉、木更津等に於て漸く曙光を認め以て今日に至れり。産額未だ僅少にして特記に値せざれども牡蠣の需要一般に近時増加の傾向あるを以て本業の將來また多望なりと云ふべし。

海苔 本縣に於ける海苔採取業の起源は凡そ八十餘年前文政年間に濫觴を發す。明治二十年頃迄は尙充分なる發達を遂ぐる能はざりしが同三十二年水産試験場の創設さる、や木更津、八幡、船橋等に養殖試験を爲し漸次現時の發達を遂ぐるに至れり現今最も多く産するは東葛飾郡浦安町にして次いで船橋、市原郡五井、君津郡青堀、等なり製品の大部分は東京方面に輸出せり

淡水魚類 淡水産魚類としては鮭、鱈、鯉、鰻等にして鮭と鱈は利根川に産し鯉、鰻は利根、江戸の兩川の外印旛、手賀等の湖沼に多く栖息し何れも滋味佳良京濱地方に稱美せらる。

水産試験場 明治三十二年度夷隅郡勝浦町に創設し同三十四年度安房郡那古町に第一支場を置き同三十六年度より講習部を置き同三十九年度に至りて第一支場を廢止し水産講習所となし大正二年三月勝浦町の水産試験場を廢止し水産講習所に於て試験事業をも併せ行ふこととせり。同六年度更に水産講習所を水産試験場と改稱、同十一年十一月現在の安房郡館山町に移轉し同十二年度に至りて千葉市に灣内分場を設置し主として東京灣内及河川池沼に於ける養殖等に關する業務を掌らしむ。經費は本場經常費六萬六千九百七十三圓、臨時費二萬六千五百四十二圓、分場經常費一萬二千五百二十六圓なり。事業として漁撈製造養殖の試験其他漁船の機關士養成、船員幹部の指導等に任せり

漁業組合 各所にありて事業としては蕃殖保護、共同販賣、貯金、貸付、試験、救恤、講習講話等漁業界に盡す所尠からず和町和田漁業組合は大正十一年農商務大臣より選奨せられたり。

### 工業

本縣は地勢の關係上水産、農産を主として工業は勢ひ不振の状態にありと雖も、醤油、酒類、織物は工業として稍見るべく就中醤油に至りては本縣の代表的特産物として名聲天下に冠たり。其他油類、生絲、經木真田、竹細工品、蕨、澱粉等あり大正十二年度に於ける縣下の工場數五七四、機關數一千八九十實馬力七千二百九十七、職工數男八千七百四十四、女四千八百三十七、計一萬三千五百八十一人にして之が生産價額五千二百六十五萬三千四百九十六圓なり。

醤油 本縣産物中最も特筆すべきものにして好評内外に高く品質亦優良を以て聞ゆ。醤油醸造の沿革は事績詳かならずして正鴻を得難しと雖も約三百餘年前攝津國西の宮の酒造家眞宜某なるもの銚子に來りて醸醬の術を傳授せるに其端を發せるもの、如し。其後醸醬の業を試みる者相繼ぎ漸次之が、發展に向ひ製品の改良、産額の増大を圖り販路大いに擴張を見るに至れり

明治維新後歐米文化の移入せらるゝに及んで野田銚子の當業者は進んで最新の學理を應用して醸造法の改良を爲し從來の家内工業は一躍工場組織となり品質の改善と生産費の遞減に依り斯業の一大革新を開き續いて今日の盛況を見るに至れり。縣下の主要産地中其産額最も多きは野田町にして宛然醬油の別名の觀を呈し次いで銚子町、佐原町等とす。本縣の醬油は販路頗る汎く最大の需要地京濱地方を始め内地より遠く朝鮮、臺灣に及び更に海外に延長して英、米、濠洲方面にも輸出せらる。大正十二年度に於ける醸造場數四百八十四、査定石數五十四萬八千二百十八石、此價額二千七百三十七萬八千三百五十四圓なり。

●酒類 産額醬油に次ぎ清酒、濁酒、燒酎、白酒、味淋の總數量十一萬八千二百二石之が價額一千六十九萬一千八十四圓にして清酒の七百四十九萬四百八圓を最とし次いで味淋の百七十九萬七百十六圓とす。清酒は縣下至る所多少の産出を見ざるなきも匝瑳郡地方の清酒は品質優良を以て知られ、香取郡佐原町は沿革古きを以て聞ゆ。味淋は明和三年流山町に於て製造したるを以て嚆矢となし爾來當業者の苦心研究の結果今日の名聲を揚ぐるに至れり、主として東葛飾、香取、安房等に産出するも流山及び佐原味淋の名最も著はる。

●織物 本縣の織物は主として綿織物にして絹織物及絹綿交織物は極めて少なく、大正十二年度に於ける産額六百四十二萬八千七百二十圓を數ふ。綿織物に上總木綿、銚子縮あり、上總木綿は凡そ百餘年前より既に世に知られしもの、安政年間長生郡關村の者上州地方の機業を視察し始めて高機と稱する手織機を造りて斯業の普及を圖りしに依り著しく發達するに至れり銚子縮は古來銚子縮木綿として其販路遠近に及びしも時勢の推移に併行することを知らず徒らに舊態を持したる結果其産額年々減少を來したり。近來機業有志家之を憂ひ挽回策に努めたる結果漸く再び世人に認めらるゝに至れり。

●林業

縣下の森林は植物帶上北部暖帶林に屬し、松、杉、檜多く所々に槲、椎、樟、楠等の常綠闊葉樹の生育繁茂し往々樅、榉、榎等の巨木を見る事あり。松、扁柏、櫟等は古來人工に依りて植栽せられたるもの多く、竹は各河川の沿岸又は村落附近に栽培せられ其面積狭少ならず、縣下に於ける林野の大部分は民有林にして御料林野も管理局直營のものは甚だ少なく概ね從來の緣故に因る貸付地とす。國有林野中林區署所轄の要存置林は之を久留里、筒森の二事業區に分ち施業方法を確定し毎年百四十町歩の伐採を行ひ跡地には造林を行ふ事とせり。東京帝國大學農學部に屬する國有林は林業に關する各種の試験に供する外施業方針に基き、毎年新材の伐採を爲し跡地に杉、扁柏の人工造林及萌芽林の育成を圖れり。民有林にあつては元來京濱の大市場を有せると關東大震災に因る復興事業等の爲め市況の影響を蒙るや甚だしく伐採を促進するの傾向あるは蓋し止むを得ざるものと云はざる可らず。大正十二年度と前年度の伐採面積を比較するに前者の用材一千五百五十五町に對して後者は僅かに六百七十四町餘、薪炭材は都市文化の發達と共に年毎に減少を示し前者の二千四百四十四町餘に對して前年度は二千四百九十町

なり。外に竹材あれども増減常ならず、大正十二年度の三百二十三町餘なるに十一年度は二百八十九町餘なり。然るに他方造林事業を驗するに大正十二年度に於て新植人工造林一千八百七十八町、補植人工造林七百九十四町計二千六百七十二町に過ぎざるを以て造林事業の普及及奨励の必要なるを想ふべし。大正十二年度森林主産物の伐採價額を示せば次の如し。

用材	四二五、八六七石	五、三九六、七四七圓
薪炭材	一五七、九二八圓	一、七〇三、八五二圓
竹材	二五五、五四六束	三二五、二七三圓

右の内用材は杉、松を主とし薪炭材は松最も多く、小檜、櫟、之に次ぎ竹材は苦竹大部分を占む。

●林業施設 本縣は地勢上農業最も盛なりと雖も氣候風土はよく樹木の生育に適し頗る薪炭材に富めるに依り林業經營も忽諸に附すべからず。此を以て縣は林業の模範を示す爲めに幾多の施設奨励を爲せり。

●樟模範林 縣は農商務省より植樹奨励費の交付を受け明治四十、四十一年度に亘りて民有地に地上權を設定し樟模範林の造成を爲せり。現在君津郡富岡村と安房郡健田村の兩所に面積三十七町歩、植栽數四萬七千五百四十本あり。

●杉、扁柏、松、櫟模範林 明治三十八年縣は基本財産の増殖並模範林造成の目的にて經費五萬三千六百餘圓を以て同三十九年度より向ふ十ヶ年に杉、扁柏、松、櫟等を植付くるの計畫にて君津郡湊町鬼月山の國有林と安房郡丸村外一の兩所に總面積九百二十九町歩の模範林を造成せり。

●竹記念模範林 東宮攝生宮殿下御成婚記念模範林造成の目的にて三里塚御料地を借受け大正十二年より十ヶ年繼續事業として竹百二十町歩、松二百二十町歩合計三百四十町歩の造林計畫を立て繼續費豫算二十萬八千五百三十九圓を計上せり。

●林野造成其他補助 縣は林野造成其他林業に關する種々の指導奨励の爲め年々補助金を交付せり。其主なるもの左の如し。

公有林野造林奨励	明治四十三年度より之が奨励規定を制定し大正十三年度に於ける經費四千六百二十二圓にして前年度に於ける造林面積五十町歩其補助金額二千九拾八圓なり
竹林造成奨励	大正八年度より之が補助規定を制定し大正十三年度に於ける經費三千三百四十八圓にして前年度に於ける竹林造成面積並補助金額は新設十五町に對し補助金一千九百九十三圓にして改良十一町歩に對し補助金八百九十三圓なり
樹苗養成奨励	大正九年度より樹苗養成奨励規定を制定せり大正十三年度に於ける經費二千七百四十圓にして前年度に於ける播種床替兩種並補助金額は左の如し
播種數量	一、五四〇 面積 〇・三五〇八歩 補助金 六七四圓
床替同	二、六八九十本同 七・八一六六歩 同 二、一六八圓
海岸林造成奨励	大正六年度より補助規定を制定し海岸の砂防設備及造林に對し奨励金を交付せり大正十三年度に於ける經費二千五百圓にして前年度施業面積並補助金額は次の如し
造林十一町歩	經費 二、〇六六圓 補助金 二、四九四圓
荒地地復舊	大正八年度より之が補助規定を制定せり大正十三年度に於ける經費千九百七十四圓にして前年度に於ける施行面積並補助金額は次の如し
面積二〇町歩	補助金 一、一五二圓

●畜産

漠々たる曠原、茫々たる沃野遠く連りて際涯を知らず、綠草潤いて沼澤隨所に開く。實に天然の放牧地たり。宜哉千二百餘年の上古より既に牧場として選定され古來安房に嶺岡牧場あり、

り嶺岡畜産會社の敷地三千坪の寄附を受け種牛及種綿羊を飼養す大正十二年度には三萬圓の種牝牛を米國より輸入し優秀なる牝牛に種付を行ひ斯業の改良に努めつゝ、あり、經費一萬五千六百二十一圓を算せり。

●商業

下總に小金牧、佐倉牧あり、元暦年間最も旺にして徳川時代にありては特に牧士を置き維新の際迄存続せり。小金牧は明治初年に至りて廢絶し開墾地となし佐倉牧亦一部開墾せられしと雖も他の一部は帝室の御料に供せられ三里塚御料牧場として牧畜改良の範を民間に示し良好の種畜を地方に供給しつゝ、あり。嶺岡牧は寛政年中白河樂翁公の葡萄酒より、購入したる白牛を青松綠草の間に放牧したる所、今は縣經營の種畜場として良牛

を分領せり。維新前においては列藩の居城下は皆商業の中心地



工造林及森林の育成を圖る。農林の育成は、大正十二年度は、大市場を有せると關東大震災に因る復興事業等の爲め市況の影響を蒙るや甚だしく伐採を促進するの傾向あるは蓋し止むを得ざるものと云はざる可らず。大正十二年度と前年度の伐採面積を比較するに前者の用材一千百五十五町に對して後者は僅かに六百七十四町餘、薪炭材は都市文化の發達と共に年毎に減少を示し前者の二千四百四十四町餘に對して前年度は二千四百九十町

下總に小金牧、佐倉牧あり、元暦年間最も旺にして徳川時代にありては特に牧士を置き維新の際迄存続せり。小金牧は明治初年に至りて廢絶し開墾地となし佐倉牧亦一部開墾せられしと雖も他の一部は帝室の御料に供せられ三里塚御料牧場として牧畜改良の範を民間に示し良好の種畜を地方に供給しつゝあり。嶺岡牧は寛政年中白河樂翁公の葡萄牙より、購入したる白牛を青松緑草の間に放牧したる所、今は縣經營の種畜場として良牛の繁殖に努めつゝあり。

●牛 縣下に於ける大正十二年末の牛の頭数は牝牛一萬九千九百二十六頭、計二萬四千六百二十三頭、合計二萬四千六百二十三頭、生産頭數二千五百七十頭、生産價額二十三萬四千六百六十九圓に達せり、乳牛は同年度に於て二千四百二十二頭、搾乳高三萬三千八百四十四石、價額七十三萬六千九百二十五圓なり。種牝牛は内國種三、外國種百十、計百十四頭あり。而して屠數成牛犢を合せて千八百八頭價額二十萬一千三百七十九圓なり、縣下産牛地の著名なるは安房郡にして嶺岡牧場の昔より放牛の最も旺なる地なり地の總牛頭數の大半を占むるのみならず優良のもの亦尠ならず、安房ホルスタイン種の産地として喧傳されつゝあり。安房郡に次いで君津、夷隅の兩郡は原野廣くして芻草に富めるを以て産牛の好適地として將來の嚆望を荷へり。

●馬 馬匹飼育の盛んなるは下總方面にして印旛、香取、山武の諸郡を主産地とす。總頭數牝馬二萬二千九十三頭、牡馬一萬九千六百八十一頭、合計三萬八千九百七十四頭、出産頭數二百三十五頭、生産價額二萬二千六百七十五圓とす、種牡馬は二十四頭中雜種八外國種十六頭なり、而して同年度に於て屠數二百二十一頭、價額一萬五千七百七十二圓なり。

●豚 養豚事業は全國第一位に推され現在牝豚二萬二千七百七十七頭、牡豚一萬六千四百二十二頭、計三萬八千七百四十九頭、出産頭數二萬六千七百二十五頭、生産價額十九萬六千三百五十八圓なり、屠數一萬四千九百十五頭、價額八十九萬一千六百六十四圓の多きに上れり。斯業は明治二年創始せられ其後多少衰退に赴きしも十五六年頃より再び挽回の氣運に向ひしも後復殆ど廢絶の憂目に遭遇したり。爾來一般需要の増加と縣の獎勵に依りて今日の盛況を見るに至れり。

●家禽 本縣に於ける家禽は大部分養鶏にして其生産に於て産卵額に於て全國無比なり本業は明治十九年米國より淡色ブラマ、パフコーチンの二種を輸入繁殖に努めたるに創まり一時頓挫せし事ありしも一般縣民の養鶏思想の向上に伴ひ種禽の輸入増加し飼養法も着實となり最も有利有望なる事業として農家の重要な副業となり今日の發達盛況を見るに至れり養鶏の外に鷺七面鳥等あれども其數僅少にして未だ以て特記するに足るものなし大正十二年度に於ける家禽の飼養戸數並に價額等左の如

種	飼養戸數	飼養羽數	價額	産量	價額
鷓鴣	一、九、五、九四	二、五、五、三〇	二、六、二、五、六四	一、三、七、七、六六	三、三、七、七、六六
鷓鴣	三、二、七	六、九、〇一	九、八、八三	五、五、九	三、三、七、七、六六
鷓鴣	六、八	一、四、七、七四	二、九、三、三三	二、八	一、五、四、四六
鷓鴣	一、九、七、九	二、五、八、八六	二、六、八、八六	一、三、七、七、六六	三、三、七、七、六六
計	一、九、七、九	二、五、八、八六	二、六、八、八六	一、三、七、七、六六	三、三、七、七、六六

し縣は畜産業に對して種々の施設獎勵法を講じ補助金を交附して之が改良増殖に努めつゝあり。縣立種禽場は安房郡丸村にあ

千葉縣

千九百七十四にして前年度に於ける施行面積補助金額は次の如し  
面積二〇町歩 補助金 一、一五二圓

畜産

漢々たる曠原、茫々たる沃野遠く連りて際涯を知らず、綠草潤いて沼澤隨所に開く。實に天然の放牧地たり。宜哉千二百餘年の上古より既に牧場として選定され古來安房に嶺岡牧場あり、り嶺岡畜産會社の敷地三千坪の寄附を受け種牛及種種羊を飼養す大正十二年度には三萬圓の種牝牛を米國より輸入し優秀なる牝牛に種付を行ひ斯業の改良に努めつゝあり、經費一萬五千六百二十一圓を算せり。

商業

本縣は地勢の關係上、小市街各所に散在して、小區域の商權を分領せり。維新前にありては列藩の居城下は皆商業の中心地として繁榮せるも由來本縣は陸に海に物資の供給豊富にして自作自辨を以て足り一般の生活状態も頗る單純なりしを以て商業の他縣の其れに比し萎靡として振はざるの觀を呈せり。而して今日にありては交通機關縱横に啓け鐵路四方に延び、利根江戸の兩川及び沿海地方は汽船の航行を見ざるなく本縣の特産物たる米、麥、大豆、甘藷、落花生、繭、豚、鶏卵、酒類、醬油等内地より遠く諸外國に迄輸出取引關係を有するに至りて商況漸く各地とも活氣を帯び、縣下主要なる都市には銀行、會社、工場設立を見ざるなく。現今商業地として推さるべきは下總に於て千葉市、及佐原、銚子、小見川、八日市場、旭、野田、佐倉、松戸、船橋の各町上總に於て木更津、東金、横芝、松尾、成東、茂原、廳南、八幡、五井、姉崎、大多喜、大原、久留里、勝浦、湊の各町、安房に於て北條、館山、鴨川、勝山の各町なり。

金融

大正十二年末に於ける本縣銀行數は三十三にして好景氣時代は四十餘數なりしも漸次併合、緊縮其他の理由にて行數を減じたりと雖も資本、積立、預金等に於ては反つて増加を示せるは亦内容の堅實味を窺ふに足る。同年度に於ける資本金總額は一千五百七十七萬八千七百五十圓此拂込出資額七百五十二萬九百七十五圓、積立金三百三十三萬五千八百五十六圓、總預金高二億七千六百七十三萬一千六百三十三圓、總貸付高一億一千七百九十九萬五千三百五十五圓。中本店を縣内に有するものは十八銀行にして餘は支店出張所等なり。左に本店を本縣に有する主なる銀行及び其資本金等を表示すべし。

銀行名	所在地	資本金	實收資本
株式會社 千葉縣農工銀行	千葉市柴川	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 第九十八銀行	千葉市千葉	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 上總銀行	君津郡木更津町	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 千葉引銀行	千葉市	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 木更津銀行	君津郡木更津町	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 野田商誘銀行	東葛飾郡野田町	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 總武銀行	千葉市千葉	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 千葉貯蓄銀行	千葉市	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 東葛飾銀行	東葛飾郡松戸町	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 三協銀行	香取郡佐原町	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇





◆千葉地方裁判所 千葉市にありて東京控訴院の管下に屬す。八日市場、木更津に支部を置き、千葉、松戸、佐倉、木更津、北條、八日市場、佐原、一宮の八區裁判所を有し更に區裁判所出張所を小見川、多古、八幡、鶴舞、成田、野田、鴨川、銚子船橋、久留里、大多喜、勝浦、湊、東金、茂原の各町に設置せり。

◆稅務署 本縣の稅務署は東京稅務監督局の管轄に屬し、千葉、松戸、佐倉、佐原、銚子、東金、茂原、木更津、北條の各市町村に計九ヶ署を有せり。

◆測候所 安房郡富崎に中央氣象臺布良測候所の設けあり。又海上郡銚子町に縣經營に係る銚子測候所並に夷隅郡勝浦町、安房郡館山町に支所を置けり。

◆旅團司令部 千葉郡津田沼町に近衛師團騎兵第一旅團司令部あり。其管下に騎兵第十三、第十四聯隊を有し、鐵道第二聯隊七同町に、鐵道第一聯隊は千葉郡都賀村に野戰重砲兵第四聯隊は印旛郡千代田村にあり。第一師團管下の歩兵第五十七聯隊は佐倉町に、騎兵第二旅團司令部は千葉郡津田沼町に其下に騎兵第十五、第十六聯隊を置き、野戰重砲第三旅團司令部は東葛飾郡市川町に置き、其管下に野戰重砲兵第一、第七聯隊及び騎砲兵大隊を有す。

◆蠶業取締所 本所を縣廳内に置き、支所を千葉、成田、八日市場の三ヶ所に設けたり。

◆水産試驗場 安房郡館山町にありて灣内分場は千葉市に設置せり。

◆農事試驗場 は印旛郡佐倉町にあり。

### ◆教育

◆維新前後の教育 維新當時二十有餘の列藩は各學門所を設けて藩士の子弟教養に力め佐倉藩、大多喜藩の如きは學制最も整備せり。



千葉縣農事試驗場

佐倉藩主堀田備中守正睦は明敏夙に宇内の形勢を察し當時攘夷論囂々たる中に決然開港を主張し蘭學に、英學に、醫術に、砲術に、卒先して先進文明諸國の學問を輸入し銳意之が鼓吹に盡力せり。藩地以外地方子弟の教導に力ありしものは隨所に見られたる私塾寺子屋の類にして亦人材の輩出に致せる功没すべからず。かくして幾多の英士俊才を出し維新の鴻業に參畫貢獻せしと雖も本縣の誇りとして特筆すべきものは我地理學界の一大恩人伊能忠敬なり。忠敬は山武郡大總村の人、深く星曆の學を好み、推歩測量の術に秀づ、日本全國到る處忠敬の跋涉圖記あらざるなく著す所、國郡晝夜時刻對數表、紀源術並用法求刻圖八線法、紀源法、地球測圖術問答、度數譜、行程記等若干卷あり。就中地圖の精妙なる本邦未だ曾つて見ざるも歐米人亦皆大に歎賞して止まざる所なり。一代の奇傑大原幽

學は性學を唱へ、偏道を説き、人を導く極めて懇篤、衆人思慕すること父母の如し。晩年幽學識者の評言に遇ひ獄舎に繋る。後宥されたるも教徒の違背に憂憤措かず書を遺し割腹して死せり。其他鴻儒碩學の範を本縣教育上に垂れたるもの少なからず廢藩置縣の後は學制頒布せられ士民一般に國民教育行はれ奮觀一時に革まれり。當時小學校長若しくは教員たりし者の多くは各列藩の士族にして佐倉藩及び鶴舞藩の出身者最も多數を占めたり。

### ◆現時教育の概要

明治廿三年小學校令の發布ありしが本縣に於ては同二十五年を以て之が實施を見爾來漸次發達の機運に向ひたり。過去二十餘年前に於ける本縣の就學歩合は全國の平均以下に在る状態なりしが縣當局の施設教育方針宜ろしきを得漸次好成绩を收め兒童就學歩合の如き甚だ見るべきものあるに至れり。近時亦大に力を注ぎ内容の改善を圖り教授訓練其他各般の方面に涉り年々着々改善刷新の歩を進めつ、あり。兒童の衛生には殊に留意し體育を奨励し個性を尊重し勉めて自發心に任ずるの傾向なり。師範學校は、男女各一校あり。兩校共に一部二部に分たれ外に尋常小學校本科正教員養成の講習科を附設せり。大正十二年度は本科男子百二名、女子六十五名、講習科生徒二十九名計百九十六名の卒業者を出せり。

中學校は公立十、私立一校にして高等女學校は、公立十、私立二校にして農學校は公立十一、商業學校は公立一、水産學校一あり。

### ◆小學校教育

◆就學歩合 明治五年學制發布と共に各地に小學校の設立ありて此に普通教育の基礎成れり。明治二十五年小學校令實施の際に於ける本縣の就學歩合は男女平均五六・〇七にて同卅二年小學校令改正の際には七六・三九に上りたるも猶全國平均八一・六七に及ばざりき。此に於て一層初等教育の振興督勵に努めたる結果漸次其率を高め大正十二年末に於ては九九・四九に達し面目を一新せり。

種別	既就學ノ初期ニ達シタルモノ	義務不達者	合計	就學歩合
男	111,106	5,555	116,661	98.7%
女	108,824	5,555	114,379	98.7%

◆學校と教員 近時小學校の廢合整理を斷行せる結果尋常小學校と高等小學校とは漸次其數を減じ尋常高等併置の小學校増加するに至れり。現在に於ける小學校數は尋常小學校九十一、尋常高等小學校三百五十、高等小學校二、計四百四十三校にして外に分教場として尋常小學校二、尋常高等小學校百三十六計百三十八校あり。而して同大正十二年三月一日現在に於ける小學校兒童數及び學級數は左記の如し。

種別	兒童數	學級數
尋常	66,020	1,945
高等	6,233	37

之に對する教員數を表示すれば左記の如し

種別	本科正教員	准教員	代用教員	専科正教員	計	一教員に對する兒童數
尋常	2,677	411	496	6	3,590	19.0
高等	158	1	1	0	160	40.0

稱し北條町に設置したるを四十二年八月現組織となし大正十年四月より縣立に變更せり。縣立女學校は外に市原、松戸、佐倉香取、銚子、木更津、山武の七校ありて職員合計百六十人、經費二十二萬七千六百十六圓を要す。私立高等女學校に成田高等女學校、敬愛高等女學校の二校を有せり。

のは隨所に見られたる私塾寺子屋の類にして赤人村の輩出に致せる功没すべからず。かくして幾多の英士俊才を出し維新の鴻業に參畫貢獻せしと雖も本縣の誇りとして特筆すべきものは我地理學界の一大恩人伊能忠敬なり。忠敬は山武郡大總村の人、深く星曆の學を好み、推歩測量の術に秀づ、日本全國到處忠敬の跋渉圖記あらざるなく著す所、國郡晝夜時刻對數表、紀源術並用法求刻圖八線法、紀源法、地球測圖術問答、度數譜、行程記等若干卷あり。就中地圖の精妙なる本邦未だ曾つて見ざるもの歐米人亦皆大に歎賞して止まざる所なり。一代の奇傑大原幽

高等	一五、八七	九、八八	五、三六	五
計	二二、九六	一四、五〇	三、八七	四、二六

之に對する教員數を表示すれば左記の如し

種別	教員	數	計	一教員に對する児童數
本科正教員	准教員	代用教員	専科正教員	
尋常	二六七	四四	六六	二六七
高等	五四	一	七	五三
計	三二一	四五	六八	四三九

### 師範教育

千葉縣師範學校 明治五年、學制發布の際當時の印旛縣令により印旛官員共立舎なるものを下總國流山乘興寺に假設され幾何もなくして真間光明院に移され鴻臺學校と云ふ。同六年千葉縣に設置さるゝに及んで千葉町正妙寺に轉じて千葉學校と改めしを更に七年五月十二日校名を千葉師範學校と稱せるものなり。明治十九年十一月師範學校令發布と共に千葉縣尋常師範學校と改稱、三十一年四月勅令の結果現今の校名となれり。職員三十人經費十一萬三千三百十二圓なり。

千葉縣女子師範學校 明治十年九月を以て創立され翌年二月より開校す、十七年七月に至り廢校となり男子師範に合併し同校に女子部を併置す。後女教員養成の必要にせまれ再び三十七年四月獨立千葉縣女子師範學校と改稱せり。職員三十三人經費六萬七千三圓なり。

### 中等教育

千葉縣立千葉中學校 明治十一年八月の創立、師範學校内の一部を校舎に充て千葉中學校と稱せしも十九年中學校令の發布と共に千葉縣尋常中學校と改め三十二年中學校令の改正に依り千葉中學校と改稱し今日に至る。

同佐倉中學校 本校は最も古き歴史を有し、佐倉藩校成徳書院の後を繼ぎたるもの、成徳書院の成徳館と改稱され廢藩後佐倉集成學校となり更に三十年四月私立佐倉中學校と稱し三十二年四月より縣經營となり今日に至れり。

同長生中學 本校は元私立大成中學校と稱せるものを大正十二年九月より縣に移管せるものなり。縣經營に係る中學校は外に佐原、大多喜、銚子、安房、木更津、成東、東葛飾、匝瑳の八校なり、而して、東葛飾、匝瑳の兩中學は大正十三年四月の創立、前六校は何れも明治三十三年四月の開校にして木更津成東の二校は當時共に千葉、佐倉の分校なりしが三十四年四月より獨立せしものなり。縣立中學全部十校の經費年額三十六萬七千五百四十九圓、職員數二百十二人なり。

私立成田中學 明治二十年十月成田山新勝寺の創設に係り初め英漢義塾と稱せるものにして各中學中最も異彩を放てり。

千葉縣立千葉高等女學校 明治三十三年四月千葉町に創設し元縣立中學校々舎を假校舎に充て五月開校せるもの、三十六年三月現今の地に新校舎の落成を見、大正十年現在の校舎改築成れり。

同東金高等女學校 明治四十一年四月舊山武郡立染織學校舎を假校舎に充て開校、四十三年九月現今の地に移轉せり。

同安房高等女學校 明治四十一年四月、郡立女子技藝學校と

校と高等小學校とは漸次其數を減じ尋常高等併置の小學校増加するに至れり。現在に於ける小學校數は尋常小學校九十一、尋常高等小學校三百五十、高等小學校二、計四百四十三校にして外に分教場として尋常小學校二、尋常高等小學校百三十六計百三十八校あり。而して同大正十二年三月一日現在に於ける小學校児童數及び學級數は左記の如し。

種別	児童數	計	學級數
尋常	六、三九	九、一三	一、九五
高等			三、七〇

稱し北條町に設置したるを四十二年八月現組織となし大正十年四月より縣立に變更せり。縣立女學校は外に市原、松戸、佐倉香取、銚子、木更津、山武の七校ありて職員合計百六十人、經費二十二萬七千六百十六圓を要す。私立高等女學校に成田高等女學校、敬愛高等女學校の二校を有せり。

### 實業教育

縣立銚子商業學校 明治三十三年設立せる中學校を同四十二年三月現在の組織に改む、甲種程度にして職員十四人、經費二萬五千二十七圓なり。

縣立安房水産學校 大正十二年郡より移管せる安房農業水産學校を同年四月分離獨立せるものなり。職員八人、經費一萬二千九百二十五圓なり。

縣立農學校 甲種農學校たる茂原農學校始め山武、野田、八生、印西、小御門、多古、旭、望陀、天羽、安房の各農學校あり。職員合計百六人經費二萬五千二十七圓なり。

### 高等專門教育

千葉醫科大學 文部省の直轄にして元千葉醫學專門學校と稱せしもの大正十二年四月昇格して大學となれり、豫科三年本科四年醫學科藥學科に分たる。本校は明治七年千葉町に創設したる共立病院に胚胎し、後公共千葉病院と稱したるを組織を變更して甲種縣立千葉醫學學校となし別に附屬病院を設けり。明治二十年九月、文部省直轄の醫學部として第一高等中學醫學部と稱し二十一年四月より開校の運となれるに依り縣立千葉醫學學校及び附屬病院を廢止し、更に改めて縣立千葉病院を設けたり。越えて明治廿二年九月現今の地に移轉新築工事竣成し、明治三十四年四月文部省令に依り千葉醫學專門學校と改稱、繼いで昇格して千葉醫科大學となり今日に及べり。

千葉高等園藝學校 東葛飾郡松戸町戸定丘にあり。本校は專門學校令に依り明治四十二年四月縣經營の下に設置したるものにして園藝に關する高等の學術技藝を教授する本邦唯一の高等教育機關たり。諸般の設備完全し、其聲價漸く學界に認めらるゝに至れり。現在職員數二十一、經費六萬八千三百六圓なり。



千葉高等園藝學校ノ花園

### 特別教育

陸軍歩兵學校 千葉郡都賀村にあり。甲種學生と乙種學生に分ち前者は主として射撃及戰術修習の爲め歩兵科大尉を以つて之に充て後者は主として射撃及び通信術修習の爲め、歩兵科中少尉を以つて之に充て修學期間を甲種は概ね六月、乙種は概ね

四月とす。

陸軍騎兵砲兵學校 千葉郡二宮村にあり。馬術及び戰術、通信術の訓練を目的とし戰術科學生は騎兵大中尉、馬術科學生は騎兵中尉及び下士を以て其資格要件とす。

陸軍野戰砲兵學校 印旛郡千代田村にあり。射撃及戰術並に通信術の訓練を施し甲種學生の入學資格は各野砲兵及山砲兵隊より分遣する大尉にして乙種學生は各野砲兵及山砲兵隊より分遣する大中尉を以て之に充つ。

陸軍工兵學校 東葛飾郡明村にあり工兵技術、戰術及交通術を修得せしめ學生を甲種乙種臨時修學生に分つ、甲種は工兵大中尉、乙種は工兵下士、臨時は各兵科佐尉官、下士を召集して之に充つ。

社會教育

社會教育の改善發展を期せんが爲め之に要する經費一萬九千九百五十七圓を計上して縣には社會教育主事一名を置き郡市には社會教育專任吏員を置かしめ社會教育の徹底を計らしむべく努力しつ、あり。

圖書館 縣下を通じて大小三十の圖書館の中公立十六、私立十四にして其設備並に規模の稍誇るに足るべきは千葉縣圖書館及び成田圖書館なり。

Table listing various libraries (e.g., 布佐尋常高等小學校圖書館, 神代圖書館) with columns for name, establishment type, and year.

青年團及處女會 地方青年士女の氣風を醇化し併て地方開發の中堅として社會訓育に一大貢獻を爲すものを青年團及處女會とす。輒近自治精神の蔚然として勃興するや本縣に於ても青年

陸軍諸學校 教育の部、「特別教育」の項參照

警察衛生

本縣の警察は、警察部長一、警視三、警部三四、警部補三六、巡查九〇三の外、屬技師、技手、警察技手、衛生技師、衛生技

團、處女會の組織は各地殆ど見ざるなく團體の總數八百に近く或は講習會講演會等を開き各自の修養訓練を圖り、或は勤儉貯蓄、記念事業、基本財産の造成に力め、或は里路の修繕、神社佛閣の清掃等諸般の社會奉仕に任ずる等其成績甚だ見るべき者あり特に這般關東大震災に於ける青年團、處女會の必死的活動はよく此間の消息を物語るものと云ふべきなり。大正十三年度に於ける處女會及び青年團の團體數及團員數、經費左の如し。

Table showing statistics for Youth League and Maiden Association, including membership and expenses.

教育會 本會は主として小學校教育を中心とし、教育關係者並に篤志家を以て組織し教育の改善進歩を圖るを以て目的とす千葉縣教育會は明治十三年八月の創立にして縣内有志者相謀り毎年時期を定めの一堂に會して互に知識の交換、意見の發表等を爲す。同會の主なる事業は各種學校經營、雜誌發行、教員共濟共同購買、視察及派遣、講習會。調査研究等とす。現在會員四千二十六名、經費五萬八千八百四十圓なり、千葉市教育會は大正十年六月の創立、事業としては兒童生徒の保護獎勵、市教育に關する調査、學校衛生に關する調査、青年會、處女界の助成風習の改善、講演會、講習會の開催、教育功勞者の表彰等を主なるものとす。現在會員二千四百名、經費一千七百七十七圓餘なり。

兵事

常備軍配置 本縣には近衛師團騎兵第一旅團司令部を習志野(千葉郡津田沼町の項參照)の管下に騎兵第十三、第十四聯隊並に鐵道第二聯隊を置き、下志津(印旛郡)に野戰重砲兵第四聯隊を、千葉市に鐵道第一聯隊を配置せり。第一師團管下に騎兵第二旅團司令部を習志野に同じく其下に騎兵第十五、第十六の兩聯隊を、佐倉には歩兵第五十七聯隊を、野戰重砲兵第三旅團司令部を國府臺に同じく騎砲兵大隊、野戰重砲兵第一聯隊、野戰重砲兵第七聯隊を置けり。尙軍備縮少整理に因り千葉陸軍歩兵學校に教導隊戰車隊の新設を見たり。

徵兵管區 本縣陸軍管區は全部第一師管區にして佐倉聯隊區に屬し、海軍は全部橫須賀鎮守府所管たり。

壯丁成績 大正十三年本縣壯丁體格表を検するに検査總員一萬三千五百四十七人中甲種五千四百五十二人、第一乙種一千五百九十九人、第二乙種三千三百三十二人、丙種二千七百五十一人、丁種四百一人、戊種十二人なり、壯丁教育程度は大正十二年度に於て検査總員一萬三千八百五十五人中優等一千一百二十一、上等五千三百八十九、中等五千五百四十三、下等一千六百九十一、無學百十一の割合なり。壯丁のトラホーム及花柳病は年に依り増減常ならず左に兩三年の成績を示さん。

Table showing statistics for conscripts (e.g., 年次, 検査人員, トラホーム, 花柳病).

恩賜賑恤基本となし大正五年度以降毎年一萬圓宛を蓄積せり、而して之より生ずる收入を以て市町村の救恤費及救恤資金蓄積費に對し其二分の一以内を補助し又市町村以外の團體若は個人の救恤施設等に對しても補助獎勵を爲しつ、あり。大正十二年度補助額は救恤費金蓄積補助金二千九百八十六圓救恤費補

大正十四年	明治四十三年
德文車庫	同
奧山文庫	同
平群青年會文庫	同
北條文庫	同
大正十二年	明治廿九年

青年團及處女會 地方青年士女の氣風を醇化し併て地方開發の中堅として社會訓育に一大貢獻を爲すものを青年團及處女會とす。輓近自治精神の蔚然として勃興するや本縣に於ても青年

陸軍諸學校 教育の部、「特別教育」の項參照

警察衛生

本縣の警察は、警察部長一、警視三、警部三四、警部補三六、巡查九〇三の外、屬技師、技手、警察技手、衛生技師、衛生技手を以て組織し警察署一四、同分署一五、派出所及駐在所四七三にして千葉市及び佐倉町の兩警察署長は警視を以て之に充つ而して巡查一人に對する受持人口は市部一千三十七人、郡部は二千三百五十八人に概當せり。近年人口の増加、交通機關の發達環境等に依り警察事故も愈々複雑繁激を加ふるに至り犯罪手數巧妙に行はるるに鑑み一層文武の講習訓練を獎勵し、他方諸給與の待遇を高め物質的にも優遇の法を講じ能率の向上に努力を致せり。警察事故は或點迄民衆の自警自衛心に依りて防止するを得べきを以て自警團の如き組合の設立を獎勵せり。

衛生 本縣には大正十二年末に於て醫師九百四十三名、藥劑師六百六十三名、齒科醫二百二十名、產婆九百三十名、看護婦五百四十九名、鍼術千二百十三名、灸術千二百四十八名、按摩術千五百九名、入齒々拔二十名、製藥者二十名、藥種商三百九名あり。醫師一人に對する人口は一千四百二十三人にして死亡者は腦充血、貧血、腦出血、腦軟化に罹れる者最も多きを占め流行性感胃、腦膜炎、老衰、先天弱質畸形、血行器疾患に依れる者之に亞げり。

縣下に最も多き傳染病は腸窒扶斯、赤痢、實布埜里亞、バラチブスにして大正十一年縣下に虎列刺病流行して三百七十一名の患者中二百十七名の死亡者を出せるも現今には全く其影を潜めたり。本縣は亦湖沼、水田多き爲め農村の中に「ワイル氏病」に斃さる、もの甚だ多かりしが縣は其病原の調査研究を創始し治療血清、豫防注射等を德憑し極力治療、豫防に努めたるを以て近時概患者漸く減少するに至れり。本縣房總の沿岸は最も避暑、避寒の療養に適し、加ふるに交通機關の完備したるに依り旅客の往來毎年に滋く遙かに湘南地方を凌ぐものあり、從つて各種の病菌を傳播するの恐れあるを以て接客業者の檢診、貸家、貸間の消毒を勵行せしめ特に肺結核患者に供したる居室寢具、器具其他一切の物件消毒等は一層嚴重にせり。牛乳、清涼飲料水、飲食物防腐劑、人工甘味質、有害着色料、其他飲食物飲器具の檢査は常に所轄警察署に於て行ふ外縣よりも衛生技術員を派遣して檢査せしむるを以て近時殆ど不良品を發見せざるに至れり。

娼妓病院及健康診斷 娼妓の健康診斷は從來地方開業醫に囑託して之を執行し來りしも明治四十三年勅令發布の結果警察醫の職掌となりしを以て大正十二年度より治療の完璧を期すると經費節減の目的より集合治療を計畫し千葉市の娼妓診療所を擴張して組織を改め縣立袖ヶ浦病院となし同時に千葉、佐倉船橋の有毒者を收容治療する事とし更に大正十三年度よりは銚子を加へたり。經費九千四百二十圓を計上せり。

社會事業

助成獎勵 縣は大正四年十一月御大禮の際に於ける御下賜金

千葉縣

を恩賜賑恤基本金となし大正五年度以降毎年一萬圓宛を蓄積せり、而して之より生ずる収入を以て市町村の救恤費及救恤資金蓄積費に對し其二分の一以内を補助し又市町村以外の團體若しは個人の救恤施設等に對しても補助獎勵を爲しつ、あり。大正十二年度補助額は救恤費金蓄積補助金二千九百八十六圓救恤費補助金二千二十二圓なり。

尙明治天皇御駐紮、英照皇太后御大喪、照憲皇太后御大喪、皇太后陛下三里塚行啓の際に於ける御下賜金も之を蓄積して慈惠救濟基本金となし之が収入の一部は千葉縣歸性會、千葉縣育兒園及成田清聚學院に對し數年來獎勵金を下附しつ、あり。現今本縣に於ける社會事業の種類、所在地等凡そ左記の如し。

事業名	所在地	事業主體	創立月日
生實學校	千葉郡生實濱野村北生實	縣	明治四二、三
成田山感化院	印旛郡成田町成田	新勝寺	同 一九、十一
千葉縣育兒園	安房郡北條町北條	團體	大正五、五
野田病院	東葛飾郡野田町	野田醫造組合	大正二、十二
伊其滋救社	夷隅郡浪花村小澤	財團法人	明治三六、二
大多喜同親社	大多喜町大多喜	同	同 二、十一
川津公益社	同 豐濱村川津	同	同 四、五
總野獎善會	同 總野村役場	同	同 四、五
知恩會	同 瑞澤町佐賀	同	大正二、四
千葉縣歸性會	千葉郡津村貝塚	社團法人	明治四四、二
千葉縣教育會附屬千葉調音院	千葉市千葉	同	明治四五、六
木更津調音院	君津郡木更津町	同	明治四〇、九
成田清聚學院	印旛郡成田町成田	個人	明治四五、一
木更津慈善學校	君津郡木更津町	町	明治三三、五
千野村救友會	夷隅郡千野村萩原	團體	大正二、二
木更津大正會	君津郡木更津町	同	同 四、二
海上郡自治協會	海上郡役所内	同	同 八、四
海上郡佛敎國護會	海上郡豐浦村淨國寺内	同	同 七、十
一宮町尙風會	長生郡一宮町役場	同	明治四三、八
修養園海上支部	海上郡役所内	同	大正九、七
千葉尙風會	山武郡東金町	同	明治四二、十二
野田調和會	東葛飾郡野田町役場	同	大正八、八
佐原修養會	香取郡佐原町	同	大正四、二
米滿遺風會	長生縣豐榮町米滿	同	明治三三、十一
土村慈善組合	東葛飾郡土村増尾萬福寺内	社團法人	明治三三、十一
千葉市農會定期	千葉市柴川	組合	大正四、七
千葉市場	同	同	同 七、六
千葉郡農會市場	同	同	同 七、六
有限責任購買組	千葉市千葉	同	明治四二、十
有限責任中會	同	同	大正七、七
有限責任銚子勝	海上郡銚子町	同	大正七、七
有限責任豐原信	同	同	明治三八、五
用購買販賣組合	同	同	同

生實學校 明治四十二年一月縣立生實學校を千葉郡生實濱村に設置し慈惠救濟基本金収入を以て其經費を支辨し特別會計として經理すること、なし同年十月より開校せり。本校は感化法に基き設立したるものにして獨立自營に必要な教化訓育を施し善良の習性を養成するを目的とせり。現在收容人員男十三人、女二人、大正十三年度經費一萬二千九百五十一圓なり。

成田山感化院 縣下佛敎各宗の共同經營に依りて元千葉感化院と稱し明治十九年千葉町に設立されしも後其經營維持困難を來し明治二十四年成田山新勝寺に於て之を繼承し四十一年院舎を同寺に建て此處に移轉して成田山感化院と改稱せるものなり。大正十二年末に於ける支出經費四千七百二十一圓收容人員十三名なり。

千葉縣育兒園 元東京育兒園千葉縣支部と稱し縣下の孤兒、貧兒の教育を目的として安房郡北條町に設立されたるものを大

九十一、集學百十一の割合なり。壯丁のトラホーム及花柳病は年に依り増減常ならず左に兩三年の成績を示さん。

年次	検査人員	トラホーム	花柳病
大正十二年	一、八五五	一、七二	一、六
同 十一年	一、四〇二	一、四八	一、五九
同 十年	一、四六九	一、五五	一、五〇
同 九年	一、四〇六	一、五五	一、六

正五年に至りて東京育兒園より分離して千葉縣育兒園と收稱せしものなり。

●千葉縣歸性會 本會は明治三十年減刑令降下の爲多數の出獄者を見たるに依り千葉縣各宗寺院、成田山新勝寺之が救濟保護の必要を唱へ千葉縣保護院と稱したるに創まれり。其後助成會と改稱し大正三年更に千葉縣歸性會となし免囚保護を目的とせり。

●野田病院 聖上陛下御即位記念事業として東葛飾郡野田町に同町醬油醸造組合の設立せしも、最初は野田町内に於ける醬油醸造に關係ある職工、及其家族に對してのみ施業救濟を爲したりしが其後設備充實し事業の擴張に伴ひ大正三年以後は野田全町貧民の施業救濟並に一般患者の診療をも行ふに至れり。大正七年野田醬油醸造組合の解散して野田醬油株式會社の設立を見たるを以て本病院も同會社の管理に歸したり。

●日本赤十字社及愛國婦人會 縣下に於て報國博との趣旨を贊するもの甚だ多きを加へ日本赤十字社千葉支部の事業も着々進捗し、救護員の養成、救護材料の整理、資金の蓄積等良好なる成績を呈し愛國婦人會亦會員數を増加せり。大正十二年末日本赤十字社千葉支部社員五萬二千八百二十八名、愛國婦人會員二萬六千五百八人とす。

●社寺及教會

本縣に於ては近來敬神の美風を養ふが爲め、社寺の保存並に新設昇格等に付き最も慎重に調査考慮し、苟も社寺の由緒又は維持の困難なるものは廢合の方針を執り之を實行せり。大正十二年調査にては官幣大社二、別格官幣社一、國幣中社一、縣社一四、郷社七九、村社二〇九〇、無格社二六〇二、計四七八九にして内官國幣社並に縣社の祭神及所在地を示せば次の如し。

Table listing various shrines and temples in Chiba Prefecture, including their names, locations, and associated deities or legends.

言宗一千二百十二、真宗二十九、淨土宗百六十七、日蓮宗八百二十四、臨濟宗八十一、時宗八、黃檗宗二、計三千四十八にして著名寺院の所在地及び其宗派左の如し

Table listing Buddhist temples and their sects in Chiba Prefecture, such as 千葉市、大日寺、妙興寺, etc.

●千葉市

●沿革 本市は大正十月一日より市制を施行せるものにして遠く大治元年(七百九十八年前)千葉常重下總權介に任せられ、此地に移れるより始まり、當時千葉宿と稱され表八千軒裏八千軒合せて一萬六千軒關東隨一の都邑を誇りしも天正年間千葉氏滅亡するに至りて漸く衰微し僅に一漁村として存在を認めらるゝに過ぎざりき、舊幕時代は佐倉藩に屬し維新の際印旛縣の管轄となり更に明治六年二月印旛木更津の二縣廢止せられ千葉縣廳を置かれしより千葉町と改稱、爾來各種の官公衙、學校、會社、銀行續々設立せられ街衢縱横に通じ人家櫛比して市制施行今日の繁盛を見るに至れり。

●位置地勢氣候 本市は北緯三十五度三十六分東經〇度二十分に當り東京灣の東北方に位し東京を東に距る事十里西は東京灣に臨み、東南は丘陵南北の二面は平坦なるを以て狹長なる市街を形成せり。都川は市の中央を貫流して袖ヶ浦に入る、袖ヶ浦は市の沿岸一帯を指すものにして地名の寒川より寒川浦とも云ふ。氣候は夏涼しく冬暖かく氣温は攝氏の十八度八分より十四度八分の間を昇降し降雪ありと雖も尺餘の積雪の如きは甚だ稀なり。

●廣袤戸口 東西十八町餘南北一里二十町餘面積三百八十二萬六千坪餘あり、大正十四年國勢調査に依る本市の人口は四萬一

千八百〇七人にして大正九年國勢調査三萬三千一百七十九人に比し八千六百二十八人の増加を示せり。詳細左の如し

Table showing population statistics for Chiba Prefecture, including total population, male, female, and average number of family members.

●財政 本市に於ける大正十一年度並に大正十二年度の歳入出豫算は左の如し

Table showing fiscal data for Chiba City, including income and expenditure for the years 1911 and 1922.



同 鳥穴神社 市原郡東海村大字鳥穴に在り、神代古命を祀る

同 橋神社 長生郡本納町大字本納字御形にあり、弟稚媛命を祀る

同 飯富神社 君津郡根形村大字馬場に在り、倉稻魂命、並に大己貴命少房名命を合祀す

同 洲崎神社 安房西崎村字御手洗山に在り、天比理乃命を祀る

同 洲宮神社 安房郡神戶村大字洲宮にあり、天比理乃命を祀る

寺院は同年に於て天臺宗三百九十六、曹洞宗三百二十九、真

千八百〇七人にして大正九年國勢調査三萬三千一百七十九人に比し八千六百二十八人の増加を示せり。詳細左の如し

世帯數 人口總數 男 女 女百=付男 平均一世帯人員

八七六 四八七 三、五七六 三、三三三 六九

交通物産 國有鐵道總武本線、房總線ありて前者は千葉驛後者に本千葉驛を設く、北條線の延長と同時に近く房總循環線の開通を見るに至らば愈々交通の要地を占むるに至るべく、東京押上より來る京成電車は十數分置きに東京本市間を發着して乗客の輸送を圖り、道路橋梁亦整備して諸車の往來に便せり、海は寒川港に日々東京八幡間を航行する汽船の寄港するありて大陸共に交通の便よく備はれり。本市に於ける各種生産總額は大正十二年度に於て三百十九萬六千八百八圓にして中工産品は百九十五萬五千五百九圓の多きを占む。

宗教及教育 本市に於ける宗旨系統を觀るに寺院數十五の中眞言宗の寺院は六、曹洞宗は五、淨土宗鎮西派二、日蓮顯本法華宗各一にして教會は日本基督教會千葉支會、日本メソジスト教會、日本同盟基督教會千葉支會、聖公會、救世軍小隊、金光教千葉教會所、本門佛立宗、天理教東大教會牛込分教會千葉支教會の各一ヶ所計九教會あり、神社は十三の中千葉神社の縣社を除くの外は皆村社若しくは無格社なり。

教育機關は初等、中等、高等の三機關とも備はり圖書館教育會青年會ありて各自文教の發展に資するもの少なからず、市立小學校は尋常高等併置校にして尋常科は之を四部に高等科は三部に外に黒砂穴川に各分教場を設け總兒童數は大正十三年九月末現在に於て四千七百三名なり教員數は男女計九十八名本科專科代用の各教員平均俸給は五十圓八十一錢本科正教員平均俸給は男六十三圓四十八錢女五十三圓〇五錢の割合なり、小學校は別に縣立男子師範學校附屬小學校に五百三十四名女子師範に三百九十一名計九百二十五名を收容せり、市立千葉商業學校は修學年限三年にして大正十二年の創立に係り現在生徒百二十六名あり、市立にあらざる市内所在官公私立各種學校は左の如し

- 官立 千葉醫科大學 千葉醫學專門學校の後身にして大正十二年四月一日昇格せしもの修業年限醫科四年藥學科三年市場に在り
- 縣立 千葉師範學校 明治七年五月十二日の創立修業年限四年市場に在り
- 同 千葉女子師範學校 明治十年九月十八日の創立修業年限四年新町に在り
- 同 千葉中學校 明治十一年二月一日の創立修業年限五年市場に在り
- 同 千葉高等女學校 明治三十三年四月一日の創立修業年限四年寒川に在り
- 縣教育 千葉實科女學校 大正五年四月十一日の創立修業年限三年吾妻町に在り
- 同 千葉盲學校 大正十三年四月一日の創立修業年限三年長洲に在り
- 同 自強學館 明治四十五年七月の創立修業年限三年吾妻町に在り
- 私立 千葉產婆學校 明治二十一年四月の創立修業年限一年長洲に在り
- 同 千葉女子技藝學校 大正十一年五月一日の創立修業年限三年寒川に在り
- 同 土岐裁縫女學校 明治三十六年五月十一日の創立修業年限三年院内に在り
- 同 和洋裁縫女學校 明治三十九年十一月三日の創立修業年限三年院内に在り
- 同 千葉裁縫女學校 明治三十三年八月の創立修業年限三年道場に在り
- 同 國友裁縫女學校 明治三十三年十月三日の創立修業年限三年長洲に在り
- 同 川島裁縫女學校 明治三十七年五月五日の創立修業年限三年旭町に在り
- 同 本木裁縫女學校 明治四十一年九月一日の創立修業年限三年旭町に在り
- 同 落合修養學館 明治四十年三月一日創立修業年限一年寒川に在り

千葉縣立圖書館は寒川長洲に在りて縣下圖書館中最も完備せるものにして大正十三年三月八日の創立に係る納むるところの和漢書八百三十二冊洋書百五十八冊に及ぶ。

に當り、東部の東北方に位し、東部を以て、西に臨み、東南は丘陵南北の二面は平坦なるを以て狭長なる市街を形成せり。都川は市の中央を貫流して袖ヶ浦に入る、袖ヶ浦は市の沿岸一帯を指すものにして地名の寒川より寒川浦とも云ふ。氣候は夏涼しく冬暖かく氣温は攝氏の十八度八分より十四度八分の間を昇降し降雪ありと雖も尺餘の積雪の如きは甚だ稀なり。

廣袤戸口 東西十八町餘南北一里二十町餘面積三百八十二萬六千坪餘あり、大正十四年國勢調査に依る本市の人口は四萬一

財政 本市に於ける大正十一年度並に大正十二年度の歳入出豫算は左の如し

科 目	歳 入		歳 出	
	十一年正	十二年正	十一年正	十二年正
計	三、七〇、七〇七	三、七〇、七〇七	一、九七、一〇〇	一、九七、一〇〇
財源ヨリ生ズル	九、三三〇	一、二〇、八〇〇	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇
収入	七、九〇〇	一、一〇、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇
使用料及手数料	七、九〇〇	一、一〇、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇
交付金	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
報償金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
國庫補助	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
縣補助	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
郡補助	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
國庫下渡金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
寄附金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
國庫附入金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
財産賣拂代	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
繰越金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
雑收入	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
基本財産繰入金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
市債	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
市税	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
町税	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇

諸稅負擔額並に市有財産の細目は左の如し

種 別	諸稅負擔額		種 別	市有財産	
	十一年正	十二年正		種 別	十一年正
計	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇	土地	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇
大正十一年	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇	建物	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇
大正十二年	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇	地物	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇
大正十一年	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇	現金及證券	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇
大正十二年	一、一〇、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇			

官公衙及團體

- 名 稱 所 在 名 稱 所 在
- 千葉縣廳 寒川長洲 千葉警察署 本町二丁目
- 千葉郵便局 本町一丁目 千葉兵器支廠 寒川長洲
- 千葉地方裁判所 吾妻町三丁目 千葉稅務所 寒川長洲
- 千葉市役所 寒川長洲 千葉縣教育會 同
- 千葉縣農會 吾妻町三丁目 赤十字社千葉支部 寒川長洲
- 愛國婦人會 寒川新宿 武德會千葉支部 寒川長洲
- 千葉市商業俱樂部 東院内 千葉市農會 寒川長洲
- 千葉市水産會 寒川長洲

兵 事 本市に於ける壯丁體格檢査成績を見るに大正十年檢査人員、二百二十三名の中甲種合格者は半數以上二百二十一名を占むるに次年度に於ては檢査人員二十二名を増加し二百四十五名の中甲種合格は僅かに九十六名更に大正十二年に於ては二百四十三名の中八十六名に過ぎず而して第二種丙種は累年増加の傾向あるは本市の特に注目すべき處邦家の前途寒心すべきにあらざるか。

會社銀行 大正十二年度に於て株式會社二十六合資會社九株式合資一計三十六あり重なる銀行會社左の如し

- 株式會社 千葉縣農工銀行 株式會社 千葉瓦斯工業會社
- 同 千葉貯蓄銀行 同 千葉自動車會社
- 同 九十八銀行 同 千葉コーパス會社
- 同 千葉割引銀行 同 千葉證券會社
- 同 川崎銀行千葉支店 同 浪尾信託會社

東京電燈千葉出張所

●議會議員 衆議院議員數は一、選舉有權者は一千五百三十六名、縣會議員數は一、有權者は一千九百五十六名とし市會は議員數三十名有權者は不詳にて大正十二年の統計に係る。

◆名所舊蹟

●千葉城址 市の東南方猪の鼻臺に在り千葉氏累代の城跡にして今は公園となり四時市民遊賞の地たり頗る眺望に富み千古の老松斷崖を掩翳し遠く富士の靈峯を仰ぎ武相の連峰を視近く房總の諸山連峰を指呼すべく脚下に袖ヶ浦の白帆黒煙を眸中に集むべし園内に警察官殉難記念碑あり本縣警察官の殉職者の靈を祀る、北麓に古井あり御茶の水と稱す傳説に依れば治承年間源頼朝千葉常胤と猪の鼻城に會見し此の水を以て常胤茶を煮頼朝に侑めしに頼朝深く之を賞味せりと御茶の水の名依つて之より起れりと。

●君持橋 寒川片町大橋の邊にある小石橋にして治承年間千葉常胤の一族源頼朝を此橋に迎へしより君持橋の名を得たりと云ふ往昔は川幅廣く人煙稀にして千種八千草咲き亂れたる荒野なりしと傳へり。

●袖ヶ浦 千葉市附近東京灣沿海の呼稱なり一帯長汀洲渚一名寒川浦とも云ふ天慶より治承に亘りて袖ヶ浦の名は屢々史傳に見る所なり蓋し鎌倉時代此地の樞要たりしを想ふべし。

●羽衣松 千葉縣廳公園内羽衣池畔に在る老松なり丈許の樹幹地に蟠居して四方に偃蹇せり往昔千葉氏の全盛時代天女天下りて纏へる羽衣を梢上に掲げたりとの傳説あれども何等捕提すべき點なく後人三保松原羽衣松に似せて通はせしものなるか。

●千葉神社 千葉市院内に在り明治七年縣社に列せられ社殿壯麗たりしも不幸祝融の災にかゝり灰燼に歸せり現今の社宇は近時の再建に依るものなり祭神は天御中主命にして一條天皇の御宇、千葉介平忠常勅を奉じて勸請せしに創る。

●大日寺 通町に在り眞言宗にして僧仁生の開基千葉氏累代の菩提所となり常兼より胤將に至る迄十六世の墳墓あり。

●千葉寺 市の東方にある眞言宗紀伊高野實性院の末派寺院なり元明帝の御宇和銅二年僧行基の開基にかゝり十一面觀音を櫻樹に刻せり中世千葉氏累世の祈願所となれり此地の櫻樹は甚だ著名なり。

◆千葉郡

面積二十方里東西六里十八町南北七里十五町周圍三十八里三町大正十三年内閣統計局の調査に依る本部推計人口男四萬八百女三萬八千九百計七萬九千七百七人にして蘇我、檢見川、幕張津田沼、大和田の五町外十二村を包含せり。特産物として澱粉甘藷、豚、家禽、貝類等なり而して諸稅負擔額を表示すれば左記の如し

國稅	縣稅	市町村稅	計	平均負擔額
三三〇・〇	三三三・七	三三三・七	三三三・七	現住一戸當 同一人當
鐵道第二聯隊騎兵第一旅團司令部同第三聯隊同第				四・七五

十四聯隊同第二旅團司令部同第十五聯隊同第十六聯隊衛戍病院の所在地にして附近習志野原の大平原あり。習志野は廣袤實に一千餘町歩を有する本邦隨一の廣大なる陸軍演習地たり二宮村外五ヶ村に亘り元小金ヶ原の稱ありしが明治六年四月明治天皇臨幸御統監の際現今の名を下し賜へり。中央小丘に當時の記念として石碑を建設せり記して「明治天皇御駐蹕之所」と云ふ亦習志野原頭の一偉觀たるを失はず。

●小弓城址 北條線に分岐點蘇我驛より東南約半里宇南生實と宇北生實の兩所に在り所謂小弓御所地として喧傳するものは南生實にあるものを云ひ應永年間千葉氏の一族原氏の居城たりしもの後足利義明本城に據りしも天文七年國府臺の一戰に敢なく敗死し幾干もなく廢城となりしものなり。北生實にあるものは天文八年原胤貞居城を此處に移せしより子孫代々之を守りしも天文十八年千葉城と共に陥り千葉氏一族遂に豪奢の跡を語草に滅亡するに至れり。徳川氏政權を掌握するや森川氏此處に封せられ其藩地と爲り以て維新に及べり。兩城址既に春秋幾星霜其間幾多の變遷を経たりしも猶當時の土壘、空濠等規模の觀るべきもの存し考古探家家の好資料たるもの尠からず。

●稻毛海水浴場 稻毛は檢見川町に在り東京兩國驛より二十哩海水浴場は驛より約七八町浦安行徳方面より千葉附近に亘れる袖ヶ浦の一部にして遠淺なれば最も婦女子の游泳に適す砂丘斷續して矮松老松の間を點綴し所謂白砂青松の趣き賞すべく一日の歡を盡すに足れり。

●甘藷先生の墓 稻毛、津田沼の間に幕張町あり、古くは馬加と稱せし所八代將軍徳川吉宗の世青木昆陽始めて此處に甘藷を試作せりと云ふ附近満目只甘藷畑にて小丘の上昆陽甘藷先生の墓と云へるものあり。

●不鳴池 蘇我町に大巖寺あり天王二十年道譽上人の開基にして、生實城主原胤榮の創建するところ淨土宗東國十八壇林の一と云ふ。境内後方の山林中に不鳴池あり、昔時全國の僧侶當寺に集まり教理の研究を爲せる折池中蛙夥しく棲息し鳴聲々々修學の妨害堪へ難きを當寺の上人池畔に至りて諭して其鳴聲を戒しむ爾來池中全く蛙聲を絶てりと傳ふ。

◆東葛飾郡

面積三〇方里〇九東西八里〇二町南北十里十町周圍四十一里十七町沿海線四里三十二町あり大正十三年調査現住人口男九萬六千八百人女九萬八千五百人計十九萬五千三百人を有せり、郡内小許の丘陵地を除き一の山嶽なく殆ど廣漠たる原野にして西北は江戸利根兩川に依り茨城、埼玉、東京の各府縣に境し南部は東京灣に面す交通よく開け道路鐵道舟運の便甚だ大にして利根運河は利根江戸二川を連絡する重要水路たり、江戸川よりは更に東京方面に運河を開鑿して日々數回東京通船會社貨客の輸送に努め居れり。北總鐵道は柏、野田町及び船橋、柏間にして馬橋、流山間は流山鐵道あり總武本線並に常磐線は共に郡内を通過せり、特産物として著名なるは醬油、味淋にして蔬菜、梨、桃、切干、煙草、海苔、生絲等之に次ぎ麥の作付段別並に收穫高は縣下第一なり。十二町二十九村ありて重なる官衙公署所在



株式會社 千葉市千葉 武銀行

電話 四七五番

既成線 常磐線 間橋驛より流山町 延長線 流山町より... 関宿

千葉縣東葛飾郡流山町

流山鐵道株式會社

三町大正十三年内務省統計局の調査に依る本郡統計人口男四萬八  
 百女三萬八千九百計七萬九千七百七十七人にして蘇我、檢見川、幕張  
 津田沼、大和田の五町外十二村を包含せり。特産物として澱粉  
 甘藷、豚、家禽、貝類等なり而して諸税負擔額を表示すれば左  
 記の如し

國稅	縣稅	市町村稅	計	平均負擔額
三三〇〇〇	三三三三三	三三三三三	三三三三三	現住一戸當 同一人當
三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三

津田沼町 鐵道第二聯隊騎兵第一旅團司令部同第三聯隊同第

千葉市千葉  
 株式會社  
**總武銀行**  
 電話 四七五番  
 五七七番

成田支店	千葉縣印旛郡成田町	電話二九番
佐倉支店	千葉縣佐倉町	電話一三二番
一宮支店	千葉縣一宮町	電話三五番
大原支店	千葉縣大原町	電話一三五番
大宮支店	千葉縣大宮町	電話一五番
御宿支店	千葉縣御宿町	電話四番
浦安支店	千葉縣浦安町	電話三九番
八幡支店	千葉縣八幡町	電話一三四番
東金支店	千葉縣東金町	電話一三番
成東支店	千葉縣成東町	電話一六番
銚子支店	千葉縣銚子町	電話一三番
旭支店	千葉縣旭町	電話一三番
飯沼支店	千葉縣飯沼町	電話一三番
佐原支店	千葉縣佐原町	電話一三番
笠原支店	千葉縣笠原町	電話一三番
多古支店	千葉縣多古町	電話一三番
八日市場支店	千葉縣八日市場町	電話一三番
東市川支店	千葉縣東市川町	電話一三番
上野市支店	千葉縣上野市町	電話一三番
大宮支店	千葉縣大宮町	電話一三番

株式會社  
**川崎銀行**  
 東京市日本橋尾槍物町  
 頭取 川崎八右衛門

- 千葉支店 千葉市千葉
- 佐倉支店 印旛郡佐倉町 電話佐倉一五番
- 銚子支店 海上郡銚子町
- 佐原支店 香取郡佐原町 電話佐原一五番
- 船橋支店 東葛飾郡船橋町
- 松戸支店 東葛飾郡松戸町 電話松戸三八番

既成線 常磐線 間橋驛ヨリ流山町  
 延長線 流山町ヨリ……関宿

千葉縣東葛飾郡流山町  
**流山鐵道株式會社**

- 取締役社長 都筑六郎
- 專務取締役 鈴木金九
- 取締役 佐藤道虎
- 相談役 久我常通
- 相談役 千澤專助

創業大正拾貳年  
 資本金壹百五十萬圓  
 千葉縣海上郡本銚子町飯沼  
**千葉水産株式會社**

- 代理店 新生市場 内濱市場
- 魚市場 飯沼市場 東濱市場

千葉縣成田町  
**成田電氣軌道株式會社**

- 取締役 永橋至剛
  - 取締役 西尾光一
  - 監査役 中尾藏之助
- 電話成田四番

根運河は利根江戸二川を連絡する重要水路たり、江戸川よりは  
 更に東京方面に運河を開鑿して日々數回東京通船會社貨客の輸  
 送に努め居れり。北總鐵道は柏、野田町及び船橋、柏間に於て  
 馬橋、流山間は流山鐵道あり總武本線並に常磐線は共に郡内を  
 通過せり、特産物として著名なるは醬油、味淋にして蔬菜、梨、  
 桃、切干、煙草、海苔、生絲等之に次ぎ麥の作付段別並に收穫  
 高は縣下第一なり。十二町二十九村ありて重なる官衙公署所在

株式 會社  
千葉縣若津郡本更津町  
**上總銀行**



株式 會社  
千葉市千葉  
**第九十八銀行**  
電話六九番三七八番  
頭取 安田善兵衛

株式 會社  
千葉縣安房郡北條町  
**古川銀行**  
電話館山二五番  
振替東京二六七二番



株式 會社  
千葉縣山武郡東金町  
**東金銀行**  
大網支店・成東支店・上宿波岸

株式 會社  
千葉縣安房郡北條町  
**安房合同銀行**  
電話館山三番九番一六番  
電界アハ振替東京二八八番

株式 會社  
千葉縣木鉦子町  
**鉦子銀行**

資本金 參百萬圓  
積立金 壹百餘萬圓  
諸預り金 六百餘萬圓

株式 會社  
千葉縣野田町  
**野田商誘銀行**  
電話野田二十五番  
振替口座東京五九一  
電信畧號(ノク)

頭取 茂木七郎右衛門

**日鉦製氷冷蔵株式會社**  
千葉縣木鉦子町



株式 會社  
千葉縣香取郡佐原町  
**佐原興業銀行**  
電話佐原四〇番

陸船發動機並  
諸機械製作及  
同諸材料販賣  
**鉦子瓦斯株式會社**  
同 **鐵工部**  
電話一一四番



株式 會社  
千葉縣佐原町  
**三協銀行**  
電話佐原三番



合名 會社  
千葉縣東葛飾郡我孫子町  
**林組我孫子支店**  
電話(一)一〇(二)一〇(三)一〇

地は左記の如し

松戸町 舊郡役所、警察署、稅務署、郵便局、千葉高等商業學校、區裁判所、高等女學校  
野田町 區裁判所出張所、警察分署、專賣局出張所、農學校内務省土木局出張所  
船橋町 警察署、郵便局、區裁判所出張所  
市川町 警察分署、憲分兵隊、野戰重砲兵第三旅團司令部、野戰重砲兵第一連隊、野戰七補隊、野戰兵第一大隊、新設病院

○法華經寺 中山村に在り日蓮宗の大本山、身延、池上等と並稱せられ日蓮宗四大本山の一にして世俗中山の鬼子母神として知らる五重塔及法華堂は特別保護建造物にして所藏の十六羅漢像屏風一雙は國寶として指定を受く



中山

△ 合名 林組我孫子支店

千葉縣東葛飾區我孫子町

電話(ヤマー)又(ア) 振替東京三九四番

地は左記の如し

松戸町 舊郡役所、警察署、税務署、郵便局、千葉高等商業學校、區裁判所、高等女學校
野田町 區裁判所出張所、警察分署、専賣局出張所、農學校内務省土木局出張所
船橋町 警察署、郵便局、區裁判所出張所
市川町 警察分署、憲分兵隊、野戰重砲兵第三旅團司令部、野戰重砲兵第一聯隊、同第七聯隊、騎砲兵第一大隊、衛戍病院

●國府臺 市川町大字國府臺に在り一帶の高丘にして西方江戸川に面せる所斷崖百尺其下深潭を爲し鐘ヶ淵の傳説あり、丘上の眺望絶佳にして脚下に溶々たる江戸川を俯瞰し、沃野を隔て遠く大東京の瓦葺を双眸に收む八景の撰有り江戸川の歸帆最も著る此地は太古真間の入江深く灣入して臺地の裾を洗ひ船舶輻湊せる繁榮の地たりしも利根荒川の放流せる土沙の爲め遂に現今の如く蒼桑の變を見るに至りたるものなり。現時里見公園となり帝都郊外の勝地として知らるる入口にある總臺寺は古下總國府の跡にして天文七年御弓御所義明、里見義堯此地に城砦を起し北條氏綱、氏康の大軍と戦ひ軍利あらす里見義弘、志を繼ぎ永祿七年北條氏と鋒を交へしも再び敗れたるの地、國亡びて山河在り、荒疊殘障の古城址に立ち當年の大陣を想起するの時颯々たる松風は武將の悲壯なる末路を語り、滔々たる江水は興亡の長き恨みを秘むるにも似て漫に人をして感慨に堪へざらしむ。

●手兒奈の祠 市川町大字真間、國府臺に行く途中にあり薄命の美人真間の手古奈の靈を祀りしもの口碑傳へ曰ふ昔時真間の里に手古奈と云へる乙女あり天成の麗質玉の如く長するに及んで愈々美婢妍類稀なる美女なりしかば言ひ寄る男、眷戀書を通ずるもの其數を知らざりしが、一も肯せず却て己一人の爲めに多くの人々互に相争ふの様を見て人の世の果敢なきを想ひ或夜ひそかに遁れて身を真間の入江に投せりと。

過勝鹿真間娘子墓時作歌

山部宿 福 赤 人

古へにありけむ人の、しづはたの帯解きかへてふせ屋立て、妻問ひしけむ勝鹿鹿の、真間の手兒名が奥津城を、こゝとは聞けど真木の葉や、茂くあるらむ松の根や、遠く久しきことのみも、名のみも吾は忘らえなくに

我もみつ人にもつけむかつしかの

ま、の手古奈のおくつきどころ

かつしかの真間の入江打なびく

玉藻かりけむ手古奈しぞ思ふ

(萬 葉 集)

附近手兒奈の墓と稱するもの、真間の繼橋、手兒奈の水汲井戸等古蹟頗る多く雅客韻士の節を停むるもの也し。

●弘法寺 市川町真間に在り日蓮宗本山にして弘法大師の創建天臺真言兩部の一大梵刹なりしも後富木胤繼日蓮宗を信仰せるに當時の住職、了性法師天台の教網を張りたる爲め宗義の衝突を來した性遂に其徒を率ひて脱散せり、之より胤繼改めて日蓮宗となし真間山法華堂と稱さるゝに至り後更に弘法寺と改稱せり。

千葉縣

●法華經寺 中山村に在り日蓮宗の大本山、身延、池上等と並稱せられ日蓮宗四大本山の一にして世俗中山の鬼子母神として知らるる五重塔及法華堂は特別保護建造物にして所藏の十六羅漢像屏風一雙は國寶として指定を受く

●八幡不知 八幡町大字八幡字下町に在り千葉街道の西側三百坪餘の竹藪ありこれ世に八幡不知の藪と稱さるゝもの、跡にして周圍木柵を廻らし入るを禁せり昔時は此中に入れば必ず怪異に遭ひ再び出づる事能はずと傳へられたり。



中山法華經寺

●船橋大神宮 船橋町に在り、町は東京千葉間の要路に當り海濱を遠く濱と云ひ平將軍將門の愛妾桔梗の前の投身せるところ大神宮は市街の中央に鎮座し景行天皇の四十年日本武尊東征の時伊勢大神を祀りしもの天喜三年源賴義、義家祈願して社殿を造營せるも明治元年兵燹に罹り焼失せり後有志相圖りて再建し明治七年縣社に列せらるる境内の高燈籠は高さ八丈燈光六海里に達すと云ふ。

●船橋海軍無線電信所 京成電車葛飾停留場より七八町大正十二年十月起工同十四年三月の竣工に係り城内十五萬坪獨乙ナイウン無線電信機の形式に依るもの電信塔十九基主塔の高さ實に六百六十尺電信機は三百馬力、電波は六千哩の遠距離に及ぶと云へり。

●手賀沼 東葛飾郡の東北隅にありて東方一部は印旛郡に屬す縣下第二の巨沼にして東西三里半南北三十町周圍八里面積五百九萬四千坪木下川によりて利根川に排水し成因は利根の河道變移に基く河跡湖なり、沼中魚族多く蘆荻繁茂して雁鴨等の水禽鳥類に富めるを以て遊獵地として著れ而も湖岸至る所風光樹すべく近來別荘地として注目せらるゝに至れり。

◆ 印 旛 郡

面積四十方里三十六廣袤東西八里二十町南北八里十二町周圍五十一里〇八町あり大正十三年調査の現住人口男六萬九千四百人女六萬九千二百人計十三萬八千六百人を有せり地勢平坦にして數多の湖沼を有し中印旛沼最も大なり利根川は茨城と境し水運の利あり總武本線成田線千葉縣營鐵道並成田電氣軌道は何れも郡内の樞要交通機關たり、全部廣漠たる平野なるを以て米麥の産多く麥の作付段別及び收穫高の多きは東葛飾郡に次げり。落花生、佐倉炭、茶、鰻、鮎、生絲を特産物とし、八町二十三村を包含す、重なる官公署所在地左の如し

佐倉町 舊郡役所、警察署、憲兵分遣所、中學校農事試驗所、聯隊區司令部、歩兵第五十七聯隊、郵便局、區裁判所、衛戍病院、高等女學校
千代田村 野戰砲兵學校、憲兵分遣所、野戰重砲兵第四聯隊、衛戍病院、陸軍飛行學校
成田町 警察署、中學校、高等女學校、圖書館物産陳列館、郵便局、區裁判所出張所、工業取締所支所、成田山感化院

名勝舊蹟

成田不動 (別項参照) 印旛郡成田町にあり、成田山新勝寺と號し眞言宗の巨刹、賽客の多き全國屈指と稱せらる。東京よりは成田まで直通列車あり、成田驛より不動門前まで約十五丁、電車にて五分を要す。堂宇は丘陵に倚り結構壯麗を極め安政四年の建築に係る十四間四面の本堂、始め鐘樓、開山堂、護摩本堂、光明堂、奥の院、青龍堂、聖德太子堂、望河閣等見るべく新勝寺の境内老杉喬松蒼鬱として幽邃を極む。

宗吾靈堂 公津村大字臺方の東勝寺に在り。義民木内宗吾の靈を祀る、成田より電車の便ありて不動尊賽客の又必ず詣すべき所なり。宗吾は千葉氏の一族にて慶長十七年公津村臺方に生れ世々名主たり。領主堀田正信庸暗なるに乗じて姦臣國政を弄し聚斂を事とし苛政甚だ猛にして、民心離散し、疲弊其極に達す此に於て宗吾領域三百八十九ヶ村の名主と會し、決然江戸に赴き藩邸に訴ふ。納れられざるを以て衆を返し五名の義士と江戸に留まりて時機の至るを待つ、承應元年十二月將軍家綱東叡山東照宮に詣つと聞き後事を五名に托して深夜階下に潜入す將軍家綱翌朝上野山内に至り駕を駐めて徒歩拜殿に入らんとす宗吾訴狀を竿頭に挿み地に跪き、訴ふるに領主の暴政を以てし聲淚俱に下る。當時直訴は天下の法度たるを以て宗吾並に其一族皆捕れ承應二年八月四日遂に公津ヶ原の刑場にて讒及に斃る宗吾時に年四十二、五人の義士は事就るに及んで僧となり終る所を知らずと。宗吾眇たる一名主を以て將軍の威を犯し、領主を弾劾し以て佐倉十萬の生靈を救ふ偉なりと謂ふべし。靈堂は明治四十三年悉く烏有に歸したるを銳意再建に努めて、大正十年を以て竣工したるもの堂宇宏壯ならずと雖もよく義人の高風を偲ぶに足る。境内三千坪、刑場跡と稱せらる宗吾父子の墓始め供養堂念佛堂、五靈堂、大師堂等あり。宗吾磔殺されてより二百七十餘年今尚香煙縷々として絶ゆる時なく之が忌日には盛大なる法會行はれ參詣者境内に滿ちて立錫の地なく精靈赫々として千古に輝けり。

印旛沼 郡の略中央に位する縣下第一の巨沼にして手賀沼と其成因を同する河跡湖たり。了字形をなし周圍十八里十二町面積三千八百七十町歩あれども水深僅かに三四尺に過ぎず、北東長門川に依りて利根川に注入せり。宗吾靈堂より北約十二三町餘、湖岸は丘陵に圍まれ蘆葦茂れる靜寂境なり。義僧光然袈裟掛松の跡及び甚兵衛の渡あり。光然和尚は下岩橋村大佛頂寺の住僧にして宗吾の子供の赦免を請ひしも赦るされざるを以て憤怒一時に發し總領彦七の首を抱き刑場を破り印旛沼畔の老松に袈裟をかけ身を投せしと云ふ。甚兵衛の渡は印旛沼の兩岸相迫れる水神の渡の謂にして宗吾上訴の時雪夜に乗じて此渡より脱出せんとし渡守其兵衛の義氣に訴へたる所なり、今猶老松鬱蒼として封鎖を破りし甚兵衛の義憤を偲はしむるものあり。對岸六合村平賀の花島山は北總第一の佳景として知られ十六峯八谷の勝地あり。

三里塚の櫻 近時陰れたる櫻の名所として鐵道省等の宣傳に依り漸く都下に喧傳さるゝに至りしものは三里塚の櫻なり、本

郡並に山武香取三郡に跨る地積實に三千四百餘町歩の宮内省御料牧場の一部を指し遠山村三里塚に事務所を置き牧畜の外農作をも行へり、其三里塚の方面には櫻の老樹大木頗る多く爛漫たる櫻花の下無數の牛馬悠々群れ遊ぶの風景他の何處にも求むる能はず、東京兩國より約三時間にて千葉縣營線三里塚驛に達す

香取郡

面積三十六方里二十六廣袤東西九里二十六町南北七里二十八町周圍四十七里十二町大正十三年度現住人口男六萬六千六百八十七女七萬二千四百人計十三萬九千人七町三十四村を包擁せり、地勢平坦にして廣潤なれば農産物に富み殊に米の作付段別及び收穫高の多き縣下の首位を占め外に味噌、酒、奈良漬、落花生、鮭鱒等の産出あり。主なる官衙公署所在地左記の如し

多古町

警察分署、郵便局、區裁判所出張所、小見川町 警察分署、郵便局、區裁判所出張所

官幣大社香取神宮 香取町香取にあり、古來より歴代皇室の御崇敬最も篤きはよく人の知るところ成田線佐原驛より東行約一里、利根川、霞ヶ浦より汽船の便も有す。(詳細別項名所舊蹟の部参照)

小御門神社 當神社は成田線滑河驛より東南二十町餘の小御門に鎮座し別格官幣社に列し南朝の忠臣藤原師賢卿を祀れり。元弘年中鎌倉執權北條高時の暴逆を懲さんとして後醍醐天皇の御畫策に與り苦忠大いに努めたるも天未だ與せず捕れて下總に流され敗殘の身を配所に終れり、後



別格官幣社小御門神社

天皇痛く追惜し給ひ太政大臣を贈り文貞公と諡を賜ひて忠魂を慰め給へり。公の薨後久しく墳墓は草叢の間に埋りたりしが明治十年五月土人公の爲めに社殿建設を請願し十五年四月御本殿の工事竣成し御劔を賜ひて別格官幣社小御門神社と稱さるに至れり。

滑川觀音 滑河驛より七町滑川山龍王院と號し天臺宗なり、堂前の仁王門は建築頗る古く飛彈工匠の作と傳へられ特別保護建造物たり。

神崎神社 神崎町大字神崎本宿宇雙生山にありて小産名命大貴已命而足命惶根命を合祀せり、白鳳二年の創建にして元小松神社と稱せしもの明治六年郷社に列し大正十年縣社に昇格せり社側にナンヂャモンヂャの樹あるを以て有名なり。

海上郡

面積僅かに九方里八五廣袤東西五里三十三町南北三里〇四町

賜於平和記念東京博覽會銀牌受領

藤表

千葉縣銚子町

三安藤清三郎商店

鐵道省御

仙 海水浴場



保健住宅別

千葉縣銚子町

脱出せんとし渡守其兵衛の義氣に訴へたる所なり、今猶老松鬱蒼として封鎖を破りし甚兵衛の義憤を偲ばしむるものあり。對岸六合村平賀の花島山は北總第一の佳景として知られ十六峯八谷の勝地あり。

●三里塚の櫻 近時陰れたる櫻の名所として鐵道省等の宣傳に依り漸く都下に喧傳さるゝに至りしものは三里塚の櫻なり、本

貴已命面足命惶根命を合祀せり、白鳳二年の創建にして元小松神社と稱せしもの明治六年郷社に列し大正十年縣社に昇格せり社側にナンヂヤモンヂヤの樹あるを以て有名なり。

●海上郡 面積僅かに九方里八五廣袤東西五里三十三町南北三里〇四町

賜天於平和記念東京博覽會銀牌受領

千葉縣銚子町

問屋 三安藤清三郎商店

電話持長二四三番  
振替東京二二八八番

鐵道省御指指定旅館

仙松閣 あかしあ 海水浴場



保健住宅別荘地事務所  
千葉縣銚子あかしあ電報子六十番



株式會社 豊國銀行銚子支店

千葉縣銚子町

電話 八 番

千葉縣本銚子町  
全本銚子出張所

電話三〇一番



銚子藤表株式會社

千葉縣銚子町

電話二二六番

海水浴 御料理 御旅館

千葉縣銚子町明神前

川口館

電話三三八番

銚子名産藤表卸

千葉縣銚子町

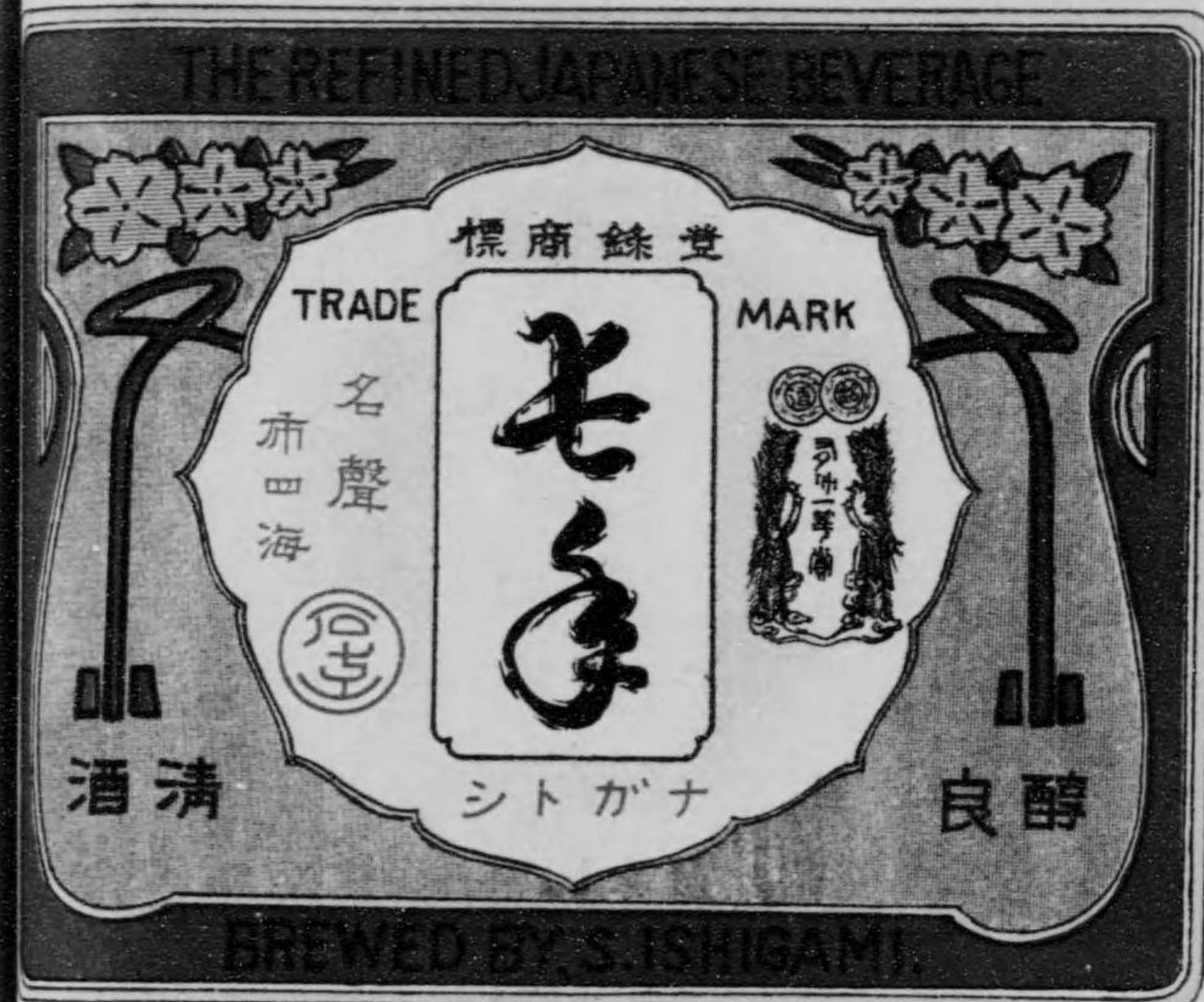
⑤ 梶木弥五郎商店

電話五〇番  
振替東京二五二一番

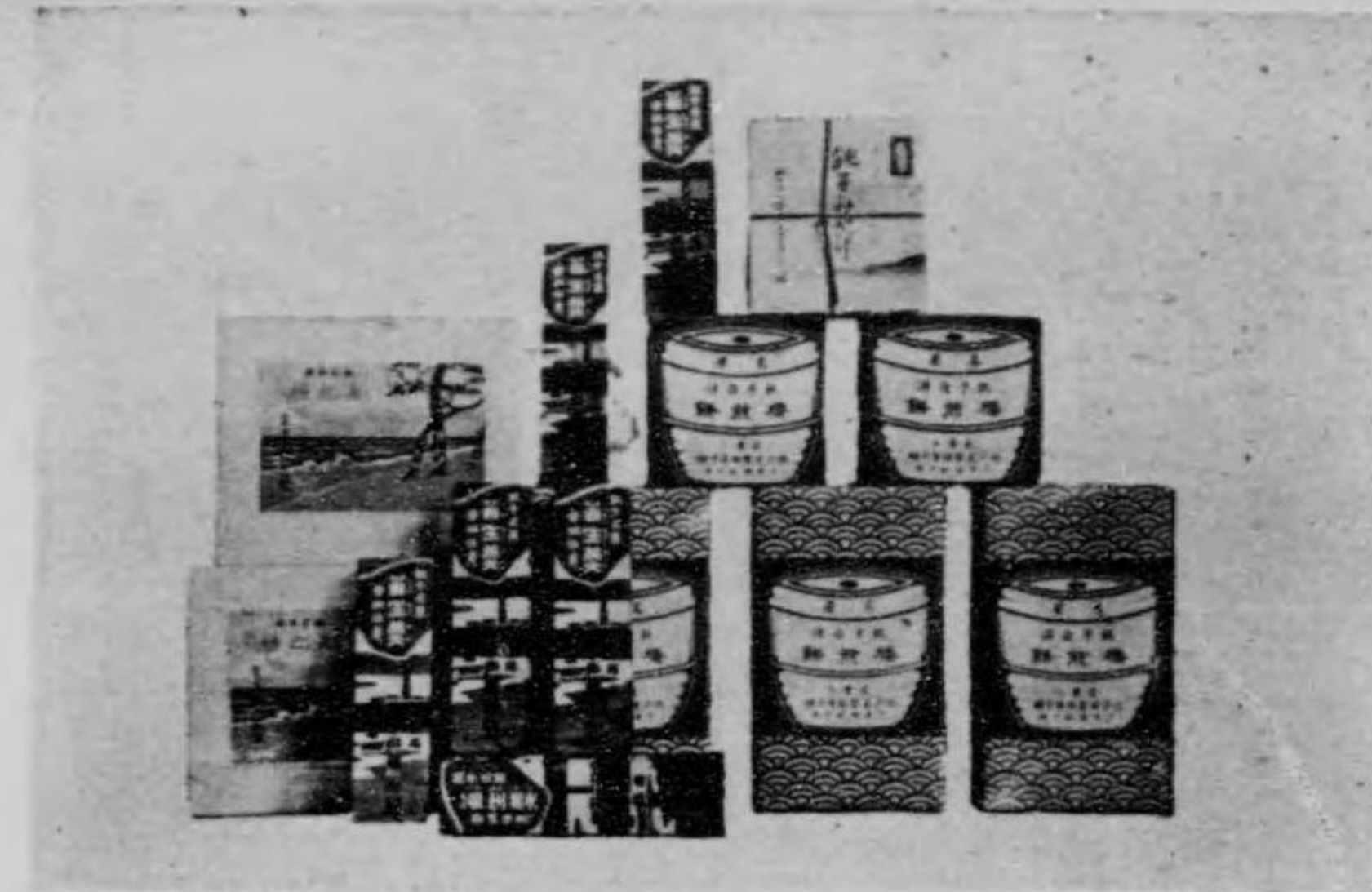
犬吠岬海水浴場 旅館 燒雞館



千葉縣銚子犬吠岬



周囲十二里〇八町沿海線延長九里〇六町あり大正十三年度人口は男四萬〇五百人女四萬三千九百人計八萬四千四百人五町十二村を包含せり、特産物として醤油、落花生、蕨、叭、鯉節、銚子縮等あり。銚子町は利根河口に位し本邦最東の岬端、港に岩礁多き爲め大船巨船の出入不便なりと雖も尙東海岸の一要港を爲し物貨集注し街衢殷賑を極め巨商大賈軒を並べ銚子本銚子西銚子相連続し人口六萬を數ふ。黒潮近海を流れ夏涼しく冬暖に

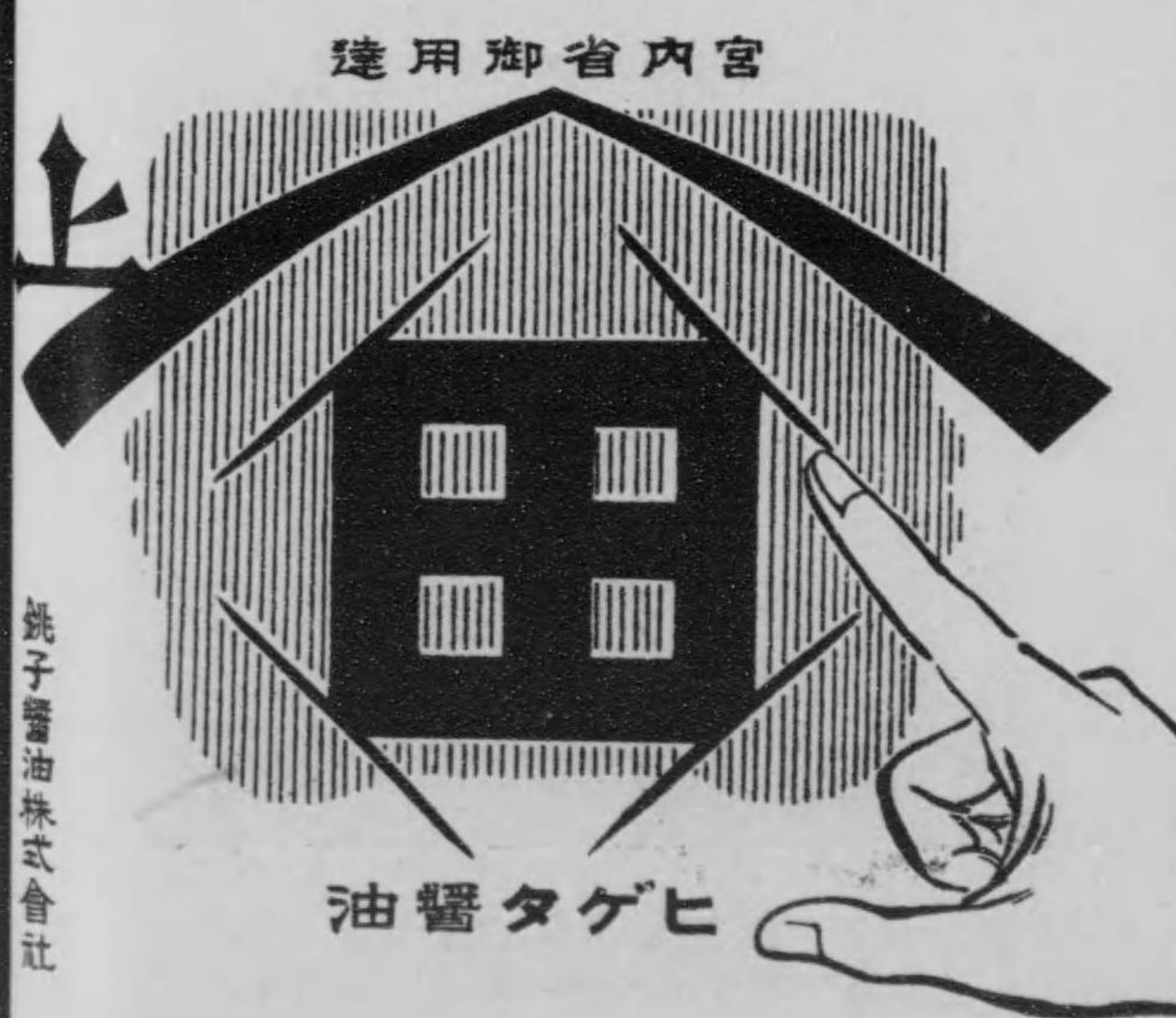


天明五年創業  
宮内省賜御用  
名譽大賞受領

今味噌醸造元

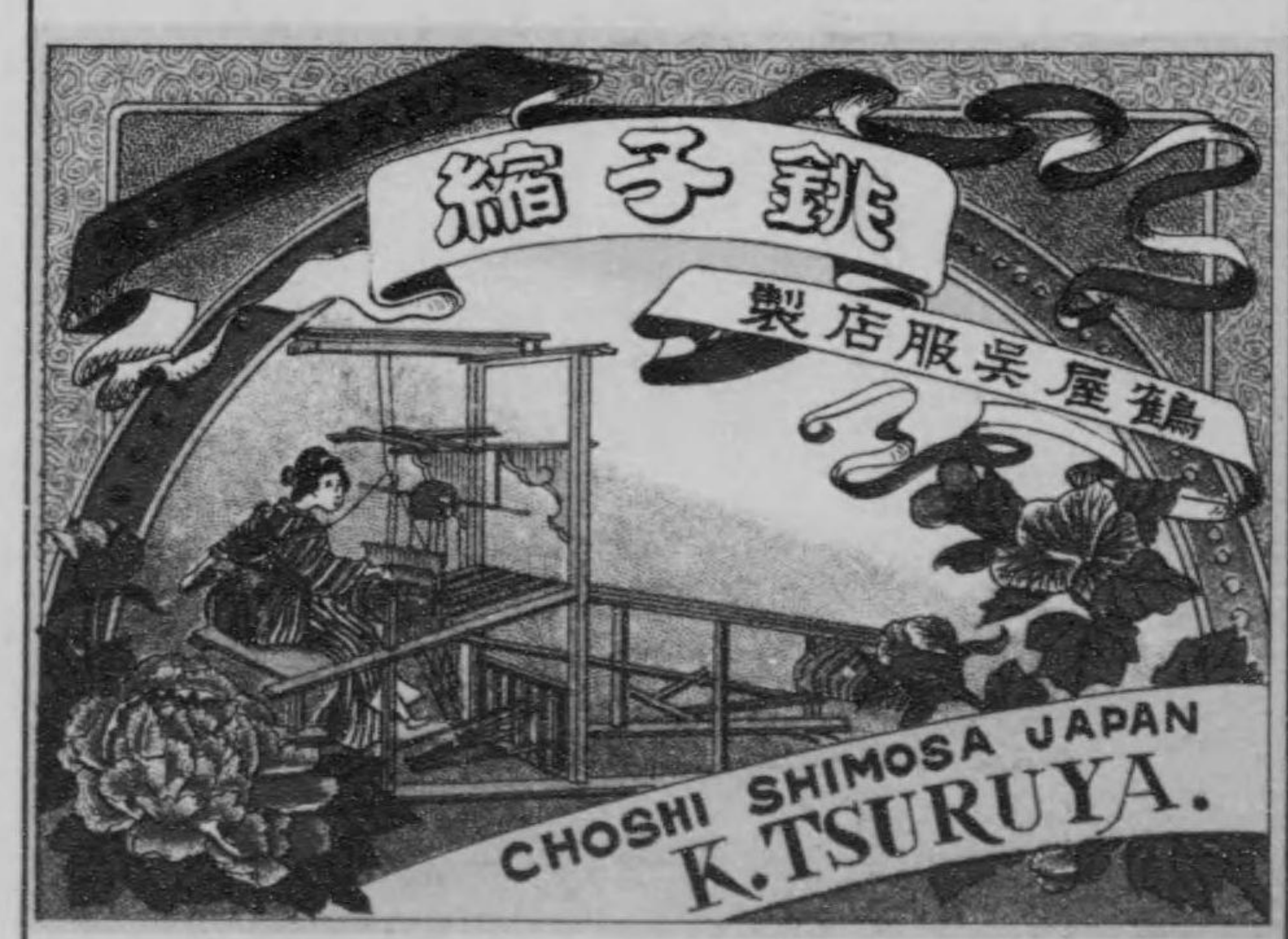
甘露ひし月  
子孫孫銚子町  
岩崎重次郎精製

本店 千葉縣銚子町 岩崎重次郎商店  
支店 東京府下田町 岩崎重次郎商店  
支店 高田町 岩崎重次郎商店  
支店 高田町 岩崎重次郎商店  
支店 高田町 岩崎重次郎商店  
電話 四一三番 振替東京五三番



高さ九十尺白色の燈臺は巍然として碧空に輝き光芒よく十九裡に達すと毎日午後二時一般に縦覽せしむ、犬吠岬より南長崎鼻に至る間は鷄明浦にして海水浴場として知らる。  
飯岡海水浴場 郡の東南部總武本線飯岡驛の南約一里、九十九里濱の海岸に面し風景繪の如く近年漸く避暑地海水浴場として注視さる、に至れり。  
椎名海水浴場 飯岡海水浴場より西一里餘總武本線旭町驛の

銚子名菓  
樽煎餅  
磯之雪  
苔生美  
千葉縣銚子港  
水戸屋菓子舗  
田伊平  
電話 時長十八番





THE REFINED JAPANESE BEVERAGE

標商 銚子

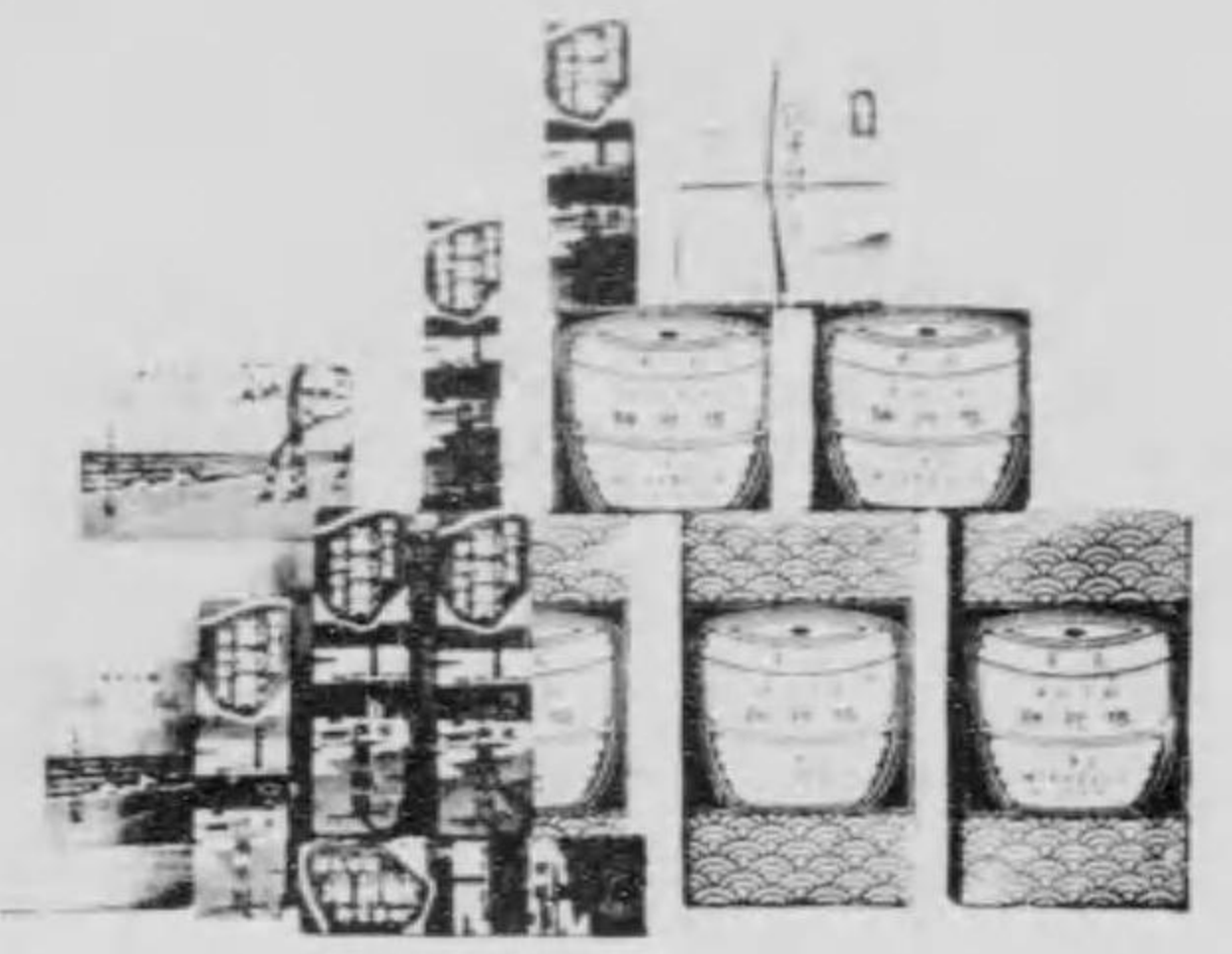
TRADE MARK

七手

酒清 良醇

BREWED BY S. ISHIGAMI.

周南十二里、八町沿海線延長九里、六町あり大正十三年度人口は男四萬〇五百人女四萬三千九百人計八萬四千四百人五町十二村を包含せり、特産物として醤油、落花生、筵、帆、吸節、銚子縮等あり、銚子町は利根河口に位し本邦最東の端、港に岩礁多き為め大船巨船の出入不便なり、故に商東海岸の一要港を爲し物産集注し街市賑賑を極め巨商大賈軒を起し銚子本銚子西銚子相連嶺人口六萬を數ふ、黒潮近海を流れば夏涼し冬暖に



天明五年創業  
宮内省賜御用  
名譽大賞受領

十味噌醸造元

子茶縮銚子町

甘露ひし

岩崎重次郎精製

支店 岩崎重次郎商店  
東京府下田高町三番  
電話 二二三三番

本店 千葉縣銚子町  
岩崎重次郎商店  
電話 四一一番  
振替東京五三番

達用御省内宮

田

油醬タゲヒ

銚子醤油株式会社

高さ九尺白色の燈臺は巍然として碧空に輝き光芒よく十九層に達すと初日午後二時、一般に縦電せしむ、大吹陣より南長崎鼻に於ける間は鶏鳴清にして海水浴場より知る可し

飯岡海水浴場 郡の東南部徳武本郡飯岡町の南約一里、九十九里濱の海岸に面し風景極の如く近年漸く繁華地海水浴場として注視されるに至れり

権名海水浴場 飯岡海水浴場より西一里餘徳武本郡飯岡町の

銚子名菓

樽煎餅  
磯之雪  
苔生羹

千葉縣銚子港 水戸屋菓子舗

豊田伊平  
電話 特長十八番

大日本總國産子港

銚子縮

製店服吳屋鶴

CHOSHI SHIMOSA JAPAN  
K. TSURUYA.



周圍十二里〇八町沿海線延長九里〇六町あり大正十三年度人口は男四萬〇五百人女四萬三千九百人計八萬四千四百人五町十二村を包含せり、特産物として醬油、落花生、蕙、叭、鯉節、銚子縮等あり。銚子町は利根河口に位し本邦最東の岬端、港に岩礁多き爲め大船巨舶の出入不便なりと雖も尙東海岸の一要港を爲し物貨集注し街衢殷賑を極め巨商大賈軒を並べ銚子本銚子西銚子相連続し人口六萬を數ふ。黒潮近海を流れ夏涼しく冬暖に避暑避寒の好適地として普く知られ諸般の文化的施設到らざるなし主なる官公署所在左記の如し

銚子町

舊郡役所、警察署、稅務署、郵便局、區裁  
判所出張所、商業學  
校、高等女學校

本銚子町

郵便局、無線電信局  
測候所漁港管理所

◆銚子沿海の勝景 銚子半

島の沿岸は到る處風光明媚古來より銚子磯巡りと稱し四方より遊客雲集して嘆賞おかざるの地なり以て順を追ひて名勝地を記さんとす。



國際無線電信局

銚子観音は又飯沼観音とも稱され弘仁年中弘法大師諸國巡錫の際此地に開帳の秘法を修業して以來歸依者次第に多きを加ふるに至れり、飯沼山圓福寺と號し眞言宗に屬し神龜元年德道上人の開基に係る阪東二十七番の靈場なり。十一面観音の像を安置し境域五千六百十二坪中央の本堂は天正年間の建立宏壯稀に見る所なり。銚子驛より東十町利根河口の風光を俯瞰する絶勝の地を占む。

川口明神は俗に白紙大明神と稱せられ安部晴明の戀人、海に投せし所と傳へられ大利根の水溶々として大海に打寄する景壯觀比なく特に夕陽靜かに西に沈む時歸りを急ぐ眞帆片帆江面に映じて佳景畫圖も及ばず寔にや銚子第一の絶景と稱すべきなり古來、文人墨客の此地に來り遊べる者頗る多きを以て題詠の詩歌隨つて少からず左に其數首を録す。

海上の沖津やしは路雲きて浦の舟朝開きせり  
長河湯入大東瀛、簇々帆橋閃夕陽、香粉半灣遊女水  
樓臺十里海螺城、昇池不盡魚龍氣、來去偏喧潮汐聲  
何處巖巖高可倚、要看杲々日初生、  
水雲籠浦樹、擁出大悲籠、港繞東南北、巖連一二三  
奥船浮落日、常嶂引遙風、閑說多奇勝、明朝好討探

村田春海  
梁川星巖  
大槻馨溪

川口明神より女夫ヶ鼻に至る途中千人塚と云へる古塚あり海中に溺死せる漁夫を葬れる所、無線電信局の高塔を左に見て夫婦ヶ鼻を廻れば黒生浦なり巖巖蟠屈起伏して壯絶を極め形狀恰も鳶に似たる巨岩なり依て鳶岩の名あり更に南行すれば既に伊勢路浦と謂へる海濱なり。海上の一小島を海鹿島と云ひ往時は此邊り海鹿群を爲して棲息せりと。

◆大吠岬 海鹿島より南青松白砂の海岸を君ヶ濱と云ふ。斷崖峭立して長く海中に突出し太平洋の千波萬波崖下に激して白霧濛々飛沫雪を散らす一名霧ヶ濱の稱起りし又宜なりと云ふべし

千葉縣

高さ九十尺白色の燈臺は巍然として碧空に輝き光芒よく十九裡に達すと毎日午後二時一般に縦覽せしむ、大吠岬より南長崎鼻に至る間は鷄明浦にして海水浴場として知らる。  
◆飯岡海水浴場 郡の東南部總武本線飯岡驛の南約一里、九十九里濱の海岸に面し風景繪の如く近年漸く避暑地海水浴場として注視さる、に至れり。  
◆椎名海水浴場 飯岡海水浴場より西一里餘總武本線旭町驛の南三十丁矢指村に在り遠淺にして水清く白砂青松海水浴場として絶好の地なり、附近眞福寺、幸藏寺、東禪寺、矢指神社、網戸古城址等觀るべき所甚だ多し。

◆匝 瑛 郡

面積七方里八十二廣袤東西四里南北四里八町周圍二十里二十三町沿海線二里十一町縣下に於ける最小郡なり大正十三年度調査、現住人口男二萬八千人女二萬二千二百人計四萬三千人、一町十三村あり、特産物は落花生、繭、家禽等とす。主なる官公署所在左記の如し

八日市場町 舊郡役所、警察署、區裁判所、刑務所支所、實業試驗場、蠶業取締所支所、郵便局、中學校、高等女學校

◆椿湖址 所謂干潟八萬石是にして匝瑛、海上、香取三郡に介在し椿海、共和(匝瑛)嚶鳴、瀧郷(海上)東城、神代、萬歳、古城(香取)の諸村に亘り東西五里南北二里面積三方里の沼澤なりしを寛文中排水路を造り開墾して田土となせり。椿湖は往時平將門の據りし所と想像さる、も現時は此の如くして地味に應じて西瓜、甘藷の類を植え又近年播種せる落花生は本縣の特産物として名聲を博せり。

◆匝瑛城址 八日市場町大字八日市場の西北に位し孤立して高さ五丈餘周圍六町許東南に登路あり、平常兼の四子常廣匝瑛氏と號して本郡を領せり。

◆山 武 郡

面積二十七方里四〇廣袤東西五里二十町南北八里〇六町周圍四十二里三十三町沿海線四里三十町、現住人口(大正十三年度)男五萬八千二百人、女六萬一千人、計十一萬九千二百人を有せり、本郡の地域は寛平年間高望王の私有に屬し源賴朝新業成りてより千葉氏之を領し次いで諸豪族の領有を経て長享年中酒井氏南部に虎視し徳川氏に至りて概ね直隸又は旗本の知行する所となれり。

明治維新の始め松尾大綱の二藩を置かれ廣藩後宮谷、木更津二縣の管轄に歸し千葉縣となりしより山邊武射の二郡に分たれ更に明治三十年兩郡を合併し山武郡と改稱大正十五年七月一日郡制廢止に至る迄存續せり、六町二十六村を有し特産物は上總木綿、戸障子、家禽、木材、落花生、鱈等とす主なる官公署所在地左記の如し

東金町 舊郡役所、警察署、稅務署、區裁判所出張所、郵便局、高等女學校

八鶴湖 東金町字谷に在り周圍半里面積凡そ一萬六百五十坪湖水は水田九十餘町歩の灌漑用並に東金町防火用に備ふ湖は清澄ならずと雖も周圍の城址、寺院其影を宿し、水禽渚に遊ぶ、夏時、滿池の蓮花紅白妍を競ひ來遊する者踵を接す。

東金城址 東金町の西方鶴が峯にありて地勢丘陵を繞し脚下東金の市街より附近の山河を瞰、遙かに蒼天外洋に連又た景勝の地と云べし、北麓に日蓮宗の巨利木漸寺あり、往古松野郷村にありて禪宗の大寺なりしも後日蓮に改宗せられしものなり。

成東鑛泉 總武本線成東驛より西五町にして奇石怪巖重疊する石塚山あり、頂上行基の開基と稱ふる浪切不動堂あり、成東鑛泉は此堂下より湧出し含鐵炭酸食鹽泉にして黄色を帯び鹹味を有し胃腸病、ソウマチス、痔疾、肺結核、婦人病等に卓効ありと云ふ。

九十九里濱 九十九里濱は海上郡飯岡町の岬角より長生郡大東岬に至る蜿蜒十五里に及ぶ沙濱を云ふ沿岸些の出入なく平滑なる回線を以て孤狀を畫き六町一里にして九十九里あるを以て此名あり往古より、著名の漁場にして地曳網漁業の盛なる事、鱈の漁獲高本邦に冠たる事は夙に世人に知らるゝところなり。

模範村源村 郡の西北隅にあり總武本線日向停車場を距る僅かに一里面積千三百町歩、戸數三百四十、人口二千二十八人を有し村民一般に公共心に厚く理事者の精勵と相俟ちて能く村治の實を擧ぐ、勤儉産を治め冗費を節して村の基本財産を造成し更に之を最も有効に運用し村内に於ける萬般の施設をして遺漏なからしめ村内の和衷風俗の醇化實に以て範とするに足れり、明治四十三年内務省より模範村として選奨せられたり。

長生郡

面積二十方里八三廣袤東西五里二十八町南北五里〇二町周圍三十里十七町沿海線五里二十八町現住人口(大正十三年度)男四萬二千五百人女四萬四千九百人計八萬七千四百人四町二十二村を包括し特産物として菘、叭、乾柿、落花生、豚、上總木綿等あり。主なる官公衙左記の如し

茂原町 郡役所、警察署、稅務署、郵便局、農學校、中學校、區裁判所出張所

一宮町 警察分署、郵便局、區裁判所、女學校

藻原寺 茂原町元山に在り遠江國守齋藤兼綱此地に流謫され日蓮に歸依し、其居館を以て寺としたるもの本宗中著名の大寺にして建築又頗る宏大なり、藻原寺の附近に長國山鷲山寺あり亦日蓮宗に屬し建治三年小早川内記の開基に係り僧日辨の開山なりと。

一ノ宮海水浴場 一宮町は加納氏一萬三千石の舊城邑にして城址は玉前神社の後方城山の上にあり、上總一の宮驛より十五町九十九里の長汀漸く盡きんとし一宮川源深太平洋に注ぐ邊り青松綠蔭絶好の海水浴場を爲す、近く太東岬の懸崖削立し前方浩蕩たる太平洋の海波を望み囁目開潤房總の大磯と呼ばれ氣候溫暖空氣清爽避暑の好適地として近年都人士の別荘綠翠の間に隱見する愈々多きを加ふるに至れり。一の宮川は地質學上最も珍重すべきものにして海岸の砂丘に衝突し再び後退して海中

に入り潟湖の成因を如實に示す、附近にある保安林、防風林の發達等亦一見すべき好材料なり。

橋神社 本納町大字本納字御船形にありて日本武尊の妃弟橘姫を祀り、明治六年縣社に列せらる。尊嘗て東夷征討の爲上總に渡られんとして舟にて東京灣を横斷せらる偶々海大いに荒る姫尊の御難を救はんとして奮然身を躍らして海中に入り、海神の怒を鎮めり、後尊深く姫の死を悼み神として姫を祭り、本社を創建し給へりと云ふ。

玉崎神社 房總線一宮驛より西北四町のところにあり、國幣中社にして玉崎神を祭神とす、境内は老松古木參差として枝を交へ。社は北條、里見兩氏鬭争の跡にして永祿五年一宮城陥落の際兵燹に罹り、神寶、古文書を燒失して事歴を詳かにするこゝ能はず。古來近郷舊十二村の鎮守にして神寶に神劍、太刀、翁面、猿田彦面、大山祇面、食椀、神盃等あり。境内に末社十二座あり。社殿は權現造、銅葺、向拜唐破風造にして全部黒漆塗、結構壯麗を極めたり。

夷隅郡

面積二十六方里八四廣袤東西六里四町南北六里三十八町周圍三十里十八町沿海線十一里〇二町現住人口男四萬三千二百人、女四萬七千五百人、計九萬七百人を有せり七町十六村を有し特産物として乾鰯、柿、菘、叭、煮乾、鱈等あり。主なる官公署所在地左記の如し

大多喜町 郡役所、警察署、郵便局、中學校、區裁判所出張所

勝浦町 警察分署、測候所出張所、燈臺、郵便局、區裁判所出張所

大原町 警察分署、郵便局

大原附近の勝 大原町は郡内の一都邑にして附近勝景多く八幡岬の豪壯なる眺望は遊覽者をして思はず快絶の語を放たしめ其他鎗田城址、八幡神社、特別保護建造物たる大聖寺の不動堂照願寺の見真大師繪傳の國寶等見るべく滯留數日に亘るも飽く事なし。

大多喜城址 大多喜町大原大多喜に在り舊舞鶴城と稱せしもの四面繞すに峻崖絶壁を以てし内外二部を爲す。治承年中源頼朝舉兵の折此地に陣せりと傳へられ後里見氏の部將正木氏累世の居城となり天正十八年に至りて、本多忠勝城主となり更に元和三年阿部正次の代を経て寛永七年幕府代官の所管する所となり稻垣氏、松平氏更り明治四年に至りて廢城とせり。

高瀧 老川村大字栗又に在り高さ三十丈、幅十七間、瀑上一巨巖峙立して奇景を呈す、瀑下は數尋の深潭をつくり兩岸壁立して樹木鬱然たり、増水せる時は數里の遠きより轟々たる水聲を聞くを得。

勝浦附近の風光 勝浦町は房總線現在の終點にして勝浦岬東南に斗出し勝浦灣を抱き天然の良港を形成し商戶漁家櫛比し水産物の集散夥しく市況活氣を帯べり。天慶年中上總守興吉王の築くと云ふ勝浦城址は大字濱勝浦八幡岬の山頂にありて西南北海に莅み斷崖峭立せり、草創幾百年其跡燼滅せりと雖も猶一古

井存して興亡の昔を語り顔なり。最妙寺入道時頼行脚の際宿せるより起りたる御宿は勝浦の次驛にして南方網代灣に臨んで風景絶佳近年海水浴場として勝浦と並び稱され夏時避暑客漸く増加せり。

房第一の高山也、此山は下より見るべき山にあらずして、上より見下すべき山也、山上の眺望は總房第一也、關東全體にても第一流也」と賞せり。山勢高峻ならずと雖も關東北十有三洲一野願所に従ひ展開し三浦三崎の翠黛、伊豆諸島の青螺點點基石の如く相互の諸山、武野の諸連峯一々指呼すべく脚下直ちに東

町九十九里の長江漸く盡きんとし一宮川源溪太平洋に注ぐ遊り青  
松蔭蔭絶好の海水浴場を爲す、近く太東岬の懸崖削立し前方浩  
蕩たる太平洋の海波を望み囁目開瀾房總の大磯と呼ばれ氣候温  
暖空氣清爽避暑避寒の好適地として近年都人士の別荘綠翠の間  
に隠見する愈々多きを加ふるに至れり。一の宮川は地質學上最  
も珍重すべきものにして海岸の砂丘に衝突し再び後退して海中

井存して興亡の昔を語り顔なり。最妙寺入道時頼行脚の際宿せ  
るより起りたる御宿は勝浦の次驛にして南方網代灣に臨んで風  
景絶佳近年海水浴場として勝浦と並び稱され夏時避暑客漸く増  
加せり。

### 市原郡

面積二十三方里三十七廣袤東西五里三十二町南北八里三十二  
町周圍三十七里二十三町沿海線四里十三町四町十七村を有し大  
正十三年度調査現住人口男三萬四千四百人、女三萬五千八百人  
計七萬二千人あり、蕨、吠、薪炭、海苔、木材等の特産物とせ  
り、地勢西北部東京灣に面せる地方並に養老川の流域は土地低  
平にして稍農産物の收穫あれども他は概ね丘陵性の山嶽連互せ  
り東京灣の沿岸は北條線ありて早く文化の恩恵に浴したれども  
南部方面は稍交通不便の點無きにもあらざりしが近時小湊鐵  
道の五井町より岐れて里見村迄開通するに至りて面目一新する  
に至れり。主なる官衙公署左記の如し

八幡町 舊郡役所、警察署、郵便局、區裁判所出張所  
鶴舞町 警察分署、郵便局、高等女學校、區裁判所出張所

飯香山八幡神社 八幡町に在り縣社にして譽田別命、息長足  
姫尊、玉依比賣尊の三柱を合祀し本殿、拜殿幣殿相連り蒼くに  
悉く銅板を以てせり。境域一萬三千坪に餘り城内周圍二丈五尺  
の大公孫樹あり、一本にして二幹に分れ左幹は獨り乳房を垂下  
す里人之を奇とし呼んで陰陽合抱樹と云ふ。

### 君津郡

縣下第一の大郡面積四十八方里八四廣袤東西八里三十二町南  
北八里周圍三十九里沿海線の長さ實に十七里十二町に及ぶ、本  
郡は元望陀、周准、天羽の三郡より成り幕府時代にありては久  
留里、諸西、櫻井、飯野、小久保、及佐貫の六藩と旗本の知行  
となり明治四年廢藩後木更津縣に屬し同六年同縣廢止と同時に  
千葉縣の管轄する所となり明治十一年十一月望陀、周准、天羽  
の三郡を以て一區劃となし郡役所を望陀郡木更津村に設置して  
三郡を管す。明治二十二年五月木更津村は更津町となり更に明  
治三十年四月前記三郡合併して君津郡と改稱郡制廢止の大正十  
五年七月一日迄存続せり。六町三十六村を有し大正十三年現住  
人口男六萬三千九百人、女六萬七千五百人計十三萬一千四百人  
を數ふ。特産物は蓮根、葱、畜牛、薪炭、柑橘、木材、石材、竹  
材、生絲、海苔等あり。主なる官公署所在左の如し

木更津町 舊郡役所、警察署、區裁判所、稅務署、中學校、高等女學校、郵便局  
久留里町 警察分署、郵便局、區裁判所出張所  
湊町 警察分署、郵便局、區裁判所出張所

木更津町 曾て木更津縣廳、郡役所の在りし處、上總西岸中  
最も繁盛の地たり。日本武尊東征の際愛妃弟橘姫を失ひ給ひ御  
悲歎のあまり海洲をさまよひ去るに忍びざる御有様を見て里人  
君不去と呼びしより轉じて木更津の名を得たりと傳へらる。

鹿野山 北條線佐貫驛より東二里房總の最高峯にして標高一  
千五百尺展望の雄大なると靈場神野寺の在るを以て有名なり、  
文豪桂月大町氏は其著關東山水に於て鹿野山の地形を論じ「總

勝浦附近の風光 勝浦町は房總線現在の終點にして勝浦岬東  
南に斗出し勝浦灣を抱き天然の良港を形成し商戶漁家皆比し水  
産物の集散夥しく市況活氣を帯べり。天慶年中上總守與吉王の  
築くと云ふ勝浦城址は大字濱勝浦八幡岬の山頂にありて西南北  
海に莅み斷崖峭立せり、草創幾百年其跡煙滅せりと雖も猶一古

房第一の高山也、此山は下より見るべき山にあらずして、上よ  
り見下すべき山也、山上の眺望は總房第一也、關東全體にても  
第一流也」と賞せり。山勢高峻ならずと雖も關東北十有三洲一  
野願阿に從ひ展開し三浦三崎の翠黛、伊豆諸島の青螺點點若石  
の如く相豆の諸山、武野の諸連峯一々指呼すべく脚下直ちに東  
京灣を俯瞰し宛然一幅のパノラマに似たり、山中亦名勝多く天  
崖、九十九谷、十州臺、四十八瀧、鹿野山公園等著れ白鳥山、  
鬼沼山、血草川、阿久留塚等皆日本武尊東征の際の古蹟として  
聞ゆ。

神野寺 は山頂にありて鹿野山琳聖院と號し眞言宗新義智山  
派、東國一の古刹聖德太子  
の草創と傳へられ宏壯なる  
伽藍人目を驚かすものなり  
本寺表門は特別保護建造物  
にして白蛇の彫刻はかの飛  
彈の甚五郎の作、登山者の  
必ず一見すべきもの、其他  
軍荼利の名彫刻、狩野探幽  
の天井畫、親鸞上人自刻の  
佛像等珍品多くを藏せり。



鹿野山神野寺

富津鼻 砂洲海中に突出  
する事三十町餘、東京灣の  
咽喉を扼し相模觀音崎と相  
對す、洲上平坦にして松樹發生し砲臺及燈臺の設けあり

### 安房郡

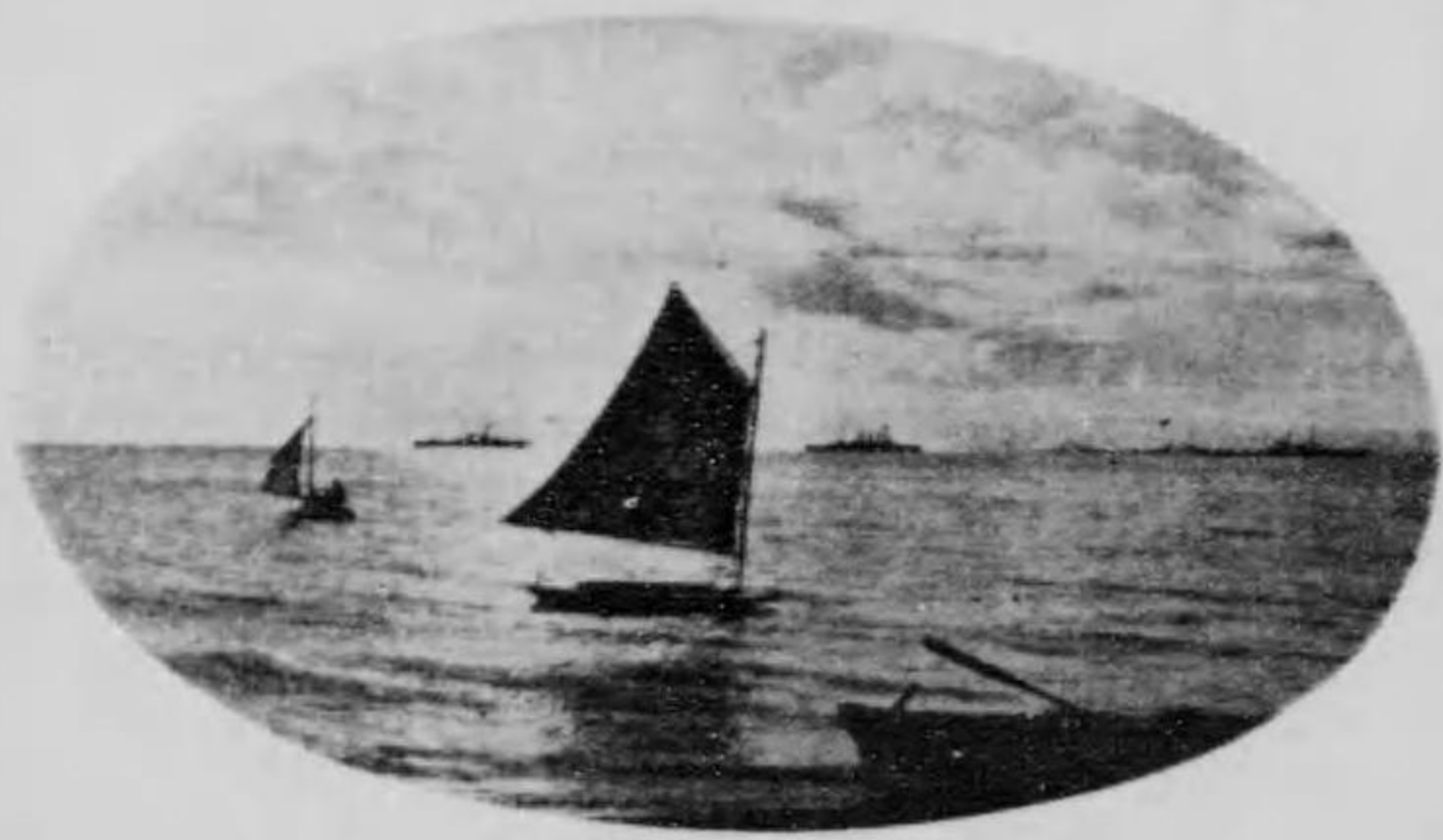
縣の最南端なる安房國全部を管轄し面積三十六方里八〇廣袤  
東西十里二十六町南北七里二十三町周圍四十三里十七町沿海線  
の長さ三十一里十町の長きに及べり。縣下最も形勝の地を占め  
自然美豊に恵まれたるのみならず歴史的由緒傳説深く仰いで究  
むべき者あり俯して傳ふべき者少からず加ふるに全部三十四ヶ  
所の觀音は善男善女の群に賑ひ此處房州の天地佛天被護の垂域  
として風物の勝と相俟つて毎年来遊者の多きを加ふる亦宜な  
りと云ふべし。不世出の豪僧日蓮を生める本郡房州の地は遠く  
沿革を神武天皇御即位の初年に發し天宮命、阿波國齋部の民を  
率ひて此地を拓けり。蓋し安房の國號此處に起原するや古書に  
徴して明なり。爾來幾多の星霜と諸種の事變とを経て治承四年  
源頼朝石橋山の戦に敗れ此地に亡命し再舉を圖らむとせり。  
當時房州に割據せる安西、神余、麻呂、東條等の諸豪族皆摩下  
に集りて彼を援け遂に天下は頼朝の掌握する所となり房州は此  
四家の分割領有に歸せり。後足利氏に至りて里見義實四家の内  
証に乗じて安房一國を平げ其子義成に至りて兩總を併吞したる  
も豊臣秀吉霸業成るや兩總は削られ徳川氏に及びて里見氏亡び  
安房は別に四藩を置かれたり。明治四年廢藩置縣の制定りて安  
房、平群、長狹、朝夷の四郡に分たれしも後併合して安房郡と  
なり郡制廢止の今日に及べり。現在戸數三萬一千七百七戸人口

十七萬千七百七十二人、十町三十三村あり。過ぐる大正十二年九月一日に起れる關東大激震に於ける本郡の災害は最も慘鼻を極め、當時の總戸數三萬一千五百〇五戸の中全潰一萬〇八百〇八戸、半潰二千四百二十三戸、焼失又は流失せしもの四百九十五戸死者一千二百六人、傷者二千九百五十四人を算せり最も激烈なりし地方は内房鏡ヶ浦沿岸附近にして倒潰家屋を標準にして其の百分の九〇以上の被害町村は館山町の九九、那古町の九八、北條町及館野村の各九六、健田村の九五、國府村の九四、九重村の九三船形町の九二とす倒潰家屋の皆無なりしは湊村、天津町、東條村、白濱村にして概して外房地方は輕微に止まれり。而して本郡の沿海一帯は此地震の爲めに土地の變動を來し、館山附近は六、七尺、富崎附近五、六尺、保田附近四、五尺千倉附近四、五尺鴨川附近二、三尺と云ふ順序にして何れも三尺乃至七尺海底の隆起を見たるも豪僧日蓮を生みたる小湊附近のみは全然震害の蹟を留めざりき。被害激烈なりし郡の首都北條始め館山、船形、那古健田九重等の諸町村も創痕未だ容易に癒へ難しと雖も郡民の不屈の奮闘努力に復興事業着々と進捗し略新房洲の建設を見るに至りしは慶賀に堪へざる所なり。主なる官公署所在左記の如し

北條町 舊郡役所、警察署、稅務署、中學校、高等女學校、郵便局、區裁判所  
館山町 郵便局、測候所出張所、水産學校、水産試験場  
鴨川町 中學校、警察分署、郵便局、區裁判所出張所

●**鋸山** 房總の國境に吃立し海拔一〇六九尺保田驛より山麓迄十七町山骨露出し腰部以上は群峯林立し恰も鋸齒を列ねたるが如し山中行基の開基に係る日本寺、公園、十八景と稱して黄金石、三峯門、於伽井、達摩山、吞海樓、護摩壇、心掌岩、薛羅洞、通天關、無漏窟、鷲翼山、石橋、白布泉、坐禪石、獅子岩、日輪山、瑠璃山等の絶景奇岩觀るべく、山の西端を明金岬と云ひ巖岩突元海中に斗出して眺望最も雄偉を極め十州一覽臺の名あり。房總の山野は勿論、遠く三浦の岬より函嶺、天城、淺間、日光、筑波の諸峯を眸中に收む。

●**鏡ヶ浦沿岸の勝** 館山灣は一名鏡ヶ浦として知られ東西約七里南北五里大武、洲の崎の兩岬に包まれ波靜かに水清く海面恰も鏡の如く沖、鷹の二島絲樹鬱蒼として其影を宿し紺碧の波上湘南の連峯を眺め玲瓏芙蓉の峯雲際遙かに聳ゆ、松林打續く所海水浴に適せざるなく釣魚に投網に興味津津々盡くるなく而も沿岸一帯史跡名勝に富み優雅佳麗なる風光と相俟つて都人士の憧憬おく能はざるの地なり。這般の大震災の爲め沿岸一帯海底隆起し鷹の島の如き干潮の際は徒歩渉するを得べく遠淺となりたる爲め幼兒の水浴にも絶體安全なるに至りしも震害の程度最も甚大なりしを以て附近に散在する



安房鏡ヶ浦ノ夕照

名勝舊跡、神社佛閣の幾分は一瞬の間に破壊され昔日の面影見るに由なく又再建爲し難きものあるは痛惜の極と云ふべし。

●**船形觀音** は鏡ヶ浦の北方、船形町堂山々腹に在り。甍の觀音と稱され懸崖に倚る建築奇巧を誇りしもの、全部倒潰の厄に遭ひたれども今日漸く復舊して一層の繁榮を致せり。那古觀音は千二百余年前行基菩薩の開創したるもの那古山の中腹を領し風光絶佳の地なり元祿十六年十一月二十二日に於ける關東大地震に堂塔全潰し海中に沈没したるを明和年間再建して現存の堂宇竣工を見たるものなり。後又久しく荒廢の慘況に陥りたるを町民之を憂慮し大修繕を企圖し大正十一年四月十七日を以て盛大なる落慶供養を營みたるに不幸再び大震災に襲はれ殆ど全潰に歸したり。災後區民復興して十三年七月十八日に落成を見るに至り今や賓客踏を接して香煙絶ゆる事なし。

●**小湊誕生寺** 湊村大字小湊にある日蓮宗一致派の本山たり。寺は小湊山麓、鬱蒼たる山林を繞らして境内幽邃、堂宇宏壯、信徒の來賽四時絶へざる靈地なり。

●**立正大師** (日蓮上人)の誕生せし地は現在の鯛の浦(妙の浦)にして往時此邊皆陸地にして誕生寺の舊跡なりしが明應七年と元祿十六年の海嘯の爲め海中に没せり日蓮此浦の鯛の漁獲を禁じてより鯛の群集夥しく奇觀云ふべからず。小湊より東北四里にして房總線勝浦に出づるを得べく途中おせんころがしの奇勝あり、斷崖直ちに海に迫り巨濤脚下に岸を嘯む、一步を過てば千仞の絶壁古來無雙の難所として知らる。尙湊村附近は日蓮の靈跡多く清澄寺は日蓮大悟得道の地と稱され東條村小松原にある鏡忍寺は日蓮四大法難靈場の一として參詣するもの多し



安房船形觀音

●**名勝舊蹟**

●**成田山新勝寺**

●**交通** 成田、東京間は汽車約二時間餘にして達す成田町への交通機關は東京兩國橋驛より千葉、佐倉を経るもの。東京上野驛より我孫子を経るもの佐原驛より來るもの三線あり尙目下改修工事中なる縣營鐵道、八日市場より三里塚を経て成田に達するもの。東京本所押上を起點とする「京成電車」は既に目前に進み來り、不日竣工せんとし、東京深川を起點として成田、芝山に至る「高速度電鐵」の計畫も具體化せんとする形勢にて東京と成田を中心とする交通上の設備は、遺憾なきに近し。

●**境内建物** 關東隨一の靈場として、數百萬の講中信徒を有し

行香の士女、絡驛織るが如く、護摩の煙、梵鐘の響、曉より夕に達し、儼として仰ぐ大聖不動明王鎮座の聖地たる成田山は、氣候溫和、兩總平野の一角を占めて、近く利根、印旛の二水を控へ、遠く太平洋を九十九里濱に臨み、遙かに富士、筑波の秀峯を西北に負ふ。眞に是れ明王相應の靈地なり。

●**現山主荒木照定僧正** 現山主荒木僧正は、先代石川僧正の遺

め沿岸一帯海底隆起し島の如き干潮の際は徒歩渉するを得べく遠淺となりたる爲め幼児の水浴にも絶體安全なるに至りしも震害の程度最も甚大なりしを以て附近に散在する

進み來り、不日竣功せんとし、東京深川を起點として成田、芝山に至る「高速度電鐵」の計畫も具體化せんとする形勢にて東京と成田を中心とする交通上の設備は、遺憾なきに近し。

行香の士女、絡繹するが如く、護摩の煙、梵鐘の響、曉より夕に達し、儼として仰ぐ大聖不動明王鎮座の聖地たる成田山は、氣候溫和、兩總平野の一角を占めて、近く利根、印旛の二水を控へ、遠く太平洋を九十九里濱に臨み、遙かに富士、筑波の秀峯を西北に負ふ。眞に是れ明王相應の靈地なり。

田山五大事業」として聞えたり。晩年在職二十五年の記念として、裏山の公園を企畫せるも、未だ落成を見ずして、大正十三年一月三十一日、五十六歳で遷化せられたるは痛惜の至りなり。

鬱然たる老松巨杉、輪奐たる堂塔伽藍、數十棟の建築物、燦然として日光に輝き、三萬餘坪の境内、淨掃一塵を留めず。莊嚴華麗一步境内に踏入れば倏ち天上界に遊ぶの感あるべし。

●縁喜靈驗 當山所傳の縁起に由れば、本尊不動明王は、弘仁元年藤原仲成の亂後、嵯峨天皇の勅願に依り、弘法大師一刀三禮の御作。洛西高雄山神護寺護摩堂に安置して、玉體擁護、國家安穩の護摩を修せられたる尊像なり。其後關東に於て將門の亂起るや、宇多天皇の御孫たる廣澤の寛朝僧正は、朱雀天皇の密勅を蒙り、天慶二年の冬、御賜の天國の寶劍と、本尊明王を奉じて、海路上總國尾垂の濱に上陸、進んで下總の公津ヶ原に至り、朝敵降伏の護摩を修せられしに、其滿願の日、即ち天慶三年二月十四日、將門誅に伏せり。

●現山主荒木照定僧正 現山主荒木僧正は、先代石川僧正の遺弟の一人にして先代生存中の命に依り、第十六世の法統を繼承せらる、昨十四年三月洋行の途に上り、現に英京倫敦に滞在、折角宗教、教育、社會事業等に就き研究中にして、今後の功業は未知數に屬すと雖も、さすがに明察なる先代の鑑識、五十餘名の法類中より選ばれたる人、人格高潔の英物なり。親しく歐米の新文明に接觸して、其長所、短所を研究し、玩索しつゝ、あれば、その歸朝後の施設、活動、大に觀るべきものあらん。而して新山主は未だ三十五歳の壯齡、成田山の前途や、亦甚だ祝福すべきなり。

寛朝は明王の靈告を受けて、尊像を二人の從僧に守護せしめて當地に留め、自ら上洛して本尊の靈驗を奏聞せしに、主上敬感ありて、寺號を神護新勝寺と賜ひ、國司に命じて堂宇供田を寄せられたりと云ふ。

●元錄中興 本尊の東國遷座以來、星霜茲に九百八十八年―大正十五年―。其當時より儼然たる靈刹として、其名遠近に聞えしも、夫が眞に關東隨一と稱せらるゝに至りしは、元祿中興以後とす。

中興第一世と尊崇せらるゝ、照範上人は水戸の人、元祿十三年九月晋山せらる。上人は當時稀に見るの英僧にして、而も學徳俱に備はり、現在觀る所の堂塔伽藍は、同上人及びそれ以後の建設なり。爾來面目一新、遂に今日の大隆昌を將來せり。依て上人を中興第一世と仰げり。

●維新後の隆盛 中興第十三世として、維新の際、當山の法脈を紹がれたる原口照輪大僧正は、持戒堅固の高僧にして、成田山の根幹は僧正に依りて培れたるものなり。

第十四世として、明治十五年先師照輪大僧正の後を承けたる三池照風大僧正は、才華英發の人にして、初めて成田へ鐵道を敷かれたるも、此人の努力に由るもの多かりしなり。

第十五世石川照勤大僧正は、多數法資中の寧ろ末弟なりしが、蚊龍終非池中物。三池師の拔擢に依りて、二十五歳の青年を以て、多數の法兄を超えて法燈を相續せられたり。而して一人の不同意を唱ふるものなく、皆奮つて之を輔佐せり此一事は以て石川大僧正の尋常の器にあらざるを察知するに足るべし。以上三代約六十年、相繼ぎて高僧を得たるは、本尊明王の攝理なりと雖も、成田山をして今日の大を成さしむる所以なりしなり。

●石川僧正と五事業 就中石川大僧正は在職滿三十年、教育事業、慈善事業、其他苟も社會國家公益の爲めに、克く盡力せられざるなく。爲めに投ぜられたる資財亦莫大の額に上れり。中學校、高等女學校、圖書館、幼稚園、感化院は、世に所謂「成

●新公園 新公園は先代遺業の一にして、成田山奥山四萬五千餘坪の地を拓きて、新たに經營せられたるもの。由來



成田山新公園

に。下總の國は山なく、隨て一滴の水も自然的便利を有せず。又下總國は豆大の小石も有せず。此不自然不自由の地に於て、大公園を造る、實に想像以上の困難と云ふべし、然も園中の歩道二里強二大瀑布あり、三大沼池あり、少くも關東にありては有數のものと言はざるべからず。

此公園築造は、本尊明王に參拜せる善男、善女の心目を幾分にも喜ばしめんと欲するの目的に外ならず。參詣の人々は時間の許す限り、此園に逍遙して、都會紅塵萬丈の人生の垢氣を洗淨せられんことを望む次第なり。

●官幣大社香取神宮 香取郡香取町香取にある官幣大社なり。成田線佐原驛より東三十二町、常磐線土浦より水路約五時間を要す。

祭神は經津主命にして鹿島神宮の祭神武甕槌命と共に我神代史上赫々たる偉勳を樹て建國の基礎を築きたる勇武の神なり神域は江渚を隔て、東北鹿島と相距る三里、千年の老杉鬱蒼たる香取山上にあり。

神殿廟廊相連る森嚴莊重の淨地にして參拜者をして肅然畏敬の念に打たしむ。社殿の創立は神武天皇時代の古きにあれども爾來幾十回の改營を經、現今のものは元祿十一年徳川綱吉の遺營に係り拜殿、中殿、本殿相連れる權現造なり、社背の神苑は櫻の馬場と稱され流鏑馬を行ふ苑地にして馬場内の香雲閣は樓上よりの眺望特に優れ北は香取浦より利根川一帯西は遙かに筑波の双峯を見る。

例祭は四月十四日にして午の歳の四月十五日には神幸軍神祭を

行ふ。祭神經津主命天祖の天命を蒙りて此國に降り、諸神を征討せる際の軍容に倣へるものなりと。尙五月五日は早乙女、樂人等行列を整へ齋田にて田を植ゆる御田植祭あり。

神代の昔天照皇大神、皇孫瓊々杵尊を豊葦原の中國に天降らせ給はんとするや先づ出雲と高天原の合同を圖り次いで邪神不逞の徒を誅伐して御光を六合に垂れ給はらんとして天穗日命を出雲に下し給ふ、命は大國主命(大己貴命)の威に怖れて三年を経るも復命されざるを以て大神諸神に圖りて天稚彥命を遣はさる命は大國主命の女下照姫と戀に落ち又復命するところなし。此に於て皇太神三度安河原に八百萬神と慎重審議の上高天原隨一の名將經津主命に武甕槌命を副へ出雲に下し給へり。二神出雲に來り赤心を被歴して大國主命に折衝訴ふるところあり。かくて協力一致、荒振神を打拂ひ中國に復命し次いで天孫の御降臨となり大和民族建國の基礎確立せりと云ふ。

官幣大社安房神社 北條線安房北條驛より南二里、安房郡神戶村太神宮にあり、天太玉命を祀り、攝社下宮に天富命及び太玉命の弟天忍日命を合祀せり。天太玉命は天照大神に仕へ奉り大神、素盞鳴尊の神荒びを怒らせ給ひ、天の岩戸に御隠されたる時和幣を作りて獻上せし命なり、後齋庭に仕へて遂に齋部氏の祖となる。神武天皇都を畝傍の橿原に奠め給ひ、天業を恢復し給ふや天太玉命の孫天富命に命じて、東國開拓の任を授け給ふ、命勅を奉じて種々の神寶木綿麻を作り、阿波國より一族を率ひ肥饒の地を求めんとし此地に來りて草莽を拓き麻穀を播種し農業の道を講じ、續いて又紀の忌部を招き漁業の道を開く等拮据國土經營に努力せり。かくて此地に其祖天太玉命を祀れるが本神社の起原なり。社域は三面山を負ひ西方は豪壯なる平沙濱に向ひ、長汀曲浦數里に及び洲の崎、布良崎左右に斗出して灣形を作り天然の良港を爲せりと雖も風烈しきの日、怒濤澎湃飛沙面を打ちて凄絶を極む。例祭は八月十日にして別に十一月廿六日より十日間は神狩祭と稱し天富命の當國開拓の際に於ける猪、鹿等を退治されたる神徳を記念するの祭事あり。

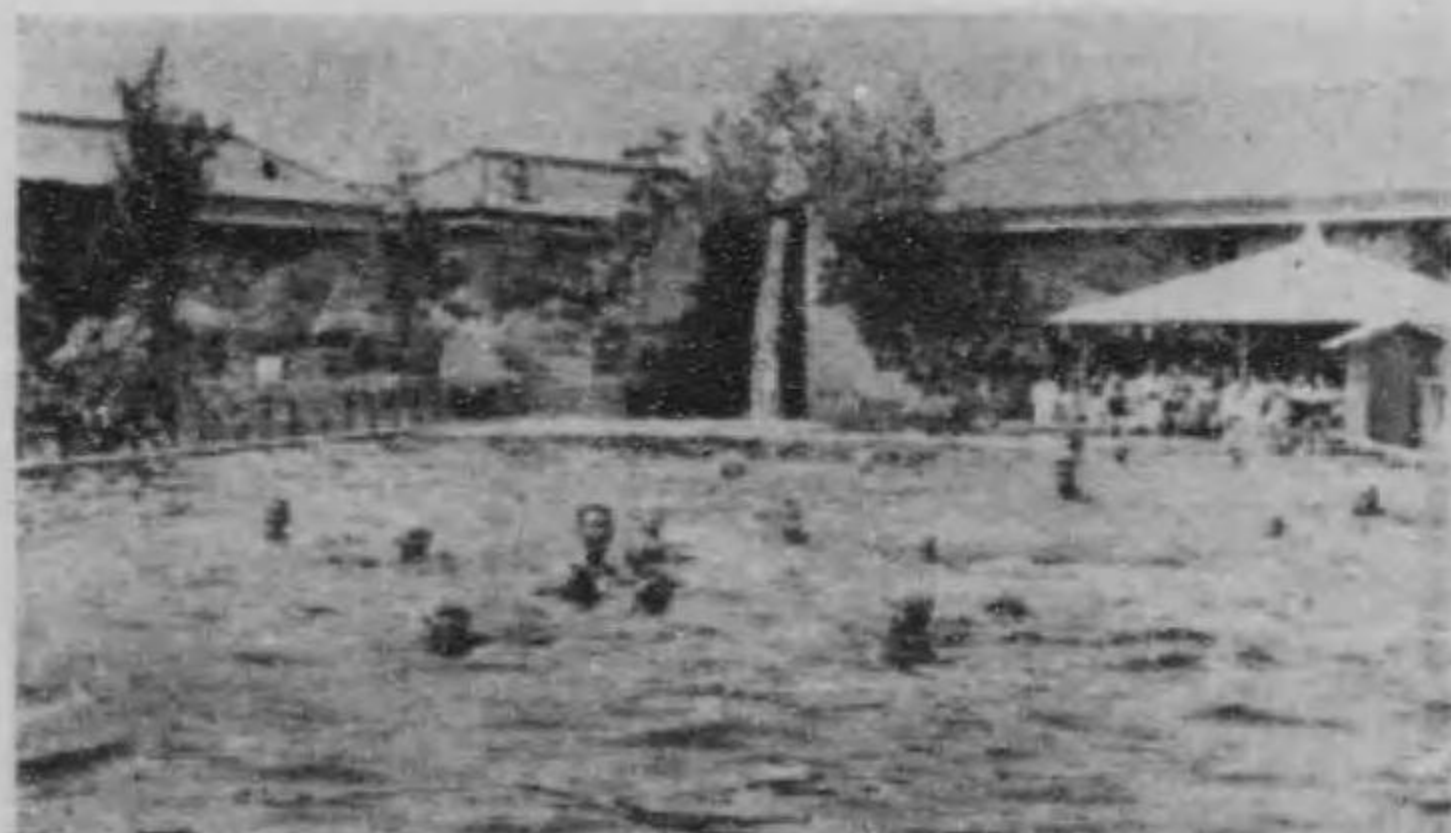
あしか島保健別荘地 は海上郡本銚子町地域にして伊勢路濱の後方一帯を別荘地となす。あしか島を前面に控へ、犬吠岬及び君ヶ濱の汀線を右に看たる景勝地にして土地高燥、避暑避寒に適する保健地なり。加ふるに一帶の堅岩は地震に對して絶體安全を保障され這般の大震災にも些の被害を認めず住宅別荘地としての價値は關東第一との稱あり。本別荘地域は銚子あしか島「保健住宅別荘地事務所」に於て月賦、年賦、一時拂等に依りて分譲を取扱ひ外に賣別荘、貸別荘、貸間等の制あり。總武本線兩國橋驛より三時間にして銚子



あしか島海水浴場

驛に達しそれより銚子鐵道に乗換へ十分間にて「あしか島驛」に着す。別荘地は驛の前一帯の海濱松林中の高臺にして海氣清澄、囁目閑謔、氣候亦中和を保ち夏は東京より六七度の低下を示し涼味津々、海水浴場として最も好適たり。冬は暖流の影響を受け五六度以上の暖氣を覺え避寒地としても絶好の地なり。而も文化施設は至らざるなく子女の爲には幾多の娛樂機關を設け連日の滞留も寂愁を知らず附近眺望至る所絶佳にして清遊飽く事なし。

青堀温泉 は君津郡青堀村にあり、北條線青堀驛より温泉場靜養園迄六町餘本邦唯一の沃度ブROOM温泉にして天然瓦斯を噴出すること一晝夜に四千石の多きに達し之れを凡ての煮炊用に供せり。温泉の湧出量一千七百二十八石に及び之れを幅八間長さ二十間深さ四尺乃至六尺のプールに引き、以つて水浴に便せり。温泉は近時の發見に係るを以て未だ普く人口に膾炙せざる憾みありと雖も温泉の效果偉大にして山海の勝を併せ有し且交通至便なるとに因り都人士の來往漸く繁く特に京濱方面より浴客愈々多きを加ふるに至れり。靜養園は温泉旅館として設備整頓客室瀟洒にして通風佳良、眺望甚だ佳絶なり。三十三室ありて二百名の収容力を有し浴客の待遇懇切にして列車發着毎に自動車を以て送迎せり。温泉は特に沃度獨得の作用顯著にして皮膚より能く吸収せられ新陳代謝機能を旺盛にし且殺菌力を有す。浴湯用として主要効能を擧ぐれば皮膚病リヨーマチス、神經病、婦人病、腎臟病、腰痛、老衰、病後の衰弱、其他諸種の慢性病に有效なり。飲料用として血脈充進症、中風、心臟肥大症、萎縮腎、血管硬化症、便秘、貧血症、糖尿病、心臟病、腎臟病、臍病、肥胖症、慢性胃腸病等に有效なり。温泉の分析表左の如し。



青堀温泉静養園

總 固 形 分 一三、三七四五 炭酸ナトリウム 少 量  
熱 灼 減 出 量 一、三一六五 フロロウム鹽 微 量  
ク ロ ー ル ト メ 六、二〇三五 カリウム鹽 微 量  
沃 度 ト メ 鹽 含 有 〇、〇一八五 珪 酸 鹽 微 量  
硫 酸 鹽 微 量 苦 土 鹽 微 量  
ア ム モ ニ ャ 鹽 微 量 カ リ ウ ム 鹽 微 量

主要銀行會社

株式會社千葉縣農工銀行 は千葉市寒川一〇五六番地にあり資本金貳百萬圓、全額拂込済とす、明治三十年五月の創立にして特種銀行として縣内に重きを爲し、地方農工商業者の救済金融機關として産業の振興に盡すところ甚だ大なり。行運隆々とて現下經濟界の不況に直面すると雖も、毫も打撃を被る事なく愈々堅實なる發達を遂げつゝあり。現任取締役頭取に宇佐美敬三郎氏、監査役に服部於兔三郎氏就任せり。  
株式會社總武銀行 千葉市千葉に在り、明治二十八年五月の創

立にして資本金百貳拾萬圓(全額拂込済)とす、營業方針堅實第一を旨とし縣下金融界一方の覇者たり。川崎系統にして取締役會長に萩原鉄三氏、専務取締役藤井精氏、監査役に長谷川松兵衛氏等あり。  
株式會社第九十八銀行 縣下銀行界の重鎮にして創立明治十一年六月の古きにあり資本金百參拾萬圓拂込五拾萬八千圓、本

萬圓、専務取締役に座間大五郎氏就任せり。  
株式會社佐原興業銀行 香取郡佐原に在り。明治卅參年十一月の創立にして資本金額五十萬圓、拂込金額二十萬圓、同地方金融界に雄飛せり、支店を同郡滑河町、小見川町、印旛郡安食町及び茨城縣行方郡潮來町に置けり。頭取に菅澤重雄氏、監査役に神崎清吉等あり。

の被害を認めず住宅別荘地としての價値は關東第一との稱あり。本別荘地域は銚子あしか島「保健住宅別荘地事務所」に於て月賦、年賦、一時拂等に依りて分譲を取扱ひ外に賣別荘、貸別荘、貸間等の制あり。總武本線兩國橋驛より三時間にして銚子



海濱水場

立にして資本金百貳拾萬圓(全額拂込済)とす、營業方針堅實第一を旨とし縣下金融界一方の覇者たり。川崎系統にして取締役會長に萩原鉄三氏、専務取締役に藤井精氏、監査役に長谷川松兵衛氏等あり。

●株式會社第九十八銀行 縣下銀行界の重鎮にして創立明治十一年六月の古きにあり資本金百拾萬圓拂込五拾萬八千圓、本店を千葉市千葉一八五番地に置き支店を津田沼、船橋、八幡木更津、北條、鴨川、勝浦、大原、一宮、茂原、應南、東金横芝、八日市場、成田、大森の各樞要地に設けて益々業務發展を圖りつゝあり。安田系統にして顧問に安田善次郎氏あり、頭取に安田善兵衛氏、監査役に奥山良吉氏等就任せり。

●株式會社野田商誘銀行 是明治三十三年七月の創立にして本縣財界の雄茂木七郎右衛門氏を社長に以下茂木一家並に高梨、河合、杉浦等の諸實業家發起の下に營業を開始せり。醤油王国野田町に於ける隨一の金融機關のみならず縣下第一流の大銀行たり。現下經濟界の前途尙容易に逆睹すべからざる時に當り當行は良く堅實主義を持し斯業の前途に備ふるところあり。現在資本金參百萬圓、拂込金百五十萬圓にして第二次増資計畫を有し漸々地方金融界に貢獻せん事を期せり。

●株式會社上總銀行 君津郡木更津町木更津一五二一番地に在り、明治卅三年八月の創立に係り資本金百拾萬圓にして縣下金融界の權威として其地方本位の營業振りと内容の堅實なるは自他共に容る、所現に日本銀行木更津代理店を爲し縣下及び横須賀市に支店十四ヶ所、派出所十二ヶ所を有し、總預金五百萬圓を擁して地方金融界に牛耳を執り堂々として新進潑刺たる發展を爲しつゝあり。頭取に島海才平氏、常務取締役に平野清、監査役に原四郎治の諸氏等就任せり。

●株式會社東金銀行 是明治二十五年六月の創立に係り資本金五十萬圓、拂込金二十七萬五千圓にして本店を山武郡東金町東金千五十九番地に置き同町に派出所を設け大網、成東の二町に支店を有せり、郡内産業資金に相當放資を爲し産業の進展に盡すところ尠からず同地方の金融機關として専ら好評あり、取締役に頭取に小澁大吉氏、監査役に大野傳榮氏就任せり。

●株式會社安房合同銀行 安房郡北條町にあり、大正十四年安房、房州兩銀行合同し資本金參百萬圓拂込金七拾五萬圓、諸預金壹千壹百萬圓にして同地方に於ける金融界の覇者たり支店を縣内三十三ヶ所に設置し同地方は震災の創痍を受け金融界は極度の緊縮せる状態なりしにもか、わらず、營業堅實にして地方復興事業に貢獻せし處至大なりき將來信用の如何は推察するに難からず頭取に吉田敬三氏、副頭取萩原鉄三氏及常務取締役に伊東松之助氏等ありて敏腕を奮ひつゝあり。

●株式會社古川銀行 是安房郡北條に本店を置き支店を朝夷、古川、館山、那古、鴨川に設く。當地方は震災の創痍未だ癒へ難く復興至難にして購買力減退し商業不振、金融は極度の緊縮せる状態にもか、わらず、大正十四年度上半期の成績は年八分の配當を克ち得たり。以て本行の營業狀態信用の如何を推察するに難からざるべし。

●株式會社千葉縣農工銀行 是千葉市寒川一〇五六番地にあり資本金貳百萬圓、全額拂込済とす、明治三十年五月の創立にして特種銀行として縣内に重きを爲し、地方農工商業者の救済金融機關として産業の振興に盡すところ甚だ大なり。行運隆々として現下經濟界の不況に直面すると雖も、毫も打撃を被る事なく愈々實質なる發達を遂げつゝあり。現任取締役に宇佐美敬三郎氏、監査役に服部於三郎氏就任せり。

●株式會社總武銀行 千葉市千葉に在り、明治三十八年五月の創立にして資本金百貳拾萬圓(全額拂込済)とす、營業方針堅實第一を旨とし縣下金融界一方の覇者たり。川崎系統にして取締役會長に萩原鉄三氏、専務取締役に藤井精氏、監査役に長谷川松兵衛氏等あり。

●株式會社第九十八銀行 縣下銀行界の重鎮にして創立明治十一年六月の古きにあり資本金百拾萬圓拂込五拾萬八千圓、本店を千葉市千葉一八五番地に置き支店を津田沼、船橋、八幡木更津、北條、鴨川、勝浦、大原、一宮、茂原、應南、東金横芝、八日市場、成田、大森の各樞要地に設けて益々業務發展を圖りつゝあり。安田系統にして顧問に安田善次郎氏あり、頭取に安田善兵衛氏、監査役に奥山良吉氏等就任せり。

●株式會社野田商誘銀行 是明治三十三年七月の創立にして本縣財界の雄茂木七郎右衛門氏を社長に以下茂木一家並に高梨、河合、杉浦等の諸實業家發起の下に營業を開始せり。醤油王国野田町に於ける隨一の金融機關のみならず縣下第一流の大銀行たり。現下經濟界の前途尙容易に逆睹すべからざる時に當り當行は良く堅實主義を持し斯業の前途に備ふるところあり。現在資本金參百萬圓、拂込金百五十萬圓にして第二次増資計畫を有し漸々地方金融界に貢獻せん事を期せり。

●株式會社上總銀行 君津郡木更津町木更津一五二一番地に在り、明治卅三年八月の創立に係り資本金百拾萬圓にして縣下金融界の權威として其地方本位の營業振りと内容の堅實なるは自他共に容る、所現に日本銀行木更津代理店を爲し縣下及び横須賀市に支店十四ヶ所、派出所十二ヶ所を有し、總預金五百萬圓を擁して地方金融界に牛耳を執り堂々として新進潑刺たる發展を爲しつゝあり。頭取に島海才平氏、常務取締役に平野清、監査役に原四郎治の諸氏等就任せり。

●株式會社東金銀行 是明治二十五年六月の創立に係り資本金五十萬圓、拂込金二十七萬五千圓にして本店を山武郡東金町東金千五十九番地に置き同町に派出所を設け大網、成東の二町に支店を有せり、郡内産業資金に相當放資を爲し産業の進展に盡すところ尠からず同地方の金融機關として専ら好評あり、取締役に頭取に小澁大吉氏、監査役に大野傳榮氏就任せり。

●株式會社安房合同銀行 安房郡北條町にあり、大正十四年安房、房州兩銀行合同し資本金參百萬圓拂込金七拾五萬圓、諸預金壹千壹百萬圓にして同地方に於ける金融界の覇者たり支店を縣内三十三ヶ所に設置し同地方は震災の創痍を受け金融界は極度の緊縮せる状態なりしにもか、わらず、營業堅實にして地方復興事業に貢獻せし處至大なりき將來信用の如何は推察するに難からず頭取に吉田敬三氏、副頭取萩原鉄三氏及常務取締役に伊東松之助氏等ありて敏腕を奮ひつゝあり。

●株式會社古川銀行 是安房郡北條に本店を置き支店を朝夷、古川、館山、那古、鴨川に設く。當地方は震災の創痍未だ癒へ難く復興至難にして購買力減退し商業不振、金融は極度の緊縮せる状態にもか、わらず、大正十四年度上半期の成績は年八分の配當を克ち得たり。以て本行の營業狀態信用の如何を推察するに難からざるべし。

●株式會社三協銀行 香取郡佐原町佐原にあり明治三十一年五月の創立にして資本金額五十萬圓、拂込金額二十萬圓、同地方金融界に雌飛せり、支店を同郡滑河町、小見川町、印旛郡安食町及び茨城縣行方郡潮來町に置けり。頭取に菅澤重雄氏、監査役に神崎清吉等あり。

●株式會社三協銀行 香取郡佐原町佐原にあり明治三十一年五月の創立にして資本金額五十萬圓、拂込金額二十萬圓、同地方金融界の覇者たり支店を江戸崎に設け頗る發展しつゝあり頭取に川崎甲子男氏専務取締役に萩原甲太郎氏ありて同地方に於ける金融界に雄飛せり。

●野田醤油株式會社 本社を東葛飾郡野田町野田三三九に置き支店を朝鮮仁川に、出張所を横濱、大阪に設け醤油並に味淋を醸造し兼ねて之が販賣を營業となす。大正十三年十二月の創立に係り資本金參千萬圓、拂込金二千六百貳拾五萬圓、使用職員數參百名、職工數參千人、拾九ヶ所に工場を有する縣下隨一の大會社たり。由來野田町は醤油醸造を以て天下に鳴り既に三百有餘年の昔醸醬の業を試みたる者あり。爾來幾多の醸造家を生み徳川幕府より最上醬油の記號を冠するを許さる、本社の淵源も亦實に此に胚胎せり。維新後野田町の當業者は時世に見る所あり早くも醸造法を改良し、電動機を使用し壓搾空氣を以て醗の攪拌を行ひ、水壓を以て醗の壓搾を行ふ等新進の學理を應用して江湖の絶大なる賞讃を博し、又組合を組織して斯業の進歩發展を期し品質の精選、販路の擴張に努むるところありしも大正十三年に至りて遂に當業者相計り、前述の大資本を以て一大會社を設立せり。所屬の十九工場は何れも設備完全、數千の職工孜孜として之に従事し、附屬醬油試驗所に於いては多年の經驗と深遠なる學理に依り周密なる試験を施行し風味の佳と品質の醇良を期しつゝあり。而して醸造高四十餘萬石にして今やその販路は本邦津々浦々は勿論滿洲支那、南洋方面より遠く歐米各國に及び至る所異常の好評と歡迎を受け地球上殆ど本社製品龜甲萬の足蹟を印せざるの地無きに至れり。尙本公司は餘力を以て野田病院を經營し社會的公共施設に任せり。(社會事業の部參照) 現社長は茂木七郎右衛門氏にして取締役に兼ね、常務取締役に茂木七左衛門、監査役に中野長兵衛氏任せり。

●銚子醤油株式會社 是大正七年九月の創立にして資本金貳百萬圓、本社を海上郡銚子港に、出張所を東京及大阪に置き、千葉、茨城の兩縣に亘り五ヶ所に、工場を有せり。本社は元銚子に於ける素封家田中、濱口、深井三家の各自の個人經營なりしものを大正三年九月合併して合資組織となし更に大正七年に至りて濱口吉兵衛氏を社長に推し株式會社となせるものなり。會社製品のヒゲタ印醬油は元和二年(三百餘年前)に田中氏の中祖攝洲西の宮眞宜氏に醸醬の術を傳授されたるに始まる。之關東醬油の起源にして其後屢々改良を加へ徳川幕府より最上の名稱を付され今日に至る。ヒゲタ印醬油の醸造に付きは嶄新の學理と機械を應用し、不斷の研究を怠らず、數名の技師は只管優良の商品を造り出すべく専心努力を致せり。而して醸造石高十萬石を突破し販路は逐年擴大され東京を首位として内地より諸外



國に及び名聲噴々たり。現社長は濱口吉兵衛氏にして専務取締役役に濱口麟藏、深井吉兵衛の二氏並に相談役に田中正衛氏就任せり。

●濱口儀兵衛商店 海上郡銚子町にある老舗にしてヤマサ醤油の醸造元たり。遠く起源を正保二年に發し爾來品質の改善向上を計り醸造法に付きても細心の注意を拂ひ工場設備の整頓せると銚子地方風土の醸造に適せると相俟つて道年發展振りを示し聲價愈々高く其産額今や十五萬石の多きに達し販路亦世界的たり。

●千葉縣水産株式會社 海上郡本銚子町飯沼にあり、大正十二年十一月の創立にして資本金百五十萬圓、拂込金卅七萬五千圓創立日尙淺しと雖も縣水産業に貢獻するところ甚大なるものあり。新生、飯沼、内濱、東濱に魚市場を經營し現在取締役に濱口吉兵衛氏、監査役に辰野安五郎、宇佐美敬三郎氏等ありて經營に努力せり。

●成田電氣軌道株式會社 は明治四十年十月の創立にして資本金三十六萬五千圓、本社を印幡郡成田町に置き成田驛前より成田不動尊山門前に至る線及び之より宗吾靈堂に達する全線三哩二分の電氣軌道にして乗客の多き關東屈指の地なるが故に營業成績常に好況を呈せり。取締役永橋至剛、西尾光一氏等社務を執掌せり。

●流山鐵道株式會社 は大正二年の創立に係り資本金を二十萬圓とし、本社を東葛飾郡流山町流山貳百七十七番地の貳に置く現在流山町より野田町に至る約四哩の軌道なれども近く十五哩餘を延長して關宿町に達せしむる計畫を有せり。本線の沿線は味淋に名高き流山町及正油王國の稱ある野田町を始め商業地として知られたる關宿、境の諸郡邑を有し土地肥沃にして物質豊富之れが集散は常に利根、江戸の舟楫に依りしを以て本線の開道は人文、産業の進歩發達に一新紀元を劃すものあるべく會社將來の發展や想ふべし。

### 茨城縣

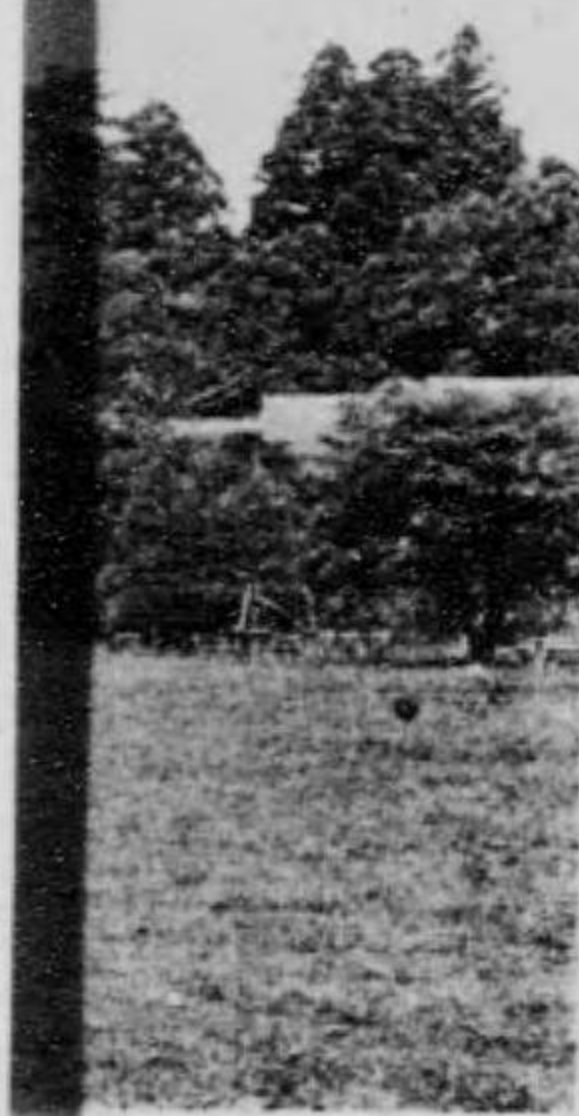
#### 沿革

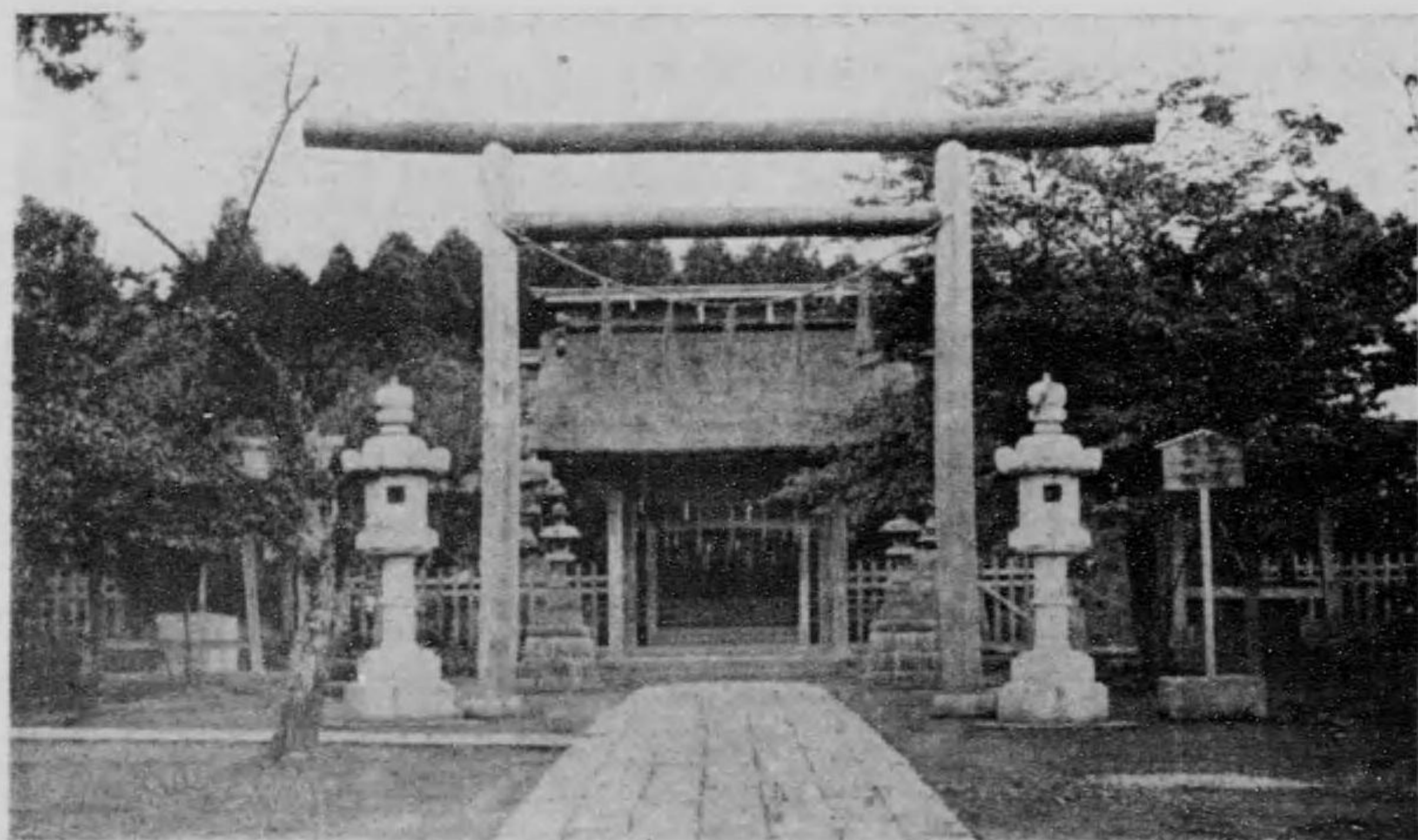
關東八州の中、特に一異彩を放てるは茨城縣にして、即ち常陸の國一圓なり。東方に偏して、古くは蝦夷の蟠居したる地にして、天孫降臨の初め、武甕槌命之を平定し給ひ、天孫より、三代を経て、神武帝、都を大相に奠め給ふや、遙かに命の功業を想はせられ、其の祠を造り給ふ、是豊香島の宮とぞ宣し給ふ。斯くて、近畿は次第に王化に服したれども、此地方のみは、尙蝦夷の跳梁を免かれず、常陸風土記に曰く「本國の地たる尤も東極の邊陲なり、是を以て蝦夷群居殊に甚し其の俗多くは穴居す、依つて之を都知久母と云ふ。形狀長大にして常人に異なり、又の名を夜都賀波と云ふ、皆禮節を知らず、狼性梟情にして、掠盜を以て常の産と爲し、風化に染る事なし」とあり國中常に混亂して、しばしば將を派して之を鎮火しめ給ひしが崇神天皇の朝、鹿嶋の大神、大阪山の頂に現し給ひ、宣して、「

若し我を祭祀せば、天下平定すべし」と仰せられたりとなん。鹿嶋神宮は、本縣の東方に位置し歴代崇敬を斷たず。景行帝の時、武内宿禰は、此地を視察して、蝦夷の跋扈と稱し、日本武尊は軍を此地に進めて平定の功を樹て、次で天皇も此地に巡狩し給ひし故、「蝦夷國栖八東脛佐伯」等の傳説は多く此の地に存す。而して、此地先住民を考査するに、常陸風土記に曰く、「平津の驛家の西一二里にして岡あり、名つけて大櫛と云ふ上古人あり、體極めて長大なり、身岳巖の上に居り巖を採りて喰ふ、その食ふ所の貝積聚して岡を爲す、時人大朽の義取りて今大櫛の岡と云ふ、其巨人の踐跡三十餘歩、尿穴の跡二十餘歩はかり云々」、現今にても大串(大櫛)の貝塚を尋ねれば、依然として此書の如き貝塚を發見す、併して村人の説に依れば、此巨人は大多房と稱し、大串の丘陵に尻をかけ、足を東海の水にて洗ひたりと、此れ果して眞偽分明せざれども、兎に角國內に異民族の群居しばしば我天孫人種と争ひたるは事實なり。

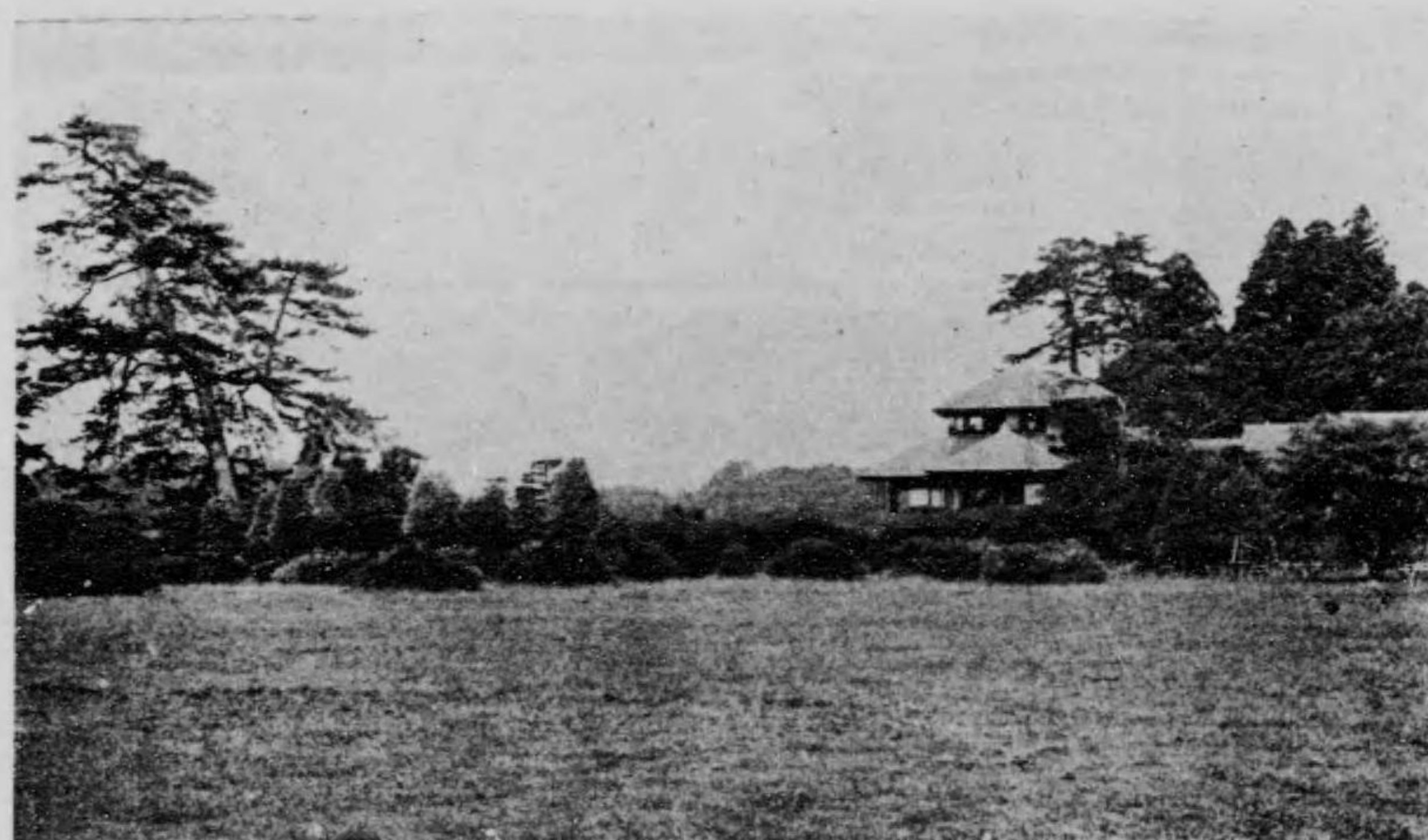
常陸なる國名に關しても、風土記に、日本武尊、駕を新治の縣に駐め、泉に臨んで盥瀨す、御袖水に垂れて沿ふ因つて衣袖濱の國と號す、衣袖濱は、古呂母天比多知と訓す、とあり。地は遠く中央と隔たり、蝦夷と接す、國人武を練り力を鍛へしは自然の狀勢なるに、中古以後、甲斐源氏の嫡流佐竹氏此地を攻略し、後小田原北條氏關東八州に威を振ひし時も、佐竹のみは屈服能し得ざりしと、戰亂相繼ぎて天正十八年豊臣秀吉の小田原を攻むるに及び、佐竹義重其陣門に伺候して、常陸一國を得たりしが、尙國內向背を爲す者尠からず、其子義宜、國內三十三領の主を、響應と偽はりて城中に招き、悉く之を殺して一國を自己の掌中に收めたり。其後徳川頼房の二男光圀此地を領承するに到りて、大いに文教を隆興し、大義名文を明にして、常陸の國隅より天下に氣を吐く水戸學なるもの鼓吹せらるるに至れり。光圀の功績に對しては、吾人が暇々を要せず、明治三十三年、大帝は特に正一位を贈らせ給ふ。斯くの如き常陸の國は光圀以後に於て文教隆興著しく、學問文章の國として大義業然と行はるるに到りしも、何が故か茨城縣人に、下剋上の犯罪多く、是統計の上より甚だ不可思議なる現象とす。其主要なる因を考査するに。

一、常陸は農民の生活程度低くして随つて教化均霑せず。二、教學は士族に集注し、一般人民に對する社會教育の發達せざりし事。三、水戸公が宗教を壓迫したる事等に依るものと思考す併して、常陸の國たるや往古は、單に國內を分割して新治、筑波、那珂、久慈、多賀國と稱したるも人皇三十七代孝徳天皇の御宇、之等地方を總括して常陸の國と命名せられしなり、大化の新政に及び、國司を茨城郡に置く、即ち現在の石岡町なり。王政維新となりて、宍戸、笠間、下館、下妻、松岡の五郡を置き、之を水戸縣に屬せしめ、更に土浦、石岡、志筑、牛久、龍ヶ崎に郡を置き、麻生、松岡を所管の廳を定め新治縣に屬せしむ。結城、古河の兩郡は合して印幡縣に屬せしめ、而して新治に縣知事を派して之等諸縣を統轄せしめたるも、明治五年十一月に到り、水戸縣外三縣を廢して、茨城縣と總稱し、明治八年五月、更に新治縣所轄の五郡を廢し下總六郡の地を割きて茨城





水戸常磐神社



水戸常磐公園



水戸公園八幡堂



大洗

は、尙蝦夷の跳梁を免かれず、常陸風土記に曰く「本國の地たる尤も東極の邊陲なり、是を以て蝦夷群居殊に甚し其の俗多くは穴居す、依つて之を都知久母と云ふ。形狀長大にして常人に異なり、又の名を夜都賀波と云ふ、皆禮節を知らず、狼性梟情にして、掠盜を以て常の産と爲し、風化に染る事なし」とあり國中常に混亂して、しばし將を派して之を鎮火しめ給ひしが崇神天皇の朝、鹿島の大神、大阪山の頂に現し給ひ、宣して「

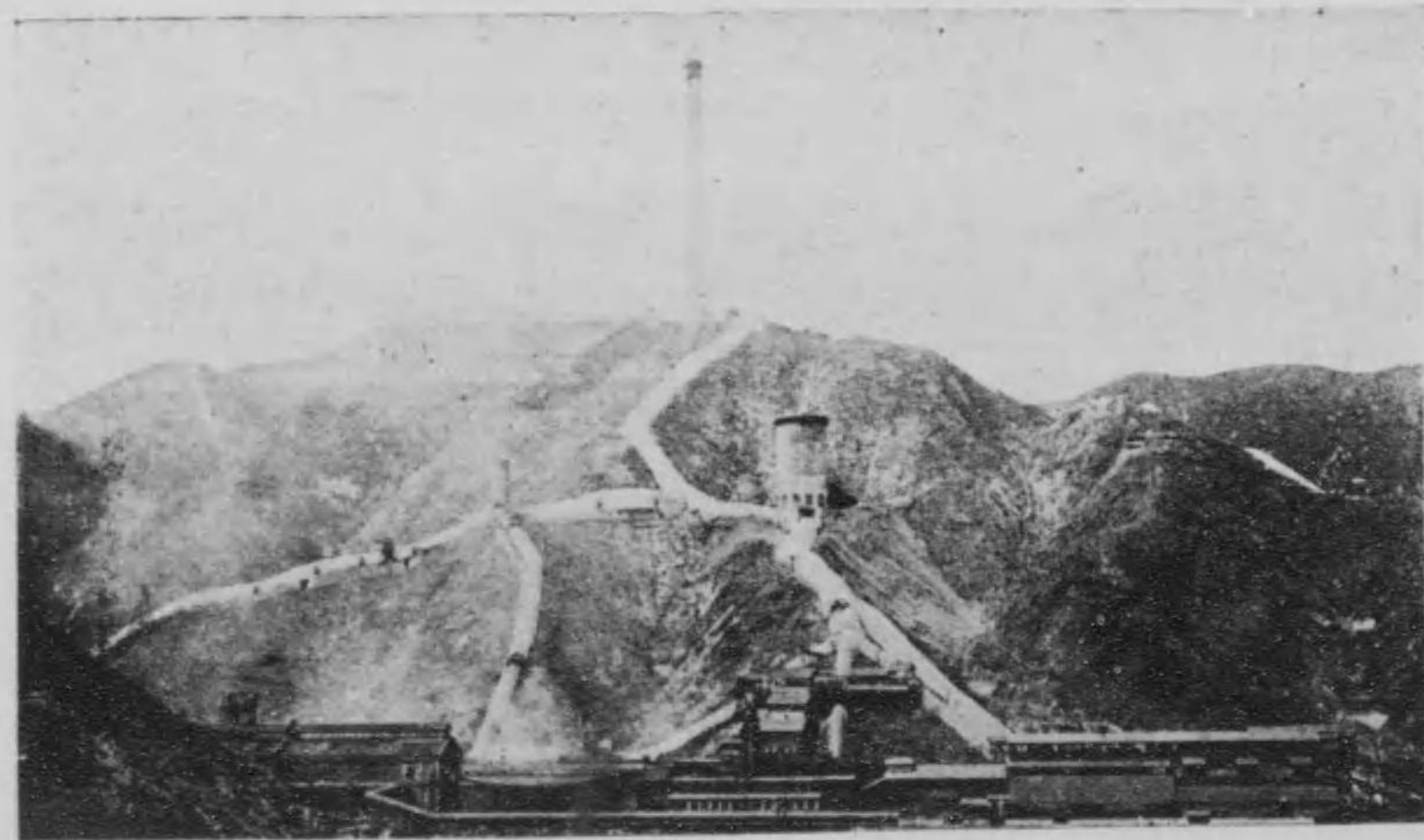
王政維新となりて、宍戸、笠間、下館、下妻、松岡の五郡を置き、之を水戸縣に屬せしめ、更に土浦、石岡、志筑、牛久、龍ヶ崎に郡を置き、麻生、松岡を所管の廳を定め新治縣に屬せしむ。結城、古河の兩郡は合して印旛縣に屬せしめ、而して新治に縣知事を派して之等諸縣を統轄せしめたるも、明治五年十一月に到り、水戸縣外三縣を廢して、茨城縣と總稱し、明治八年五月、更に新治縣所轄の五郡を廢し下總六郡の地を割きて茨城



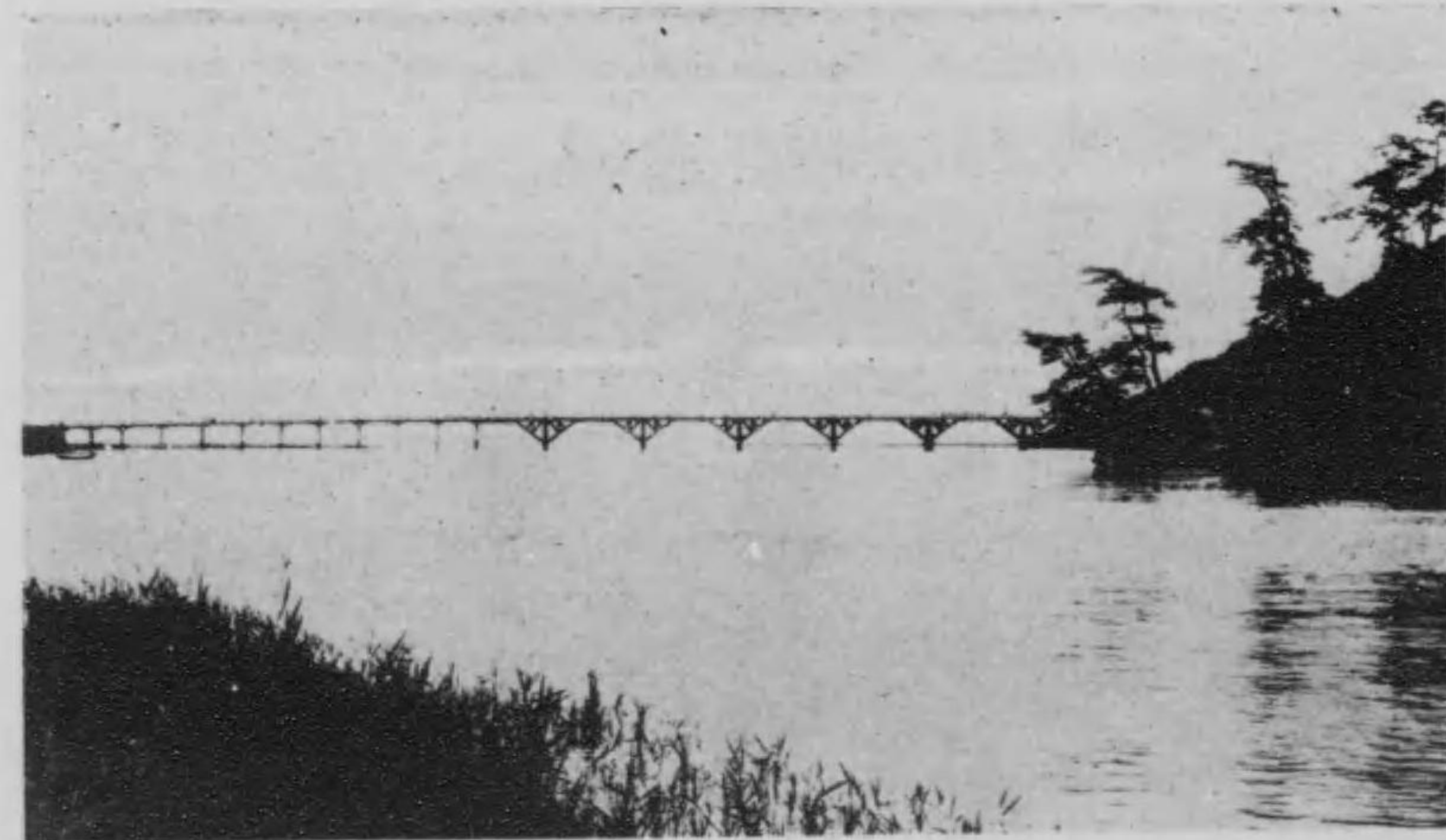
大洗磯前神社



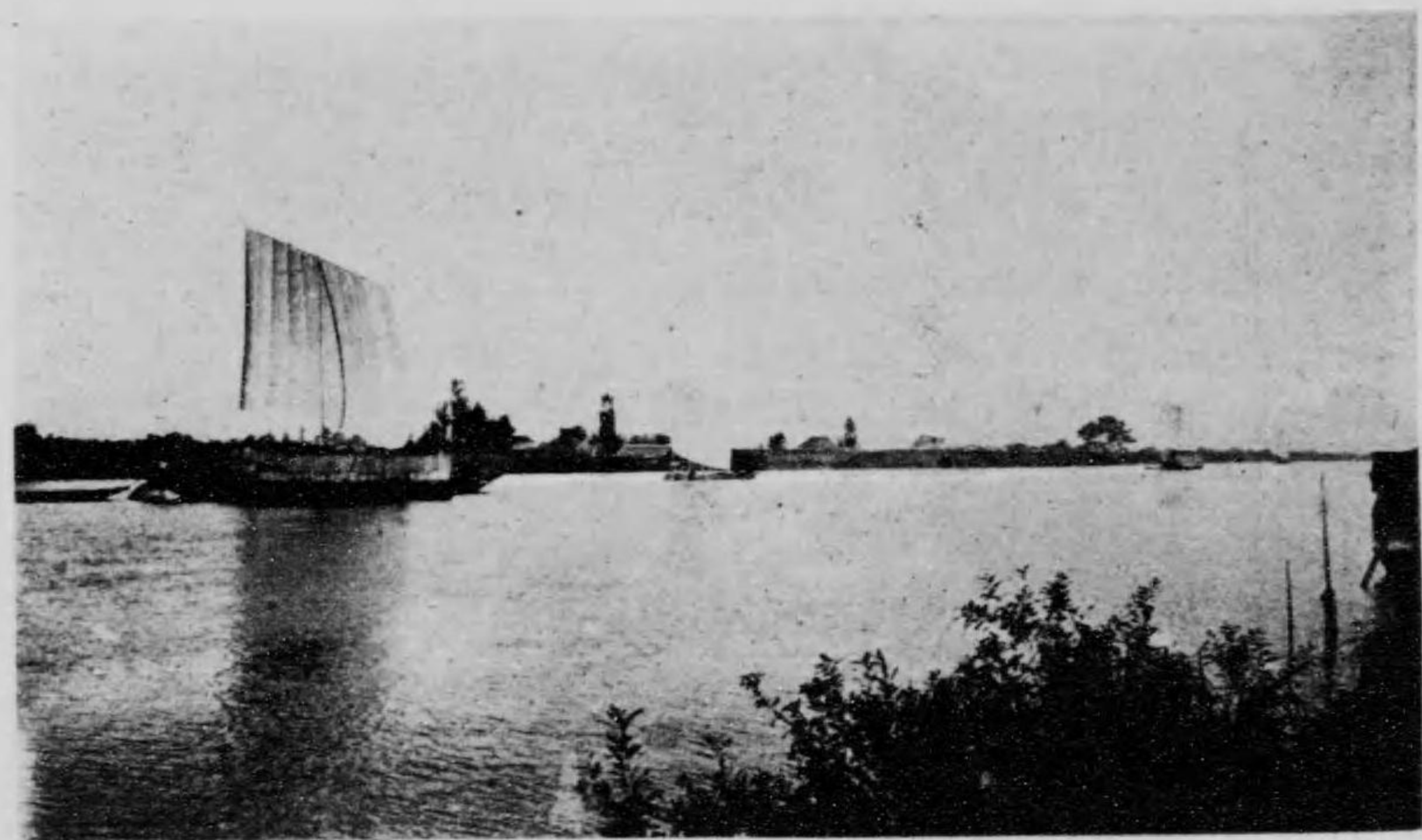
官幣大社鹿島神社



日立鎮山ノ景



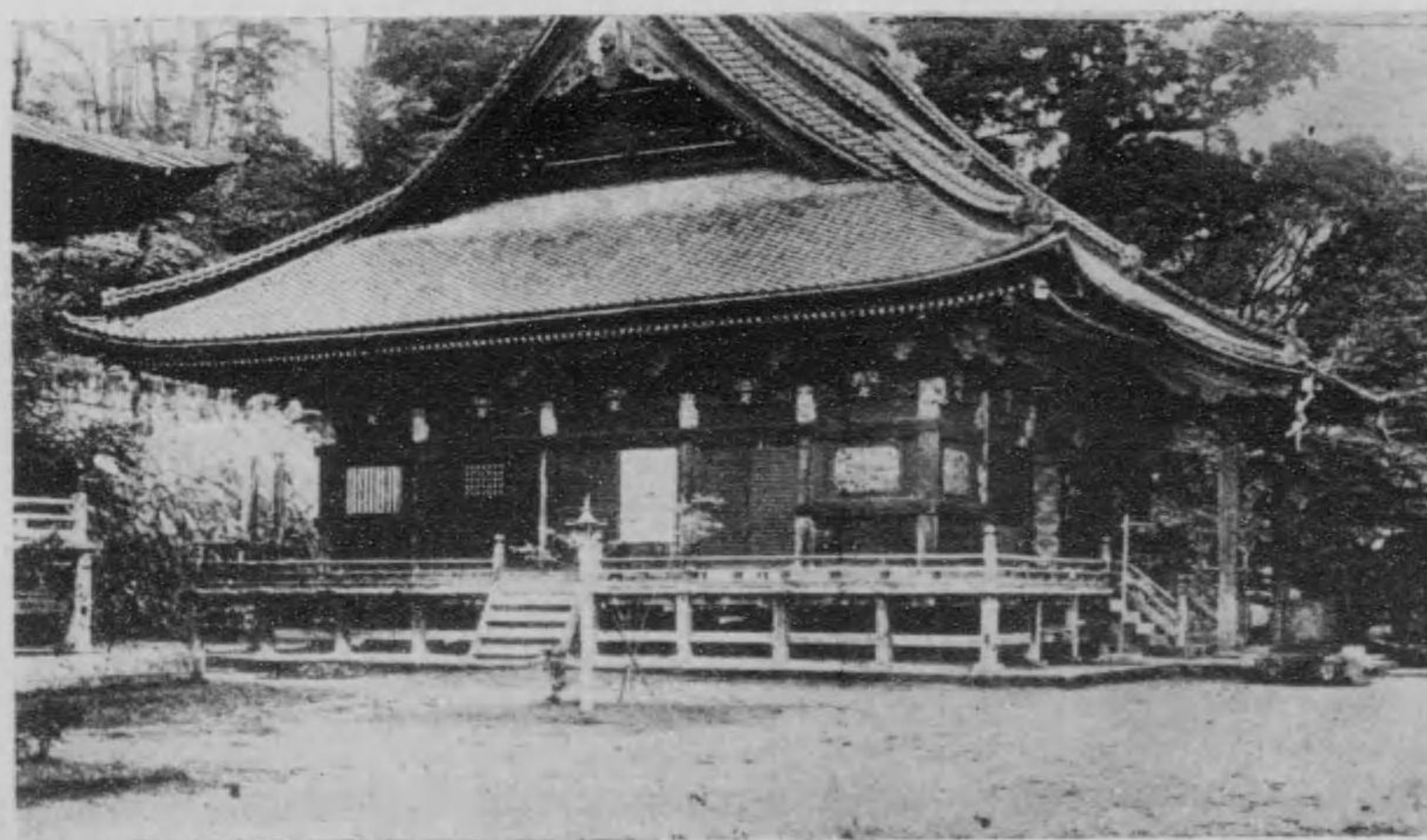
那珂港海門橋



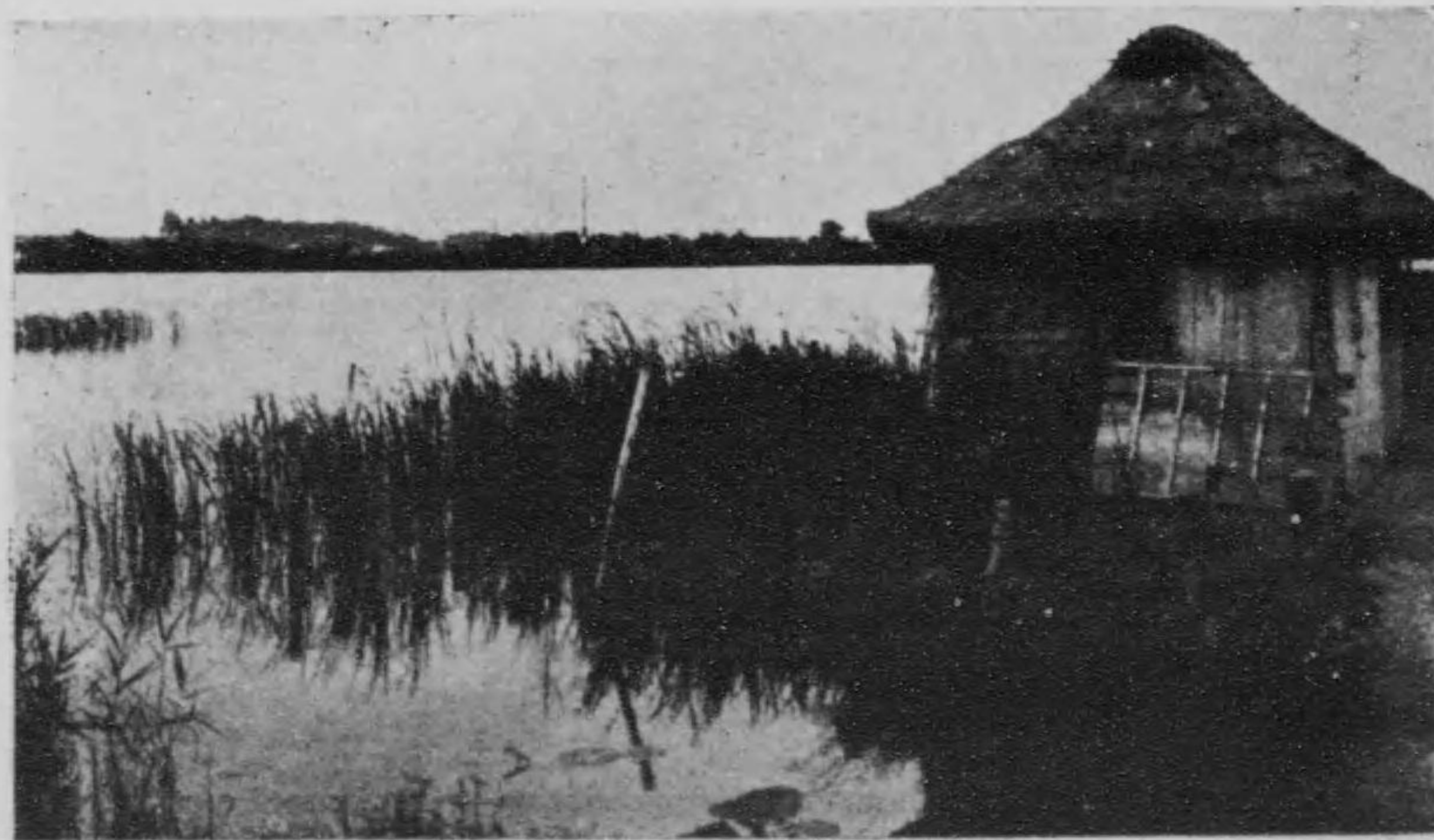
浦ヶ取香光風ノ根利



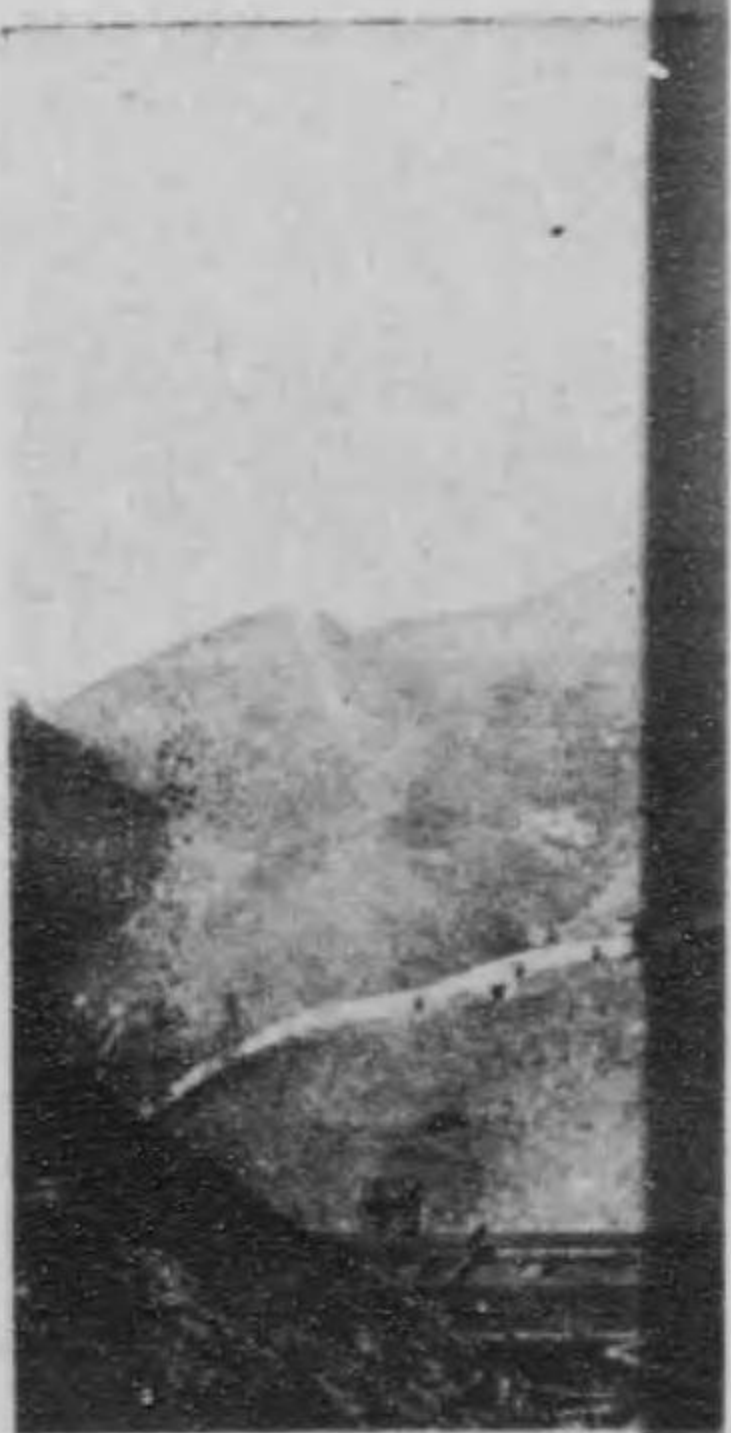
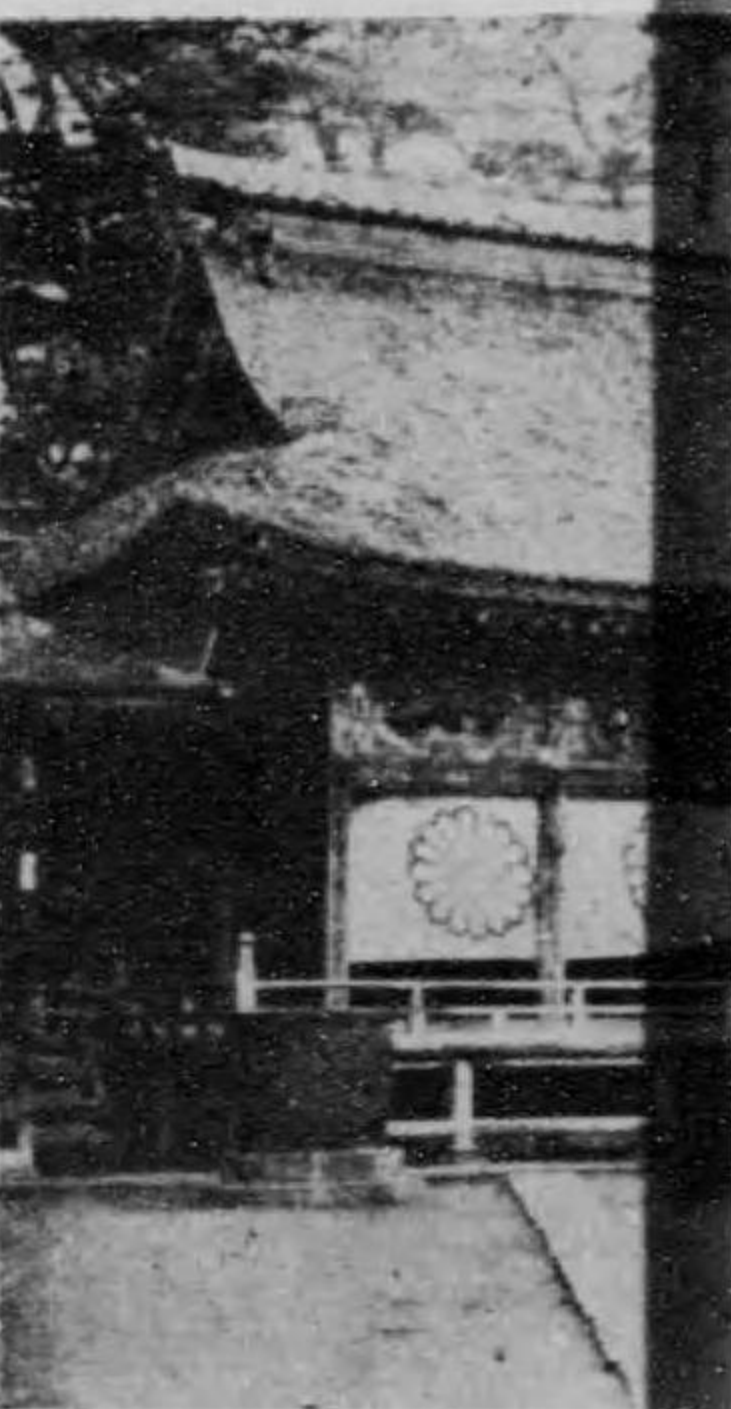
殿拜御社神波筑山波筑



堂引雨村引雨郡壁真



島出来湖

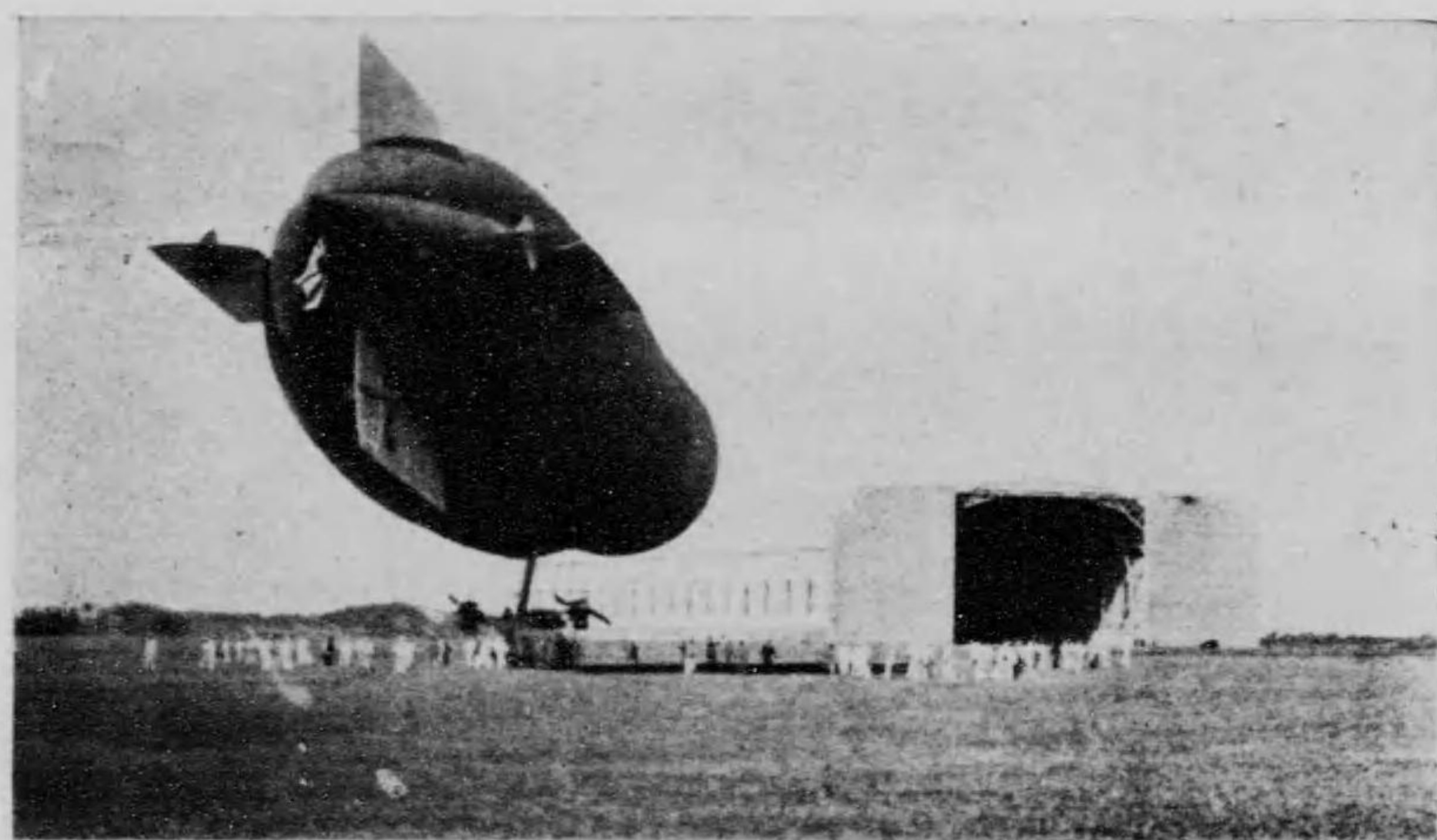




室間稻荷神社



霞ヶ浦天王崎



霞ヶ浦海軍飛行場



霞ヶ浦藍見崎

地勢

縣に合併し、縣廳を水戸に定め常陸一國を統轄し現在に及べり

茨城縣は、關東平野の東北隅に位置し、一市十一郡（郡制廢止前を標準とす）下總の三郡を管轄し、東は太平洋に臨み、西は沃野を控へ、栃木縣に連なり、南方は漫々たる江流、阪東太郎（利根川）を隔て千葉縣に界し、北は、阿武隈の連峯を界して福島縣に接す。東經百三十九度、四十一分三五秒に起り、百四

粘土質砂土質の土壤に依つて組織され、第三期層混積層をなす其千波湖畔、及那珂川谷の斷涯面に露出せる凝灰岩は是を證するに足るものならん。即ち其の上層を蔽ふに砂利ロームを以て成り、其凝灰岩中より往々第三期に於ける魚齒の化石を發見するは、成期を確證するに足るものなり。南部、利根沿岸地方は稍や低濕を帯べる仲積層に屬す。

斯く土性を異にせる、結果農作物に適否あるは當然の理にして、殊に成期層の異動は、土質硬軟の相違を生じ、地下水の優



縣に合併し、縣廳を水戸に定め常陸一國を統轄し現在に及べり

### ◆地勢

茨城縣は、關東平野の東北隅に位置し、一市十一郡（郡制廢止前を標準とす）下總の三郡を管轄し、東は太平洋に臨み、西は沃野を控へ、栃木縣に連なり、南方は漫々たる江流、阪東太郎（利根川）を隔て千葉縣に界し、北は、阿武隈の連峯を界して福島縣に接す。東經百三十九度、四十一分三秒に起り、百四十度五十分四十九秒に及ぶ、北緯三十五度四十四分二十八秒に起り三十六度五十五分四十五秒に終る、面積、東西二十六里二十六町、南北三十三里二十二町、周圍百二十六里八町、總面積三百九十八方里四分四厘にして、全國總面積分劃縣別に比較して第二十一位を有す。常陸の國は、東北部より北部一帯に涉りて、阿武隈山脈の餘勢を承け八講、久慈、多賀の連峯起伏し、脈勢南進して尺大、鷲子の二山と合して栃木縣に及び、一度那珂川に中斷せらるると雖、餘脈尙西南に延びて、更に筑波、加波、葦穂の諸峰を作す。八講山の東、久慈川を隔てて、太平洋に臨む地勢の中間には久慈、多賀の山脈を含む男體山の峻峯、東西金沙山、堅破山、高鈴山、真弓山等重疊盤踞して、平原極めて尠しと雖、山間の沃野亦耕作に適し、農民の糧を得るに空しからず。且つ本縣産業の主要なる物として木材、石材、鑛物類に富み、就中茨城無煙炭等殊に其名著しきものあり。

中部は丘陵起伏斷續して、其間に介在せる平原沃地は、農産の收穫尠ならず。南部に到りては利根川の流域沿岸一帯に地味豊穰にして、灌漑の至便と相待つて、水田連亘して米穀の産日本全土に於て優越せり。東方一帯の地は太平洋沿海四十里に臨み、暖流常に交潮して、魚族の棲息に適し、沿岸住民の漁業頗る有望なり。沿海方面は、風色殊の外麗はしく海濱の白沙は青松の影を宿して長く連なり、海波碎けて花と散り、潮風時に簾々たる松韻と和して、萬斛の景情捨て難きものあり、殊に臨海方面の那珂濱、平潟の兩港は、其規模大ならずと雖、自然の防波水深共に備はりて、漁船の集散頻繁輻湊す。縣の西南部、下總國に列したる方面は、沃野開墾の道早く拓けて、米穀の産頗る多し、鬼怒、小貝の兩川東部を貫流し、南に利根西に渡良瀬、赤堀の諸川あり、流域數十里に及び、舟筏の便に富む、氣候は概ね温暖にして、土壤肥沃の地多く、一般地勢平坦に且つ諸川の貫流するもの多きが故、耕作の灌漑、舟楫の便自由にして、山海の物産豊饒なるが故に、住民比較的富裕なり、有名な霞ヶ浦は、縣の東南部に横はり東西六里十八町、南北六里周圍三十五里二十町の大湖水にして、鬼怒、小貝、勸行、田川、櫻川、戀瀬川の諸川の水を吞吐す、霞ヶ浦近傍及縣下到處湖沼に富み、北浦、長井、戸沼、牛久沼等隨所に散在し、又何れの湖沼にも鯉、鰻、鱈其他の魚族頗る多く漁撈の利益、蓋し僅尠なるものにあらず。

茨城縣下の地味を檢するに、其大部分は新生代より成ると雖地勢の高低は自然に其成生期を異にし新舊の區別明かなるものあり、即ち北部一帯の土壤は新成第四期混積層より成るが故に輕鬆なる土壤にして高燥なれども、中部地方に到りては、概ね

粘土質砂土質の土壤に依つて組織され、第三期層混積層をなす其千波湖畔、及那珂川谷の斷涯面に露出せる凝灰岩は是を證するに足るものならん。即ち其の上層を蔽ふに砂利ロームを以て成り、其凝灰岩中より往々第三期に於ける魚齒の化石を發見するは、成期を確證するに足るものなり。南部、利根沿岸地方は稍や低濕を帯べる仲積層に屬す。

斯く土性を異にせる、結果農作物に適否あるは當然の理にして、殊に成期層の異動は、土質硬軟の相違を生じ、地下水の優劣自から別る。即ち北部の水質良優なるに反し、中部以南は不純質なり。

往昔、光園公湖南笠泉山より清水を引用し、一般住民に供給せる事實あり。

### ◆山嶽

茨城縣下に於ける山嶽は、概ね阿武隈山系に屬し、縣下の最高峯八講山は海拔三千四百十六尺、山裾福島縣東白河郡、栃木郡那須郡に跨り、山頂里程三十三町に及ぶ、峻峯縣の北部に聳睨して峨々たる山壁、千古の翠を湛へ、其脈絡蜿蜒として南方に馳り、尺丈山千五百尺、鷲子山千四百七十尺と共に毅然として西隣栃木縣との境界を劃す。一度那珂郡那珂川に中斷せられたる山脈は更に西南に蜿蜒として餘脈を存し、翠黛永へに變らざる筑波の英峯二千八百九十一尺、加波山の二千六百十尺、葦穂山の二千三百二十二尺の巒峯となりて、眞壁、新治の二郡に盤踞す。八講山の東男體山千五百尺は、奥羽山脈と連なる那須火山系の餘脈を成し、東西金沙山、堅破山千二百五十尺、高鈴山千三百七十五尺眞弓山等の諸峯を峻起して、多賀久慈兩郡の間に跨る。即ち北部は、山嶽重疊として、自然の高原地帯を形成し半野亦尠なし。故に本縣北部地方は農産物に恵まれざると雖も、林産、石材、鑛物の産額巨額に上り。殊に多賀、久慈方面は石炭の優良質を多産し、現在就業坪數九百六十一萬七千六百〇二坪（大正十四年末現在）を有し、又赤澤銅山（即ち日立鑛山）よりは金銀、銅、滿俺、砂金重石等重要鑛物を産出し、多賀、久慈の石材は築造用として年々の産額拾萬餘圓に上る。左に茨城縣下に於ける、山嶽の重なるものを列舉せば。

- 八講山三千四百十六尺（海拔） 筑波山二千八百九十一尺（同）
- 加波山二千六百十尺（同） 燕峠二千四百九十尺（同） 葦穂山二千三百二十二尺（同） 高笹山二千二百五十六尺（同） 難壹山千九百二十尺（同） 龍神山千八百六十尺（同） 我國山千八百四十尺（同） 三鈴室山千六百七十四尺（同） 男體山千五百三十尺（同） 尺丈山千五百尺（同） 鷲子山千四百七十六尺
- 佛頂山千四百三十四尺（同） 長福山千四百三十四尺（同） 兩引山千三百八十六尺（同） 高鈴山千三百七十五尺（同） 神峯山千二百六十尺（同） 堅波山千二百五十尺（同） 土嶽千百十尺（同） 花園山千百十尺（同） 西金沙山千〇八十尺（同） 愛宕山千〇五十六尺（同）

右の外、縣下に蟠踞する五百尺以上の山嶽十一峯を有す。

### ◆河川

茨城縣下の北部は八溝の山脈連峯起伏して脈絡四方に走り、層層盤踞する高原地帯なれども、中部、南部に至り平原沃野曠茫として、此間を縫流せる河川は概ね水勢漫々として悠々たるが故、灌漑に至便なるのみならず、舟筏の利便多く、久慈那珂の二川北部を横断して、太平洋に注ぎ、中部を貫流するものに戀瀬、櫻川の二川あり、霞ヶ浦に注ぐ、南部利根の長流は、支川渡良瀬、鬼怒、小貝、の三流を合して、洋々漫々として流域數十里、沿岸數十町歩の沃田を灌漑して、銚子灘に注ぐ、此間舟筏の便ありて、交通運輸に利する事蓋し利根川の恩恵又夥なしとせず。久慈川は、八溝山に其源を發し、久慈、那珂の兩地を横ぎりて、久慈町に入り太平洋に注ぐ、那珂川は下野國男鹿沼に發し、那珂、東茨城を経て湊町に入る、河口に三濱の一と稱せらるる那珂港、灣曲して縣下有數の良港を成し、漁船の輻湊頻繁なり。櫻川は北那珂字山口に、戀瀬は、新治戀瀬村大増に發し、諸町村を貫流圍廻して共に霞ヶ浦に注ぐ、渡良瀬川は源を下總尾山神子淵渡良瀬に發して、猿島、古河新田外五ヶ村を過ぎて、本流利根川に合す、鬼怒川は其源を下總衣沼山衣沼に發し、結城、眞壁、北相馬地方を貫流して、北相馬大木に至り、小貝と合して利根川に注ぐ、左に、縣下主なる河川及其流域、水源地を参考に資せん。

名	稱	水源地	里程(管内)
利根川	上野國文珠山	三〇里三〇丁	
小貝川	同鳥山村	二一里二一丁	
櫻川	西茨城	一三三里一六丁	
久慈川	八溝	一六里〇五丁	
那珂川	下野男鹿沼	一二里二二丁	
鬼怒川	同野鹿沼	四里〇四丁	
渡良瀬川	西茨城新治	六里二五丁	
同	同	八里〇〇丁	

湖沼

茨城縣下中南部地方は、概ね土性仲積層に屬するの故を以て隨所に湖沼散在し、其最も大なるものは霞ヶ浦とし、北浦湖、千波沼、牛久、大寶湖等是に次ぐ。

霞ヶ浦は、稻敷、新治、行方、東茨城の四方面に跨り、本邦第二の大湖にして、廣袤東西七里二十五町二十間、南北三里六丁、總面積三十一方里餘、周圍三十四里十七町三十三間にして北浦、利根川に連り其間汽船の週航を爲す、長汀曲浦、芦荻の戦ぎ入江の風趣變化窮まりなく、水禽の悠々たる水郷到處に平和なる情景を描き、湖岸の雅趣亦掬すべきものあり、湖魚は頗る多く其産額沿岸漁民の懐を肥するに餘りあり。北浦湖は縣下第二の湖沼にして、鹿島、行方兩地方に介在して、霞ヶ浦と並行の位置に湛ふ。形狀帯の如く東西一里南北四里、周圍十五里、北方巴川の水を享け、南方霞ヶ浦の餘流を呑み、逆浪河口に合する邊り、景趣亦縣下の名勝に恥ざるものあり。千波沼は東茨城綠岡村千波外五ヶ村に涉り、東西二十五丁五十間、南北五丁、周圍一里二十六丁、面積百九十五丁にして縣下湖沼の第六位なれども、千波湖は、往昔、水戸城攻防の要害となり景勝到處に點綴して、湖水清麗に湖面紅白の蓮花を以て掩はれ、漣波漂ひ、水禽嬉々として囀く、四季折々の情趣面白く、

對岸の笠原、青田の杜翠を中秋の月明に、湖水を隔て眺むる時は、心自ら仙客の如き觀あらむ。  
牛久沼は稻敷、筑波の間に湛へらるるものにして、東西二十町、南北二里十五丁、縣下第三位の湖沼なり。  
湖魚頗る多く、淡水の漁撈蓋し夥なからず。大寶沼は、眞壁の大寶村に存し、周圍二里二十三丁、面積百四十九丁、東西三十五丁二十間、南北一里にして、縣下第五位にあり。  
大寶沼は鯉鮒の産に富む。長井戸沼は、東西一丁二十間、南北一里十四丁五十間、面積三百六十七町餘にして、猿島の地長田村に在り、縣下第四位の湖沼にして、鯉鰻其他の淡水魚漁見べきものあり、左に縣下主なる湖沼を列記せば。

名	稱	周圍	面積
霞ヶ浦	浦	三十四里一七丁	三二里〇〇丁
長井戸沼	沼	四里二六丁	三三六丁
北浦	沼	八里一八丁	三三二〇丁
牛久沼	沼	四里二五丁	一三二一丁
千波沼	沼	六里二二丁	〇〇
大寶沼	沼	一里二六丁	一里九丁
		二里二三丁	一里四丁

氣候

茨城縣下の氣候は、地形上大體三態様に分たる、即ち東方沿岸地方一帯は、所謂海水の調和に基き、夏季冷涼にして夏季温暖なる現象を呈す。各年平均温度華氏六十八度を示し、晝夜朝夕湖寒暖の度差異甚しからず、北方山嶽一帯は、平均温度、華氏四十三度を示し、又西方猿島地方に到りては、華氏六十八度平均の氣温を示す。

人口戸數

本縣は八州の最東に位置し、一市二町三百三十二箇村及下總の一部を統轄し、廣袤東西二十六里、南北約三十三里餘にして總面積三百八十里餘最近(大正拾四年度末調査)の人口七千四百八十九人にして、世帯數二十七萬七千三百三十四にして、帝國全土を通じて人口の密度第十一位にあり。而して是を縣下各地方別に示せば即ち左の如し

水戸市に於ける人口は四萬六千五百二十七人にして、戸數九千五百六十三なり、而して之を男女別に示せば、男は二萬三千〇七十六人女二萬三千四百五十一人なり。東茨城の地方は、戸數二萬四千六百四十一にして、人口十二萬四千五百七十二人なり、西茨城の地方は一萬二千七百十三の戸數にして人口六萬九千三百七十七人なり。那珂の地方は、戸數二萬二千五百八十二、人口十二萬六千七百八十三人なり。久慈の地方は、戸數二萬三千三百十四にして、人口十二萬四千九十九人なり、多賀地方は戸數二萬三千二百五十五戸、人口十萬九千九百人なり。鹿島の地方は戸數一萬五千三百九十九にして、人口八萬五千八百七十三人なり。行方地方は、戸數一萬〇〇五十一にして人口五萬八千八百〇三人なり、稻敷地方は、戸數一萬八千三百二十一、人口十萬六千五百八十人なり、新治地方は、戸數二萬四千七百四十二にして、

人口十三萬一千七百七十人なり、筑波の地方は、戸數一萬四千六百三十三にして、人口八萬四千五百十六人なり、眞壁の地方は、戸數二萬七百六十八にして、人口十二萬一千七百七十人なり。結城の地方は、戸數一萬六千九百九十八人にして、人口十萬四千五百五十八人なり。猿島地方は、戸數一萬八千三百九十九

水戸を起點として、太田町に通ずるもの約五哩八、及常陸大宮に達する十四哩六、湊鐵道の勝田驛より、磯崎驛に達する八哩三、筑波鐵道の土浦を起點とし岩瀬に至る十四哩九、水濱電車と稱する水戸大洗間を通ずるもの約六哩、龍ヶ崎鐵道と稱する

下第二の湖沼にして、鹿島、行方兩地方に介在して、霞ヶ浦と並行の位置に湛ふ。形状帯の如く東西一里南北四里、周圍十五里、北方巴川の水流を享け、南方霞ヶ浦の餘流を呑み、逆浪河口に合する邊り、景趣亦縣下の名勝に恥ざるものあり。千波沼は東茨城縣岡村千波外五ヶ村に涉り、東西二十五丁五十間、南北五丁、周圍一里二十六丁、面積百九十五丁にして縣下湖沼の第六位なれども、千波湖は、往昔、水戸城攻防の要害となり景勝ある處に點綴して、湖水清麗に湖面紅白の蓮花を以て掩はれ、漣波漂ひ、水禽嬉々として囁く、四季折々の情趣面白く、

り、西茨城地方は一萬二千七百十三の戸數にして人口六萬九千三百七十七人なり。那珂の地方は、戸數二萬二千五百八十二、人口十二萬六千七百八十三人なり。久慈の地方は、戸數二萬三千三百四十四にして、人口十二萬四千四百九十九人なり。多賀地方は戸數二萬三千二百二十五戸、人口十萬九千九百人なり。鹿島の地方は戸數一萬五千三百九十九にして、人口八萬五千八百七十三人なり。行方地方は、戸數一萬〇〇五十一にして人口五萬八千八百三人なり、稻敷地方は、戸數一萬八千三百二十一、人口十萬六千五百人なり、新治地方は、戸數二萬四千七百四十二にして、

人口十三萬一千七百七十人なり、筑波の地方は、戸數一萬四千六百三十三にして、人口八萬四千五百六十六人なり、直壁の地方は、戸數二萬七百六十八にして、人口十二萬一千七百七十人なり。結城の地方は、戸數一萬六千九百九十八にして、人口十萬四千五百五十五人なり。猿島地方は、戸數一萬八千三百九十五にして、人口十一萬二千三百三十三人なり。北相馬の地方は戸數九千五百五十五にして、人口五萬二千六百七十七人なり。

而して是等各地方の總計戸口は、縣の十四年末統計と若干の相違あるも、這是國勢調査と、縣在住者數との移動相違にして大勢は一方里に村々現住人口三千六百五十人の割合となるべし

### 交通

茨城縣は由來陸前濱街道の要衝に位すると雖、位置東海の濱及阿武隈山脈に遮斷せられ、交通機關整はず、僻在せる地方住民は縣外一步を出するに悉く人肩馬背か、然らざれば舟楫の便を藉るに非らざるべからざる不便を忍びたるものなりしも、明治昭代に至りて人文交通日に革まり、商工業の發達進歩に促され、明治二十九年官有鐵道常磐線布設の企畫成りてより、相踵いで海岸線、奥羽線等の開通を見るに到り、急速の進歩發達を促し、山間邊陲に到る迄、交通開發の至便に恵まれ、昔時の片影日に其跡を留めざるに至れり。

### 鐵道

茨城縣下の鐵道は左の如く配線せらるるも、逐年豫定線を開通して益々鐵路交通の延長を計りつゝ、あり。國有鐵道としては海岸線の八十九哩五、奥羽線の五哩三、水戸線の二十八哩八、七井線五哩四、郡水線の七哩三を始めとして、私設鐵道として水戸鐵道(本支線)二十哩四、龍ヶ崎鐵道二哩八、湊鐵道五哩一、水戸鐵道の(支線)十四哩七、常總鐵道三十四哩九、筑波鐵道二十四哩九、其他參宮鐵道は石岡より鹿島に至るべく、茨城鐵道は水戸より澤山に至るべく着々工事進捗中なり、併して、電車は水戸磯濱間を運轉し、尙磯濱鉾田間の軌道鐵道も目下着々工程を急ぎつゝ、あれば、本縣内主要鐵道は即ち、東北本線を以て第一とし、東京日暮里驛を起點とする常盤線は本縣に入りて取手驛を初頭とし、關本を終驛として宮城縣岩沼に通ず、此哩數約九十哩、水戸線は即ち栃木小山を起點とし本縣に入り結城を経て水戸市に通じ、友部に至る、此哩數約四十哩あり。東北本線主線は即ち東京上野を起點とし、青森に通ずるものにして、本縣下通過哩數は約六哩、古河一驛を経て栃木に至る大郡線は、大宮(常陸)を起點として福島縣郡山に通ずるものにして、上小川驛を縣下最終點として、通過哩數約十四哩九に達す。就中、水戸線は近時眞岡線の干線を敷設し、下館を起點として、栃木縣茂木町に通ずるもの、此哩數縣内通過約五哩にして、折本驛を縣の最終驛とす。

此他本縣下は、私設鐵道事業旺んにして、先づ石岡より濱驛に到る、鹿島參宮鐵道、哩數約九哩を始め、鉾田より大貫驛迄通じたる鹿島鐵道、哩數此間約十哩八、及常總鐵道と稱する取手を起點として下館に到るもの約三十一哩九、其他水戸鐵道は

水戸を起點として、太田町に通ずるもの約五哩八、及常陸大宮に達する十四哩六、湊鐵道の勝田驛より、磯崎驛に達する八哩三、筑波鐵道の土浦を起點とし岩瀬に至る十四哩九、水濱電車と稱する水戸大洗間を通ずるもの約六哩、龍ヶ崎鐵道と稱するものは佐貫を起點とし、龍ヶ崎に通ずる二哩八等、鐵路の交通蓋し四通八達に到らむとしつゝ、あり、目下豫定線として常南電鐵を企畫しつゝ、あり、之は土浦を起點として阿見に通ずる計畫に屬す。

是等豫定起線も全通し、愈々鐵路の便河川交通の至便と相俟つて内外出入運輸の道開進せむ。

### 道路

本縣道路は國道三線、延長三十九里二十一丁の外、縣道延長百二十三里二十四丁、里道の延長實に三千四百七十四里十九丁にして、其の重なるものを示せば即ち左の如し

●銚子港街道 水戸市下市を起點として磯濱、大貫を経て舊鹿島郡を通過し、銚子港に達するもの

●栃木街道 水戸市下市を起點として西方笠間町、下館、結城の各驛路を過ぎ、栃木縣宇都宮市に達す。

●舊江戸街道 第十四號國道にして、石岡、土浦、取手の各名邑を経て埼玉縣を経て東京市に通ず。

●陸前街道 第十五號國道にして水戸市より北方多賀の海濱を過ぎて磐城に入り、宮城縣仙臺市に通ずるものなり。

●棚倉街道 北方太田町より起り北中、小中の各驛を通過して磐城の棚倉に達す。

●馬頭街道 瓜連、大宮を経て太子町に至り、栃木縣に入り、て、馬頭に運ぶるものなり。

●鷲子街道 石塚、鷲子等を通過して、馬頭街道に合す。

### 水路

本縣下水運は比較的河川湖沼の多きにより早くより拓け。利根川、渡良瀬川、鬼怒川、小貝川、那珂川、久慈川、何れも舟楫の便多く、殊に北浦、霞浦には汽船高瀬船等往復して、縣東南地方及び千葉縣方面との連絡に至便なり。

### 通信

郵便局は、本縣下を通じて、大正十四年度現在にて總數百八十八ヶ局、内電信又は電話を取扱ふもの八十四局、取扱はざるもの百〇四局、電信取扱所十四局、自動電話設置四ヶ所、郵便切手賣捌所千六百八十四ヶ所、ポスト千七百一十一基、郵便私書函九十六個の中、現在貸附せるもの六十七函なり。而して、内外國郵便物通常引受累計大正十三年度末六千四百三十三萬八千二百六十九通にして、配達引受六千九百四十三萬六千六百六十四通、小包郵便引受數五十萬五千五百三十三個、配達八十二萬八千五百個なり。併して郵便電信電話線路は、通常道路百七十里四丁二、鐵道に依るもの二百四里七丁、水路なし。電信線路は、百五十五里一丁餘にして、線條里程八百九十六里九丁八分なり。電話開通線路は、架空線條千四百二十七里二丁七、ケーブル線條、十



里九丁六、心線千六十五里九丁一にして、地下ケーブル心線七百六十五里八十二にして、内國電信發信引受七十二萬六千二百五通、着信九十萬五千九百八十九通、他に外國電信として發信せるもの、百三十通、着信せるもの百九十三通に達せり。

◆産 業

本縣は關東の地に於て、其面積第二位に在り、併かも天然に恵まれたる沃野、魚介に富める湖沼海濱に潤澤せられ、加ふるに、舟楫の便は到る處に漫々たる河川を横ふに頼るのみならず北部山嶽方面は、諸種なる有要鑛産物豊富にして、林産、木材等と共に本縣物産の重要を爲せり、今大正十三年度末に於ける各種物産の積算價格を示せば、即ち左の如くにして

農 産 物	一三九	六二六四
畜 産 物	四	三〇九
林 産 物	一八	八七一
鑛 産 物	一四	四九一
水 産 物	七	七八七
工 産 物	六七	八九六
合 計	二五三	三六七

右の如くにして、本縣曩に産業發達を期する爲、十年毎に第壹期とし明治四十四年以降孜孜として倦まざりし、産額壹億四千萬計畫を超過する事實に壹億壹千餘萬圓、是を亦大正十一年度に比すれば僅々二ヶ年餘にして參千參百四拾六萬九千五百貳拾餘圓の増額を示し、逐年産業の進歩は著々として諸種なる方面に改良發達の度を進めつ、ある次第なり。斯くの如くにして本縣産業の大勢は、愈々前途好望にして、一般住民の努力如何に依つては、堂々たる産業立國の規範に到達するを得べし。

◆農 業

本縣にては、明治四十四年以後、特に農業殖産に意を注ぎ諸種なる獎勵事項を決定して、改善實行に努力し、第一牛馬耕の獎勵、第二耕地整理、第三肥料の改良、第四産業組合の設置、第五未開地の整理、第六養蠶製絲の改良、第七畜産品種の改良飼育普及の方法、第八林相の改良、第九漁港、漁船の避難所設置改良を勵行せしめ、各々十年計畫の下に着々として其目的に邁進せり。就中同年始めて縣下に産米検査の標準を制定し、百難を排して之が實行を企圖したる結果、其効果著しく、産米の品種を統一し得て、茨城米の聲價を高むるに到り、一時此英斷を非議したる人々も、今は其制度を謳歌し、遂に大正三年度に到りては、縣民率先して産麥検査實行を爲すの氣運に到達せり斯くの如くにして本縣の農事改良は益々進歩發達の道程に在り殊に土地利用法として、耕地整理の如きも其成績實に他縣に比して絶と爲すべきに足るに到る。

◆米 穀

本縣の米穀收穫高は、年平均二百萬石に及び、東茨城、那珂、稻敷、新治の四郡地方が主産地たり。而して本縣各地方に於て、一段歩の平均收穫高は、水田に在りて粳米二石一斗六升九合、糯米一石九斗五升三合にして、陸田、所謂丘稻は粳米一

石、糯米九斗一升二合を産す。

本縣産米は、縣内住民の生活を満して尙多大なる剩餘を生じ年々縣外輸出米の額は、玄米百六十三萬一千七百三十八石、精米百六十五萬九千二百四十四石にして、其主たる輸出先は、東京、神奈川、千葉、福島等にして、遠く北海道樺太方面に迄産出せらる。

◆麥

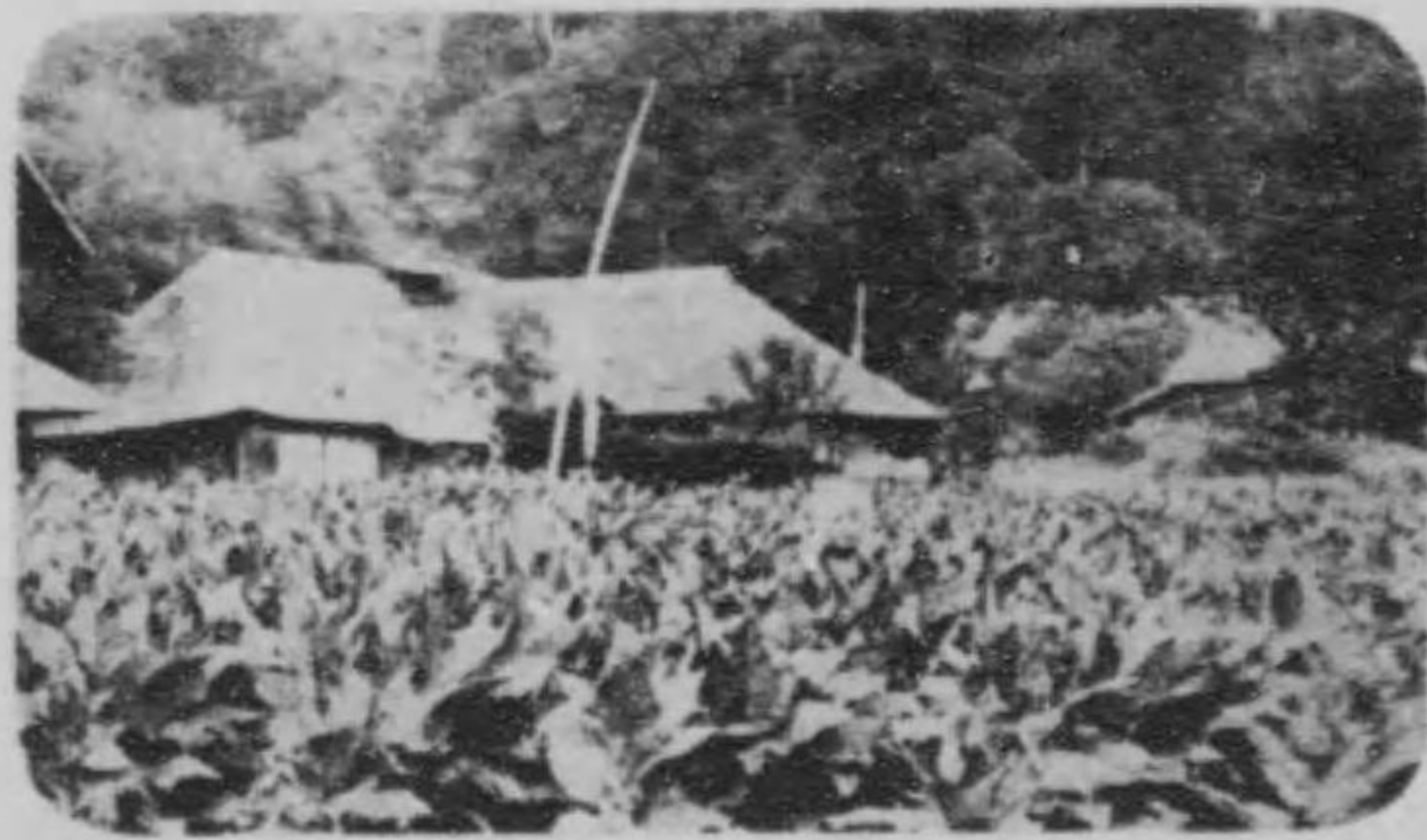
米に次ぐ主要農産物は麥にして、本縣の産額量は實に全國に冠たるものあり。麥の作付反別は九萬町歩の曠汎なるものにして、收穫亦年平均四十餘萬石に達し、縣外産出年々六十萬石の多きに及ぶ、然りと雖、多作多産に焦りたる結果は、麥種一定せず、品質雜駁として他縣の産麥に比し甚だ孫色なきを得ず、當事者大いに是を憂へ近來品種の統一、耕作の改善に意を注ぎたる結果順次品質は統一せられ、優良産麥として逐年縣外への販路擴張せられつ、あるは、欽快に堪へざる次第なり、縣外輸出の主たる方面は、近隣各地にして亦關西方面への需要をも満しつ、あり。

◆菽

菽類は縣下農産品の重要なものにして、米麥に次ぐ産額量を有す、殊に大豆に到りては、本縣の特産物にして、年産額貳百五十六拾萬圓に達し、種類は、醬油釀造用、味噌用、豆腐用、煮豆用等種々にして、殊に本種赤莢と稱する大豆の如きは、醬油釀造用として最良の品質を備へ、銚子野田等にて釀造せらるる醬油の大部分は原料大豆を本縣に仰ぐ、其他優良種としては生娘赤莢、稗、御社、小福等亦汎く栽培せられ、近年に及び、茨城納豆と稱して大豆利用の營養食品をも改良産出せり。尙産額は逐年増加し需要益々擴く、縣内農民は是が改良增收に孜々として努めつ、あり。

◆煙 草

本縣は亦煙草の名産地として古くより知られ、過去雲井煙草の名聲天下に唱へられ、現在にても刻煙草の最高赤土國府の銘葉は、畏くも御料に供する煙草と共に本縣の産出せるものにして、是が栽培の起源は、已に萬治元年頃に始まり、降つて貞享の頃久慈郡の地赤土村に關利右衛門なる者ありて、村内、坪坪と稱する所に煙草を試植したるに、收穫殊の外多く香味色澤共に尋常品と異なり、爾來年々栽植工夫して元祿十年に及び、是を藩主水戸公に獻納したるに頗る嘉賞せられ、以後水戸家より保護獎勵を加へらるるに到れり。



煙草栽培ノ實況

十餘町歩に達せり。

◆養 蠶

蠶

養蠶の業たるや、國家産業の中樞を爲すものにして、本縣に於ても夙に是が業績の改良進歩に意を注ぎ、養蠶の淵源遠く古代よりの遺業にして、維新當時に到り俄然生絲の海外輸出と相待つて斯業の隆盛を見るに到りしものなり。故に現代に於ては

是より近隣争ふて煙草栽培を致し、年と共に改善進歩の優良種を生産するに到り、遂に現今の如き同地方の重要物産となるに到りしものなり。現今に到りては、官營煙草の主要産地として當局一段の獎勵を加へ縣下各方面に試作地を設置し、益々是が栽培の優秀を圖りたる結果、遂に煙草生産量と質に於て、茨城縣は全國に冠絶せるに至れり。

其他本縣は地味肥沃なる天與の豊土を有するが故に一般蔬菜

殊に土地利用として、耕地整理の如き其成績實に他縣に比して絶と爲すべきに足るに到る。

### ◆米 穀

本縣の米穀收穫高は、平年約二百萬石に及び、東茨城、那珂、稻敷、新治の四郡地方之が主産地なり。而して本縣各地方に於て、一段歩の平均收穫高は、水田に在りて梗米二石一斗六升九合、糯米一石九斗五升三合にして、陸田、所謂丘稻は梗米一

門なる者ありて、村内、坪坪と稱する所に煙草を試植したるに、收穫殊の外多く香味色澤共に尋常品と異なり、爾來年々栽植工夫して元祿十年に及び、是を藩主水戸公に獻納したるに頗る嘉賞せられ、以後水戸家より保護獎勵を加へらるるに到れり。



泥質ノ培

是より近隣争ふて煙草栽培を致し、年と共に改善進歩の優良種を生産するに到り、遂に現今の如き同地方の重要物産となるに到りしものなり。現今に到りては、官營煙草の主要産地として當局一段の獎勵を加へ縣下各方面に試作地を設置し、益々是が栽培の優秀を圖りたる結果、遂に煙草生産量と質に於て、茨城縣は全國に冠絶せるに至れり。

其他本縣は地味肥沃なる天與の豊土を有するが故に一般蔬菜類に於ても優良なる産物尠ならず、就中東茨城地方上下大野村、石崎村方面に於ける結球白菜の如き、稻敷の浮島村地方の蘿蔔の如きは何れも著名にして、新治地方に於ける促成蔬菜胡瓜、茄子の如きは早春東京方面の食膳を賑はし、稻敷朝日村附近の蕃茄の栽培は、トマトソースとして殊に優秀なる品質を備へ、年額數萬圓に及び、其他那珂前渡村近傍に於ける甘藷切干の生産高も逐年増加し、縣農産物の主要なるものとなりつゝあり。果實に於ても亦諸種なる植栽に適し、眞壁地方の梨、新治田余村の衣紋柿、眞壁雨引村、猿島の古河町、多賀の關南村各地に於ける桃、筑波山麓の蜜柑、牛久沼方面平地、猿島の生子管村等にては良質なる葡萄を産し、實に農産品種は植採して不可ならざるもの無き土壤と氣候に恵まれたる地方と稱するを得べし。今本縣農産物の重要品種を例記せば、米、麥、菽、蔬菜果實、煙草、茶、蒟蒻玉、干瓢等を以て主なるものとす。

### ◆耕地整理

本縣耕地整理事業は、明治三十二年、同法發布と共に、縣下一般の状態に鑑み比較的整理施行の急要なる箇所より漸次獎勵の歩を進め、明治三十五年に到り専門技術員を聘して、測量設計工事監督の任に膺らしめ、且つ工事費補助の規定を設けて啓迪輔導を加ふるに到り、漸く小規模なる數地區の整理を實現したり。超へて同三十八年より基本的地形調査を施し、整理見込地の計畫並に工費補助の歩合を高め、大小地區の施行漸く多きを見るに至れり。年は超へて明治四十三年、利根川の大洪水以來、五霞、源、清田、生板等既設排水装置の成績良好なるに鑑み、洪水被害地方の整理改良を爲す者漸く多きを加へ、現今に於ては、十餘箇所、三十臺に及ぶ排水装置を施し、汲水を以て灌漑する田畑實に四千町歩に垂々とし、洪水の被害を除去するを得て、多大の利益を蒙るに到れり。縣當局は、明治四十四年縣是として殖産興業の大方針を決定すると共に、十五ヶ年間に管内耕地整理の完成を期せんと努力し更に一萬四千四百六十餘町歩の開墾地目變更を爲して益々耕地の擴張を圖り永久的に參百六拾餘萬圓の利益を收むるの方途を講じたり。斯るが故に、耕地整理の成績は實に異狀なる好結果を齎らし、面積六千町歩に對する平均重要成績は、工事費一段歩當、九圓十六錢、段當増歩十歩八、段當耕作人夫節減歩合五人、八、用水量經濟歩合、二割強、段當増收量三斗七合、土地段當時價上進率四拾五圓、米質上進率一石に付、四歩強、段當糞增收二十四貫、肥料の節減費一割六歩、熟期の早まりし日數四日、増歩總額百九十一町三段歩、節約人夫數二十五萬九千九百六十人、牛馬耕地面積一萬九千二百町歩、二毛作總面積千五百町歩、乾田增加面積千六百六

十餘町歩に達せり。

### ◆養 蠶

養蠶の業たるや、國家産業の中樞を爲すものにして、本縣に於ても夙に是が業績の改良進歩に意を注ぎ、養蠶の淵源遠く古代よりの遺業にして、維新當時に到り俄然生絲の海外輸出と相待つて斯業の隆盛を見るに到りしものなり。故に現代に於ては縣内到處蒼々たる桑園に満たされ、農家の副業として益々普及發達せらるるに至れり、而かも、縣下各河川の流域沿岸の沖積土は桑樹の發育に好適なる地味にして、現在畑段別の一割五分強は桑園たるの有様なり。縣下にて最も養蠶の旺なる地方は利根川、鬼怒川、小貝川、及霞ヶ浦沿岸の地方にして、收購額は年々増加し、最近十ヶ年間に約七割強の増加を示し、飼育法は一般に折衷飼育を勵行し、近時保温の度を加へて適宜飼育の日數を短縮し、早生桑の栽植と共に、掃立期日をも早むる事を得る便法を改良し、田園の農作との調和を保ち、累年收購量は増加しつゝあり。

### ◆畜 産

畜産業に於ても、本縣は夙く是が發達に留意し、明治三十五年五月特に種畜場を設置し、當業獎勵誘掖に盡粹したる結果、當時は縣下の畜牛數も僅かに、八百頭に過ぎざりしも、明治四十年に到りては一千八百六十五頭に増加し、更に最近に到りては、外國種及内國種の交種改良を圖り、年々優良種牛を畜産し、其數も將に五千頭を算するに及びつゝあり。亦馬匹に到りては、明治十八年より之が獎勵に留意し、當業者をして、先づ同業組合を組織せしめ、或は種馬の良種配合を計畫し、優良産馬に授賞し、洋種牡馬の貸附等種々なる獎勵法を行ひ、明治三十八年に及びて産馬組合に對し、組合費及種馬購入費を補助し、其他驪市の振興策を講じ、舊馬政局の派遣せる種馬に依り其改良發達を促す等極力之が進歩を圖りたれば、近年に到りて益々優良なる馬匹を畜産し、其數已に六萬頭に及ぶ、此他、家禽に對しても、各地方別に農會をして種禽場を設置せしめ、優良種禽を飼養し、其種禽及種卵の配布を爲し、以て斯業の改良普及を圖れり。尙本縣にては、綿羊の飼育、養豚の業も夙くより行はれ、養豚の如きは、遠く安政の頃より已に行はれつゝありしものにて、明治に到り益々其飼育を爲す者多きに及び、現今に到りては、縣下各地普く養豚の有利なるを知りて、逐年盛大に趣きつゝあり。

### ◆水 産

本縣は東部一帯太平洋に面し、漁場南北に連れるを以て魚族の回遊頗る多く、且つ海中に岩礁多く、海底の深淺變化に富るが爲、魚介、藻類の蕃殖に適し、加ふるに陸地には、霞ヶ浦、北浦其他の湖沼多く、利根、那珂、久慈の大河川縣内を貫流せるを以て、淡水魚族又頗る豊富なり。最近の調査に依れば、漁業者男女を合して、本業と爲す者一萬九百五十餘人、副業と爲す者、一萬三千九百餘人に及び、而して近年に及びては、縣當

局に於ても、遠洋漁業に留意し、動力汽船を備へて魚獲の發達進歩を圖り、現在等汽艇は三百二十四艘、總噸數六千五百八十餘噸、乗組人員七千八百五十餘人を算す。

而して遠洋漁業にての漁獲物は、多く鱈、鯉、鮪、鯛、鱈、鰻、秋刀魚其他にして、實に其漁價參百九拾九萬六千九百九拾餘圓に達す、而かも前途洋々たる遠洋漁業は、益々發達進歩の道程にあり。縣下の一般養魚業も逐年進歩の趨勢に向ひ、鯉、鮪、鰻等の増殖を圖り、現在養魚場は鯉の部に於て五十三個處、鰻其他の養魚場二ヶ所の公共的水面を有するものを始め、然らざるもの、鯉、鰻其他を合して百三十六個所を備へ。是等養魚場よりの收獲價格總計五萬參千八百參拾餘圓を算す。

尙大正元年度に於て十ヶ年計畫の下に、霞ヶ浦、北浦の兩湖に、鮭の人工孵化、公魚の人工孵化場を設置し、其繼續事業として、鯉、白魚、蝦等の孵化放流、鰻の浜上保護、及禁漁區の制定取締を嚴にして、専ら魚族の増殖を圖りたる結果近年に到りて益々淡水魚類の漁獲増加を示しつゝ、わり。殊に縣下太平洋に面したる方面は、古來より鱈の漁獲最も多く、鹿島の地は是が乾鰯としての生産額大部分を産す、又鯉は、本縣の沖合に群來するを以て、年々多量の漁獲あり。最近の漁獲量四萬七千四百九十貫、此價格六拾貳萬壹千參百貳拾餘圓に達す。鮪は本縣に於ては、多く流網を使用し、漁獲の業たるや遠く、天保年間水木濱地方に於て創まれり。當時は近海に多く漁獲を求めたれども、近時は益々遠く太平洋に出でて漁する者あるに及び、從而鮪節などの産出量も漸時増加し、最近の調査に依れば、數量一千百十餘貫此價格八千九百圓を算するに到れり。されど鮪は素より「節」とするよりも生魚の儘食料に供する量遙かに多く、東京、近縣、長野方面に鮮魚として産出せらるる量額蓋し莫大のものあらむ。秋刀魚は、古來より大網と稱する一種の旋網を使用し、湊及平磯方面にて旺んに漁獲しつゝありしも、明治三十七八年頃、河原子、久慈の漁業家が從來使用せる網に改良を加へ、秋刀魚漁に使用したるに意外なる好結果を見たる爲め、爾來是が改良を怠らず、益々秋刀魚の豐漁を見るに到れり。最近の調査に依れば、是が年量は、二十萬五千二百二十餘貫に及び價格拾四萬參百六拾餘圓に達す、主なる需要地は、東京、群馬、栃木、名古屋、岐阜、京都、長野方面にして、尙は非常なる豐漁の場合には是を干物として遠く支那、朝鮮迄も輸出し、近年に及び、罐詰事業の發達と共に、ポイルド罐詰としての生産をも見るに到れり。此の他、鯛、鮒、鮓、白魚、公魚、の漁獲等實に水産の豊富なる事も、本縣特異の恵まれたる事と謂ひつべし。

林業

茨城縣に於ける林業の發達を顧みれば其歴史今より二百四十年前に遡りて已に林政の緒を制定したる事を發見するものなり抑々舊幕時代に於ける本縣の林政々度は各藩其趣きを異にしたるも多くは水戸藩の制度に倣へるもの如く、寛文年間、那珂川沿岸に各種の樹木を植栽し、百木山と稱し四方に植林の範を示したる事あり、而して當時は樹木の濫伐を嚴禁し、水害等

の有る場合は防水其他必要に應じて民一般に樹木を無償にて下附し、以て山林の恩恵に浴せしめ、自然的樹木の尊さを知らしむるに努めたるものなり。故に當時は鬱蒼たる森林は到る處に繁茂し、樹齡の加はると共に、國內森林の惠與に歡喜したるものなりしも。維新以來人口激増し、木材の需要頓に多きを加へ且つ逐年運輸交通の便開け行くと共に都市工業の發達進歩に伴ひ、亦薪炭の用途増加する等の原因に依り、木材の價格は年毎に騰貴し、從て、到る處鬱蒼たる森林は順次伐採せらるるに到れり、斯くて舊時の大森林は移り行く文化の犠牲となりて、今や其觀を失はんとしつゝあり。爲に水源涸渇し、雨水の調節を缺き、土砂を流出し、各河川の氾濫年毎に頻發して其被害も亦多く、且つ海濱地方に在りても、潮害、飛砂の害尠なしとせず故に縣當局者に於ても、大いに悟る處あり、近時専ら山林整理に全力を注ぎ、植樹獎勵の目的を以て、諸種なる計畫を樹てつあり。左に本縣下林野の反町別を示せば

Table with 4 columns: 所有別 (國有, 公有, 社寺有私), 山林 (山, 林), 原野 (原, 野), 計. Rows include 國有, 公有, 社寺有私, 計.

右の外保安林として、水害防備林十六町步潮害防備林百八十三町步風林十町步、水源涵養林二百卅町步、魚付林十七町步、目標林三町風致林五町、土砂杆止林四段步、是等合計四百六十六町步餘の林野を有す。而して縣下各面別に細別せば凡そ左表の如し。

Table with 4 columns: 郡市名, 全面積, 森林面積, 原野面積. Rows include 那珂, 東茨, 西茨, 那珂, 多賀, 鹿島, 行方, 新治, 筑波, 眞壁, 結城, 猿島, 北相馬, 計.

而して所有面積の中御料地の最も多きは、東茨城、鹿島にして、國有林野は河北の地方多く、私有林野は縣下一帯に亘りて散在せり。

森林の狀況

本縣の地勢は、概して西北に高く、東南に向つて順次低下し河流は概ね源を栃木縣西境の連山に發し、東流して海洋に注ぐ然かも地勢急斜せざるが故に水流悠々として、河岸を浸潤し海抜餘りに高からざるが故に樹木の植地として極めて好適なり、就中河北三地方に於ては最も好植林地となし得る地味を有す。地勢斯くの如きが故に、採伐上峻嶮なる信越方面の林野の如く至難ならず、從つて伐採の容易は森林征服の行程自由なりしが

現在に於ては縣下に斧鉞の跡を見ざる態の森林地帯皆無にして厚生林は何處にも見出し不能有様なり。殊に國有林の廣大なる面積を有する那珂北方は縣下他地方と地勢全く異なり天然の雜木材に富み亦水戸以南は松櫟の混生林にて、是地勢地質の然らしむる所以なり。故に現今人工植林の方途を進むる上に於ても、河北の地方は杉松、扁柏の類を主とし、水戸以南は松櫟檜等を主とせり。殊に水戸以南は比較的交通の便豊かなるが故に、十年の計を山林に關するよりも、短年月にて、收獲を得る

礦業

百五拾餘圓を算出す、此他新材用雜木の伐採量壹千七拾四萬五千二百三拾四束、價格百八拾六萬九千九百九拾圓、木炭の四百參拾四萬八千五百四拾四貫目、其價格積算百八拾三萬〇參百九拾五圓に達す。而して是等諸用途を満す木材は、多く縣内の需要以外に多くは、東京方面の需要を満たすべく、移出せられ、年々縣内に流入する、林産の收益蓋し莫大の額を算しつゝあり。

林業

茨城縣に於ける林業の發達を顧みれば其歴史今より二百四十年前に遡りて已に林政の緒を制定したる事を發見するものなり抑々舊幕時代に於ける本縣の林政は各藩其趣きを異にしたるも多くは水戸藩の制度に倣へるもの如く、寛文年間、那珂川沿岸に各種の樹木を植栽し、百木山と稱し四方に植林の範を示したる事あり、而して當時は樹木の濫伐を嚴禁し、水害等

森林の狀況

本縣の地勢は、概して西北に高く、東南に向つて順次低下し河流は概ね源を栃木縣西境の連山に發し、東流して海洋に注ぐ然かも地勢急斜せざるが故に水流悠々として、河岸を浸潤し海抜餘りに高からざるが故に樹木の植地として極めて好適なり、就中珂北三地方に於ては最も好植林地となし得る地味を有す。地勢斯くの如きが故に、採伐上峻嶮なる信越方面の林野の如く至難ならず、從つて伐採の容易は森林征服の行程自由なりしが

現在に於ては縣下に斧鉞の跡を見ざる態の森林地帯皆無にして厚生林は何處にも見出し不能有様なり。殊に國有林の廣大なる面積を有する那珂北方は縣下他地方と地勢全く異なり天然の雜木材に富み亦水戸以南は松櫟の混淆林にて、是地勢地質の然らしむる所以なり。故に現今人工植林の方途を進むる上に於ても、珂北の地方は杉松、扁柏の類を主とし、水戸以南は松櫟檜等を主とせり。殊に水戸以南は比較的交通の便豊かなるが故に、十年の計を山林に囑するよりも、短年月にて、收穫を得る

鑛業

本縣の鑛業は殆んど、多賀方面に集中し、那珂久慈の地方にも若干の金鑛を有す。近時日立鑛山の發展殊に著しく、其産額逐年増加し、各炭坑の採炭益々増額盛況を示し、就中石炭及銅に於て最も重要な産出量を表示す。即ち最近の石炭採掘量は一ヶ年七拾七萬參千七百六十八噸にして此價格五百參拾四萬四千五百七拾七圓に達し。銅は、壹千貳百五拾萬五千七百三十二斤、此價格六百貳萬千七百五拾餘圓なり。本縣の石炭は、其採掘遠く安政の頃、多賀郡華川村の住人大塚本五郎なる者に依りて、村内の斷層より露出せる黒色光澤を帯べる石塊巖の如きものを發見したるに其端を發し、明治二十九年一月、多賀郡松原町に秋山炭鑛の創立せらるるに及び始めて採炭の組織的産出を爲すに到り、次で同年八月磯原町に茨城無煙炭株式會社起り、同三拾四年に茨城採炭株式會社の創立を見るに至れり。而して事業は翕然として盛況發展を極め、逐年採炭法の新規と相待つて増産するに至り、茨城無煙炭の名聲天下に藉及するに到れり

模範的に示し、同四拾四年を以て其目的を貫徹し、一般民衆の造林思想に大なるショックを與へたり。此外部分林造成の目的を以て、明治三十九年、那珂郡大宮町、玉川村、大場村、靜村、大賀村、鹽田村の地内五百八十町四段三步に、二官八縣有林の部分林を設定し、翌四拾年度より毎年百町歩の造林を實行し、六ヶ年を以て全部の造林を完成し、其植樹數實に二百五拾九萬二千五百四十六本にして、今や當時の植樹は二十年の歲月を育成され、縣下到處に蒼々亭々たる造林の美を爲す。

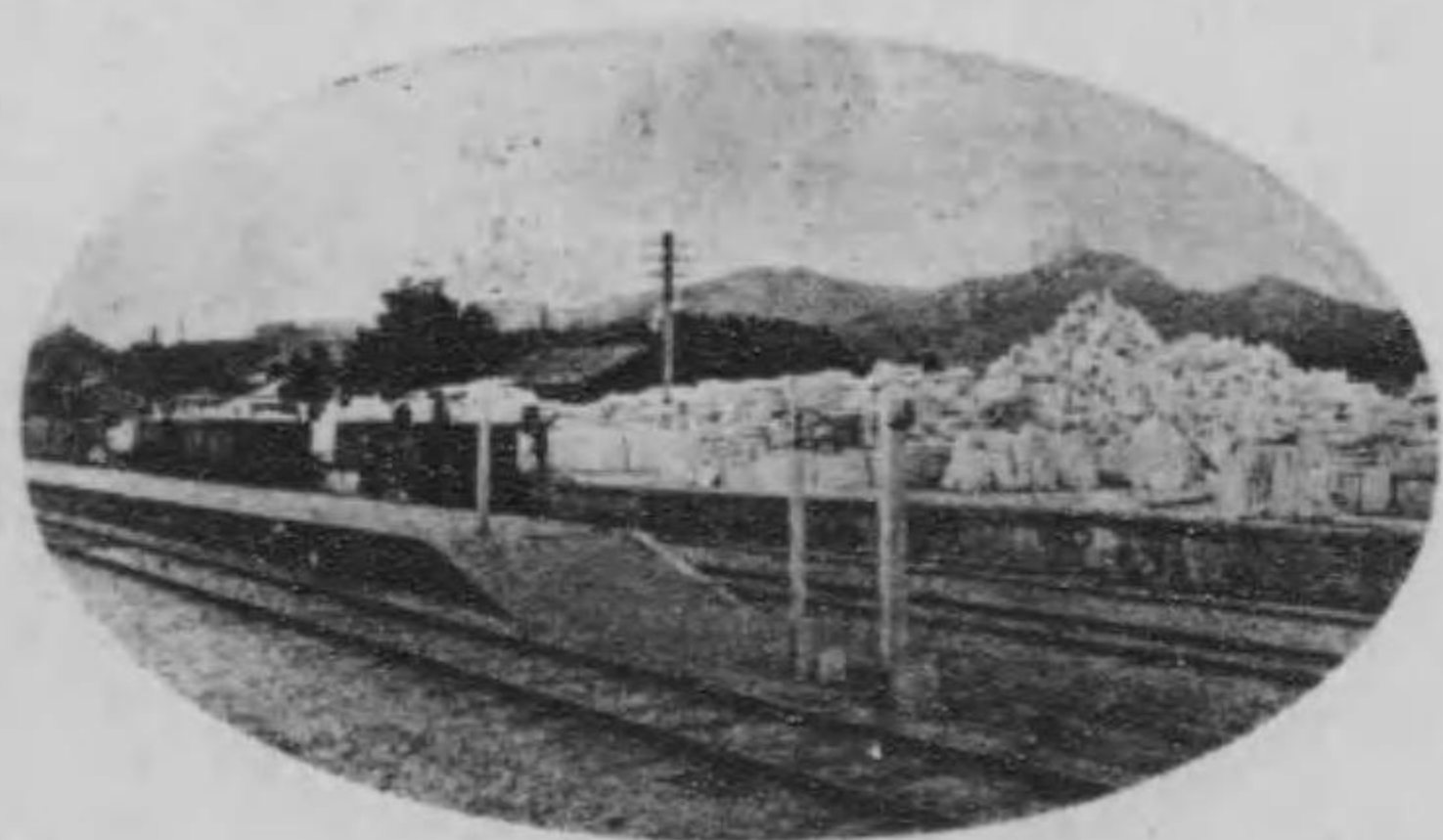
伐採狀況

工業の發達と交通機關の成備とは、勢ひ森林の濫伐を招來する原因となり、縣下各方面に於ては、樹齡未だ幾何も經ざるに早くも伐採して薪炭小材に濫用する状態を示し、當局が多年の計畫を目前の小利に憧れて無視濫伐するは實に本縣の主旨目的を不顧事にして、吾人等しくは是を惜まざるべからざるが故に其伐採積量の如きも適確なる計數を見る不能、大體縣當事者の數字に顯はれたる一ヶ年間の伐採累積を算出せば、杉材拾九萬四千五百五拾八石、扁柏九千二百六拾二石、松、拾萬四千三百拾二石にして是等價格を概算すれば貳百五拾貳萬貳百六拾餘圓を計上し得るものなり。

林産物

本縣最近五ヶ年間に於ける、林産物の年産額平均額を積算比例すれば、約百八拾萬圓内外にして、其中主たるものは、築造用材の八拾參萬八千五百五拾餘石、此見積價格參百七拾萬參千九

り。此他、縣内鑛産品の主なるものは、築材用の石、寒水石、斑石、岩舟石、花崗石、古内石、春園石等にして、年額百貳拾貳萬參千貳百八拾六圓に達す。尙ほ、金の貳百參拾六萬壹千七百貳拾餘圓、銀の九拾參萬六千六百六拾圓、硫化鐵の拾八萬貳千六百七拾餘圓等、鑛産品の副利も實に巨額に達す。又眞壁地方加波山附近に産額の花崗石を産出し一名眞壁石材と稱され建築材料として搬出さる。



眞壁石炭材田ノ實況

製絲